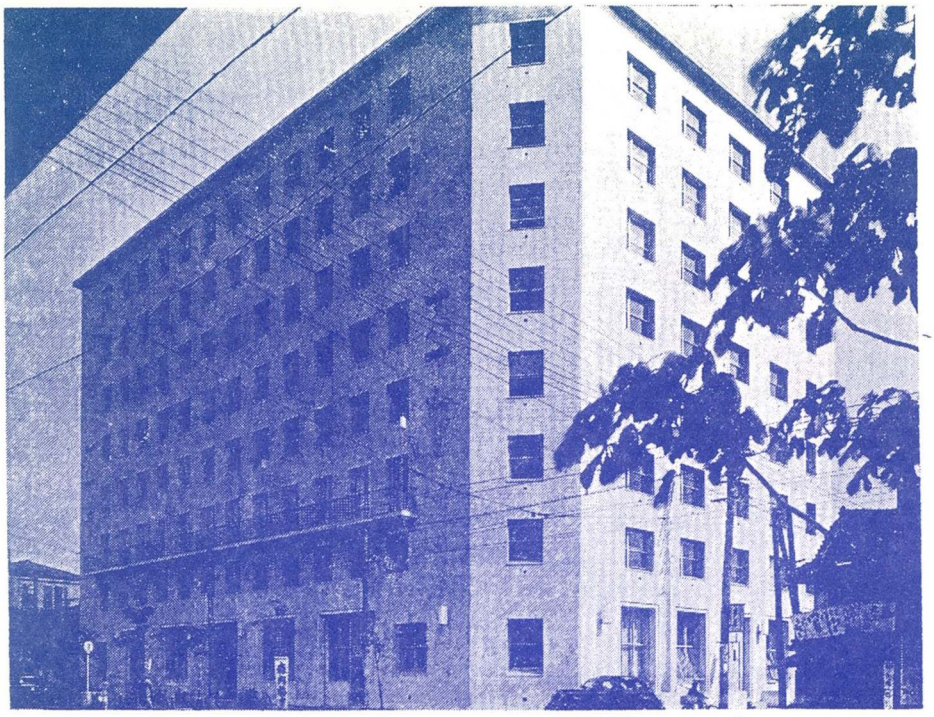
建築と社會

7

建築に於ける
日本的性格
七月號

第二十輯第七號・昭和十二年七月一日

日本建築協會



最近竣工の宇治電ビルデイング

スチールドアー
弊社製　ホワイトプロレズドアー　納　入
スチールサツシ

瀬川式特許スチールサツシ
瀬川式特許スチールドアー
朝日式特許スチールシヤター
瀬川式特許スチールパーチシヨン
瀬川式特殊高級鋼製建具
並ブロンズドアー及メールシユート
其他一般的建築金物類

朝日建材株式會社大阪支店

大阪市東區高麗橋二丁目九番地(高麗橋野村ビル内)
電話北濱(23)局 4714・4715・5227(3)

本　社　東京市麹町區丸ノ内二ノ二(丸ビル内)
電話 丸ノ内 1141・1142・1143・1144

出張所　名古屋　奉天　京城　福岡
北町工場　東京市城東區北砂町三ノ一二
南町工場　東京市城東區南砂町七ノ五〇〇
シヤツター部
工　場　東京市城東區南砂町七ノ四七八

昭和十二年版

昭和十二年
四月改訂

美麗表紙
本綴
上質紙印刷
菊判截版

市街地建築物法令

日本建築協會版

本書は現行の**市街地建築物法を始め最近改正實施された**
"市街地建築物法施行令"・"同法施行規則"・"同法施行細則"
(大阪府、兵庫縣、京都府、警視廳【東京府】、神奈川縣、愛知縣)等々**その他"同法關係法令"**を全部網羅編纂したるものである。本書はその性質上校閲に最も力を費し關係官廳諸技師の援助を受けて出來得る限りの正確を期した。

建築家、建築業者、建築學生其他苟しくも建築に關係ある者の必要欠くべからざる定本として敢て本書を薦む。

●定價60錢　送料6錢●

會員に限り1割引

日本建築協會發行

大阪北區朝日ビル4階
振替口座大阪39975

賣捌 丸善本支店
柳々堂書店

建築と社會

第20輯 第7號 昭和12年7月發行

七月號

目次

建築における日本的性格……長谷川 如是閑 (1)
建築の日本的性格……森口 多里 (6)
建築に於ける日本的性格に對する基礎的觀念……伊藤 正文 (11)
藝術、特に建築の日本的なものについての若干の考察……棚橋 諒 (15)
建築に於ける「日本的性格」……香野 雄吉 (25)
問題の所在……城戸 久 (31)

我國に於ける都市的傳統……川勝 健二 (35)
建築科學の吟味……高井 末吉 (39)
建築批判の問題……田中 彌一 (45)

•研究及調査•

大阪府下に於ける住宅經營地調査……都市計畫大阪地方委員會 (49)
和歌山縣廳舍基礎地耐力試驗……增田八郎 坪井善勝 (52)

•時報•

我國都市計畫の變遷……武居 高四郎 (80)
航空測量による地圖成作に就て……森口 清譯 (87)
元鐵道構內敷がOklahoma市の都市中樞地となる…… (94)
被洪水地に於ける住宅地開發としての對策…… (97)
第一回全國都市美協議會概況報告…… (100)
市街地建築物法施行規則中强度計算の改正…… (106)
臺灣都市計畫令施行規則 (完) …… (109)

•新建築欄•

宇治電ビルディング (大阪) 宇部市記念會館 (宇部市) 京都電燈株式會社 (京都) バーゼルの教會 (スイス) ロンドンのアパート及附屬幼稚園 (イギリス) W.stwoodの郊外アパート (アメリカ) Chicagoのアパートメント (アメリカ) ストックホルムのアパートメント (スウエーデン) シカゴに於けるコロンビヤ放送室 (アメリカ) 國立鐵道孤兒院の兒童保養所 (ドイツ) Kattowitzの市廳 (ドイツ) サナトリウム (メキシコ)

松殿山莊見學の記……岡田 孝男 (119)
建築隨想……坂井 則夫 (117)
會報…… (122)

建築における日本的性格

長谷川如是閑

1

日本人は少し規模の大きい建築はすべて外來の樣式により、明治以前は支那式、その後は西洋式を採用してゐるが、さういふ外國樣式の建築も、日本人が造つたものである以上それに現はれてゐる日本的性格を求めることも出來る道理だが、それは專門家ならぬわれわれには不可能な仕事である。たゞ私見によると、すべて少しく規模の大きい建築は外國樣式をそのまゝ採用する外はなかつたといふところに、日本建築そのものゝ『性格』が窺はれると思ふ。而してこの日本建築それ自體の『性格』に『日本的』なる特徵がある。

勿論、日本人が始めて支那建築を採用した當時には、まだ日本建築の樣式といふものは殆んど成立してゐなかつたであらうが、然しそれと同時に、支那建築から示唆された宮殿や貴族の住宅が、頗る日本的の感覺を以て發達したといふ事實があるところを見ると必ずしもさうは云はれないのである。それらの日本式の建築は支那建築の模倣から起りながら頗る日本的感覺による樣式をもつに至つた。寢殿造などはそれであるが、神社の建築の如きは、外國建築の影響をうけたといはれながら、殆んど原始的の日本的感覺を固執したかと思はれる位である。それによつて考へると、日本人が支那式建築を盛に模倣し出した頃は、他方に於て、相當建築に於ける固有の日本的感覺が發達してゐたものと見る外はない法隆寺などにどれだけさういふ日本的感覺が入つてゐるかは專門家の問題だが、とにかく少しでも純模倣以外の要素が加つてゐるとすると、當時の日本人はもはや建築において相當高級の感覺をもつてゐたものと見る外はない。

2

この感覺が具體的にどんなものだつたかはわからないが、然しその後に發達した純日本建築は、要するにその早い頃から日本人に培養されゐた感覺の傳統の持續に基づいたものであると云はねばならぬ。その意味で、今日のわれわれの住宅建築の如きも正さにその持續に外ならないのである。云ひかへると、それは支那建築とは根本的に異る『性格』の建築である。たとへその樣式や細部が支那建築に起原をもつものであつても、茶の湯が支那に起原をもちながら純日本的のものにあつてゐるのと同じやうに、それを純日本的であるといふに差支ひない。而してさういふ日本建築に特有の『性格』を建築における日本的性格といふべきだと私は思ふ。

然らばそれはどんな性格であるかといへば、始めに云つた如く、大規模の建築に適さない性格である。小規模であればあるほど益特色を發揮し得るといふ性質の性格である。その性格はいろいろの角度から理解すべきだと思ふが、こゝでは感覺の質といふ方面から見てみたいと思ふ。

3

日本人建築感覺が最も嫌つたのは巨大性と煩瑣性とである。それは極端を好まない性格即ち支那人のいはゆる『中庸』の心理だが、然しその支那に於ても西洋に於ても、苟も建築史に取扱はれてゐるやうな主要建築には何等かの意味の巨大性と煩瑣性とを、建築感覺の基底としてゐないものはない。たとへば支那建築の屋根、西洋のドームなどは建築の大小に拘らず、巨大性の表示である。エジプト建築の如きはさういふ相對的の巨大性に滿足しないで、絶對的の巨大性に成功したものであつた。ギリシヤ建築は巨大性や煩瑣を嫌つてゐるやうに云はれてゐるが、それはたゞそれらの感覺に重點を置いてゐないといふだけで、その單純な均整的の形成それ自體に滿足したものでなく、日本人の感覺から見ると寧ろ煩瑣な裝飾に重點を置いてゐるのみならず、圓柱などは正に巨大性の表示である。更らに此の柱の列と大きい三角の破風とだけを前面の總體としたギリシヤ建築の感覺は、全く相對的の巨大性に依存してゐるものといふ外はない。而してその破風の三角を彫刻で埋めるといふやうなことも、日本人の建築感覺から見れば煩瑣的である。がさういふことも、柱に溝をつけたのと同じく、巨大の面だけの平板な感じを救ふ手法に外ならない。（柱の溝は大理石の强い色を緩和させるためだといふ解釋を私はとらない）パルテノンのやうに、丘陵全體を建築で埋めるといふやうなことも、支那人はやり相なことだが、日本人はさういふ巨大性と煩瑣性との結合を絶對にやらない。大建築に於ては全然支那式を模倣した日本人も、支那建築の巨大性と煩瑣性とを出來るだけ省略せんとしたのも、さういふ日本的性格によつたのである。木材以外に甎や石を混用すことを踏襲しなかつたのもその故であつたと思はれる。

日本建築が巨大性と煩瑣性とを拒否したといふことが、日本建築の樣式を大建築に全然不適當のものたらしめた所以である。西洋や東洋の建築は、小さいものをそのまゝ廓大させても、ある程度まで形式を爲してゐるが、日本の建築をそのまゝ廓大させたら全く間の抜けたものになる。それは東洋や西洋の建築は小さいものにも相對的の巨大性と煩瑣性とが備つてゐるが、日本建築にはそれがないからである。

4

日本建築は、巨大性と煩瑣性とを忌避する日本的性格の表現としては標本的のものである。それ故に日本建築は全く量や嵩の感覺に依賴しない。その意味では今日の住宅として

の日本建築が、最もよくさうした日本的性格を表現してゐるものと見られる。今日でも、公共建築や集合建築か悉く外國樣式に依つてゐるのは、今日の日本人も王朝時代の祖先と同じく、自分のもつてゐる日本建築の樣式が、さういふ大きい規模に廓大せしめ得る性質のものではないからである。西洋の建築家が東洋に來ると、その國の風俗、風土に適した傳統的の樣式を加味した西洋建築を造らうとするのであるが、明治時代に日本に來た外人建築家は、それを試みたくても試みやうがなく、偶にやれば奇妙な効果となつた。櫻田の裁判所に、洋服で烏帽子を被つたやうな屋根の載つてゐるのもその記念の一つである。あの屋根そのものはもともと日本建築の性格を示してゐる形式ではないが、外人には東洋式から日本式を區別することの出來る感覺を與へられてゐないから仕方がない。

日本建築の形式は、それ自體廓大されて東洋式又は西洋式の建築の規模に發展するやうな感覺の性質のものではないのである。感覺の質そのものが、小規模の木材建築に固有のもので、東洋大陸や西洋の建築の感覺とは別な、云はゞ工藝品的の感覺である。然かもその工藝品的感覺も、西洋流や東洋流のスコラスティツクの感覺を嫌つた簡素な、單純な、然しながら高度の洗練をもつた感覺である。あの日本の指物の感覺は、そのまゝ日本建築の基調を爲してゐると云つていゝであらう。小鳥の籠のやうなものでも、それは單に長方形の單純な立體だが、その形といひ、釣合といひ、竹材の用法といひ、色の出し方、組み合せの技工、細部に於ける手法、等々には誠に日本建築の感覺の縮圖といつた趣がある。さういふ小さい單純な工藝品に數百圓を投じて惜まない日本人の心理は、實に日本建築に於ける日本的性格そのものを說明してゐるといつていゝ。

5

指物の廓大されたやうなのが日本建築の性格であるといふことは、規模の小さいといふことによつて低級視するよりは寧ろ感覺の洗練といふことで鑑賞を値する藝術品だといふべきであらう。その意味で往々ギリシヤ的感覺に比較されるが、然し少くとも建築に關する限り、ギリシヤのやうな複雜な感覺の綜錯といふものを日本建築に持つてゐない。建築が全然彫刻などに依頼しないだけでもギリシヤの建築感覺とは區別さるべき基調をもつてゐるものだといふことがわかる。殊に色彩に於てもギリシヤ建築のそれとは感覺的に觀念的に異つてゐる。それは西洋婦人の服裝に於ける色の觀念が日本婦人のそれと根本的に異るのと同じである。たゞギリシヤ建築の石材の無着色の色合ひの感覺は、日本建築の木材のそれに似たものがあるやうだが、これはわれわれにはたゞ想像に止まる。支那建築には全くさうした素材の色又は肌の感覺がなく、たゞ單純な原色で塗りつぶし、又はけばけばしい色彩の綜錯を喜んでゐるが、あの古陶器に於けるやうな頗るデリケートの感覺をもつてゐた支那民族としては不思議の矛盾である。日本人があれほど支那建築を模造しながら純日本建築に於てその色の感覺に倣はなかつたのは、（尤も神社建築ではそれを眞似たものも

あるが）いかに日本建築が特殊の感覺の基調をもつてゐるかを示すに足るのである。

されば日本建築に於ける技巧も自然、外面に現はれない、內面的の効果に集注される。インドや印度の建築の裝飾部分には往々彼れらの工藝品同樣の、煩瑣なくりぬきの彫刻——たとへば大理石を恰も籠のやうに彫刻するなどの——があるが、それは勞力と技巧の無意味な消費を意味する。日本建築は、反之、木材の自然の素材のまゝ、鉋の使用によつてそれに微妙な感觸の肌合ひを出す。何十年の修業によつて始めて到達し得る技巧は、たゞさういふ單純の肌合ひを出すだけである。巨大性や煩瑣性は、設計者の頭腦と職工の勞働量とで實現し得るものだが、日本建築のかうした感覺は、勞働量の集積ではなく、勞働の質の効果である。勞働効果が主として內面的に作用してゐて、いはゆるどこに力を入れたかそれが外面に出てゐないところを特色とする。これは日本人的性格と關聯した日本建築の性格である。

日本建築の線のデリカシーでも、見た所はたゞ單純素朴な線に過ぎないが、それだけの感覺的表現に到達し得ざるまでの感覺の洗練は容易なものでない。器用な日本建築等を作る今の工藝學校の卒業生に、材木一本を扱はせても、德川時代の平凡な職人に及ばないのは、その職人のもつてゐたやうな感覺と技巧の洗練が、二三年の學校生活などでは決して得られるものではないからである。日本建築はさうした傳統的の感覺の洗練に依賴するものであるために、恐らく今後はその感覺の眞髓は失はれて、形骸だけをもちつゞけるに過ぎないのではないかと思はれるが、とにかく日本建築の性格はどこまでもさうした指物的のデリカシーにあつたのである。而してその特色は純粹のまゝでは持續も發展も困難なものである。これは今日の社會の形態が、さういふ性格を生んだ時代のそれとは違つたものだからである。それにも拘らず、われわれはこの建築に於ける日本的感覺を持續することは、他の一面に於て、日本の國民的性格の特徵を維持するためにも必要のことゝ考へる。そのことは、建築におけるさうした性格の發生事情を考察すると一層明かにされる。されば次ぎに簡單にそれを述べて此稿を終りたい。

6

世界における建築の樣式は、概ね古代に於ける帝國國家の時代に成立したものである。而してその古代帝國には、必ず巨大な富の集積があり、それと同時に莫大な奴隷勞働の集積をもつた。その二つのものゝ集積を條件として、建築樣式の規模が決定されたのであつた。然るに日本建築が東洋や西洋の建築と全くその基調を異にするのは、建築の感覺が國民的に決定される時代の國家、社會の組織が、頗る一般の古代帝國のそれと撰を異にした爲めであつた。富に於ても奴隷勞働に於ても、日本は、國土の小であつたためばかりでなく、寧ろ國家組織、社會組織の質を異にした爲めに、大陸の帝國のやうに大規模に浪費的であるを得るまでの集積が無かつたのである。それを詳しくこゝに述べる遑はないが、要

するに支那建築の物入以前に、日本は相當の獨自の建築感覺をもつてゐたが、それは巨大性や煩瑣性とは正反對の簡素な、單純な樣式を生むべき、極めて常識的の、平民的のそれであつた。日本の古代の天皇が、平民と同じやうな樣式の家屋をもち、殊に旅行の際などは農民同樣の假屋に宿られたことは古歌にも現はれてゐる。始めて日本人によつて作られた支那樣式の皇居でも、大陸帝國の宮殿などとは、規模に於ても、裝飾に於ても比べものにはならないもので、樣式も單純、簡素なものでなかつたらしい。さういふ建築心理は、全く傳統的の建築の感覺が巨大、煩瑣を許さない感覺の基調の上にあつたからで、必ずしもその當時の富や勞働の量のみの問題ではないことは、同時に相當大規模の支那式の寺院建築の盛に起されたことでもわかる。つまり建築に於ける日本的性格は、支那建築渡來以前の日本の國家及び社會の組織に規定されたもので、その時既に相當度々成立してゐたのであり、且つ支那建築を模造し來出してからもさうした社會形態に大に變化もなかつたので中央集權國家が出來ても、直ちに固有の性格を失つて大陸式に移つて日本式を失ふことが不可能だつたのである。

而してそうした固有の性格は、つひにその後の千餘百年の日本人の建築心理を支配して今日のわれわれも自分の生活の本據としては、その日本的性格を基調とした日本建築を棄てることが何うしても出來ないのである。われわれ日本人は、たゞ規模が小さいといふことだけで、この日本的性格を排斥するよりは、その實の優良性を、一層規模の大きい性格のうちに生かして行くことを努めねばならぬと思ふ。(完)

建築の日本的性格

森口多里

昨日淡路の人形芝居を見た。三番叟と新作とを除いて五種目が演ぜられたが、そのうちの三種目はいづれも身代りの首を打つことが中心になつてゐる場面であつた。即ち「賤ケ嶽七本槍正右衛門館の段」と「御所櫻堀川夜討辨慶上使の段」とでは、主筋に當る婦人を助けるために自分の娘の首を打ち、「菅原傳授手習鑑寺小屋の段」では、主人の子息の身代りに教へ子の幼い首を斬り落すのである。

六時間ばかりのうちに無慙な身代りの斬首を三回も見せられたのである。かういふことは外國での觀劇では恐らく經驗することがないであらう。しからばこの無慙な犧牲行爲は最も日本的なる道德と情操とを代表するものゝ一つであると云つてよい。日本の觀客はこの行爲を容認し、寧ろ讃美してきたのである。この行爲に日本的な親緣性を感じてきたのである。しかし事情を知らない外國人から、日本では今でもこの種の行爲が實際に容認されてゐるのか、と問はれたならば、誰だつて笑つて答へるだらう、あれは封建時代の道德を基調とした創作に過ぎないのだ、と。

親のために身を賣ることも封建時代的情操の世界では屢々讃美されてきた。しかし現代の新聞の身上相談ではさういふ場合親に決然と反抗することをすゝめるのが常識になつてゐる。

こゝで考へなければならぬことは、第一には、現代の知性が絕對に容認しないにも拘らず、一般の日本人は舞臺上の身代りや身賣りの行爲に民族的な親緣性を感ずるといふこと、第二には、現代の知性が封建時代的な身代りや身賣りを排擊するとしても、忠孝を重んずるといふ根本的な人倫は一向に變つてゐないといふことである。つまり、根本の道德的觀念は變らないが、その發相は時代によつて異るのである。

建築の日本的性格を求めて過去の作品を檢索する場合にもこの發相の時代的相違を考慮の外に置くわけにはいかない。日本建築の日本的性格を日光廟に求めようとすれば、多くの建築史家は反對するであらう。日本的性格は民家なり神社なりにこそ求められるべきだと彼等を訓へるであらう。それは尤も至極の話であるが、しかし、日光廟は支那の建築でもなければフランスの建築でもない、出雲大社と同じく純然たる日本建築であるに相違ない。德川初期の建築技術と裝飾技術とを動員し、國產の材料を用ゐ、そして日本人の生活樣式を基準として、造營されたものであつて、坐るべきところには疊も敷いてある。これは、平安朝の眞言宗の僧侶が遠慮なく寺の內部に疊を敷いたことや、現代のプチ・ブル・

インテリの小文化住宅に、疊敷きの小座敷が附加されてゐることなどゝ、何の相違もない事である。たゞしかし、日光廟は餘りに絢爛華麗の表現に充ちてゐるので、一般の生活様式と共通する部分が蔽ひ隠されてゐる。これが即ち徳川初期の時代的發相である。權現様を極度に神聖視し、或は神聖視することを强制した時代の最高の建築的發相なのである。さういふ欲求のために、當時の最高の技術が動員されたのである。

絢爛華麗ではあるが、日光廟から受取るものは、支那的なものでも、印度的なものでも紅毛的なものでもなく、矢張り日本的な情操である。絢爛華麗に呆れながらも、日本人は日光廟の建築に矢張り民族的な親縁性を感ずるのである。たゞしかし餘りに封建時代的特性が濃厚なので親縁性が或程度減殺されるが「寺小屋」の身代り斬首の義理人情に時代を超越した民族的親縁性を感ずる者は、日光廟の建築にも同じものを感ずるであらう。

しからば、時代的發相の相違にも拘らず我々日本人に民族的親縁性を感じさせるものは何であるか？——この問題に來て我々は壁に突當るのである。藝術の國民的特色は明白に目に見て居ながら、それを抽象的な德性として表示することは容易ではなく、そして兎角尤もらしい國粹主義的獨善に陷りやすいのである。日本の建築は日本國民性のこれこれの美德を表現してゐると云つたやうな講說にはそれが多い。

日本の演劇は主君に對する絶對の忠といふ國民的美德を表現すると云ひ、それが即ち日本の演劇に表はれたる日本精神であると說くことには、誰も反對しない。寧ろその正しいことを萬人が認める。しかし、主君に對する忠といふ美德は日本特有のものではない。支那にも、西洋にも、回教徒にもある。その國特有の美德なんてものは滅多にあるものではない。たゞしかし、その美德の表現の仕方、即ち發相が、國によつて異るに過ぎないのである。

表現の仕方は國によつて異るばかりではない、前述の如く時代によつても異る。だから主君に對する忠といふ美德は變らないにしても、現代の知性は身代りに他人の子の首を斬るなんてことは考へもしない。

素材の美を愛するのが日本建築の特色の一つだといふやうな考察にも同様の獨善的解釋が見られる。成程日本の建築には白木のものが多く、且つ白木の感觸を意識的に高調した建築も昔から多い。しかし、「素材の美」といふ一般的な概念になると、白木ばかりが素材ではない。石灰石も大理石も素材である。煉瓦も素材と云つてよいであらうが、ローマ人は煉瓦の素地をそのまゝ見せて建築の美を出さうとした。石造建築にも石そのものゝ素地を見せたものが少くない。これらは皆な「素材の美」の顯出である。色漆喰を塗つた石造建築も少くないが日本の民家にも座敷の木部を悉く赤褐色の漆で塗り上げた例が珍しくない。

毎朝鏡のなかに見る自分の顔にも日本的性格があり、貧しい食卓の味噌汁にも明白な日本的性格があるのだが、さてどこが日本的性格かと問はれゝば返答に困る。——困るけれ

ども味噌汁は此しく日本的性格を感じさせる。封建時代の日本人にも現代の日本人にも均しく日本的性格を感じさせる。即ち時代を超越し、階級を超越して日本的親縁性を感じさせるのである。

しからば建築にもこの味噌汁のやうに時代と階級とを超越して日本的親縁性を感じさせるものはないだらうか。神代には味噌は無かつたではないかとか、味噌は支那の坊さんが輸入したものではないかとか、言はれるかもしれないが、少くとも文字と同じく永い歴史をもつて現代の日本人の生活に結びついてゐるのである。

結局、現代の日本人に歴史的因縁をもつて國民的親縁性を感じさせるものが即ち日本的性格といふことになりはしないか。そこで、日本的性格は結局自己の情操を反省するところに手がかりを求めるのが一番よいのではないかと考へられる。

我々は東洋の古今の文化にも、西洋の古今の文化にも、觸れ、且つその幾部分かを我々の生活に取入れてゐる。それぱかりではない、或る新しい高いものを意欲して封建時代的な精神的遺産や傳統的なるものゝ一部を超克しようとさへ努めてゐるのである。それにも拘らず、たまたま幽雅な純日本風の庭園とか閑雅な茶室とかに身をおけば今まで忘れてゐた故郷に突然歸つたやうな安易と快適とを感ずるのである。この日本的な親縁性は、民族的鄉愁と呼んでもよいかもしれない。

それは、高級な庭園や數奇屋にばかり感ずるのではなく、小料理屋の小じんまりした一室にアグラをかいたときにも感ずるのである。歴史的建築に於ては、日光廟のやうな時代的・階級的特色の濃厚なものよりも、然らざるものにより多くこの親縁性を感ずるのは當然の話である。

桃山時代の大名が茶室生活を愛好したのも、この民族的鄉愁の滿足を求めたゝめであらう。彼等は支配者としての權威に照應する豪華な宮殿を所有したが、それだけでは本能的鄉愁は滿たされなかつた。從つてその鄉愁に呼應した茶室建築にこそ日本的性格が最もよく見出されるべきであるが、豪華な宮殿さへも仔細に見れば民族的鄉愁に呼應するデテールが幾つも見出されるであらう。

桃山時代や江戸時代の大名が茶室に於て滿たしてゐた民族的鄉愁は決して過去の事實ではない。同じ鄉愁は現代の日本人の心理にも宿つてゐるのである。そこで、如何なる建築に於て我々は忽然として民族的鄉愁を呼び醒まされ、同時に安易と快適とをもつてその鄉愁が慰やされるか、といふことを考へることが、建築の日本的性格を探る上に最も正直な手がかりを與へられることになりはしないかと思ふ。

上記の意味に於て我々に民族的親縁性を感じさせる建築は、植物性の柔かみと暖かみとを持つものであることを第一の特徴とする。即ち、構造材料は木材、竹材それから、植物性原料で作られた疊や紙、これに加ふるに植物を養ふ直接の母胎となつたところの土が用ゐられてゐる。勿論植物や土で出來てゐる家屋はマレー半島にもアフリカにもあるが、日

本に於てはそれが最も高い段階にまで洗錬されて一の造形美に達してゐるのである。

第二の特徴は、方形の廣い面がプレーンのまゝ殘されて、それが室内直線的構成を一層單純化させてゐることである。柱と長押とによつて圍まれた壁面がそれである。この方形面は土壁となつて木部や疊の植物性と親和してゐるのが特徴である。襖や障子を閉め立てた場合もそこに日本建築特有の方形面を見るが、開け放たれた場合でもそこに方形に仕切られた廣々とした空間が見られるのである。

第三の特徴は、左右相稱の計畫を表面に目立たせてゐないことである。これは山島の地理的環境から促進された日本人の傳統的な美的情操の一つであつてこれに就て私は既に長い論文を書いたが未だ發表の機を得てゐない。室内構成に於て相稱的意想を破るものは床の間の存在である。洋室の重要な要素であるところの壁爐が壁の中央に設置されるのに對して、日本の座敷の床の間は必ず右か左かに片寄つて位置する。そしてこの非相稱的配置が室内の直線的構成を柔らげ、陰影の配分に單純な變化を與へてゐるのである。

第四の特徴は、局部的機智によつて偶然的・自然的興趣を附加しようとすることである。日本の一般的住宅の構成を支配するものは直線であつて、その直線は單純に直截的に組合はされてゐるが、日本人の情操は、その單純な幾何學的構成に對する景物として、自然に偶然に成生した曲線的構成を添へることを求めたのである。そこで、例へば、自然のまゝの不規則な輪郭を持つ神代杉の板を欄間に使つてみたり、皮附きや瘤附きの自然木を床柱や中柱に使つてみたりするのである。その不規則な輪廓や曲線は、計畫的人工の及ばぬ、自然の偶然の所産であつて、その偶然的生成に自然の有情の感ずること、恰も庭木の枝振りに感ずるものと性質を同じくする。そして日本人の情操は、非情の人工的直線構成の中に自然の有情を持ち込まなければ滿足しなかつたのである。自然を愛さない國人はない、しかしこゝに日本人特有の自然の愛し方が見られるのである。この情操は非相稱的意想と結合してゐる。そして室内の細部に霞だの波だの紅葉散らしだのゝ透彫を附け加へることを喜ぶのであるが、これが卑俗に行はれると、トリビアリズムになり、駄洒落になり、一種の臭味を持つに至ることは、多くの實例が物語つてゐる。この種の卑俗な裝飾的意匠とは反對に、自然の曲線のまゝの大木をどつしりと構造部に使つた如きは、日本人の情操に最もよく適合するものである。

第五の特徴は、家具の仲介なしに人間が室内に安坐することが出來るといふことである日本の疊敷きの室は天氣のよい日の芝生と同じことで、直接に坐ることも寢ることも出來る。椅子などゝいふ仲介物を必要としない。必要に應じて座布團を用ゐる程度に過ぎない從つて室の平面的な擴がりは、洋室の場合よりも人間にとつて一層親和的である。眼や手がその擴がりに親和的に接近してゐるのである。

これらの諸特徴は、住宅に見られるばかりでなく、天主閣にも、廟にも、宮殿にも、大かれ少なかれ忍び込んでゐるのが見られるであらう。建築の日本的性格がこのやうな諸特

徴となつて現はれたのである。換言すれば、このやうな諸特徴を持續的に統一的に發現させるところのもの、そしてそれによつて他國の建築に見られない表現を結果せしめるものそれが日本の建築に存するのであつて、これを建築の日本的性格と呼んでよいであらう。或は建築の日本的情意と呼んでもよいかもしれない。そしてこれが常に我々にとつて民族的鄉愁の不斷の源となつてゐるのである。

建築の日本的性格を抽象的な言葉で分解すれば、「洗鍊されたる原始性」、「開放的」「溫帶的」、「自然への親和」等々が列擧されるであらうが、これらは總て前記の諸特徴となつて具體化されてきたのである。

日本といふ國の固有の自然的條件、社會的條件、及び人間的條件（技術的條件をも含めて）が、建築の日本的性格を成立せしめたのであつた。自然は變らなくとも、社會と技術とが變化するに從つて日本的性格に多くの潤色とニユアンスとが與へられ、また改變さへも强ひられる。しかし、建築の日本的性格は、日本人の情意には常に民族的鄉愁となつて遺存するであらう。我々の正直で單純な民族的鄉愁こそは、建築の日本的性格の存在を證據立てる最も有力なるものである。

思へば、建築の日本的性格なるものは一羽の「青い鳥」であつたのだ。プロト日本に、平安朝に、或は江戸時代にと、遠く探しまわつた末、結局それは現に日常を生きてゐるところの自分の情意の中に見出されるものであつたのである。

しかし、民族的鄉愁の滿足は、要するに情緒的慰安であるに過ぎないので、これにばかり拘泥してゐては、前進的・創造的氣魄が萎縮する。また、建築の日本的性格と云つても古代には無かつた要素が中世に具體化し、中世になかつた要素が近世になつて具體化したといふ例も見られるのあるから、日本的性格も時代と共に進展するのである。即ち、新しい日本的性格が現出するのである。床の間だの障子だのは古代には無かつたもので中世以後に現出した諸要素である。

日本的性格の進展のためには、民族的鄉愁の或部分を生かすこともあらうし、また或部分を犧牲にしなければならないかもしれないのである。（完）

建築に於ける日本的性格に對する基礎的觀點

伊　藤　正　文

最近のジヤーナリズムは、蓋し日本論一色に塗り潰されたかの觀があるが、それは殆んど總ての文化的諸領域に於いて取上げられ日本的性格、日本的特質、或は日本的なるものに關する論爭として現はれて居る。

是等の諸論爭を通觀するに、現時に於ける政治的日本主義の强調擡頭と密接なる關聯をもつものであらうと思はれる。例へば文學に於ける此種の論爭も、日本主義を擡頭せしめた最近の社會的潮流の上に立つて居るものと見ても差支へないのではあるまいか。

そこで、建築も亦文化的所産の一つとし、て此時代の潮流に棹さゝねばならないものであらうか。

遲ればせ乍ら建築の領野に於ても日本的なるものについて論議されなければならないものであらうか。建築に於ける日本的性格を爰に改めて論議の課題とする前に、建築に就てそれが論議さるべきものかどうか、或は、論議される必要があるのか、更には論議の課題となし得べき性質のものか、そう云つた點についてもう少し考へて見なければならない様に思はれる。

そこで飜つて建築に於ける日本的性格と云はれるものゝ本質に就て、靜かに見直して見よう。

例へば、詩の世界での日本的性格として擧げられて居る神秘性は、建築の形態に就ても鑑賞的な態度の前には充分に感得出來得る所であらう。深い軒先の奥に秘められた靜寂な紙障子の感觸は特異なる日本的神秘の感覺である。其處には、東洋的美の特性である以上の枯淡なる味はひが溢れて居ると感じる。輕やかで深い陰影をひそめる軒先を作る屋根と之を支へる細い柱、打開いた開口部と平面的な筋の通つた組子の障子や建具が形造る日本住宅の美は、無論建築に於ける日本的性格の表現の一部であるに間違ひない。では、此等建築様式の發生理由は何か。

之が此課題の眼目となる點であるが、之に就ては事新しく爰に述べる迄もない程自明の理として、且つ明白なる事實として我國の建築運動の人々によつて十年前に語られ盡した事を記憶して居る。即ち建築の形態は、その國の風土性によつて規定されると云ふことである。

建築の材料も建て方も、從つて形も、住む人々の氣持も、その土地の氣候風土によつて規定され、影響され作られてゆくと考へられる。この事は飽く迄正當な自然科學的直接的

な事實である。

他の藝術の様に人間の意識を通じての、云はゞ間接的な規定ではなくして、直に風土と生活との結び付きに於いて、正直に現はれて來る。屋根の形は風雨の强さ、雪の多さ、之を覆ふ材料の漏水、浸透の性質と勾配との關係や、夏日眩ゆい半熱帶の太陽光線を遮ぎり吹つける雨の飛沫をよける關係によつて規定されて來た。夏期の溫度の高い住居環境をしのぎよくする爲には出來るだけ大きい開口を作らなければならぬ必要は、徒然草五十三段をひもどく迄もなく、開放の椽側を作つたであらう。しかも、高度の低い陽射しの冬には此椽側が日光浴室ともなる、狹い一室に多人數住居する部屋の土壁は透氣に富み、しかも濕氣の吸收放散が速かであることが住み良さの條件を作つた。

日本古來の建築樣式は、その住居に著明にこの性格を露出して居る。そして住ひに關する外的諸條件への順應を、はつきりと示した形式に、たくらまれない自らの持味と美とが露出されて來る。

建築も亦文化形象の大きな一つである限りに於いて、その樣式は機構上の必要を越えて樣式自體として發展し、更にその時代の社會觀念形態が反映すると云ふことは考へられることであるし、建築の歷史の上に充分にその事實は認められる處であるが、建築の本質的なるもの、即ち住ひの必要を包攝する機構としては、風土性——廣い意味に擴大すれば國民性と云ふ言葉迄も考へられぬことはない——によつて規定さるべきである。

此等のことは、先に申した如く、すでに建築界に於て論議華かなりし昔に於て檢討されて居る處であるが、建築の表示する形式的特性は、思想的因子による影響や、政治的意圖によつて出來るものよりも、自然科學的處置の方が深い理由と原因とになると云へる。只住ひの具としてこの構造的實利性の堆積が、それを長い年月の間に、藝術に迄引上げるとも云へよう。

先年ドイツの建築家ブルノータウト氏が、之こそ日本的な建築であるとした伊勢神宮、桂離宮の優れた美と良さとは、實はタウト氏に俟たずとも、すでに日本の建築家が認めて居た處であり、その勝れた日本的性格については論議の餘地もない筈であつた。その構造的特質の建築的美への洗練の深さは、用途の意識を越えて、建築藝術に迄高めた。しかも之等の例は建築技術の構造的側面のみから凝視する時、却つて技巧的なたくらみを見ず端的な環境氣象への順應的機構の表示に過ぎない。深く顧みるに總ての藝術作品は、たくらまざる處に却つてその卓越性を表すものであらう。

而して、日本の建築的特異性、或は建築に於ける日本的性格は、世界の建築歷史について見て、特に部材裝飾の巧緻に非ずして、吾々の祖先等の、此特異なる風土に於ける、自然に對する撓みなき順應と抗爭との意志が、彼等の住居としての建築機構の上に率直に現はれたものに他ならない。

此點こそ、近代建築の一般についての觀點の重點となるものである。

而して、又この事も、事新しく論ずる迄もなく既に過去十年の檢討を建築界に於いては經驗して來たものである。即ち、建築に於ける日本的性格と云ふ問題は、最近に於ける所謂「日本的なるもの」の論爭とは全く別個に、既に遙か以前に論議され盡してしまつて居る。而して又、素人の人々の一部に云はれてゐる西歐的なものと、在來の日本的なるものとを如何に調和せしめるかと云ふ様な問題は、明治中期以降の我國の建築學者、建築作家の間に負はされた課題として、昭和時代の建築の領域ではすでに解決ずみの筈であらうと思はれる。寧ろ、既にそれは我國の近代建築が此風土性の中に如何に作られ如何に洗練されつゝあるかと云ふ實踐の段階にある。

構造と材料と用途の國際性と、日本の風土に對する處置との合成は、現代日本の建築に日本的性格を自ら附與しつゝあるのではないのか。言葉を換えて云ふならば、それは技術的研究の途次にあつて、論議の課題としての時期は遙かに過去に於いてあつたと云へる。今、日本論氾濫の社會的潮流に乘せて論議し様とすることは、考へ方によつては暴力的であり、日本に於ける建築の特質とその進歩とを顧みざるものであるかの様にも思はれてならない。

此論議は、今は、建築技術の眞の發展に就て餘り大した貢獻とはなるまい。何故ならば建築の日本的性格は、論議するものゝ論議の圈外に於て、發達の歩みをつゞけて居るからである。

日本的性格を云々することは、建築界に於てゞはなくして、建築以外の職業圈に於て、他の文化形象を取上げるべきことであらう。

技術の世界では、電氣の日本的性格、機械の日本的性格、自動車の日本的性格、軍艦の日本的性格と云ふことは聞かれない。それ等の特異性は「性格」ではなくして、「性能」である。

建築に於ても日本の住居機構としての特異な性能の表現があるべきであるが、單なる形式的な日本的性格は僅かに裝飾的細部の文様等に殘されたものに過ぎない。裝飾文様の性格は建築自體の性格ではない。それを何程つみ重ね、大きく取扱つて見ても建築の性格とはなり得ない。こう云ふ點に素人の人々に誤認がある。

事實、建築家以外の人々の建築に關して餘りに知ることの少く、誤つた見解が行はれて居ることは、建築界の心あるものにとつては嘆かはしいことである。建築家の良き意志が無理解なる局外者の意圖によつて不當に歪曲され、その結果は愚劣なる建築物が、大都市の街に傲然と建てられることは、心ならずも我々建築技術家の屢々經驗することである。

茲に巴里萬國博の日本館、其他を例示する迄もないが、そこには日本建築の特異性日本の風土に立脚した眞の日本的性格と呼ぶことの出來ないものが、却つて、日本的なる建築として大衆に喜ばれる事すらある。

最近、中央公論紙上に於いて、甘粕石介氏は、「藝術における日本的なるもの」と題す

る評論に於いて、

——文壇の日本浪漫派の一部の理論家に於いて成形化して出現した日本主義は、現代の廣汎なる社會的潮流の中に根ざして居るものであり、又最近の一般家庭に於ける日本的趣味、日本的娯樂の驚くべき復興振りは、ラヂオ其他による上からの誘動もあつたらうが、やはり滿洲事變後の民衆の動向の一つの現はれであり、同じ事が文化の各領野に亘つて現はれ西歐的思想と技術の上に立つた建築家、洋畫家、新劇俳優、演出者等々の人々の中に日本的なものへ還へると云ふ傾向が起つて居ると述べ、「例へば、主として歌謠、ピアノ曲の作曲家である箕作元作、清瀬保二は（中略）共に西洋的技術によつて專ら日本的な簡素、靜寂、さび、詠嘆と云つたものを表現すべく努めて居る。（中略）建築ではもつと積極的に日本精神の表現の要求が現はれ、最近の代表的建築では、例へば軍人會館、女子會館などが、かゝるものとして作られて居る。また例のパリ萬國博覽會の日本館の設計は、當初の國際式が當局によつて却下され、日本的なものへの訂正が求められて居る。」と述べられて居る。

筆者は今、此論に對する論議の時間と興味をもたないが、最近大阪に出來た國防婦人會館と、竣工近い大阪軍人會館の美事な出來榮えに對し、その作者と當局とに敬意を拂ふと共に、之等こそ日本的性格を表示して居ると云ふことを書き添へて置き度いと思ふ。

只徒らなる建築細部の技巧によつて日本精神を表示しようとしたものは、却つて日本精神から逸脫する。繪畫に於ても、表現方法に氣を取られた結果、何物も現はれずに却つて平面的な精神のないものに終るのと同じである。

風土に對する研究は、繪畫に於けるデツサンである。

此意味に於て、特に日本的性格を誇張する建築は、眞に日本的な精神を逸し、却つて謙虛な心境から作られたものにほんとうの日本の味はひを知ることが出來ると思ふ。

藝術、特に建築の日本的なものについての若干の考察

棚橋諒

藝術は數理の世界ではない。だから藝術に對して何か解析的なことを企てることは全く無意味の事の様にもとれる。少くともこれは日本的な事ではない。しかし私はとにもかくにも編輯者の求めに應じて講壇者流らしい常識と獨斷と無智と衒學の足場を組んで藝術特に建築の日本的なものについて若干の考察をしやう。本當にこれは身の程知らずの事でもあるが。

★

法則的なものと非法則的なもの

日本の建築の持つ著しい特質としてその非對稱性を擧げる事が出來る。「對稱」は西洋建築に於ける憲法であつたのに對して日本の建築では「對稱」は常にスクリーンの向ふ側へ押しやられ勝ちであつた。こゝに西洋の建築から日本の建築とを性格的にはつきり分つものがある。

對稱は森羅萬象を支配する。しかも非對稱も亦森羅萬象を支配する。規則的なものと不規則的なものとが——例へば溪流に臨む岩石を見れば千姿百態、その世界は不規則の世界であつて、一つの岩石の姿を見て誰が他一つの岩の姿を究めることが出來やうか。しかも尙彼等岩石を形成する鑛物を觀察すれば、それは全くの規則と幾何學に支配せられた世界である。爛漫たる花を見ればその姿は法則を超えた自然の世界である。しかも一つの花を手にとつて見よ、それは嚴格な放射對稱の世界である。

動ける人の姿には一つの對稱の軸もないけれども、ギリシヤに於てはその靜的な對稱軸をもつプロポーションが美の法則の如くさへ考へられたと云ふ。

人體はかく靜的に「對稱」である。しかも多くの內臟は對稱に排列されつゝその主要なる若干のものは對稱ではない事は意味深いことの様に思はれる。森羅萬象はかくの如くして、Symmetria、希臘概念のシムメトリアから Symmetry と Symmetryでないものを意味深く啓示する。西洋建築は嚴格なるSymmetryの骨格の上に構成され、日本の建築は Symmetryを超えた世界を、直ちに把まうとする。西洋の建築はその發展を發展史的に法則的に理解し得るが、日本の建築はその發展を、そのまゝの姿に於て法則を超えて把まねばならないのである。



第1圖・飛雲閣（桃山時代）

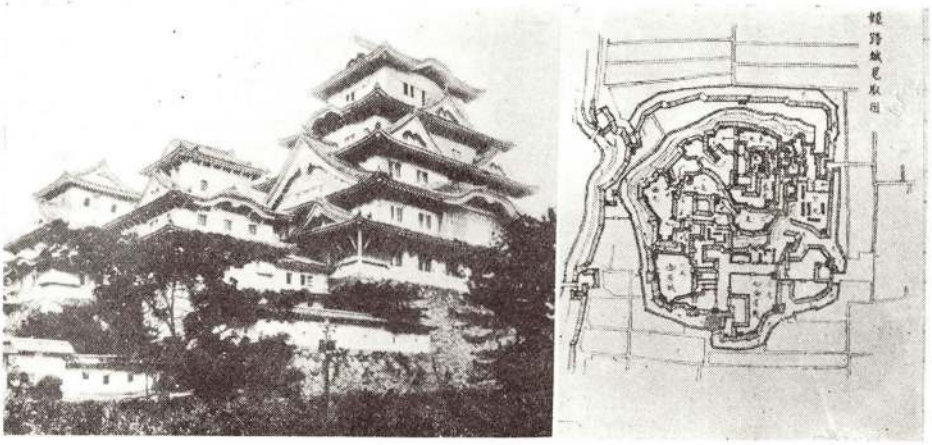
單に Symmetry のみならず「法則」は西洋建築に於ける最も重要なものであつた。或は「法則性」をあたへることが。建築の美しさに「法則性」を與へんとする數多の試み、それは羅馬に於けるヴイトルヴイウス復興期に於けるアルベルチその他の浩翰なる建築十書に表れる。建築の法理の建築が建築そのものと同じ様な熱意を以て追求されたことは我々にとつて驚嘆に値する。

しかるに我々はこの方面で何をなし得たか？　我々のなしたものは若干の知られざる天才によつて直感的に把まれた美しき形の傳承であつた。それらは口から口へと秘傳として傳へられ誰も西歐人の如き解析を企てなかつたのである。我々はその法則性を追求せず只定型を傳承したのであつた。それは東洋人の性格に起因するものでもあらう。彼等は禪に於て眞理が解明せらるべきものでなくて以心傳心的に悟入すべきものであることを主張した。しかるに西歐人は我々にとつて荒唐無稽な御伽噺的神話にすら哲學的組織をあたへて神學をうち建て様とするあくどい仕事が行はれ來つたのである。彼等にとつては解明せられたものが眞理であつた。西歐的意欲はすべての上に法則を組みたてることを企て、東洋的直感は只すべての上に超法則が支配して居ることを知つて居たとも云ひ得る。

第2圖・Farneseの館・伊太利盛期復興期



對稱の建築の美と非對稱の建築美を今こゝに例示しやう。第1圖と第2圖は殆ど時を同じうして東西に建築せられた邸宅の建築、飛雲閣と、ミケランヂエロのファルネーゼの館である。ファルネーゼの館に於ては中央の強化によつて鮮かな對稱と古典的な均整が印象される。それに對して飛雲閣では權衡のとれた全體の構成が、も早何等の法則

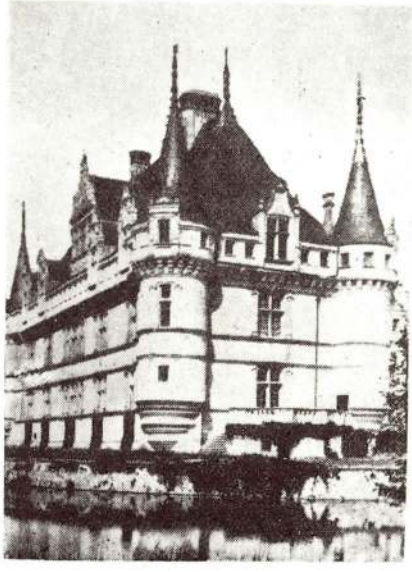


第３圖・姫　路　城

をも抽出出來ぬ様な姿態を印象づける。强ひて云へば權衡の法則、これは只作家の感性によつて把まねばならない超法則が支配して居るのである。（これは後代に於て天地人なる三つの容積の權衡なる形に於て挿花藝術を支配する定型を興味を以て想起せしめる。）

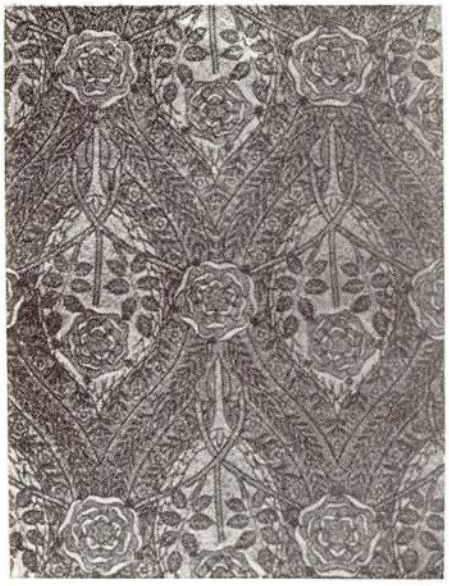
勿論我國の建築に於ても對稱性がなかつたわけではない。宗教の建築は殆どすべて對稱であつた。しかし、殿舍堂塔の配置に於て嚴格な對稱が守られることはむしろ珍しく、その全體的な印象に於て對稱が强調されることがなかつた。日本的なる最初の伽籃配置に於て我々は「法隆寺式」であつたのである。對稱軸を持つ建築は宗教建築のみではない。城廓建築も亦概してそうであつた。第3圖と第4圖とは同じく相さる遠からぬ時代に東西に於て建築せられた城廓である。二つを比較するならば日本の城の與へる對稱の印象は西洋のそれに比して遙に弱い。これは、對稱を强調する垂直のエレメントが弱く對稱を强調しない水平のエレメントが强いためであるかと考へられる。兩側の軒の水平の線はそれが對象に配せられても、その一方のみしか見ることが出來ないためである。その上にこの美しい日本の城は全體的配置に於て極めて非對稱的であつてその印象は繪畫的である

第4圖・Azay-le-Rideau城（佛蘭西）



我々は飛雲閣に於て見られた空間的構成との相似をさへ第3圖から感ずるのである。

この性格はたゞに建築にのみならず裝飾文樣に著しくあらはれる。正倉院の御物を見れば我々の祖先がいかに西歐と同じ源泉から發した裝飾美術の寶を所有して居たか明かである。我々が天平時代の織物の中にしばしば見受ける中亞起源の狩獵

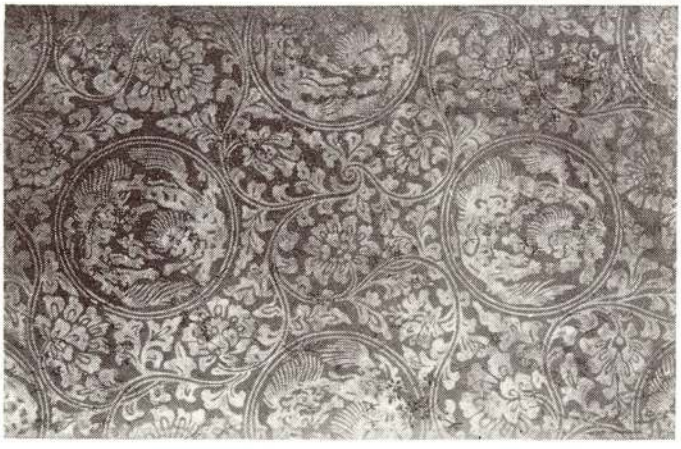


第5圖・近世英吉利壁紙

を自然的に要求するにかゝはらず、表出せられたものゝいかに規則性をその裏にかくして不規則的な印象をあたへることに努めて居るかを我々は、興味を持つて眺めるのである。

第5圖は英吉利の近代のモリス一派の壁紙の意匠であつて近代的な文様エレメントが古典的なDrop repreatの嚴格な法則で配置せられて居る。これに對して第6

第6圖・平　安　時　代



文が西洋に於てはあの典麗なる後代の Diaper 文様に、又Drop repreatの文様に發展して行つたのであつたが我國に於てはこれらの文様構成の規則性はあいまいにせられ、文様のエレメントの持つて居た對稱性も超越せられてしまつた。それには興味ある對照すべき多くの例があるが、こゝでは讀者諸氏が西洋のクラシツク風の壁紙のデザインと我國の襖紙とを比較せられゝば明かである。あの日本の襖紙の雲母刷りそのものは一つの規則性ある文様

第7圖・裝束裂文様（江戸か？）



圖に示される平安時代の料紙の文様では双獸圓文様はDroprepreat に配置されるがその間をぬふ寶相花唐草は自由な手法で非法則的に描かれて居る事に注意しなければならない。更にこの寫眞ではごく弱く細く點在する花鳥の

文様が實物では極めて印象的であつて寫眞に鮮明に表はれて居る文様は寧ろ地紋であることゝこの花鳥の文様が全く自由に布置せられて居ることは興味あることである。裝飾文様に於ける幾何學的構成は次第に繪畫的な自由な手法に置きかへられ第7圖の様な極めて日本的な作品へと發展する。尙この第6圖の文様に用ひられた双獸圓文様は天平裂に見られる狩獵紋に源を發するものであらう。この双獸文様は對稱性を保持したまゝ永く西歐の文様の重要なエレメントとして用ひられたのに對して、日本に於ては支那と共に巴文的構成に早く轉化し、そして日本に於ては早く繪畫的な文様エレメントにとつて代られたのであつた。

この建築に、あらはれた西歐の對稱性と、日本の非對稱性は、詩に於ける西洋の繰り返す形式と日本の繰り返さぬ形式と相似の關係を以て想起せられる。乃ち西洋の詩では個々の行は、同じ形式を以て、乃ち、同じ數の强弱音の排列を以てくり返され、日本の詩に於てはそうでない。勿論日本でも旋頭歌と新體詩のあるものは繰り返す形式であつた。しかしそれらは早く滅びてしまつた。榮えたものは短歌や俳句は勿論端唄都々逸に至るまで繰り返さぬ形式であつた。これは國語の持つ押韻の出來ないと云ふ特質がしからしめたと云ふ様にも考へられる。そして日本の詩は簡單な Syrable で構成される所謂「矮少型式」になつてしまつた。これは建築が簡單なエレメントで構成される「矮少型式」にあつたことを極めて近似する様に思はれる。その意味では、詩に於ても建築に於ても裝飾に於ても支那藝術は、日本藝術よりもはるかに西洋藝術に接近する。その繰り返す形式に於て、對稱性に於て、法則的な構成に於て。

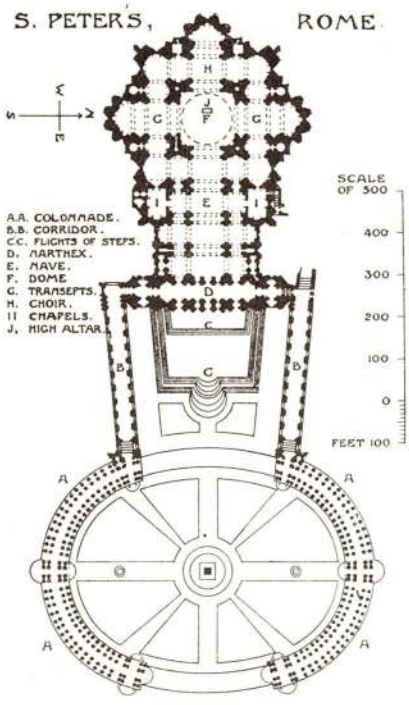
★

構成的なものと展開的なもの

聖ペテロの伽籃の平面（第8圖）と、二條離宮の平面（第9圖）とを比較する時、我々には明瞭な對蹠的なものとして「構成的な平面」と「展開的な平面」とを把みとることが出來る。聖ペテロの寺院の平面はいちゞるしい幾何學性を所有する希臘十字のミケランヂエロの平面は云ふに及ばず全體をラテン十字にしたマデルナの長堂も亦ミケランヂエロ平面から構成的に發展する。ベルニニの翼廊も亦その全體に對して効果的に作用するバロツコ的裝飾として完全なる構成的な因子を所有する。

これに對して桂の新書院古書院、或は二條離宮その他幾つかの書院造に於て、（第9圖）その平面の特質は展開性にあつた。一つの部屋が次の部屋に連接するその關係はお互の間に於ては密であつて全體との聯關は稀薄である。殆ど線的に連がつた、乃ち展開的な平面がそれ自身として全體を形作る。からみ合つた全體でなくお互に手をつないだ斷片である。

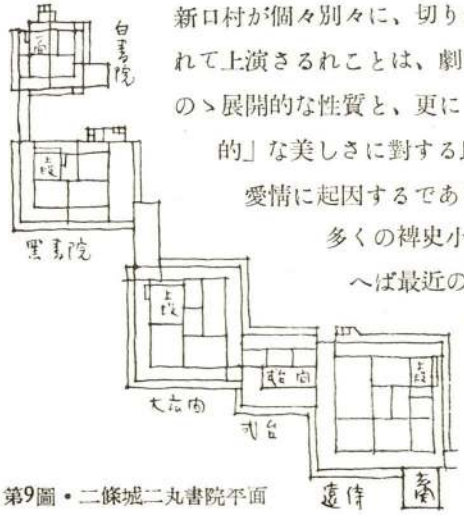
私が住宅と聖ペテロ本寺の様な伽籃と比べた事が不可であれば西歐の住宅として盛期復興期のあのパラデイオの Rotonda（第10圖）を想起して頂きたい。



第8圖・聖ペテロ伽藍平面

日本の宗教建築は支那的な影響が濃い故に必ずしも良い例を提供しないけれども、あの豐麗な日光の東照宮すらその殿舍の配置に於ては著しく展開的である。我々はこの意味で最も特色ある繪畵藝術として繪卷物を例示することが出來る。こうした型式は全く我國に於ける獨特の型式であつた西歐に於ける宗教的な說話的な內容を持つ繪畵はフレスコとして完結された構圖を以て描かれたのに對して我々は全く展開的な型式をもつ繪卷物を以てしたのであつた。

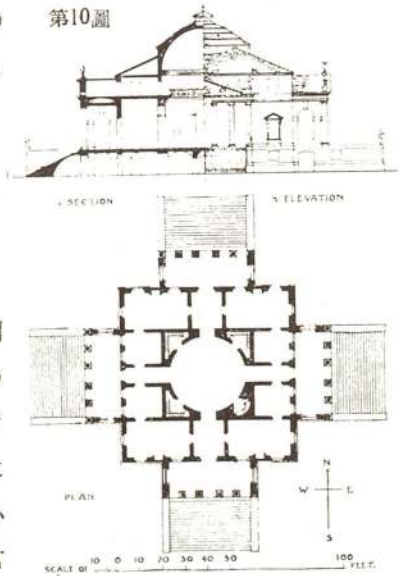
小說や戲曲に於ても日本のそれが常に展開的であつた。源氏物語は展開的な叙事詩の最初のものであり、江戸時代の長い小說、例へば里見八犬傳の如き要するに長い物語にすぎない。その筋は只連つて行くに過ぎないのであつて、そこには決して「神曲」や「ファウスト」の如き構成を見ることは出來ないのである。あんなに我々の父祖以來愛せられた忠臣藏の芝居にしろ、そこには劇的な構成は極めて稀薄であつて、一つの連關のあるいくつかの場面に過ぎない。その證據には殆どそれは全場面を演ぜられることなく一二の場面が充分の完成を以てそれだけで演ぜられて居るのである。しばしば沙翁にさへ比べられる大近松のものにしろ、長い淨るりの中のほんの一二の場面、例へば河庄と紙治內、封印切と新口村が個々別々に、切りはなされて上演さるれことは、劇そのものゝ展開的な性質と、更に「斷片的」な美しさに對する民族の愛情に起因するであらう。



第9圖・二條城二丸書院平面

多くの稗史小說、例へば最近の大衆の喝采を拍した夕刊小說「宮本武藏」にしても、それは一つの展開的な物

第10圖





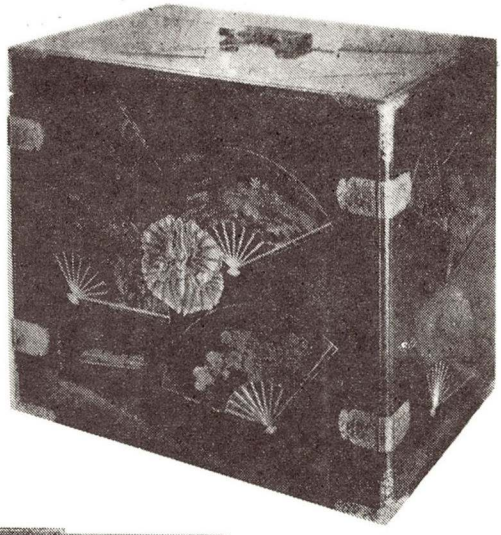
第11圖・英吉利近代銀製骨壺

語りであつた。デイケンスやデユーマの通俗小說の構成的な筋とは全然別個の素質のものであつた。こちらから向ふを見ればすべてはあくどくからみ合つた「組立て」であり、向ふからこちらを見るならばそれはまことにあまりにもたよりない「流れ」であらう。

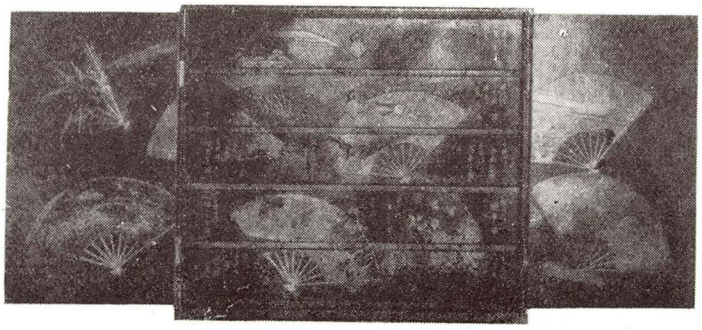
こうした展開的なものゝ文學に於ける著しい現れを我々は江戸時代に於ける連歌に見る。それは一貫した內容のない展開し行く種々の變化ある詩境が多くの共作者によつて樂まれた全く特異の詩形式であつた。

我々はこうした展開的なものを我國の江戸時代に於ける庭園に見るであらう。例へばあの有名な桂離宮を見よ、或は修學院離宮のそれを。それは英吉利風の自然庭園ではなくて寧ろ甚しい技巧的な展開庭園であつた。一步每に趣の移り行く繪畵化された自然的なものと人間的なものゝ連鎖である。それは一つの連歌的な味をさへ我々に感ぜしめる。

第11圖と第12圖には二つの東西の工藝品の例が提示せられる。裝飾の全體の形

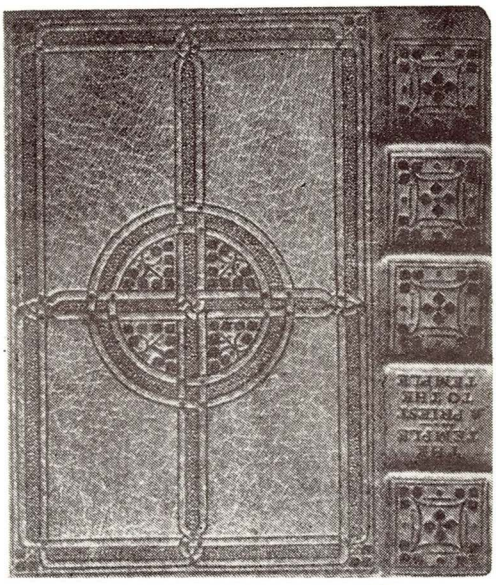


第12圖・羊遊齋作
高蒔繪扇面散



同上・東京男爵武井守正氏藏・桑銀金具印籠簞笥

に嚴密に連關した法則的な全體的構成と、全體の形の上に極めて無關心に、自由に展開された裝飾を、鮮な對比を以て例示する。



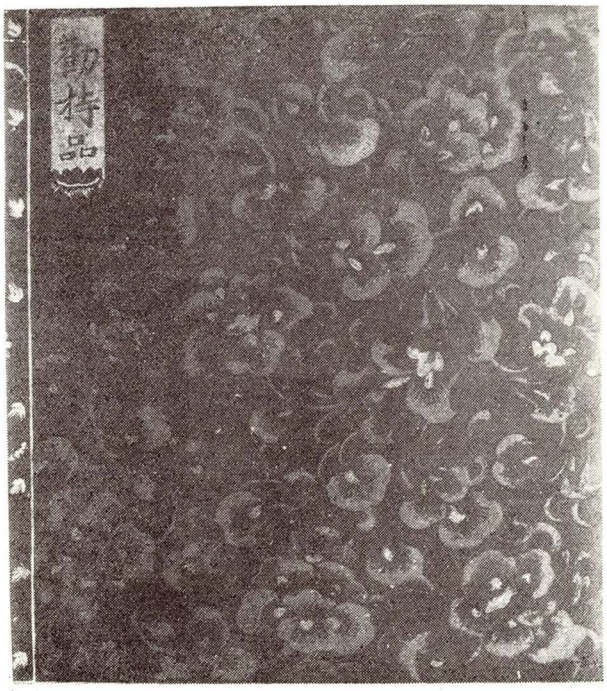
第13圖・英吉利近代書物裝幀

★

完結したものと斷片的なもの

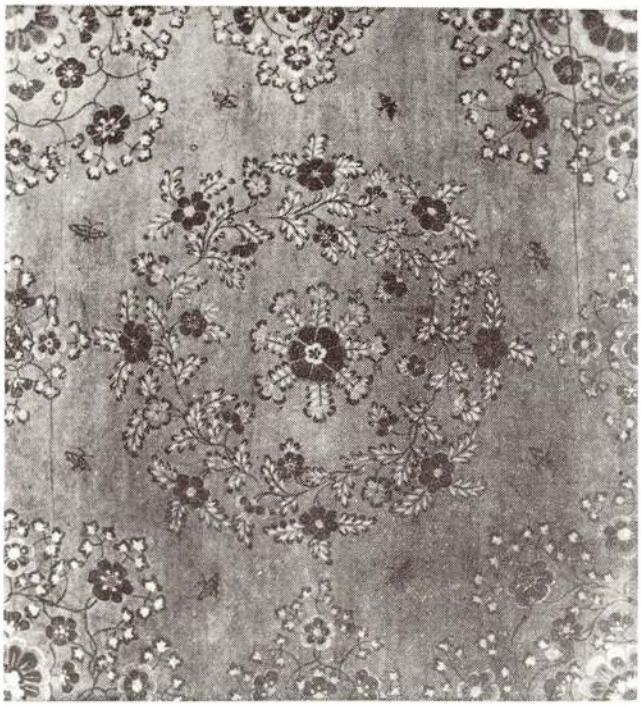
西歐の藝術の表さうとしたものは常に「完結したもの」であつた。それだけを周圍から切りはなして眺め得る完成されたものとして形作られた所の物であつた。日本の藝術は「斷片的なもの」であつた。それは周圍と結合した最も幽玄な形に於て、乃ち非常にあいまいであり乍ら密接に結合した形に於て、乃ちその周圍を想起しつゝ斷片としての鑑賞に委される。我々はゴシツクの寺院を模型として机の上に於てすら美しい形を味はふことが出來る。しかし日本の建築は、例へば桂の離宮をその周圍との相關なくして味ひ得やうか。茶室の竹の窓や木賊の天井は、露しげき樹陰との相關に於て、乃ち全體の一つの斷片としてのみ味ひ得るのである。

第14圖・平安時代法華經表紙文樣



こうし特質は裝飾文樣にいちゞるしい。西洋のものは隅から隅までを一つの完結された形式で構成する。そこでは日本の文樣の様なほしいまゝな斷ち切りは感情的にもゆるされない。それに對して我々は、扉面散らし、片輪車と云ふ様なその構成に於て又そのエレメントに於て斷片的な印象をあたへるものが極めて愛好せられたのである。

第13圖と第14圖は共に書物の表紙圖案を示すものである



第15圖・正倉院御物獻物箱蓋文様

西歐的「完結」と、日本的「斷片」がこゝに示される勸持品の表紙の寶相花唐草は、第六圖のそれの様に、自由な手法を以て描かれ、斷ち切られた矩形の外へ、無限につながりを持つ。それは法則をこへて描かれた自由に展開したものゝ一斷片であると云ふ印象をあたへる。勿論我々は中亞の影響の下にあつた天平期に於ては裝飾文様に於てはるかに西歐的であつた。第15圖はこれを示す。法則的な文様構成と、完結がそこには存在する。この矩形面の裝飾にあらはれる根本のモテイーフは西歐を支配した法則であつて、西歐や近東に於ける多くの美しい例を想起することが出來る。しかしこゝで注意しなければならないことは四隅の文様が對稱的な純天平的な或は唐的なものであるのに比して、中央の、巴文様的配置の花文が寧ろ平安時代風の日本的なものであつて後代の日本文様の發展を暗示することである

日本の詩に於ける斷片性は殊に著しい。短歌は、もともと叙事詩である長歌の、最後の一聯であつた。俳句はもともと連歌の發句であつた。かくの如く「斷片」が一つの藝術を構成する。西洋の詩ではその最も短い形式 Sonett すら立派に完結された四行詩、支那の絶句に比すべき構成をもつて居るのである。

西歐の同時代の文學が「完結された形式」の優れた多くのものを殘して居るに對して、西鶴の諸作例へば「萬づの文反古」の如きは世界が有する最も優れた、文學の「斷片的なもの」として數へることが出來るであらう。この時代の文學、特に端唄や歌澤の詞章から一貫した內容を汲み取ることは困難であつて、內容的にはあいまいに形の上では密接に連ねられた數のかの斷片的な詩句を見るのみである。こう云ふ內容的に「斷片的」な歌はれる詞章の形式は長唄にも珍しくない。又この典型的な「斷片的なもの」を劇に於て我々は歌舞伎十八番に見出すのである。一つの日本藝術の特異性がそこでは端的に示される。

★

かくの如くして西洋藝術は「法則に隨つて構成せられた完結したもの」であつた。之に

反して日本の藝術は「法則を超えて展開された斷片的なもの」であつた。簡單な言葉を以て抽象的に定義することは殊に事藝術に關しては危險きはまる事である。併しこの性質は二つの藝術を性格づけるものであることは否み難い。西洋藝術の歩いた路は王師の軍をも進むべき坦々たる大道であつた。日本の藝術の歩んだ路は世捨人の好んで歩む樹下陰の趣深き小徑であつた。西歐人の持つ自然とたゝかふ人間的意慾が激情的に壓倒的にその藝術には表現せられ、東洋人の持つ自然の中にとけ込まうとする感情が日本の藝術には表はされる。こゝには全くの異質がある。頃日京都の美術館で富田溪仙の遺作展と獨逸の素描展を同時に見た。日本の畵家が描く自然は歪められ西歐の畵家の描く自然は遙に寫實的である。しかしこれを以て彼等が自然に近いと考へてはならない。彼等が描いた自然はそのけはしい寫實を以て人間と全く異質なものとしての自然であつた。又人間が描かれる場合には自然とけはしく對立する人間であつた。日本の畵家の描く自然と人間とは、寫實の法則をこえて、共に呼吸し共に生活する友達として人間と自然が描かれて居るのである。西歐の素描は重にそれは畵の部分的習作であらう。我國のそれは素描的な繪畵がそれ自身で完成して鑑賞に委せられる。そしてしかも我々が最も心に近く感ずるものは又この小品であつた。

西歐の巨大形式と我國の矮小形式はすべての藝術分野に於て對立し來つた。文學に於て美術に於て又建築に於て。

建築に於ける美しき數寄屋茶室工藝彫刻に於ける根付や刀鐔の藝術、Miniature的繪畵の隆盛、盆栽や盆石、箱庭の愛好、文學に於けるコント的作品並びに短歌や俳句の短詩形の隆盛等。

我々はこゝで鎌倉時代に大陸から移入せられた天竺樣と唐樣とを想起しやう。唐樣は寧ろ裝飾化された形式であつた故に長く我國の後代と影響を持ち又一方では工藝化された。しかるに疑ひもない「巨大構造樣式」である天竺樣は僅かに東大寺の南大門にその樣式とこの意圖を止むるのみであつて夙に消滅してしまつたのである。それが「巨大形式」である故に。

かくの如くして我國の建築工匠の關心は多く細部的仕口の洗練に向けられ、構造的發展は殆ど見られなかつた。ある點では構造的な退歩すら示される。我國の工匠が簡單な眞束小屋一つ組まない間に、西歐では暗黑時代と云はれる中世に於て、石工統領はあんなに美しい力學的な穹窿を石を以て空に組み上げ、又木造構架も、我々の現在のStaticsの力の及ばぬ程の發展を示したのであつた。

私の建築の日本的なるものに對する解析はこれで一應完了する。これは過去に屬する事である。將來いかなるものへ發展し行くべきか、これは我々が現實に行ふべきことであらう。只强ひて私の考へを云へば西歐人のあのはげしい人間的意慾こそまづ我々の學びとるべきものではなからうか。大きく組み立てゝ行く意志の力をすべての文化の分野に!!! 私達の周圍には小さな美しいものはも早滿ちあふれて居るのである。

建築に於ける日本的性格

香野雄吉

1

建築に於ける「日本的性格」と云ふ、今私に與へられた課題は、一見わかり切つた、簡單自明の問題のやうに見へて、事實はかへつて、いろいろの立場からのいろいろの問題を含んでゐて今日速急にこれに答へやうとすることには多くの困難を感じないではゐられない。勿論、唯、單に日本建築の歴史的な傳統と、普通に云はれてゐる日本人の性格とを並列的に結びつけ關係づけるだけの事ですますのならば、仕事は樂で、そしてその答へもまた、所謂「概論」的な簡單明瞭な公式として與へられるであらう、——しかし、吾々は今「日本建築案內書」を求めてゐるわけではないのであるから、こゝで一應尤もらしい表面的な「關係づけ」をするよりは、現代の日本建築の發展のための廣い見取圖（パースペツテイフ）を規準として、眞の問題の中心點を探し、それに附生する疑問を追及して行く爲めに、出來るだけの資料を集め、或は出來るならば、そのために、いくつかの下圖（デツサン）を描いて見ることが必要なのではないかと思はれる。それ故に問題の多くは當然今後に未解決のまゝ殘されるであらうし、眞の科學的態度をもつた研究家が一人でも多く動員されることを望まなくてはならぬと思はれる。その爲めには、今後尚、いろいろな機會と試みとが、くり返へされることが必要であるのは、云ふまでもないであらう。

2

「日本的なもの」或は、諸文化の「日本的性格」と云ふことは、今日すでに各方面に於いて論義されてゐる。或は「國際列車が敷かれてそれに乘つて日本を旅行すると云ふ時になつてゐ……」「ヨーロツパの知性で日本を見る……」（横光利一）ことが必要であるからであり、「現在の文化的行づまり（公式の隷從）から自己を解放し、一旦失はれた傳統を回復しやうとする衝動」としての「日本主義の要求」であると云はれてゐる。しかし、吾々が日本人である限り、吾々の文化が、「日本的」であり、「日本的性格」をもつてゐることは云ふまでもないことである。そして、それにもかゝはらず「日本的」や「日本的性格」が吾々の建築についても、問題とされるやうになつたのは、おそらく、當面の我が國の（政治的、經濟的）特殊事情からの要求にもよるだらうが、また一方、ある意味に於いては、今日（否今後とも絶えず）吾々の確固たる立場についての必要な反省をうながされてゐることを意味してゐることを忘れてはならぬと思ふ。云ひかへると、この「日本的」

と云ふ言葉、はある人々に取つては、意識的であると否とにかゝはらず、政策的——教化的な意味に用ひられ、またさう理解されてゐるが、實はそれと反對にほんとうの吾々の立つてゐる地盤であり、またその立ち方（即ち「日本的」）でもあるのだから、吾々も一つの現實的な、科學的な課題として考へなくてはならぬ。傳統と云ふものは、吾々に押しつけられるべきものでなく、傳統的精神と云ふものが吾々自身の眼を現實から眼かくしゝ、吾々の世界的視野をさへぎる方面に利用されることを（少くとも、さう云ふ結果に陷ることを）警戒しなくてはなるまい。

3

建築に於ける「日本的性格」と云ふものは、たしかにある。それを（しかも、特にその優秀な點については）現在遺されてゐる、多くの勝れた日本建築に、見ることが出來るのは云ふまでもない。その優秀性は今後の研究によつて、もつと深く、もつと正しく理解されるやうになるであらう。云ひかへると、建築に於ける「日本的性格」と云ふよりは、より正しく、たゞ「日本建築」（その優秀性）として、取り上げられるやうになるであらうし、また出來るだけさう云ふ方向に努力しなくてはなるまい。一體、「性格」と云ふ言葉は、普通、自然乃至社會的環境の中に於かれた、個體の機能活動の、精神的、情意的活動の一つ面を表はす爲に用ひられて、主として環境との關係によつて表はれると見られてゐる。〔「この環境」と云ふ言葉が、新しい精神科學として、登場して來た政治地理——「風土學」の一つの基本的な問題であることは注意すべきである〕。そして、この「性格」は、素質とか氣稟とか云ふ先天的なものと結びつけられて居り、また、事實非反省的な、ある時には盲目・衝動的な、反應と云ふやうな形で表はれる場合が多い。「日本的性格」と云ふ言葉による類推的な考へ方が、非反省的（即非科學的）な、結論を引き出し安い傾向をもつことを、おそれなくてはならぬと思はれる。（「性格」と云ふものゝ、より深い科學的研明と云ふことの必要は、また別の問題であり、この事がより明かになれば、吾々はもつと特殊な傳統と云ふものゝ一面をも、科學的に解釋することが出來るやうになるであらう）

上述のやうな考慮をもつて、日本建築の優れた「性格」を考へることは、今日大いに必要なことでもある。日本建築の優れた傳統と云ふものを考へることであり。簡單に云へば西歐の建築が多くその規模と裝飾と云ふ方面での華かさを見せてゐる時、吾々にはもつと自然な素朴な、鍛練された建築作品が遺されてゐる。と考へられる。そして、その優れた作品が、多く住宅に、少くとも住宅に近いものに發見されることも、興味の深い事實である。素朴であり、單純であると云ふことは、自然の秩序を尊重すると云ふ意味で、また感動と法則との一致と云ふ意味で、普通云はれてゐるやうに、「古典的」であると云ふことが出來るであらう。たとへばすでに、建築家ブルー・タウトが、古代建築（外宮）、茶室

（桂離宮）農民建築（民家）の日本の古典的な建築に、國際的な價値をもつ創造を發見しそれらの最良の要素が、眞に教養ある歐米の近代的な住宅とまさに一致することを發見し且そのことを、現代の建築家に警告したことは、すでに廣く知られてゐるところである。

4

日本の古典的な建築が、現代の建築家に、その建築的單純性と國際的共感とに於いてかくも力强く働きかける力をもつことは、勿論直接には、その建築樣式意匠の力强さと高さと、とによるものである。建築意匠の力强さ、調子の高さは、どこから來るのであらうか日本の名匠たちの形をとらへる感覺のデリカシー、その的確さ、から生れる。しかし、さうだとすればその感覺の的確さは何に由來してゐるか。生活の鍛練と創作の鍛練。——このことは、建築家にとつては、時代のほんとの社會的生活の中にあつて、建築の目的、材料、構造を正しく把むことの努力を意味する他はない。そして、この鍛練の上に立つならば、おそらく個々の建築の細部に至るまでの（今日吾々に働きかける力强い）意匠効果と云ふものをも計量することが出來るのであらうと思はれる。

これこそ日本の古典建築が今尙、その意匠精神に於いて、吾々に呼びかける最も根强い根據である。そして、「自然」（と現實）が、細部的に加工され失はれることなく、反對に端的に、素直に生かされるやうにとの心構へが、その意匠精神を貫いてゐたやうに思はれる。それ故、たとへば特に茶室の建築に、土地を相し、建物と一體になつた自然（庭）が取り入れられ、丸太が用ひられ、更にその木膚が愛されるのである。今ある一つの課題をどんなやり方で解決するか、と云ふところに「性格」と云ふものが表はれると考へてよいなら、この意匠精神を「建築の日本的性格」と云つてよいと思はれる。

この意匠精神（農民建築に於いては、もつと直接に、地方的生活と生產に結びついてゐるだけに、土地とか氣候に對する方面の正しい建築工藝的解決を示してゐるのを多く見受けるのであるが）そこに遺された作品をたゞ「日本建築の性格的」なものゝ表はれとして見受けとるのでなく、これらのたくましい意匠精神（意匠の態度と方法）が、如何にして、生み出されたか、をその歷史的時代とともに理解しなくてはならぬ。このやうに考へるとこの意匠精神が、ある長い眠つてゐた期間の後に、今、現代の建築家に働きかけてゐる意味を、充分に評價出來ると思ふ。さうなると、もはや「日本的性格」と云ふ誤解の多い言葉よりも、もつと積極的な「日本古典建築の科學性」とか、「日本建築の進步性」とか云ふ言葉を用ひるべきであると云ふことが了解されよう。一つの國民的性格と云ふやうな雰圍氣の中に安住するか、或は、一つの常に新しい座右寶と（日本建築の日本的性格！）とするか。この點にこそ、この「日本的建築の性格」が、尙吾々の時代に生きてゐるか否かを明かにする鍵があると思はれるのである。私は、この事を「國際的建築へ」の方向から取上げたことがある。

5

〔こゝに、私の小著「現代住宅建築論」(昭和五年)からの大略の引用を許していたゞきたい〕

——一般に工業（科學的）生産の基礎であるところの、生産品に於ける職能の分化と、それに基いて生産品の設計、及びその部分品の標準化單一化が、また現代建築事業の一つの基礎的な計劃となる。——このことは現に現代建築の歷史がこれを示してゐる。——科學的容觀的諸條件（要求）が等しければ、その條件に適應する職能設計（構造、衛生設備、機械設備）や特に部分品（スチール、サツシユ、規格化された扉、實用家具）は充分國際化される。

日本の木造家屋は今日ではすでに、ある意味で一應は完成されたもので、一つの型をもつてゐると考へてよい。吾々は、この型の中に現代の國際的立場から尙多くの學ぶべきものを見出すのである。便宜上主なるものを箇條書にしてみると

1．建築材料としての木材の充分な利用——木材のミニマム・サイズの考察荷重材（柱梁）と被覆材（壁、屋根）との職能の分化（これは乾式構造の基礎でもある）

2．規格の採用——平面計劃での1間を單位とするスケールの採用、それに基く、建具その他の部分の規格化——市場品の利用（これは建築の工業化の前提條件である）

3．歐米の閉ざされた固定した部屋に對して、自由な間仕切（障子、襖）による住宅プランの融通性

4．それぞれの部屋の家具化——日本では押入、棚などは現在却つて形式になつてゐるが——と云ふ問題に一步を進めてゐること。歐米の住宅では、家具を備へつけて、始めて一つの完全な部屋となる。（このことは、正しく考へられるならば、部屋の生活內容を計算してプランを定めることの第一步として、今までのたゞ廣さをもつ部屋、或は極端に云へば家具の置場としての部屋の考へを打ち破る）

——尙、さらにもつと、取上げるならば、自然（室外）と室內との融通性ある連關（廣椽）。採光通風のための廣い開口（窓、ランマ）を持つた開放的な構造。その他を擧げることが出來るであらう。これらの點を建築の「日本的性格」と云ふ言葉で。現はすとすれば、そして特に、擬人的な語彙を用ひるとすれば、それは日本建築の單純、誠實、正直、率直と云つた「性格」の現はれであると云つてもよいであらう。それらは、明瞭に、煩瑣虛飾、虛僞、技巧などに對立するものであり、賀茂眞淵が「その心多(さわ)なりとも、直くひたぶるなるものは詞多からず」と云つたのと同一の「日本的」精神であると云ふことが出來やう。

6

問題の方向さへ明かになれば言葉はいろいろに云ひ變へて見てもよいかもしれぬ。自然

（土地氣候）に對する正直と誠實、材料に對する率直さ、構造についての、必要に從ふ單純さ．そしてその目的についての（材料をもつて、共に解決してゆかうとする）親切さ、それらのものをもつて吾々の古典的な建築家達はあの、輝かしい作品を吾々に遺したのである。くりかへして云へば、自然及び生活に對して、率直で．正直で、親切であることは藝術家の態度であると共に、みな眞の科學者の姿でもあるであらう。

更に、問題を進めやう。歷史は、古代から現代まで、さまざまな、人間の社會的生活の變遷と「住ひ」を含めての建築文化の變遷とを吾々に傳へてゐる。

その中に吾々が輝かしい古典建築として見出すものが、何故、特にあれとこれとのある限られたの時代の、限られた建築物であるのか。こゝで、吾々は建築の職能についての、時代によつて異る要求（これは時代の社會と生活自體から導かれる）による、それぞれの時代の建築について考へなくてはならぬ。たとへば古典建築の一つの例として考へられる茶室建築の場合には、すでに、一種の生活の規範である茶道と云ふものが起り、或は茶室と結ばれて共に發達したことが（茶道が作家の人格の鍛練として作用したことも勿論であるが）この間の事情を明かしてゐるものではないかと思ふ。茶道では、普通形式や規矩に依つてその道に次第に入る樣になされ、やがて、その眞髓を體得されるやうになつてゐる方則と思想精神があつた。（そこには、新興町人階級の進步的精神の積極的な方面から導入されたものが多かつたらうし、その時代の一つの支配的精神——禪の物身的鍛練の精神にも負ふところが少くなかつたであらう）荒廢と無規律と云ふものからは何ものも生れない。この生活の統一、組織化、それに基いての絶へざる問題の提出から、吾々の古典建築の一つの輝かしい時代は生まれたのである。——これに對して、現代に於いては、建築家に進步的な積極性を與へるものは、「生活」の內容の科學的な反省、自然（材料、構造）の學問的な研究であり住居問題、都市計劃を含めてのあらゆる建築問題の提出であることは、云ふまでもないことであらう。かのブルー・タウトが日本の建築的傳統について記した後に「眞に近代的（モダアン）なるものは、かの古き巨匠の傑作と正に同じ原則に立つものである。それらの巨匠は彼等の時代には極めて近代的（モダアン）であつたのだ。日本が一の傳統——傳統よりして一直線的方向において近代的藝術が發展せしめらるべきが如き一の傳統を有して居ることは、日本の不幸ではなくて日本の幸福であるべき筈だ」と述べてゐることも、この意味において理解さるべきであらうと思はれる。

7

今日の正しい日本の建築家の任務（日本的建築の正統な後繼者としての）が要するに、眞の意味での日本の住居建築の科學の建設にあり、その具體的な課題を（建築作品によつて）具體的に解決することにあるのは、すでに記したところで明かであらう。現に、この國の若い建築家たちの中には、出來る限りの問題を科學的に提起し、それを出來るだけ科

學的に解決しやうとする試みが起つて居り、その運動の上に、或はすでに述べた日本の古典建築と比較し得るやうな作品が生れつゝあることは、大へん喜ばしい事實である。こゝに新しい日本建築の旗はかゝげられたと云つてよい。しかし、それらの若い建築家が、眞に科學に誠實であり、眞に日本「建築」に親切であるならば、それらの人々の眼は、日本の現在の建築、住居の現實、その低い水準に眼を向けざるを得ないであらう。半バラツクの多くの都市及び農村の「日本的建築」半ば强制された餘儀なくされてゐる、それらの「侘び」しい「日本的」生活——住居の狀態が、解決される爲の、共同の努力を惜しむことはしないであらう。この住居水準こそは、日本資本主義機構の「日本的性格」と云ふべきものゝ一つの現はれであるが——そして、現代の日本建築に於ける「日本的性格」と云ふもの（その旗じるしではなく）の具體的な姿は、むしろ、この方面にあると云つてよいのであるから。

〔附言、私に與へられた建築の「日本的性格と云ふ課題は、餘り複雜な內容をもつてゐ、從つて、それに對へて私の書いたこの小文は、あまり抽象的であつたことを遺憾に思つてゐる。出來れば私は、たとへば、古典建築等についても利休が「釜一つ持てば茶の湯はなるものをよろずの道具好むはかなさ」と云ひ、また事實、茶道に於いて精神的なものを指導原理としてゐる一方で、規矩、方式、寸法など非常に形式的なものを嚴に守つてゐるやうに見へると云へると云ふこと、そこから茶室建築と云ふ、一つの洗練された作品の形式が創造されたこと（建築の材料を手近に卑近なところに求め、一方、その取扱ひ方、技術によつて高い調子の緊迫した作品を生んでゐること）のより具體的な考察などにも書き及びたいと思ひつゝも、それを果せなかつた。之とは正に反對に建築の科學が何よりも要求され何らかの規矩が必要とされてゐる今日の吾が建築界に「日本的性格」が、しばしば問題とされる事情も大いに興味のあることであらうと思ふ。

尙、この小文に述べ足りなかつた多々の點については、他日を期したいが、谷口吉郎氏の「化膿した建築意匠」（「科學ペン」11年12月號）の一讀をおすゝめしておきたいと思ふ。

問　題　の　所　在

城　戸　久

1

「建築に於ける日本的なもの」と言ふ様な論はかつて數年前各種の懸賞競技に日本的又は東洋的と云ふ條件が與へられた際既に充分に論議つくされたことの様に思へる。筆者もその際本誌上に於て德川美術館を俎上に上げて少しく私見を述べたことを覺えて居る。以來數年の年月は流れて時代は兎角一の方向に進んで來た。だから中には建築の本質よりして日本の建築の進路に對して正しい認識を充分に所持して居るのではないかと言ふことを寡見寡聞な筆者も個々の作品に依つて教へられて來た。

あゝ、それなのに巴里の萬國博日本館の問題を契機として再び同様の問題が繰返へされなければならないとは。——萬國博日本館の問題に就ては中央を離れた筆者の知るべき由もなく、又學會を中心として開かれた座談會及びそれに對するあれやこれやの批判も僅かに雜誌を通じて知るのみの認識の不足さである。然しながら問題は一日本館に限らないからこの機會に少しく筆者の心境を雜然と述べて見ようと思ふ。

2

日本の建築界は既に立派に成人して居る。構造法も材料も獨自のもので充分に事足りるばかりでなく、計畫者も施工者も皆日本人であり、且要求される諸條件は日本と云ふ地球上の一定位置にある國に基礎を置いて居る。從つて建築されたものは當然日本の建築にならなければならぬ筈である。然るに「日本的建築」とか言ふのは他に特殊の神秘的なものが存在するかの如く見えて甚だ矛盾を多く含んで居るが、人は敢えて奇とせない様に思へる。結局この言葉は所謂西洋の歷史的樣式を基準とした建築を是認しての對立的な言葉として受取るより外に理解は出來ない。

一國の經濟的文化的水準が低い場合はそれより高い諸國の發展過程をたどつて往くのは當然のことである。過去に於ける樣式的建築の多くもかゝる意味に於て理解することは出來るが、今や日本は經濟的に文化的に立派に成人したばかりでなく、諸技術に於て既に先進諸國を凌駕せるものがある。「神風號」は東京ロンドン間の新記錄を樹立した。かゝる際に建築ばかりは過去の西洋歷史的樣式を踏襲する必要は少しもなく、既に多くのこれ等のものは姿を消さなければならぬ運命に立到つて居る。最早この種の建築は議論の上から抹殺されるべきである。

かくて「日本的建築」或ひは「現代建築に於ける日本的性格」と言ふ言葉があるならば問題は過去の木造日本建築の細部手法を今日の鐵とコンクリーとの建築に應用すると云ふ建築の全面に比して甚だ限られた狹少の範圍に押込められた問題となつてしまふ。

3

今日の建築を社會的な意味から分類するならば少くも四個の大範圍を認めることが出來る。第一に擧げねばならぬのは數的には他に比ぶべくもない茫大な農民、勞働者勤勞者群の住居でなければならない。第二はあらゆる物質の生產及びそれの運輸に直接にたづさわつて居る工場倉庫橋梁の類である。第三には直接には生產に役立つて居ないが、技術の方面、組織の上から働きかけて居る實用建築の一群である。停車場、銀行、圖書館、學校等がこの中に包含される。最後のものは一般に代表的建築と言はれる寺院、劇場、料亭、行政上の建物、更に一部の住宅が這入る建築である。これ等の四群は各社會的意味に於ても同時に歷史的意味からも各相違して居ることは一見して知られる。過去の建築觀から言へば、第一の農民建築の類、第二の工場建築の類は建築と云ふ概念の下には包含されなかつたのである。然るに今日では農民建築も諸官廳の建築も同樣の對稱となり得るのであつて同時に研究されるべき價値を有して居ることは誰れしも認められる。又最近數年間の日本の建築業界が各種の生產工業にたづさわる建築に依つて如何に活潑に活動して居るかを見れば、第二の直接生產に結ばれて居るものが、建築に於ける最も重要な位置を劃して居ることをも知られる。

言ふ處の日本的性格が、はたしてこれ等の建築に如何に在り得るであらうか。試みに農民建築の場合に就て見る。歷史的な發展過程に於て日本民族と常に併行して成長し一の異國的分子の混入もなく、なほ時代の動きを今日冷靜に受け入れて居る。紙障子は硝子戶に取換へられ、屋根は亞鉛鍍金板を有效に利用しやうとして居る。人は神經質的に農民建築の硝子戶や亞鉛鍍金板を氣にするかも知れないが、この種の建築を骨董視する處の觀念からであつて、寧ろこれ等の中にリアリステイツクに默々と時代と共に動きつゝあるものを見ることが出來る。既に西洋的もなければ日本的もない。只あるものは、日本そのものである。

更に直接生產に結ばれて居る建築群を取擧げて見る。日本の經濟機構の中に基礎を置いて、氣候風土の條件の下に各種生產の道程に適應すべく一筋に計畫されゝば、構造が鐵とコンクリートであらうが、形體が如何なるものであらうが問題とならない。只あるものは最も進步的な現代日本建築の一の型そのものである。

今日數的にも質的にも日本建築の主要部分を構成する建築に於ては最早西洋的も日本的もなく、ひたすらに正道に向つて進行して居ることを知る。然るに何故再び建築に於ける日本的性格と云つた事を問題としなければならないのか。殘つて居るのは第三第四の建築



（姫路城天守所見・筆者撮影）持送りと言へば斗拱だけが考へられて居るが、かく素直に解決したものがある。如何でせう。

群に就てゝある。

4

歴史的に觀ても第三の一群は餘りに進歩的でなく、第四のグループは最も保守的な傳統を保たそとする。然るに一個の建築物が出現するには、日本の文化的經濟的機構の下に基礎を置く何等かの目的があり、更に適應すべく氣候地質的諸條件を克服して、今日の技術に依らねばならぬのは理の當然である。如何なる建築物も各の内容を持つて居るから、問題は形體に内容を如何に表現するかに期する。然しこの種建築群の内容は複雑性の爲に生産建築と見るが如き科學的根據が薄弱なるばかりでなく、發生が近代に初るものでおるから農民建築に於ける如き長年月の自然陶汰に依り殘存した純粹型をも持たない。爲に内容表現の手段として西洋歴史的樣式が唯一の武器として採用されて來た。だが最早傳統を尊ぶ建築群に於てもこれは何等の意義をも有しない。依つて問題とならねばならぬ過去の木造日本建築の細部手法を手段とする方法が案出された。

だが木造として發達して來た過去日本建築の細部手法を可能であるからと言つて、鐵とコンクリートの建築に折衷することは明に材料と構造の合理性を缺くばかりでなく、かゝる形體的なデテイルに拘はれること自體は既に西洋歴史的樣式を持來らすのと道程に於て何等の相違もなく、多くの矛盾を包含して居る。過去日本建築を現代に採り擧げ得るのはこれ等の建築が形成せられたあらゆる道程に横はる諸條件に對する適應性である。

遮莫、今日の建築家は切實にこの種建築の内容を具體化すべき何等かの手段方法が課せられて居る。結局、かゝる問題が檢討せられねばならないのは内容に就ての科學的解折の貧困、即ち建築學の、建築術の貧困に期する。科學的技術的な解折が完全に行はれるならば、恐らく日本の、或る目的を有する、建築の内容に適應した眞正の建築が具體化せられる。結果は如何なる形體を採らうが最早問題でないのは生産建築の形體が如何に過去の日本建築のそれと遠いか近いが問題とならないと同樣である。

5

第三第四の建築群の內容の科學的解拆も着々と進行するであらう。又既に過去日本建築解拆に依つて地理的氣候の條件に關しては窓の開放的な問題、突出せる軒出の問題に就ては充分に知られて居るし、更に材料と構造の合理性、目的に對する形體の適應性等も充分に諸先學に依つて發見せられて居るので弱冠の筆者が一々を擧げる必要もない。只この點に關して一枚の寫眞のみを提供して見たいと思ふ。

以上に於て筆者は「日本的建築」又は「建築に於ける日本的性格」と言ふ如き言葉が擧げられなければならぬのは、今日の建築を數的に特質づけて居るものに於てゞはなくて、歷史的に常に傳統を保守しつゝ發展して來た限られた建築の一群に於てのみの問題であることを指摘し、今日の建築家の研究解決に俟たねばならぬ、より切實な問題が他に多數殘されて居ることを附加したいと考へる。(昭和12.5.22)

我國都市及び建築に於ける傳統

川勝健二

1

近頃我國の論壇に於て、「日本的なもの」への詮索が各方面に賑つてゐる様である、試みにこれに關した論稿を巷間雜誌から拾つてみれば恐らく數十稿に止らないであらう、正に之れは日本主義復興時代の感がある、けれ共之れを仔細に觀察してみると、必ずしも既往の日本主義といふ言葉が之れ等を概括するに適當でない事に氣付くのである。

曾ての日本主義的主張は、それの對立物として存在した、國際主義乃至客觀主義に對する、云はゞ排他的なものでしかなかつた様であるが、最近に於て「日本的」として取上げられてゐるものは必ずしもそうではない様である、そしてその取上げられてゐる方面もイデオロギツシユなものに限定されず、藝術に於けるもの、政治に於けるもの、思想に於けるものは云ふに及ばず「科學の日本性」「知性に於ける日本的なもの」等が取上げられて居る、その中に獨り建築に付いては、長谷川氏が讀賣新聞の評論「日本人の多元性」の中で稍々詳細に取扱はれてゐる位のものであらう、斯う云ふことも亦日本的なのであらうか。

成程我國はその文化的方面に於いては、特に物質文化方面に於ては國際的に非常な立遲れの狀態にあると云へる、話は多少異るかも知れないが、種々な國際的會議、例へば都市計畫會議とか住宅會議に於ける日本の不參加、或は萬國勞働會議に於ける日本の特殊的取扱ひ等は我國の文化的地位をも物語つてゐる様である。けれ共之れに對して何等反對の聲を聞いた事がない。是の事は即ち我國の都市計畫が、住宅が、建築が、諸外國のそれ等と一見してわかる程甚しく相違してゐるからなのであり又その原因なり改善なりに付いて凡そ問題たり得ない程の相違があるからなのであらう。

2

我國の建築とか都市とかの特殊性に付いてよく云はれるものに氣候的地理的條件なるものがある、けれ共之れも妥當なものではない、今各國の氣候表に付いて(冬の氣候に付いて)みると、パリーやロンドンの氣溫は我東京より溫い位だし、濕度は斷然高いのである、勿論之れは平均氣溫と平均氣濕に付いてゞあるから、一方は大陸的であり、我は島國的であると云はれ得る。然し乍ら、今假りに一歩をゆづつて氣候的條件が我國と諸外國との建築なり都市なりの差異を形成する條件として考へてみても、都市とか建築とかは決して植物

的存在ではなく、社會的存在物であり、それ等の發展は當該社會の生產形態に呼應するものであると云ふ事はすでに一つの常識である、とすれば之の社會の生產形態乃至生產條件が氣候條件や人種的條件に對して如何に關係し合ふかと云ふ事は今更說明する事を要しない程生產條件の影響の方が優位的である。しかも自然的條件は殆んど一定であるのに對して生產條件は飛躍的であるから、我國の特殊性の說明としての自然條件的根據は、今日の我國の生產段階に於ては不適當でしかないと云ふことになる．只その中間に立つ人間的（人種的）條件があるが、之れに付いても同樣の事が云はれるであらう、だから都市や建築に付いて之の氣候條件を主要條件として取上る事は只原始社會の場合を除いては全く根據の薄弱なものになるわけである、けれ共それにしても尙且つ今日の都市や建築が、外國のそれと甚しく異つてゐることは事實であるが、それは今日我國の社會事情が甚しく諸外國と異つてゐると云ふ事であらう。そしてその中に過去に於ける歷史的、生產的條件の相違と云ふことも擧げ得られると思ふ。これは今日尙吾々の生活や感情の中に傳統として根强く殘されてゐる所のものである。

3

それで私は今我國の都市乃至建築が如何に特殊であつたかと云ふ傳統的なものに付いて書いてみたい

元來我國は我國の四圍の國々即ち支那、滿洲、朝鮮等と共に、アジア的生產樣式と云ふのを曾つて持つてゐるのであるが、その事は特に我國に特徵的であると云はれてゐる、例へば我古代社會に於ては、ギリシヤやローマにみられる奴隷制を持たず、又支那や朝鮮に於ける如き尨大な家內奴隷をも持たなかつた、このために建築於ても、その勞働量を誇張する量的壯大さを誇る大寺院を持たず、むしろ質的な壯大さ（美しさ）を持つて來てゐるそして此の際往々我國のものとギリシヤのものと比較されるが之れに付いては、長谷川氏によつて指摘された如く矢張りギリシヤの奴隷制が小都市國家的であつた事が我國の隷民制と類似してゐたためであらう、ギリシヤに於ける、アクロポリスがその計畫を完成せずして終つた事と我國の平城京も亦そうであつた事との比較も同時になさるべき興味ある事實ある

そして我國に於てはその隷民制が何ら止揚される事なく次ぎの農奴制へ移行して行つたのであるが、その事のために我國では「市」の發達は極めて不完全で、偶々あつてもそれは單に貴族のための奢侈品の交換でしかない、そのために「市」の發展は拒まれ商人は高利貸的存在として城主や寺院に隷屬する以外に自己の權力を持ち得てゐないから、當然「市」の發展である都市自身も城主又は寺院の支配なしには存在し得ないで各市がその權力者から絕えず干涉されてゐた事や、鎌倉時代既に地域の指定された事（吾妻鏡）も有名な事である、「こうした諸條件の下に於ては只一個の政治的都市が、消費の都市として出現し得るだけである、商業諸都市の發展及び商業の獨立した發展は不可能である」、この事

と並んで自己の手た蓄積すべき何らの餘剰のなき農民や一般大衆は個々の小村落的小天地内に取殘されざるを得ない、これ等の（都市的）事情は我國封建社會を通じて何等變革される所はなかつたので、德川時代に於ても江戸を除いてはこの小島國に 300～ 500の小都市があつたらうと想像されてゐる、「斯く都市の多い事はむしろ經濟的發達の未熟を示すもので、ユヒナーの所謂數里毎に一都市と云ふ經濟段階が尙存在したがためである、換言すれば、交通が未發達で流通が地方的だつた」事に原因すると云はねばならない、それでも都市住民は當時の農民に比すれば可成り惠まれた狀態にあつたのである、地子錢の免除や輕減があり時には賜與がなされたりしたとは云へ、都市への御用金や冥加金や．巨富の沒收、借金の踏倒しは之れを償つて尙幾倍するか想像に難い、これは正に「都市が經濟の力で得たものを、政治の力で取戻した」のである、「死なぬ樣、生きぬ樣に合點」せしめられてゐた農民の例に於ては、普通小作人の收取は17％と云はれて居り、自作農と云へども公課のみでも50％であつたのであるから彼等の生活水準は動物的と云ふより、當時の彼等の土地への緊縛を考へるとむしろ植物的生存だと云ひ得る、所で私は今此處に農村の植物的存在と云ふ言葉を使用したが、これは本文冒頭に於て植物的存在でないと云つたことゝ一見矛盾する樣であるが勿論之れは比喩として相互に相對的に使用したのではあるが只當時の現實は、その言葉がさ程不適當ではない樣な狀態であつたと云ふ事は都市乃至農村の本質的な問題ではなく、むしろ歷史的條件に基くものなのである、もし言葉を代へて云ふならば後者は原始的存在と云つても良いのである。

今日に於ても、大阪府立社會課の調査によれば「村人（農民に非す筆者註 ）の九割は娛樂を知らぬ」狀態なのであるから、當時の農民に於ては尙更である、こんな物質的、精神的（感情的）不當の抑壓の下に餘儀せしめられた農民のおびたゞしき離村によつて膨脹して行つた都市が何らの公共的施設もなく發展して行つたのは不思議な事ではない。

4

「これ等すべての事柄は、日本的密集部落が作られ行く秘密であつた．その形成は室町時代から始つて、德川時代にほゞ完成する」のである

こんな狀態の中で、どうして傲奢な、チユードル、スタイルやバロツコやロコツコ、スタイルが彼等の社會的感情たり得よう、それ等は未來の國、想像の國として佛寧の奥ならいざ知らず、それよりも單純や瀟洒や「わび」や「さび」の精神がかゝる條件の下に探求され、鍛えられたのは自然である、これが、建築に於ける「茶室的精神として發達したのも亦自然である、とは云へ此の茶室的感覺も次第に當時の富者の獨占物となり始めると共に、一つのプライドとして前に述べた質的美の感覺として極致の表現を得るに至つた、この事は又今日の國際的新建築に於ける、ブルジョワ趣味と一脈相通じる點であらう。

けれ共都市は單なる、個人的富者のものでないから．今日まで受繼がれるであらう所の

斯かる我國獨特の傳統的感情は都市構成に對しては極めて緣の薄いものとならざるを得ないと云ふ事は見逃す事の出來ない點であらう

私は以上に依つて我國の都市及び建築に於いて、今日まで受繼がれてゐるであらう所の傳統とそれの基く所の生活感情に付いて觀察してみたつもりである、そしてその際都市に關する限り我國民性は生活感情とは極めて無緣なものとして慣らされて來てゐる事を述べたのであるが之れは今日吾々の大いに考へるべき問題であると思ふ。

以上に於て、私は我國都市並に一般民の經濟狀態に付いて簡單に考察したのである。之れは都市を構成する最も一般的なものが一般都市大衆の生活であると考へたからである。けれ共身分制の嚴然たる封建社會に於て都市住民を一般的に取扱ふ事は不當であるとも云へる。例へば僅かに五萬石の鯖江藩の如きは武士間の階級だけでも53にも及んでゐるのであるから。けれ共斯くピラミツト型に構成されたその最上級の領主と云へども西歐諸國にみられる樣な物質的誇示を民衆の前に表現すべき何らの基礎を有しなかつた。のみならず領主自身、「儉を封內に範れ」（米澤藩）なければならなかつた。之れは何よりも彼等の寄食性と手工業發展の阻止を原因としてゐると云へる。只僅かに之れ等の例外として擧げ得られるものに東照宮がある。かゝる重厚な美を德川家300年を通じて只一度しか表現する事を得なかつたと云ふ事は彼等大領主と云へども單に祖先の偉大を誇る以外に必要を感じなかつたのであらう。況して我國民性とは緣の遠いものでなければならない、然かも尙一言附加するならば、斯ゝる重厚なる表現が可能であるためには充分なる分業の發達が前提されなければならないはずである。にも拘らず彼の採つた所の鎖國政策は之の發達を阻害したと云ふより、むしろ萎微せしめたのであるから、斯種存在は我建築史上全く花火線香的存在たらざるを得なかつたと云ふ事は、ゴシツク建築が如何に分業的生產を必須としたかと云ふ事をみれば明かであらう。

タウトは之の東照宮と比較するに、桂離宮を以て我國民性の二面性を擧げてゐる。けれ共之れは餘り適切な引例とは云へない、何故なら之の兩建築の建設は可成りの年數の相違もあり、且支配者も異つてゐるのであるから。それより私はむしろタウトも度々引例してゐる所の天地造り及びその一統を擧げれば充分に我國の建築に於ける傳統は說明し得られるものと考へる。斯く我國に於ける傳統が、個別的で質的であると云ふ事は都市の如き衆群的で量的なものとは凡そ勝手の違つたものなのである事は明であり、之の事は我國都市發展の經濟的特殊性と共にその觀念的特殊性を形成してゐると考へられるのではないだらうか。

建築科學の吟味

高井末吉

長谷川如是閑氏が『科學と文化』――(セルパン3月號所載)――に於て興味ある叙述を建築に關して試みられた事に或る示唆を受けた筆者はしばらくの間、如是閑氏の文を追ふことにしよう。

『公式をもたない科學等といふことは意味をなさない様だが、科學の公式も要するに經驗的知識の一つの形式に過ぎないのであるから、それの原始的のものは、知識の形式にまで持ち來されない、生活の態度、方法そのものである。人間は、スタビリテーの物理學を知る前に船を造り、大洋を渡つて世界に分布されたのである。物理學が造船術に役立つたのは今から一、二世紀前からのことに過ぎないが、人間が相當の航海力をもつ船を造り得たのは、千年も前からのことである。

重力の物理學は數世紀前からの發達だが、數千年前のエヂプトの建築は、今の物理學できへ疑問とされる力學上の問題を、あの巨大な石造建築に於て、具體的に解決したのである。人間は、抽象の科學、公式をもつ遙か以前に、具體的の科學、即ち生活の態度、方法としての科學をもつてゐたのである。

古代の建築が力學的に、決して近代の科學時代の建築に劣つてゐないことを、どう解決したらいゝか。それは知識と云ひ得るほどにも組織化されてゐない、經驗そのものに據つたのであるが、それはたゞ公式の科學をもたないだけで、態度、方法としての科學をもつてゐたと云ひ得ないだらうか。少くとも古代の建築文化は、そうした原始的の形態の科學から産れたといひ得るであらう。勿論、建築には科學がある許りではなく、感覺があり、感情があり、言ひかへれば美的表現があり、建築それ自體は、さうした一つの綜合であるが、科學以前の建築にも、科學以後の建築と、同じやうな科學があつたといひ得るのである』(2～3頁)

科學以前の建築にも科學以後の建築と同じ様な科學があつた事について、それは何を意味してゐるか？　體系化された學問知識が極く少數の人々によつて傳承された事を物語つてはゐないだらうか？

棟梁は多くの弟子達と堂宮を建設したが、その多くの弟子達がその才能に應じて一定の技術を棟梁から學び取る者が多かつたであらう事の中に科學としての技術の體系化の一般的な擴がりが、その時代の文化一般に支配されて、その時代に適應した形態をもつて科學

の傳播があつた事と思ふ。

草鞋掛で技術の修養に出るものは、その時代の科學を一身の中に體系化するための手段であつたのではなからうか？

現今の様に交通の發達、出版の進歩がもたらす利益は、様々な事實によつて證明することが出來る。此處に科學の一般的な擴がりを見る事が可能であらう。

かゝる見方からすれば、科學以前の建築にも科學以後の建築と同じ様なものがあつたといふことは、次の如く理解されるであらう。

科學の以前、以後の觀念は

「科學的な體系立てられた知識」そのものゝ性質、育成、擴がり、深化、變化の段階を示すものである。と、

封建時代にはその時代特有の科學の傳承、發展形態があつた様に、資本主義時代には又それ特有の、傳播、發達形態があつた。

かゝる發展、深化、育成の原動力はとりも直さず生産の進歩發展にその基礎を置いてゐる事については自明の事である。

何故なれば、出版の進歩なくして、交通の發達なくして、工業の發展なくして今日の文化を理解する事は不可能であるからだ。

扨て、上述の現代文化の一般的水準より見た建築界はかゝる水準を凌駕しようとしてゐるか？　遲れてゐるか？

云ひかへればかゝる科學の水準の以前にあるか、以後にあるか？　建築の科學性の吟味は先づかゝる一般的な問題から觸れて見たいと思ふ。

建築が諸材料によつて構成されるために、その建築場所特有の地理的狀態によつて天然資源が利用され構成され發達して來た事は、建築歷史の又現實の教へるところであるが、現今の様にその構成材料の使用方法が世界的に同一規模をもつて組織される程の進歩發達が展開されてゐる。

かゝる文化の發達に照應して科學が世界的經驗を土臺にして誤りなく活用されてゐるであらうか？　その吟味は科學にとつて、建築にとつて重要なる一要素でなければならない。

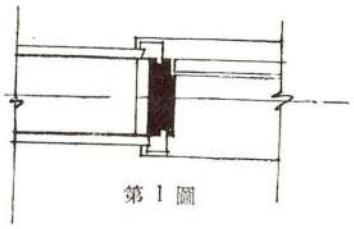
建築の科學性を吟味するに當つて第一に考へられるのは如何なる點で文化水準に遲れてゐるかと云ふ命題である。

私はそれを『**機械生産の適要**』**の未熟性**として考へたい。

例を出入口、窓の木造にとらう。

其處で額緣と云ふ一要素の材料が如何なる性質を附與されてゐるか？

その機能からその性質を定義づけるならば、出入口、窓廻りの壁材料の養生であり、見切であらう。



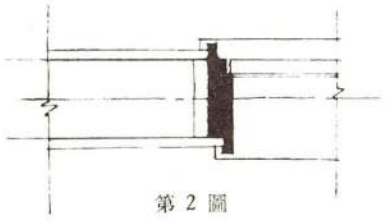
第 1 圖

そして又一つの形態をもつて室内外の立體的建築構成の美的要素としてゐる事である。

木の性質が此處で如何に考へるべきであらうか？木はその性質上時日の經過と共にその形を乾燥のために收縮させられる。

壁材料の收縮性と相待つて、その取り附き部分に缺き込みが見られる。——(第1圖)

これは直接額緣を枠の面へ打ちつけるだけだと隙いて來て、そこにブランクな部分を露出するからであらう。壁との取合せ部分も又同樣である。



第 2 圖

他方第2圖の如く竪枠と額緣とが同一材料によつてゐる實例がある。

これは何を意味するのであらうか？

壁見切として額緣と竪枠とが一本の木によつて、工作と取付の勞賃と材料を節減せんとして考察されたものであると思ふ。

扨て第1圖、第2圖の構成の一般化に對して吟味を加へよう。

枠廻りおさまりの發達から考へて、最初建築に取り入れられた方法は第2圖の如く構成されてゐたのではなからうか？　何故なれば、原始的形態の發生は必要から、單純から出發するものであると云ふ根據をもつてゐる。

これは建築歷史を調査すれば直ぐ分る事だが今私にそれが惠まれてないのでかゝる斷定はしばらく措くが、何故に額緣が建築構成要素の中に入つて來たかを考へて見たいと思ふ。先づ考へられる事は木の成長に於いて各部が不均衡な性質をもつてゐると云ふことである。それが一本の木で構成される第2圖の狀態は何ものかによつて、その材の曲り、割れ、を防禦せねば使用目的から云つて、不都合が生ずるであらう。

此處に幾つもの材の斷面組合せの謎の鍵がある樣に思ふ。進步は枠から額緣の分離現象の中にあつたのではあるまいか？

その素朴な姿から一つのモルデイングが生れる。それは生產の進步と共に勞働餘剩力の豐富化から建築を含めての一般工作物に美化が始まる。かゝる推理は理論の基礎を提出してはゐないだらうか？　かゝる吟味は、その成立條件の理解と動向と意識的な創造の根底を形造る。言ふところの科學以前の科學をして去らしめよである。そしてかゝる吟味が現在の文化水準に照應してなされるときに、ヘーゲルの『存在するものは合理的である』單なる肯定の代りに『存在の不合理性』を指摘する事が可能となるであらう。

私は建築の極く一部分の一つの要素である額緣について縷々書き續けて來た。

それは建築生産の現狀が他の工業に比較して、その方法、その思考力に於て、非常に原始的な、ロマンチツクな形態を多分にもつてゐる事を此處に強調したかつた爲めに他ならない。單にかゝる窓、出入口にしても、それを取扱ふ建築家によつて、偶然的な科學以前の形態の創造や在來の形態に甘んじて、それを深化せようとせず、その成立條件を等閑に附してゐる事を指摘したい。

その形態が驚く許りの分散性をもち、個々の感情や、手慰めによつて左右されてゐる事は餘りにも封建的な職人氣質の殘存性の露出ではないかと思ふ。何故なれば斯る成立條件の不分明による形態の千變萬化の樣態は著しく、額緣の大量生產（額緣に限らない）の現代的生產方法の發達を阻害してゐるからである。それが廢棄される根據があるなら、一時も早く額緣を捨て去るがいゝ。それが尙存在する價値を認められるならば、かゝる形の多樣性を清算せねばならないと思ふ。

一つの或は數個の標準型へ移行が何故に必要である？　何故にかゝる標準型と大量生產方法への移行を力說しようとしてゐるかについて語らう。

建築構成材料の中既に工場生產過程に入つてゐるもの多々ある。それが大量的に使用される單一なる標準型を要求してゐるのは、かゝる工場生產が可能になつた機械の進步の結果である。木材製品についても同じことが云へるのである。從來の多樣なモルデイングは大量生產の相手ではない。これを統一する事によつて、工場生產が可能になる。そうなれば從前の樣に大工の季節的變動の勞働を極度に押へる事が出來る（大工の工場への移動を考慮に入れゝば）事によつても、それが古き封建的な手工業的方法に優るのである。

額緣、枠等々の工場生產が恒常的組織を强めるために建築理論の中へ新しい要求を提出して、自己運動を强化してゐる事に眼をそゝぎたく思ふ。これが進步なのだ。

機械生產方法の存在、進步こそは建築形態にかゝる生產方法に適應せる形を要求し、强調し、嫌應無しにその道を押し進めようとするであらう。それは從前のヂグザグに較べて經濟的である事、大規模の設備による科學性を增大せしめつゝその優位性を確保してゐる事に現はれてゐる。

衛生設備器具や煖房設備電氣設備器具等々が工場生產に依る標準型生產を行ひつゝ、それが諸種の建築の中にその適應性を見出されて、或は進出し如何なるところへもその生產品が存在し得る可能性をもつ事は何を意味してゐるであらうか？

斯かる器具の機械的生產、工場生產が一般的現象として具現してゐる事、それが、主要々素として建築を逆に支配してゐる事が決定的な解答であらう。

昔日、マントルピースによる多種多樣な形態が火を中心にして構成され裝飾された。

今やラヂエーターはシンプルな姿を紛飾なくしてその後釜を占めつゝある。

そしてその周圍の構成をも變化させつゝ、より科學的に、熱力學的に構成されて行く。

斯くの如く生產方法の進步と共に、形態がより科學的に、標準型への前進をしてゐる時

に當つて、何故に機械生産關係の整備の途上にある木材の挽立工場の內容が造作に迄一般的擴がりを阻害されてゐるのだらうか？

かゝる恒常的勞働による進步せる生產方法を阻止するあらゆる試みや、無意識なる阻害が科學的に根底から覆へされていゝ時期ではあるまいか。

如上の問題は建築の全般的に吟味される必要の一端であると思ふ。

精細なる相互檢討と傾向の推斷こそ科學の現在の仕事の重要なる一部であらう。

かゝる結果が何に導かれるかは明瞭である。「科學以前」の存在による形態と古き生產方法の止揚を建築生產關係全般に押し進める事の中に科學精神の建築の上に於ける開花があると思ふ。

機械生產の適要に關する科學的吟味について現場に於ける建築生產方法特有の性質を檢討する事がその後に來る問題である。

建築構成材料の各素材が次ぎ次ぎに工場生產へと移行し科學的にその優位性をその古き生產方法に對して確保しつゝあるとき、現場に現れた生產過程はどうであらうか？　その未熟性、その原始的な材料の驅使法を考へて見る。

色彩の問題から始めよう。

赤青黃綠等々の色が何によつて選ばれつゝあるか？　この色はこの室の全體にマツチするといふ感覺を科學的に立證する事の出來る人が何人ゐるであらうか？

感覺は科學的究明を許るさぬ個人的なものであるといふことを此處では許すまい。

赤は强烈だ、青は沈靜だといふ感覺からの或る歸結は人間による色の影響を科學的に立證するには餘りにも皮相的な見解であると思ふ。何故に赤い色は强烈であり、興奮的であるのか？　如何に眼神經を刺戟し、腦髓に作用し、如何なる結果を身體に及ぼすのかを醫學的に嚴密に取扱ふ必要があると思ふ。

色が人によつて千變萬化に感じ取られるものであるとすれば、それは如何なる理由によつてゞあるか？

一つは色彩が人間に與へた歷史性だと思ふ。歷史は色々共に存在した。

黑色が凶を意味したり、暗黑を意味したり、赤色が吉事を意味したり、血を意味したりその時の聯想がかゝる歷史と關係あるのは事實であると思ふ。

かくの如く色彩に於ける感覺の問題を、歷史性に於いて、醫學的根據に於いて、究明する事は不可能なことではないであらう。

かゝる感覺の問題が單に直觀的にのみ考へられる『科學以前』の知識がどれ程施行に困難な色の撰擇を背負はさせてゐる事か？

「色彩」も又科學的檢討を要求する權利を保有してゐるのだ。

そして悪いことにはこの色彩を生む材料の使用方法が、小刷毛に依る塗裝方法を持つて

ゐる事だ。『刷毛枝無き様入念施工』と歌ふ仕様書の自己撞着。

吹付やその他の方法の進歩がひらけつゝあるのだ。舊體依然たる施工方法を改良しもつと科學的な水準に準據せる方法が考察される必要がある。

かゝる手工的方法は塗裝にのみ限らない。左官のコテ、大工のカンナ。皆昔年らの要具である。何故にかゝる原始的形態が存續してゐるのか？　つくづく考へさせられる。

機械生產の進歩に順應して建築生產も又機械の活用が盛になつて行く。

それが現在工場生產に對して、現場に於ける電力使用力の僅少とその効率の低度な事實は到るところに舊生產方法の暴露される姿を見る事が出來る。

原動力使用量の不均一とその効率の低度は建築の現場に特徴的である。

その原因が、晴雨の影響にあり、生產場の時間移動や、自由勞働者の包含等々があるであらう。だがかゝる原因は除去せられ得ざる絶對的因子許りではない。その反對だ。

これを要約すれば建築生產が他の工業の機械的生產方法に對して著しく、あらゆる點で立ち遲れてゐる事を承認する事である。

建築科學の特性の吟味は、それ故に以下の如き結果を持ち來す。

1. 機械生產の進歩に對する抑止的傾向は舊體依然として建築生產から季節的勞働と自然の風雨の影響を、追ひ拂ふことを不可能にしてゐる事、——それが建築關係勞働者の生活を不安定な地盤の上に置いて、その放浪性を强めてゐる事。
2. 生產方法の無計畫性、非科學性のために勞働時間を一定の限度に極限する事を不可能にしてゐる事。——その結果が土工の飯場的生活の非文化的狀態の現出に一定の地盤を與へてゐる事。

社交性の極度の犧牲は人間を益々利己的方面に走らせる可能性を增大せしめて根據を製造してゐる事。

建築科學の以上の吟味は、かくの如き一般的な問題から個々の具體的問題全般に押し進めつゝ『科學以前』を清算し、理論にも生產施工にも科學的な體系化、組織化、高度化を建築家全般の義務として呼び起してゐる。（了）

建築批判の問題

田中彌一

建築批判は、それが行はれる場所によつて分けて見ると、大體、建築家乃至その周圍のものゝ間での專門的な建築批判と、新聞や、普通の綜合雜誌などで取扱はれるジヤーナリスティツクな建築批判の二つが考へられる。このうち第一の建築家乃至周圍のものゝ專門的な建築批判は、建築以外の、他の工學の例で考へて見るならば、例へば機械家であれば機械について檢討し、造船家であれば、船について檢討するが如く、謂はゞ專門家の專門の分野に於ける研究的私語であつて、批判と云ふ言葉の意味のなかには入り切れないのである。批判が正當に行はれる爲には社會的な關心の下に、社會的な批判がなされなければならない。そんな意味から云つて、批判と云ふ言葉のなかに入つて來るためには、專門家の專門的研究の範圍を一步外へ出る必要があり、批判の行はれる場所が社會的關心の下に引き出される必要がある。（その場所がジヤーナリズムの上にあると云ふためには、ジヤーナリズムの持つ一つの意義を抽出して、强調しなければならないが、それについては今此處でふれない。）

建築批判の場合にして見れば、社會的に、社會的關心の下に行はれ得る可能性を多分に持つてゐる。建築は機械とちがつて、單なるメカニズムではなく、造型的な作品でもあるために個人的な嗜好に投するかどうかと云ふことがいつも問題になるし、又建築の存在する場所と云へば、都市と云はず、農村と謂はず、凡そ人間が住んでゐる所ならば、至る所目につくものであつて、繪畫とか、小說などのやうに、特別に自分から努力して求めなければならないと云ふことがない。而も凡そ人間として、上は大邸宅、大殿堂より、下は雨露をもしのぎがてにする賤が伏屋に至るまで、建築と無緣に生活するものはない。人生の三大事たる衣食住の一つであつて見れば、誰でも建築に關心を持つてゐる。建築批判の起る素地は充分なやうである。

處が實際現實には、建築批判と云ふものは殆んど無いやうなものである。批判の言葉のうちに入り切れないと云つた建築家仲間の建築批判も公開的なものは殆んどないし、ましてジヤーナルの上での、建築批判などはさつぱり見當らない。

尤も建築批判的なものが全然ないと云ふ譯ではなく代表的な建物が竣工したやうな時には、專門雜誌や、新聞の上で問題に取り上げられることがあるけれども、批判と云ふ言葉に値する程、分析的ではなく科學的な方法も持つてゐない。隨筆風な感想や、單なる報告にすぎない。最近の例としては東京の國會議事堂の竣工などはその特徵的なものであつて

專門雜誌には、建物の寫眞、それに附屬した說明書、工事關係者の苦心談、竣功にいたるまでの經過などが登載され、新聞にもニュースとして寫眞が載り、更にはラジオを通じて、實況放送まで行はれた。實に祭典的賑かさであつたが、建築批判に値するものは一つも出て來なかつた。何れもこの豪壯な建物を前にして、田舍者的讃辭を投げかけただけで批判の銳眼をくらまされて了つたやうであつた。

一方では建築批判の起る素地が充分にあると思はれるのに、他方現實に於てこんな批判の貧困、いやむしろ批判の絶無にぶつかる。その原因は何であらうか。

その原因については建築そのものゝ性質と、社會的な素地との二つの方面から考へられる。

先づ建築そのものゝ性質を考へて見る。一般に批判と云ふことを云ふとき、先づ聯想されるのは、文藝批判とか繪畫批判とか云つたものであらう。文藝、繪畫の方面では、從來とも批判乃至、批評、評論は相當盛んであつて、專門的に、評論家と云ふグループが出來てゐる。批判の爲の批判が存在し批判の藝術性が云々されてゐる位に、獨立的な存在である。ジヤーナルの上にも取り上げられ、大衆的な關心を引くと迄は至らないが、而も尙市民的關心を引くには充分である。小說の如きは、とに角批判の對象になることを非常に嬉ぶ。默殺されることが最大の苦痛で、ほめられゝば勿論ありがたいが、くさゝれてもこれ亦大いにありがたいと云つた有樣である。處が建築は同じく藝術作品であるにも係らず、批判が起つて來ない。この二者の相異は何によつて起つて來るのであらうか。これを小說及建築の實體に即して考へると、建築が批判をともなひ得ない、建築自身の性格が明かになつて來る。

それは何であるかと云ふと、建築は單に造型的な藝術作品ではなく、同時にそれは人間的な使用目的を持つて居り、人間生活を內容とする容器としての、合目的性格を持つてゐることである。音樂や小說ならばそれ自身が目的で他のものに規制されることがないが、建築が造型的藝術作品と云ふのは、人間生活の入れ物としての、容器的存在である。そのために建築を批判するには、建築の機能を知つて居なければならない。人は誰でも知つて居ると考へられる劇場にしても、花道、俳優部屋、觀客の視線、舞臺等々に關する知識がなければ、劇場を建築的に批判することは出來ない。音樂ならば、印象的な批判も出來やうが、建築では、機能、構成についての知識を缺いて單に外形の印象をのべた丈けでは眞の建築批判の言葉に値しない。

作品批判は自然と作家批判にまで遡るのが普通であるけれども、この際にも建築は獨自の性格を現はして來る。小說ならば一人の作家の創造力に歸せられるのであるが、建築になると到底一人の建築家の天啓的な働きなどに持つて來る譯には行かない。一つの建物を建てるのには、施主、設計者、請負の三位一體があり、施工に當つては複雜な人的組織をしくゞつて來るので作品批判でも却々厄介なのに、問題をこゝまで押し進めて來ると、

いよいよ判らなくなつて了ふ。それに小説ならば、批判の矢面に立つ者はその創造者として全責任を持つ小説家であつて、批判される當事者は極く簡單であるが、建築になると施主、設計者、施工者の三位一體と云ふ複合體が被批判の當事者であると云ふ、錯綜性の外に、建物の所有者は、竣工後は全然建築家とは別になるので、建築批判はこの所有者に係はつて來ることになり、義理人情のしがらみに縛られるのである。

第二に社會的な素地と云ふ方面から云ふと、建築が世人の深い關心を牽かない色々な原因があるのである。成る程衣食住の一つとして、家を持たぬ人はないが家に對する關心と云ふのも一歩奥へ踏み込んで見ると、「家は膝を入れゝば足る」式の儒教的な質素さなのである。建物の機能が何うとか、藝術性が何うとか云ふ反省は民衆の日常生活の生活感情のなかにはない。あつても儒教的範圍に低迷してゐる。だから建築に對しては誰でもが關心を持つてゐるかも知れないが深い反省とまでは行かないで反省の表面に止まつてゐるのである。

それから建築家の社會的地位が建築家をして建築文化批判家たらしめないやうに出來てゐる。若しも建築批判が、建築界内部から發生するものとしたならば、その尖端を行くものは所謂建築家であらう。その第一線の戰士たる建築家が、立ち上がれないやうに社會的に制約されてゐるのであるから、建築批判の勃興もむつかしいと云はなければならない。

建築家が立上れないと云ふ理由は何であるか。それは一言に云へば、自由建築家が存在しない、と云ふことである。日本の建築家は、何等かの意味に於て、官廳又は企業家にたよつてゐなければ、存立を全くすることが出來ない。官廳又は會社の營繕課に在ればこれは文句なく、技術提供者たる俸給生活者であるから、官廳又は會社に直接依存してゐることは明かであるし、そうでなく設計事務所を開いて、自由建築家としての形式を備へて居ても、内容に於ては何等かそれ等のものに依存するのが多い。その傾向は段々著しいやうに思はれる。政府は年々膨大なる豫算を組み、財閥は益々軍義的に强力化せられるのであるから、高級技術者としての建築家を要する建築工事は、官廳と會社に集積せられるのは自然の勢であらう。そのために建築家の依存關係は一層緊密なものとなり、建築家は俸給生活者的な考へ方を持つやうになり、ために建築批判と云つたやうな、活潑な文化精神を失つて了ふ。

一體今の建築術が、西歐より日本に取り入れられた取り入れられ方を考へて見ると、明治政府によつて、政府の建築を起すために强引に輸入されたのであつて建築家が政府に依存してゐると云ふのは最初から運命づけられてゐたのである。音樂家や小説家が曲りなりではあるが獨立自由であるのに對して、建築家は隷屬的である。音樂や小説が批評乃至評論を持つてゐるのに、建築にそれがないのは、創作者の社會的地位に於てこれ丈けの徑庭があるのである。今日建築文化について一家言ある建築家の多くが、何れも學校關係者であることは、色々な點に於て、意味深いものがある。

偖て建築家は社會的地位の制約のために建築批判の第一線に立ち得ないことは上述の如くであるが、同時に一方その學體系たる建築學の進み行く方向に於ても、文化批判の途より次第に遠ざかりつゝあるのである。思へば建築構造學の輸入、進歩發達以來、建築學の歩んで來た途は、工學としての建築學であつて、この方面では確かに輝かしい業跡を殘して居るけれども、それは建築全般について考へて見ると、著しい跛行狀態であつた。上には一應建築學と云つた言葉を使つたけれども實際は建築學は學としての確立がないのに對して、建築構造學は判然した自分の方法を持つてゐるので、この方面の研究が進むのは自然の勢ひであるけれども、その結果としては、建築家は眞の建築家には値しない單なる技術者になり終つて了つたのである。このために建築家層に於ける、文化的精神の失墜は一層甚しいものになつた。

このやうに建築批判は、一方ではその發生の可能性を持つてゐ乍ら、あれやこれやの狀勢のためにその發芽を阻まれてゐる。然しこの情勢も近來幾分變つて來たやうに思はれる。

最近あらゆる方面に於て、日本的性格の檢討が行はれてゐるが、この傾向は建築界にまでやつて來た。日本的建築を探ねることは、既に昭和六年頃に、西歐直輸入的な、構成的合理主義と云つたものに對する反動として發生してゐるが、最近の日本的性格檢討はこれとは別の意味を持つてゐる。前のは建築界內部から起つた動きであるとすれば、今度のは外部的に起つた波動が建築界にまで波及した形である。この建築に於ける日本主義も、若し一部の人が主張するやうに、既往の形式を尊重し、これに執着するものであるならば、これは文字通り反動思想であるけれども、問題はこれを發足點として色々な方面に發展、浸透して、幾分建築論壇(?)も活況を呈して來たやうである。

この一般的な空氣と共に、建築界內部に於ても、構造學偏重を是正せんとする氣持ちが動いてゐる。未だ明確な形をとらないけれども、構造學の行きすぎに對する反動として、建築學の再檢討をなさんとする氣配が濃くなつて來た。

これ等の傾向は、建築批判に對して、いづれも有利な狀勢である。たゞこれ丈けでは、建築批判の發生を阻んでゐた多くの原因のうち、二三のものが解消、好轉の氣運にあると云ふ丈けで、これを以て直ちに建築批判の萌芽を所期することは、早計である、が從來とは幾分異つた狀勢を現はして來るであらうことが考へられる。

大阪府下に於ける住宅經營地調査

都市計畫大阪地方委員會

1. 調査の範圍

本調査は．大阪府下に於ける所謂一團の住宅經營地と見られるもの52箇所に就いて行つたものである。大阪市內並に大阪市を中心としながら兵庫縣下に存在する相當廣範圍に亘る優秀なこの種經營地或は住宅地の數も尠くはないが．之等を殆ど割愛し．主として大阪府下に於ける大阪市郊外のものに就いて調査を行つたものである。尙．府下に於てはこの外に相當纏つた所があると考へられるが．各種調査資料蒐集の關係上．之を割愛せる所亦尠しとしない。從つて．本調査は之等の中數例を採つたに過ぎないことを諒とされ度い。後表各項目に就き．總計及平均値等を加へ統一ある統計表としなかつたのも．この意味より出でたるに他ならない。

2. 調査の目的

大阪府下に於ける所謂一團の住宅經營地と見られるもの數例に就き．其の地名．大阪終端驛よりの粁程．同交通所要時間．最寄驛よりの距離．地勢．土地面積．土地賣價．一口の面積　現在戶數．上下水道瓦斯施設の有無．經營開始年月を調査し．各種都市計畫問題．住宅問題．交通問題解決への一參考資料として之を提供せんとするものである。經營者名は勿論土地賣却濟面積等をも同時に調査したのであつたが．之は發表を差控へた。

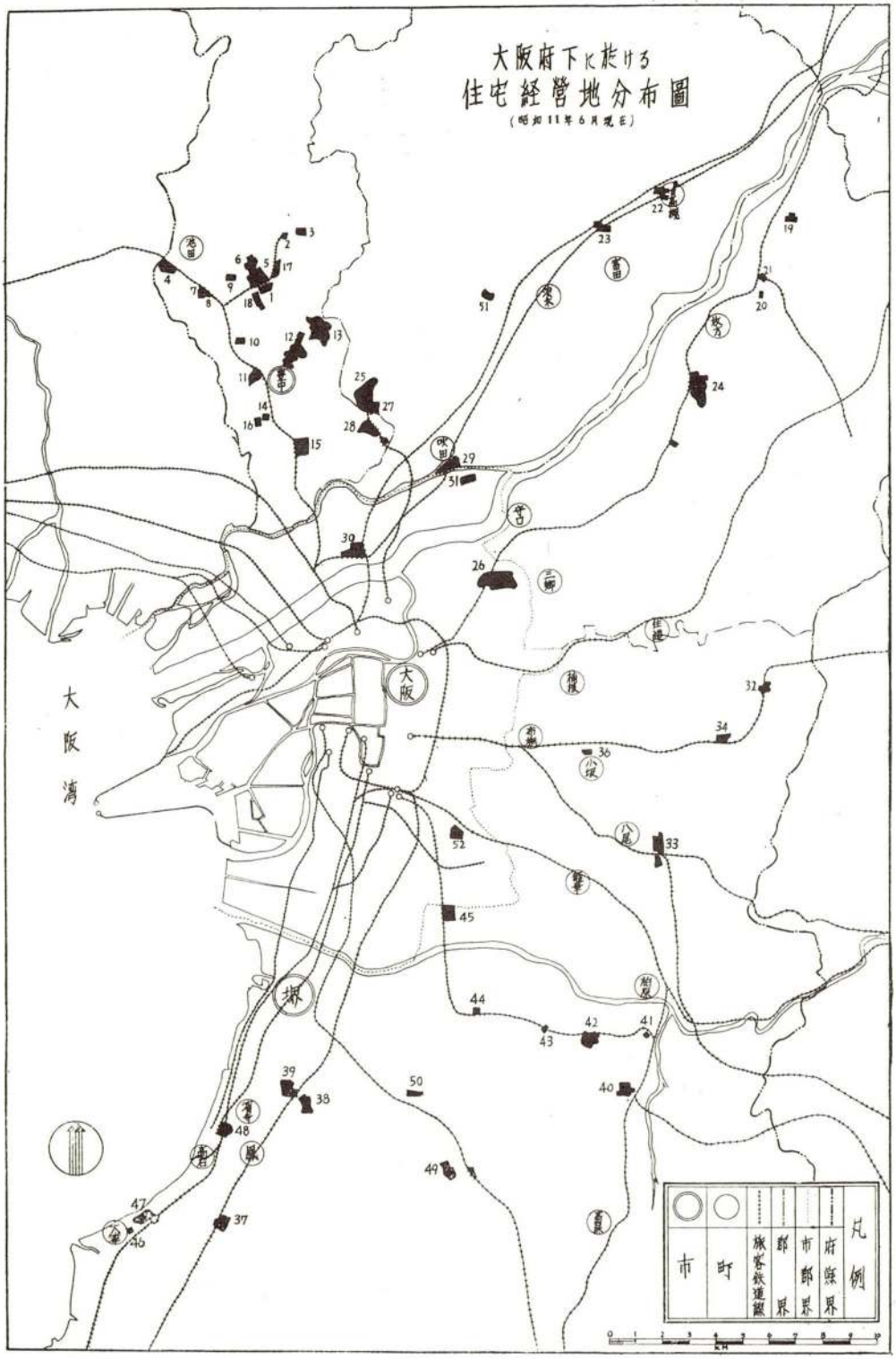
尙．この外．建築物の構造種別．建築敷地內に存する空地の割合．道路公園等と敷地面積との割合．建築費．家賃．將又．居住者の職業．勤務先．年齡．收入額．家族數等をも詳細に調査せんとしたのであつたが．種々の都合上完成し得なかつたことはまことに遺憾である。

3. 調査の期間及方法

自昭和11年 6月至同年10月。先づ經營者（會社）に各地の調査事項に就き夫々解答を求め然る後調査員を現地に出張せしめ．各調査を行つたものである。

4. 參　　考

都市計畫大阪地方委員會に於て曩に調査發表せる「大阪市に於ける勤勞者住宅の分布調査」（「建築學研究」第77號——昭和10年 7月）．並に．「大阪市內共同住宅調査」（「建築學研究」第83號——昭和11年12月）を併せ參考に資せられるれば好都合である。


大阪府下に於ける
住宅経営地分布圖
(昭和11年6月現在)
大阪湾
大阪
堺
凡例
市
町
旅客鉄道線
郡界
市郡界
府県界

大阪府下に於ける住宅経営地調査表

（昭和11年6月現在）

調査番号	住宅地名	交通 大阪駅よりの距離	交通 所要時間	交通 最寄駅までの距離 最短	交通 最寄駅までの距離 最長	地勢	土地面積（坪）	土地費価（坪当） 最低	土地費価（坪当） 最高	一口の面積（坪） 最小	一口の面積（坪） 最大	現在戸数 住宅	現在戸数 其の他	現在戸数 計	文化施設の有無 上水道	文化施設の有無 下水道	文化施設の有無 瓦斯	経営開始年月
	阪神急行電鉄株式會社沿線																	
1	紅葉ヶ丘	20·0	20	3	7	丘陵	15,000	5	15	50	5,000	15		15	有	有	無	昭 5· 8·
2	箕面	17·8	25	2	4	丘陵	20,000	20	30	50	1,000	38	1	39	無	無	有	大 8·12·
3	箕面	17·8	25	3	6	平坦	65,000	17	40	50	1,000	130		130	有	有	有	大 4·
4	池田室町	16·4	21	駅前	6	平坦	27,000	25	50			219	1	220	無	無	有	明 42· 3
5	櫻井	15·5	21	駅前	8	平坦	34,816	15	24	70	250	335		335	有	無	有	明 44·10
6	櫻ヶ丘	15·5	21	5	10	丘陵	13,849	10	18	80	200	10		10	有	有	有	昭 10· 8
7	石橋荘園	13·8	17	6	8	平坦	20,000	18	28	100	200			80	有	有	有	大 13·
8	石橋	13·8	17	6	8	平坦	5,048	18	20	60	130	130		130	有	有	有	大 13· 7
9	石橋温室村	13·8	17	7	8	平坦	12,994	7	10	60	150	13	25	38	無	無	無	昭 7·10
10	螢ヶ池	12·5	20	3	5	平坦	6,979	15	75	70	200	2	3	5	有	有	有	昭 9· 2
11	豊中第一	10·9	18	駅前	7	平坦	50,000	37	38	60	250	659	36	695	有	有	有	大 3· 5
12	豊中第二	10·9	18	10	15	平坦	31,515	15	18	70	400	52	3	55	有	無	有	昭 8·11
13	東豊中	10·9	18	18	26	丘陵	91,318	10	12	60	1,800	49	1	50	有	有	有	昭 8· 5
14	曽根	9·0	14	3	4	平坦	3,790	22	30			35		35	有	無	有	昭 6· 5
15	服部	7·8	12	2	6	平坦	13,000	18	42	50	200	67	3	70	有	無	有	明 45·
16	松籟園	7·0	12	5	5·5	平坦	6,000	13	16	60	100	4		4	有	無	有	昭 9·11
17	牧落百楽荘	6·0	10	1	6	平坦	30,000	25	35	60	350	142	3	145	有	有	有	大 14·
18	櫻井南天荘	6·0	6	4	6	丘陵	30,000	4	10	100	1,000	7		7	有	有	無	昭 9· 1
	京阪電鉄株式會社沿線																	
19	牧野	24·0	26	4	6	平坦	27,048	7	22	48	150	20	3	23	無	有	無	昭 6·
20	朝日ヶ丘	21·3	21	5	6	高臺	1,500	15	20	30	150	30		30	有	無	無	昭 2·
21	牧方東口	20·3	21	駅前	1	平坦	6,271	18	29	57	150	13	2	15	有	有	無	大 15· 1
22	高槻	19·6	18	駅前	3	平坦	34,598	16	30	50	200	230	71	301	有	有	有	昭 10·
23	櫻ヶ丘	16·4	22	·5	2	平坦	23,042	15	30	50	200	67	3	70	無	無	有	昭 3·
24	春里園	16·2	15	駅前	8	丘陵	96,878	16	33	60	500	285	35	320	有	有	無	昭 1·
25	千里山	8·4	19	駅前	7	丘陵	91,310	24	35	50	250	500	39	539	有	有	有	大 14·
26	森小路	8·1	8	駅前	10	平坦	162,300	25	50	30	80	1700	100	1800	有	有	有	大 10·
27	大學前	7·7	17	駅前	4	丘陵	24,705	15	25	100	400	43	3	46	有	有	有	昭 5·
28	花壇前	7·4	16	駅前	4	丘陵	28,840	15	25	50	580	16	1	17	有	有	有	昭 11·
29	神崎川	6·2	11	駅前	3	平坦	42,624	17	55	50	180	34	5	39	有	無	有	昭 5·
30	南方	5·7	7	駅前	4	平坦	19,103	16	30	50	100	227	54	281	有	有	無	昭 4
31	瑞光	5·2	9	4	8	平坦	60,747	5	25	70	150	56	5	61	有	有	無	昭 8·
	大阪電気軌道株式會社沿線																	
32	額田	16·5	20	3	5	丘陵	5,000	5	25	56	200	30		30	有		無	昭 7·
33	山本		18	·5	2	平坦	28,000	10	29	80	200	73		73	有	有	有	昭 9·
34	鳳算山	11·0	18	駅前	5	平坦	54,900	10	25	40	260	370	30	400	無	無	無	大 13·
35	鳳單山		10	駅前	5	丘陵	16,000	12	24	40	300	95	5	100	無	有	有	大 14·
36	小坂	7·0	10	10	13	平坦	4,300	20	25	60	90	50		50	有	有	有	昭 11 5
	阪和電鉄株式會社沿線																	
37	聖ヶ丘	19·3	18	駅前	2	平坦	33,000	8	11	60	140	47	3	50	有	有	無	昭 7· 7
38	上野芝向ヶ丘	12·4	15	2	8	平坦	30,654	17	25	60	150	160		160	有	有	有（産業組合）	昭 5· 5
39	上野芝霞ヶ丘	12·4	15	5	10	平坦	2,795	13	19	50	130	60		60	有	有	有	昭 8· 5
	大阪鉄道株式會社沿線																	
40	白鳥園	18·6	21	1	3	平坦	47,800	13	20	60	200	70		70	有	無	無	昭 4
41	土師ノ里	15·8	21	1	3	平坦	2,420	8	14	60	200	20		20	無	無	無	大 12·
42	藤井寺	13·8	20	1	5	平坦	108,600	13·5	25	60	200	166	17	183	有	無	無	大 15·
43	惠我之荘	11·7	18	駅前	3	平坦	19,420	15	22	60	200	195	25	220	有	無	無	大 13·
44	高見ノ里	10·0	15	駅前	2	平坦	8,000	8	20	65	70	31		31	有	有	無	昭 3·
45	矢田	5·3	9	駅前	2	平坦	16,464	18	30	60	200	250		250	無	無	有	昭 3·
	南海電鉄株式會社沿線																	
46	大津	20·7	30	12	14	平坦	3,000	12	13	20	40	102	7	109	有	有	有	大 11·
47	助松	19·6	35	駅前	5	平坦	18,700	15	25	40	300	140	10	150	無	無	無	大 13·
48	瀬寺	15·0	27			平坦	18,500	10	40	60	150							
49	大美野	19·3	25	3	20	丘陵	402,800	10	25	最低 30 最高 120	60 200	170	30	200	有	有	無	昭 6· 1
50	初芝	19·3	24	駅前	2	平坦	50,000	14	16	50	140	29		29	有	有	有	昭 9·
	其の他																	
51	春日ヶ丘	10·0	12	15	20	丘陵	50,000	2	10	100	1,000	15		15	無	有	無	大 13·
52	平野荘園	4·0	10	駅前	5	平坦	35,000	35	55	45	200	270	30	300	有	有	有	昭 11· 4

和歌山縣廳舍基礎地耐力試驗

增田八郎
坪井善勝

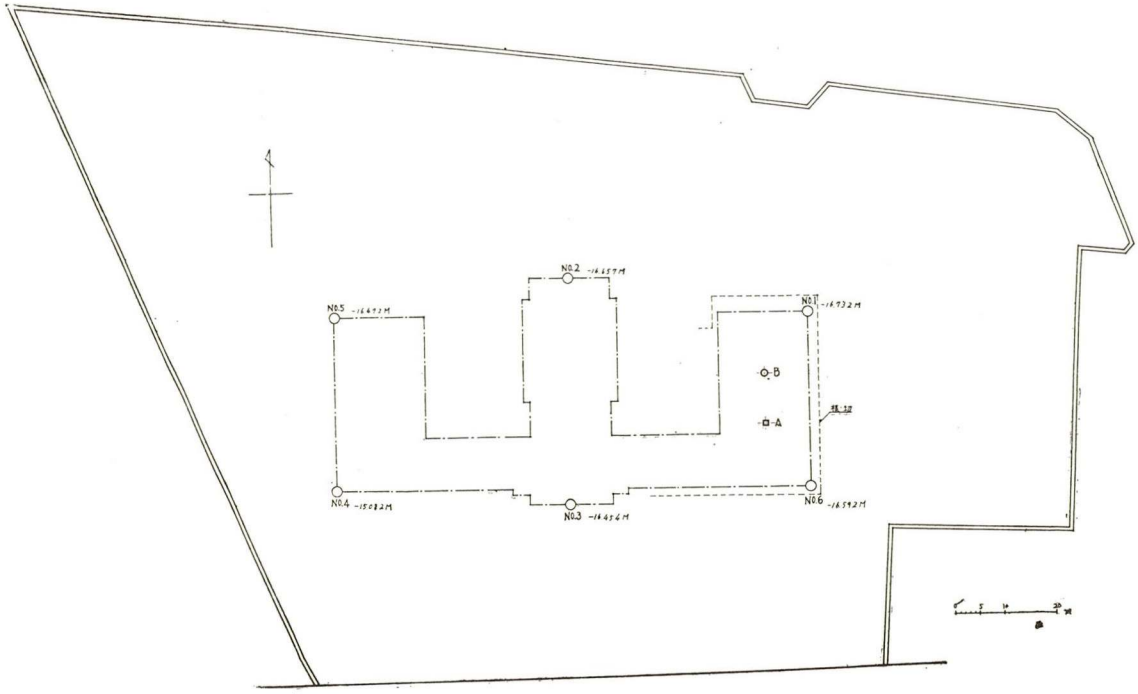
内容目次

1 緒言
2 和歌山縣廳舍敷地地質調査
3 試驗地盤
4 試驗裝置
5 荷重
6 測定裝置並に測定方法
7 測定
8 測定結果
9 附記

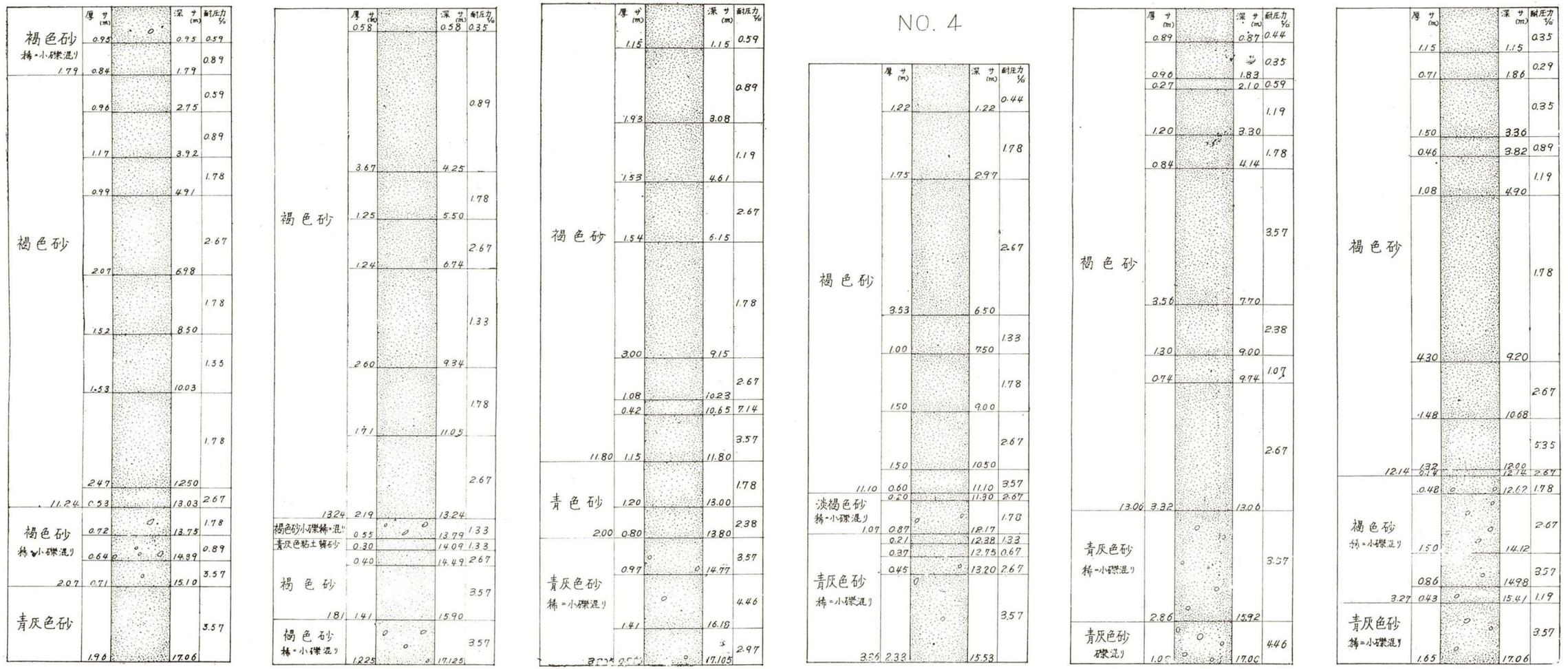
1. 緒言

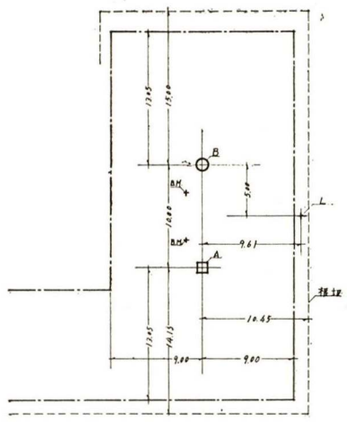
本試驗は和歌山縣廳舍新營工事建築基礎の地耐力決定のため行つたもので、恩師内田祥三博士の御指示により、曩に東大營繕課に於て行はれた東大農學部二號館の基礎地質地耐力試驗（昭和7年11月－8年2月）に關する故大澤邦吉氏の報告書、並に最近公衆衛生院に於ける基礎地耐力荷重試驗（昭和10年5月—10年9月）報告書を參考して計畫したもので

第1圖 和歌山縣廳舍建築敷地内地質調査及耐圧力試驗工事附圖



第2圖．和歌山縣廳舍建築敷地地質柱狀圖　(縮尺1/50)





第 1 圖

3. 試驗地盤

載荷試驗は建物の基礎底面に於て行ふことゝし、初倉組の手に依る地質調査の結果から推して建築敷地内には大なる地質變化を見なかつたので本試驗は本建物の東翼の根伐完了とゝもにA、B 2點（第1₁及1 圖參照）で施工することにした。A、Bの原地盤よりの深さは夫々4.10m 及 4.15mである。

4. 載荷裝置

（第4圖—第8 圖）

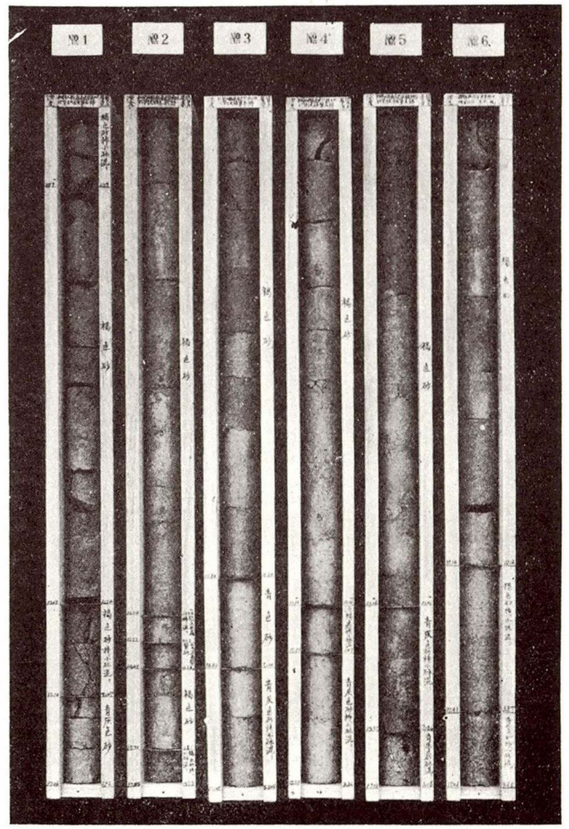
載荷の位置を第1 圖の如く南北に10mを距てたA、B2點にとつた。先づ鍬を以て地表を平に削り取り、更に少量の砂を撒布して上面を平坦になし、其上にAには厚2cm、60cm角の正方形鐵鈑を、Bには

る。御指導の榮を賜つた內田博士に深謝致すとゝもに、本試驗に當つて色々御便宜を與へられた大阪府警察部建築課並びに內務省紀ノ川改修事務所の御親切に對し厚く御禮申し上げる次第である。

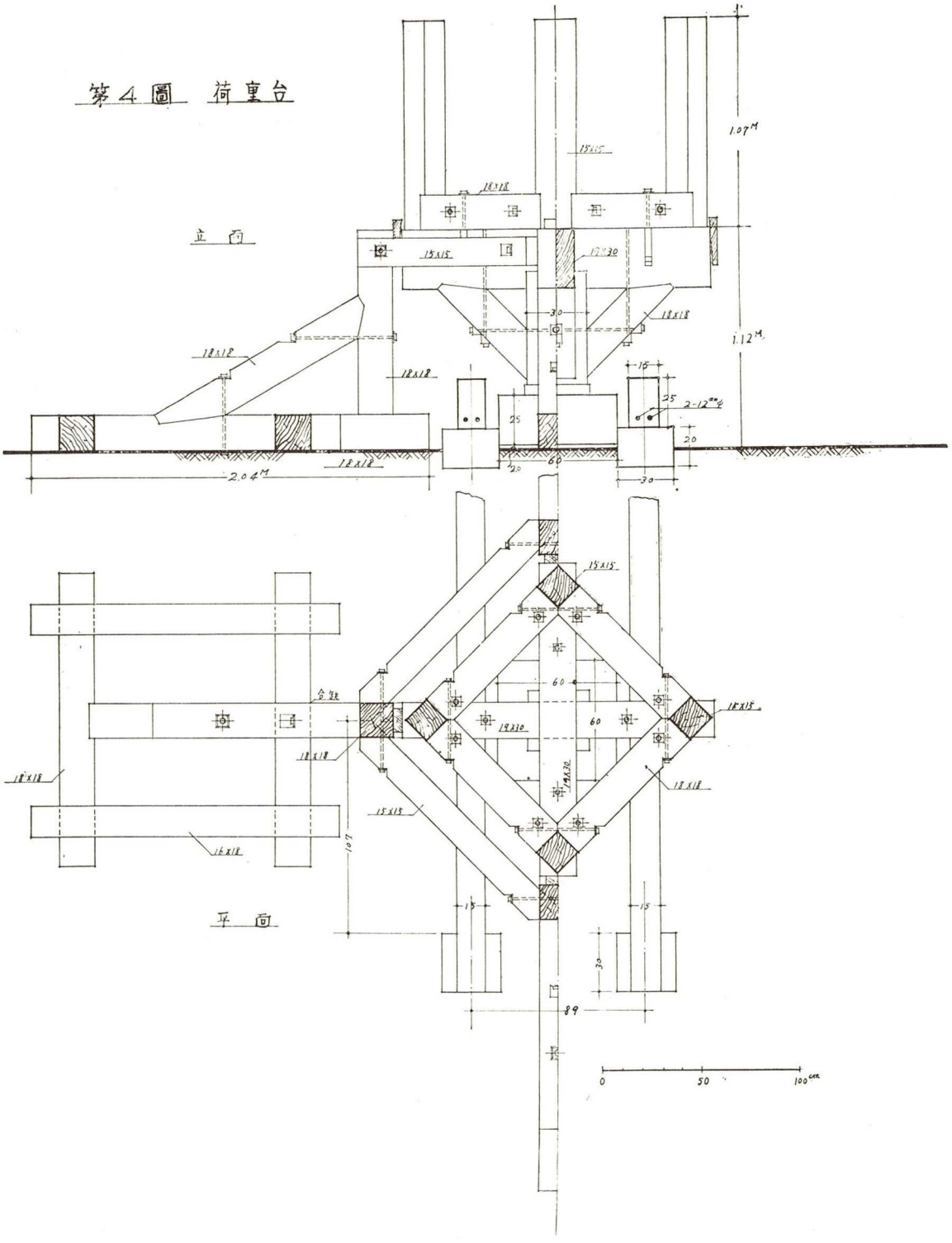
2. 和歌山縣廳舍敷地地質調査

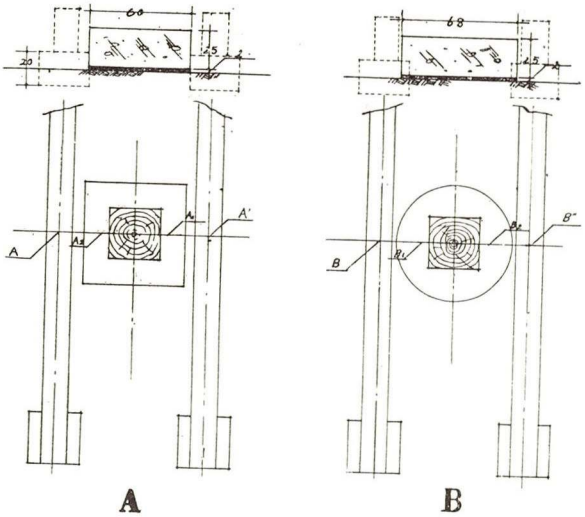
縣廳舍敷地は紀ノ川三角洲に位し、洪積世に屬する粘土分の僅少な砂層である。本試驗開始前（昭和11年1月）初倉組に依囑せるボーリングの結果は次の如くである。第1₁圖は地質調査を行つた6點の位置並に原地盤よりの深さを示し、第2圖は地質（並に地耐力）試驗結果を示す。第3圖は地質試錐標本である。

第3圖 地質試錐標本



第4圖　荷重台

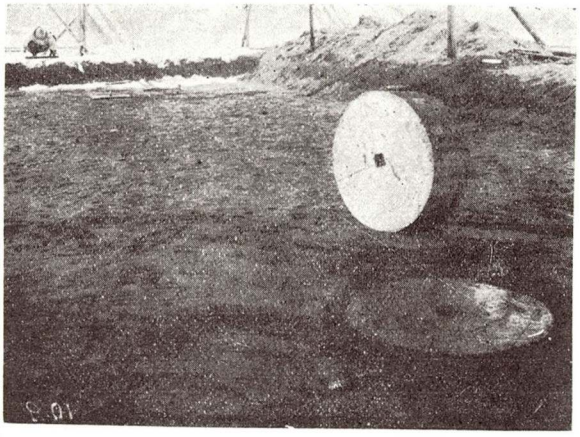




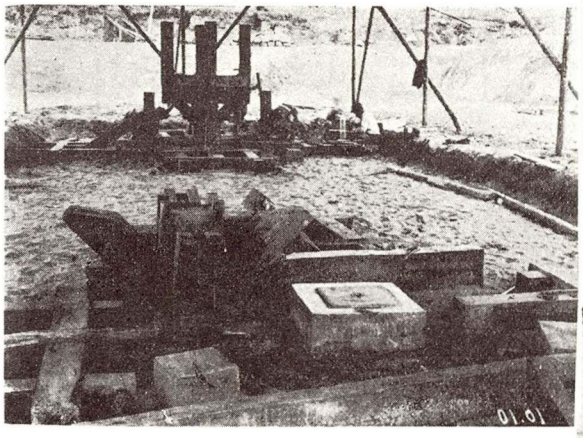
A　　B

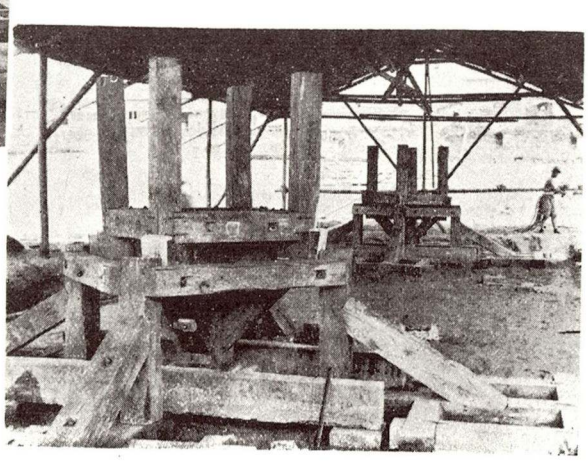
第 5 圖

第6圖・鐵鈑並にコンクリート臺石



第 7 圖・荷 重 臺 据 付





第 8 圖・荷 重 臺 据 付

厚2cm、徑68cmの圓形鐵鈑を敷き、更に厚25cmの同大のコンクリート臺石を据え水平を檢し其中央に荷重臺を立てる。鐵鈑上面には中央に1個の太柄を附し、臺石の上面にも中央に突起を作り水平移動を防ぐ。荷重臺の外側には支持枠を杭を打つて固定し、四方に於て荷重臺を逆楔で支へ傾斜を防ぎ且つ横力の影響を輕減した。

5. 荷　　重

荷重は現場搬入の 25mm 鐵筋を用ひ、鐵筋積上げに便するために荷受枠の四隅に支柱を立て、猶 30kg 軌條（5.45m）3本、15kg 軌條（5.45m）2本宛を第一回の積載荷重の一部として加へて鐵筋の撓みを輕減した。載荷は毎回約 2t 宛とし計24t まで繼續する事とした。鐵鈑、臺石、荷重臺の重量は豫め秤量した結果Aで0.625t、Bで0.634t であり第一回の載荷重量Aの1.990t、Bの1.997 は是等の重量を含むだものである。

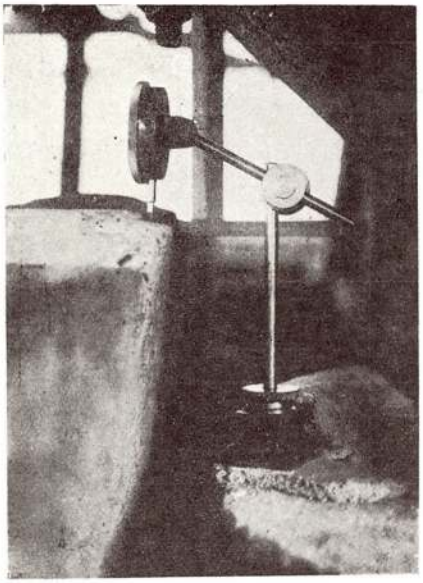
6. 測定裝置並に測定方法

沈下測定は1/100mm讀み及び1/100mm讀みの、ダイアル・ゲイジ各2個並にレベルによつた 20cm×30cm×30cm のコンクリートブロツクに支へられたスパン 2.14m、斷面 15cm×25cm の鐵筋コンクリート梁※2 本を平行に荷重臺石の兩側に配置し、其の各の略中央には硝子板を埋込み、荷重臺石の上面二ケ所梁に相對的な位置にはダイアル・ゲイジのスタンドをモルダルで取付けダイアル・ゲイジのスピンドルを前記硝子板に觸れしめ、荷重臺石の沈下による針の動きを觀測する事にした、（第4、5、9圖）然し針の動きの讀みを其儘荷重臺下とする爲には梁從つて梁受石が不動である事換言すれば梁受石が荷重臺の沈下其他の影石の沈響によつて上昇も沈下も爲さない事が條件である。此の爲に梁の中央に物尺を立て、約 11mの距離に固定したレベルに依つて梁の上昇沈下を觀測した（第1圖）、第12圖に於けるLはレベルの、B, Mは ベンチ・マークの位置を記したものである。本試驗の結果は物尺の讀み程度では梁の上昇又は沈下を認めなかつた。從つてダイアル・ゲイジの讀みを補正しなかつた。

7. 測　　定

A（正方形版）、B（圓版）同時に開始し、前述の如く毎回約 2 づつ載荷して各荷重に對する沈下をダイアル・ゲイジの讀みに依つて記錄した。載荷を了へてから次の載荷を開始するまでの時間は大體24時間とし、約12時間に於ける沈下の進行が2/10mm以下の場合は靜止と見做して次の載荷に取りかゝつた、ダイアル・ゲイジはA、B共1/100mm及1/1000mm讀各一個、計二個宛取付けた、1/100mm 讀の方は測定範圍 20mm、1/1000 讀の方は測定範

※此の鐵筋コンクリート梁の代りにI形鋼を用ひた經驗では日光直射其他の原因により目で見て解る程度の反曲を生じ、測定の正確を期し難い。

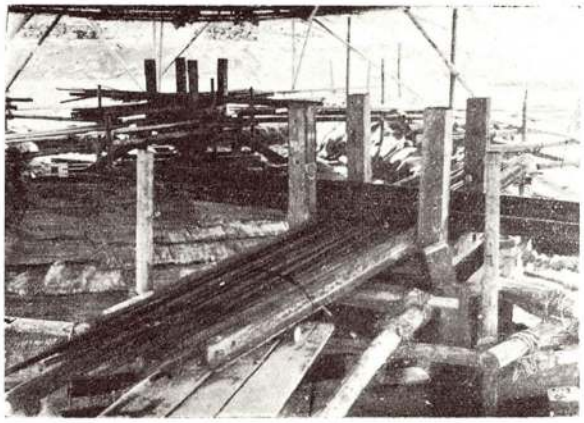


第9圖・ダイアルゲイジの取付

圍3mmである。然るに毎回の載荷直後には時に3mm以上の沈下を見る事があるので1/1000mm讀の方は沈下の最中に針を戻さねばならぬ場合があつて却て不都合を感じた。構造計算に使用した設計荷重（常時Pv≒15t/m2、地震時 Pv+≒17 t/m2）の約2倍に相當する12tに於て一週間次の載荷を行はずに沈下の進行の狀況を觀測した。以後は天候による中止を除いては靜止を待たず大體24時間毎に2tづつ載荷して24tに至り、48時間放置して除荷を開始した。除荷は24時間毎に約4tとし最初載荷したレールを殘して鐵筋全部を除去した。實驗に要した日數は準備期間を除いて26日である。

8. 測 定 結 果

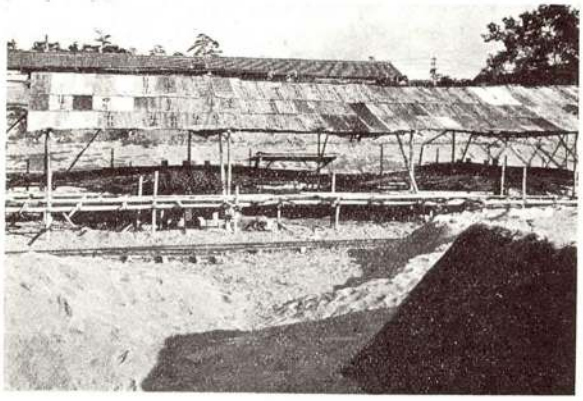
時間に對する沈下の記錄は第1、2表の如くである。表中備考の欄は主に和歌山市附近に頻繁に發生する地震記錄であるが、地震の爲沈下が增進した形跡は認められない。第16圖時間沈下曲線は第1、2表の平均沈下をプロツトしたものである。



第10圖・載 荷 狀 態

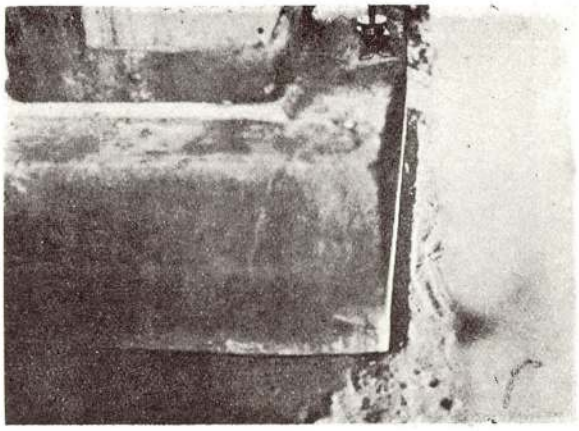


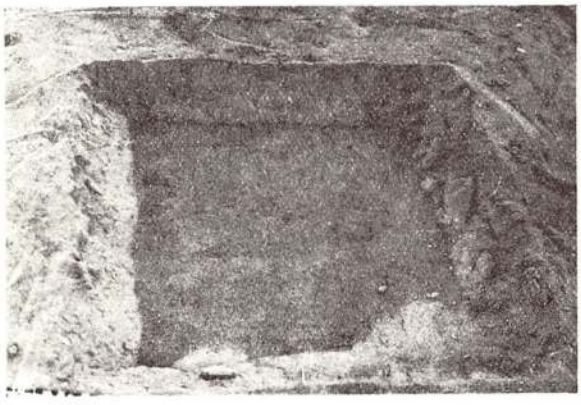
第11圖・荷重試驗狀況全景



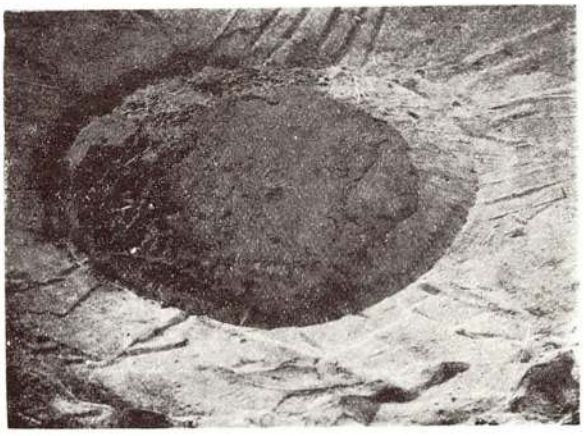
第12圖・荷重試驗狀況全景

第13圖・臺石附近の砂の滑動





第14圖・壓縮された砂面
（正方形版）



第15圖・壓縮された砂面（圓版）

第 1 表

日	時分	荷重 (t)	A₁ 合計沈下(mm) 最近荷重后	A₁ 合計沈下(mm) 最初ヨリ	A₂ 合計沈下(mm) 最近荷重后	A₂ 合計沈下(mm) 最初ヨリ	A₁A₂平均沈下(mm) 最近荷重后	A₁A₂平均沈下(mm) 最初ヨリ	備考
10.13 (曇)	后1.50	始原荷重 .619	0	0	0	0	0	0	
	3.14	+1.371 = 1.990 (載荷時間 2.50-3.12)	.449	.449	.395	.395	.422	.422	
	3.35		.503	.503	.400	.400	.452	.452	
	4.35		.496	.496	.403	.403	.450	.450	
	5.35		.496	.496	.397	.397	.447	.447	
	12.00		.498	.498	.425	.425	.462	.462	
10.14 (晴后曇)	前8.00		.492	.492	.425	.425	.459	.459	
	9.15		.538	.538	.450	.450	.494	.494	
	9.55	+2.002 = 3.992 (載荷時間 9.26-9.40)	1.870	2.408	.585	1.035	1.228	1.722	
	10.14		1.105	1.643	.695	1.145	.900	1.394	偏心直シ
	10.50		1.105	1.643	.703	1.153	.909	1.403	
	11.50		1.122	1.660	.707	1.157	.915	1.409	
	后1.30		1.124	1.662	.717	1.167	.921	1.415	
	4.00		1.150	1.688	.745	1.195	.948	1.442	
	9.00		1.121	1.659	.705	1.155	.913	1.407	
	12.00		1.114	1.652	.700	1.150	.907	1.401	
10.15 (晴一時曇)	前8.00		1.122	1.660	.740	1.190	.931	1.425	
	9.00		1.138	1.676	.727	1.177	.933	1.427	
	9.45	+1.995 = 5.987 (載荷時間 9.20-9.45)	.927	2.603	1.128	2.305	1.026	2.454	
	10.00		.953	2.629	1.166	2.343	1.060	2.486	
	10.15		.972	2.648	1.184	2.360	1.075	2.504	
	10.33		1.021	2.697	1.230	2.407	1.126	2.552	模ヲイダル
	10.45		1.050	2.726	1.268	2.445	1.159	2.586	
	11.15		1.125	2.751	1.286	2.463	1.206	2.607	15日11時4分19秒南北 5247ロン週期不明最西 94(90ロン週ヶ
	12.00		1.152	2.778	1.326	2.503	1.239	2.641	0.1秒以下動 421ロン週期微々タル地震但シ人体無感
	后1.00		1.172	2.802	1.349	2.526	1.263	2.664	発震地海ヲ海所近
	2.00		1.198	2.824	1.360	2.537	1.279	2.681	
	3.00		1.206	2.832	1.370	2.547	1.288	2.690	
	4.00		1.208	2.834	1.376	2.553	1.292	2.694	
	9.00		1.171	2.847	1.377	2.554	1.274	2.701	
	12.00		1.174	2.850	1.378	2.555	1.276	2.703	
10.16 (曇時小雨)	前8.50		1.202	2.878	1.416	2.593	1.309	2.736	
	9.30	+1.996 = 7.983 (載荷時間 9.10-9.30)	1.726	4.604	1.690	4.283	1.708	4.444	
	9.50		1.815	4.693	1.830	4.423	1.823	4.558	
	10.05		1.863	4.741	1.877	4.470	1.870	4.606	
	10.17		1.875	4.753	1.900	4.493	1.887	4.623	
	10.38		1.908	4.786	1.942	4.535	1.925	4.661	
	11.00		1.926	4.804	1.972	4.565	1.949	4.685	
	11.15		1.945	4.823	1.991	4.584	1.968	4.704	
	11.50		1.976	4.854	2.022	4.615	1.999	4.735	
	后0.30		2.002	4.880	2.054	4.647	2.028	4.764	
	1.30		2.037	4.915	2.092	4.685	2.064	4.800	
	3.00		2.070	4.948	2.132	4.725	2.106	4.837	
	4.00		2.085	4.963	2.157	4.750	2.121	4.857	
	9.45		2.142	5.020	2.212	4.805	2.177	4.913	
	12.00		2.154	5.032	2.222	4.815	2.188	4.924	

第 1 表 の 2

日	時分	荷重 (t)	A_1 合計沈下 (mm) 最近荷重后	A_1 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	A_2 合計沈下 (mm) 最近荷重后	A_2 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	A_1A_2 平均沈下 (mm) 最近荷重后	A_1A_2 平均沈下 (mm) 最初ヨリ	備考
10.17 (晴后曇)	前 4.00		2.202	5.080	2.314	4.907	2.258	4.994	
	9.00		2.221	5.101	2.307	4.900	2.264	5.001	
	9.40	+2.001=9.984 (載荷時間 9.15-9.35)	2.235	7.336	2.230	7.130	2.233	7.233	
	9.45		2.278	7.376	2.305	7.205	2.292	7.292	
	10.05		2.378	7.479	2.362	7.262	2.370	7.371	
	10.25		2.438	7.539	2.427	7.327	2.433	7.433	
	1049		2.487	7.588	2.481	7.381	2.484	7.485	
	11.20		2.535	7.636	2.541	7.441	2.538	7.538	
	11.50		2.569	7.670	2.588	7.488	2.578	7.579	
	后 1.00		2.629	7.730	2.653	7.553	2.641	7.636	
	2.00		2.679	7.780	2.708	7.608	2.693	7.694	
	3.00				2.729	7.629			
	4.00				2.748	7.648			
	5.30		2.765	7.866	2.774	7.694	2.779	7.780	
	8.45		2.794	7.895	2.827	7.727	2.810	7812	
	12.00		2.884	7.985	2.841	7.941	2.862	7.863	
10.18 (曇時雨)	前 3.03		2.890	7.991	2.921	7.821	2.905	7.906	
	10.00		2.937	8.038	2.985	7.885	2.961	7.962	
	10.45		2.940	8.041	3.000	7.900	2.970	7.970	
	11.00	+1.997=11.983 (載荷時間 10.50-11.00)	3.090	11.031	2.500	10.400	2.795	10.715	地表=crack, 見ヲリ。
	11.05		3.060	11.101	2.580	10.480	2.820	10.790	
	11.10		3.122	11.163	2.640	10.540	2.881	10.851	
	11.25		3.208	11.249	2.727	10.627	2.968	10.938	
	11.45		3.280	11.321	2.810	10.710	3.045	11.016	
	后 0.18		3.375	11.416	2.885	10.785	3.130	11.100	
	1.00		3.450	11.491	2.957	10.857	3.203	11.174	
	2.00		3.522	11.563	3.028	10.928	3.275	11.246	
	3.00		3.572	11.613	3.085	10.985	3.329	11.299	
	4.00		3.618	11.659	3.125	11.025	3.372	11.342	
	6.00		3.600	11.641	3.195	11.095	3.398	11.368	
	11.50		3.740	11.781	3.325	11.225	3.538	11.503	
10.19 (小雨風強)	前 8.00		3.870	11.911	3.450	11.350	3.660	11.631	
	12.00		3.920	11.961	3.495	11.395	3.708	11.678	
	后 4.00		3.960	12.001	3.547	11.447	3.754	11.724	
	12.00		3.998	12.039	3.588	11.488	3.793	11.764	
10.20 (曇后晴)	前 2.50		4.029	12.070	3.608	11.508	3.819	11.789	
	8.13		4.120	12.161	3.675	11.575	3.898	11.868	20日午前4時56分57秒南北48(1クロン週期1.8秒東西38(1クロン週期1.8秒上下動10(1クロン週期不明。
	后 4.00		4.185	12.226	3.750	11.640	3.968	11.933	供ヲ地面アリ殆ンド八丈島附近但シ人体無感
	7.40		4.190	12.231	3.765	11.655	3.978	11.943	20日后9時36分27秒南北44(1クロン東西 46(1クロン週期何レモ0.5上下動最大10(1クロン程度
	12.00		4.201	12.242	3.785	11.675	3.993	11.959	時間50秒 殆ンド地和歌山市附近人体感覚
10.21 (晴)	前 8.30		4.270	12.311	3.865	11.755	4.068	12.033	后11時24分22.3秒南北78(1クロン週期1.0秒 東西124(1クロン週期0.7秒上下動38(1クロン程度地 殆ンド感知セラレズ附近
	12.00		4.320	12.361	3.885	11.775	4.103	12.068	
	后 4.00		4.341	12.382	3.925	11.825	4.133	12.104	
	11.50		4.355	12.396	3.936	11.836	4.146	12.117	
10.22 (晴)	前 8.00		4.410	12.451	3.995	11.895	4.203	12.173	
	后 0.30		4.452	12.493	4.045	11.945	4.249	12.221	

第 1 表 の 3

日	時分	荷重 (t)	A_1 合計沈下 (mm) 最近荷重后	A_1 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	A_2 合計沈下 (mm) 最近荷重后	A_2 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	AA_2 平均沈下 (mm) 最近荷重后	AA_2 平均沈下 (mm) 最初ヨリ	備考
	4.00		4.484	12.525	4.053	11.953	4.269	12.241	
10.23 (晴)	12.00		4.484	12.525	4.053	11.953	4.269	12.241	
前	8.00		4.484	12.525	4.094	11.994	4.289	12.259	
	12.00		4.536	12.577	4.109	12.009	4.323	12.293	
后	1.30		4.550	12.591	4.126	12.026	4.338	12.309	
	1.42		4.505	12.546	4.250	12.150	4.378	12.348	模外ス。
	2.00		4.505	12.546	4.260	12.170	4.383	12.358	
	3.00		4.525	12.566	4.290	12.290	4.458	12.428	23日午后5時23分37秒 南北24ミクロン 東西18ミクロン
	4.00		4.550	12.591	4.405	12.305	4.478	12.448	上下動18ミクロン 週期何レモ微ニ伴フ地震 発震地
10.24 (晴)	12.00		4.570	12.661	4.445	12.345	4.508	12.478	和歌山附近 人体無感
前	8.05		4.665	12.706	4.445	12.455	4.610	12.581	
	12.00		4.710	12.751	4.600	12.500	4.655	12.626	
后	4.00		4.740	12.781	4.630	12.530	4.685	12.656	
	12.00		4.750	12.791	4.675	12.575	4.712	12.683	
10.25 (晴)	前 7.30		4.830	12.871	4.745	12.645	4.788	12.758	25日午前1時47分7秒 南北26ミクロン 週期02秒 東西22ミクロン
	9.00	+1.998 = 13.980 (載荷時間 8.35-8.57)	2.735	15.606	2.090	14.735	2.413	15.171	上下動26ミクロン 週期何レモ微 発震地 和歌浦湾附近
	9.05		2.860	15.731	2.255	14.900	2.558	15.316	人体感覚
	9.10		2.945	15.816	2.354	14.999	2.650	15.408	25日午前6時53分39秒 南北74ミクロン 東西248ミクロン 上下動最大
	9.15		2.985	15.856	2.420	15.065	2.703	15.461	振幅170ミクロン 週期何レモ微 振動時間55秒ナル処ノ地震
	9.30		3.025	15.896	2.570	15.215	2.798	15.566	発震地 和歌山附近 人体感覚
	9.45		3.100	15.971	2.660	15.305	2.880	15.638	
	10.15		3.169	16.040	2.762	15.407	2.966	15.724	
	10.45		3.288	16.059	2.878	15.523	3.033	15.791	
	11.00		3.343	16.214	2.910	15.555	3.127	15.885	
	11.30		3.411	16.282	2.986	15.631	3.199	15.957	
	12.00		3.450	16.321	3.050	15.695	3.250	16.008	
后	1.00		3.583	16.454	3.150	15.795	3.367	16.125	
	2.00		3.646	16.517	3.223	15.868	3.435	16.193	
	3.00		3.690	16.561	3.273	15.918	3.482	16.240	
	4.00		3.730	16.601	3.323	15.968	3.527	16.285	
	5.00		3.760	16.631	3.373	16.018	3.567	16.325	
	6.00		3.810	16.681	3.425	16.070	3.618	16.376	
	9.00		3.863	16.734	3.513	16.158	3.688	16.446	
10.26 (雨)	12.00		3.916	16.787	3.566	16.211	3.741	16.499	26日午后12時31分51秒 南北124ミクロン 週期1.1秒 余震
前	3.00		3.942	16.813	3.626	16.271	3.789	16.547	96ミクロン 週期1.8秒 上下動56ミクロン 週期1.2秒ノ微ノ地震
	8.00		4.095	16.966	3.718	16.363	3.907	16.665	発震地 本州中央部
后	1.00		4.139	17.010	3.813	16.458	3.976	16.734	
	4.00		4.217	17.088	3.848	16.493	4.033	16.791	26日午后6時34分4秒 南北256ミクロン 東西312ミクロン 上下動92ミクロン 週期何レモ微ノ微ノ地震 発震地 本州中部
10.27 (晴)	12.00		4.297	17.168	3.933	16.578	4.115	16.873	
前	8.00		4.345	17.216	3.987	16.632	4.166	16.924	
	8.45		4.367	17.238	4.049	16.694	4.208	16.966	
	12.00		4.522	17.353	4.508	16.703	4.290	17.028	
后	1.32	+1.995 = 15.975 (載荷時間 1時15分-1時30分)	2.905	20.258	3.787	20.490	3.346	20.372	
	1.35		3.280	20.633	4.428	21.131	3.854	20.882	
	1.40		3.880	21.233	4.738	21.441	4.309	21.337	
	1.45		3.970	21.323	4.813	21.516	4.392	21.420	

第 1 表 の 4

日	時分	荷重 (t)	A_1 合計沈下 (mm) 最近荷重后	A_1 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	A_2 合計沈下 (mm) 最近荷重后	A_2 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	A_1A_2平均沈下 (mm) 最近荷重后	A_1A_2平均沈下 (mm) 最初ヨリ	備考
	1.50		4.188	21.541	4.810	21.513	4.499	21.527	
	1.55		4.301	21.654	4.839	21.542	4.570	21.598	
	2.00		4.395	21.748	4.868	21.571	4.632	21.660	
	2.15		4.710	22.063	4.970	21.673	4.840	21.868	
	2.30		4.810	22.163	5.058	21.761	4.934	21.962	
	2.45		4.900	22.253	5.118	21.821	5.009	22.037	
	3.00		4.990	22.343	5.178	21.881	5.084	22.112	
	3.30		5.100	22.453	5.253	21.956	5.177	22.205	
	4.00		5.200	22.553	5.328	22.031	5.264	22.292	
	5.00		5.310	22.663	5.473	22.176	5.392	22.420	
	6.00		5.400	22.753	5.558	22.261	5.479	22.507	
	12.00		5.780	23.133	5.863	22.566	5.822	22.850	
10.28 (晴)	前7.30		6.110	23.463	6.558	23.261	6.334	23.362	
	9.30		6.178	23.531	6.700	23.403	6.439	23.467	
	12.00		6.253	23.606	6.772	23.475	6.513	23.538	
	后 1.00		6.286	23.639	6.804	23.507	6.545	23.573	
	1.45	+2.000 = 17.975 (載荷時間 1.10 − 1.40)	5.360	28.999	1.920	25.427	3.640	27.213	
	1.50		5.538	29.177	2.455	25.962	3.997	27.570	
	1.55		5.670	29.309	2.650	26.157	4.160	27.733	
	2.00		5.745	29.384	2.730	26.237	4.238	27.811	
	2.15		5.935	29.574	2.930	26.437	4.433	28.006	
	2.30		6.080	29.719	3.110	26.617	4.595	28.168	
	2.45		6.190	29.829	3.200	26.707	4.695	28.268	
	3.00		6.280	29.919	3.280	26.787	4.780	28.353	
	3.30		6.430	30.069	3.450	26.957	4.940	28.513	
	4.00		6.540	30.179	3.580	27.087	5.060	28.633	
	5.00		6.700	30.339	3.770	27.277	5.235	28.808	
	12.00		7.250	30.889	4.370	27.877	5.810	29.383	
10.29. (曇時々雨)	前 8.00		7.620	31.659	4.800	28.307	6.210	29.983	29日午前0時8分1秒東北38キロン震源0.2秒最大68
	9.06		7.650	31.689	4.830	28.337	6.240	30.013	ミクロン震源微小下動3.4キロン震源0.1秒×伸3.5倍
	11.00		7.653	31.692	4.876	28.383	6.265	30.038	秋葉地和歌山附近人体感覚
	11.36	+2.003 = 19.978 (載荷時間 11.12 − 11.36)	3.590	35.282	3.168	31.551	3.379	33.417	
	11.40		3.820	35.512	3.288	31.671	3.554	33.592	偏心直ン
	11.45		4.030	35.722	3.528	31.911	3.779	33.817	
	11.50		4.155	35.847	3.678	32.061	3.916	33.954	
	11.55		4.260	35.952	3.788	32.171	4.024	34.062	
	12.00		4.340	36.032	3.868	32.251	4.104	34.142	
	后 12.15		4.560	36.252	4.078	32.461	4.319	34.357	
	12.30		4.710	36.402	4.238	32.621	4.474	34.512	
	1.30		5.050	36.742	4.678	33.061	4.864	34.902	
	2.30		5.320	37.012	4.958	33.341	5.139	35.177	
	3.30		5.490	37.182	5.143	33.526	5.317	35.354	
	4.30		5.635	37.327	5.308	33.691	5.472	35.509	
	5.30		5.765	37.457	5.443	33.826	5.604	35.642	
	10.30		6.150	37.842	5.928	34.311	6.039	36.077	
10.30 (晴)	12.00		6.225	37.917	6.019	34.402	6.122	36.160	

第 1 表 の 5

日	時分	荷重 (t)	A_1 合計沈下 (mm) 最近荷重后	A_1 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	A_2 合計沈下 (mm) 最近荷重后	A_2 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	A_1A_2 平均沈下 (mm) 最近荷重后	A_1A_2 平均沈下 (mm) 最初ヨリ	備考
	3.00		6.305	37.997	6.116	34.499	6.211	36.247	
	8.00		6.550	38.242	6.408	34.791	6.479	36.517	
	9.30		6.590	38.282	6.458	34.841	6.524	36.562	
	12.00		6.660	38.352	6.514	34.897	6.587	36.625	
	后 1.15		6.758	38.450	6.565	34.948	6.662	36.699	
	1.55	+1.997 = 21.775 (載荷時間 1.37−1.55)	3.700	42.150	3.610	38.558	3.655	40.354	
	2.00		3.955	42.405	3.860	38.808	3.906	40.607	
	2.05		4.155	42.605	4.060	39.008	4.108	40.857	
	2.15		4.415	42.865	4.340	39.288	4.378	41.077	
	2.30		4.805	43.255	4.640	39.588	4.723	41.422	
	2.45		5.005	43.455	4.850	39.798	4.928	41.627	
	3.00		5.215	43.665	5.050	39.998	5.133	41.832	
	3.30		5.530	43.980	5.350	40.298	5.440	42.139	
	4.00		5.765	44.215	5.590	40.538	5.675	42.377	
	5.00		6.115	44.565	5.920	40.868	6.018	42.717	30日午前9時12分27秒頃北60°ワロー東西40°ワロー上下動30°ワロ少遅期何レモ0.3秒ヤ弱ノ地震ガ感ジ地滑路北西海ト附近ニ人体ニ感ズ。
	12.00		7.245	45.695	7.000	41.948	7.123	43.822	
10.31 (晴)	前 3.30		7.565	46.915	7.318	42.266	7.442	44.141	
	8.00		7.915	46.335	7.650	42.598	7.783	44.467	
	9.15		8.005	46.425	7.750	42.698	7.878	44.562	
	12.00		8.165	46.585	7.918	42.866	8.042	44.726	
	后 1.20		8.214	46.639	7.973	42.921	8.094	44.780	
	1.56	+2.000 = 23.995 (載荷時間 1.35−1.51)	3.870	50.509	4.633	47.554	4.252	49.032	
	1.58		4.040	50.679	4.933	47.854	4.487	49.267	
	2.00		4.150	50.787	5.068	47.989	4.609	49.389	
	2.02		4.180	50.819	5.458	48.379	4.819	49.599	
	2.03		4.220	50.859	5.598	48.519	4.909	49.689	
	2.05		4.400	51.039	5.968	48.889	5.184	49.964	偏心直ヅ
	2.06		4.540	51.179	6.066	48.987	5.303	50.083	〃
	2.07		4.615	51.254	6.128	49.049	5.372	50.152	〃
	2.08		4.725	51.364	6.178	49.099	5.451	50.232	
	2.09		4.760	51.399	6.248	49.169	5.504	50.284	
	2.10		4.790	51.429	6.298	49.219	5.544	50.324	
	2.13		4.850	51.489	6.498	49.419	5.674	50.454	
	2.15		4.887	51.526	6.618	49.539	5.753	50.533	
	2.20		5.000	51.639	6.898	49.819	5.949	50.729	
	2.30		5.209	51.848	7.278	50.199	6.244	51.024	
	2.45		5.599	52.238	7.728	50.649	6.664	51.444	
	3.00		5.974	52.613	8.173	51.094	7.074	51.854	
	3.35		6.359	52.998	8.628	51.549	7.494	52.274	
	4.00		6.649	53.288	9.008	51.929	7.829	52.609	
	4.30		6.887	53.528	9.278	52.199	8.084	52.864	
	8.00		8.034	54.673	10.488	53.409	9.261	54.041	
	12.00		8.709	55.348	11.176	54.097	9.943	54.723	
11.1 (曇)	前 3.30		9.209	55.848	11.668	54.589	10.439	55.219	
	8.30		9.559	56.198	12.023	54.144	10.791	55.671	
	后 1.00		9.859	56.498	12.328	55.249	11.094	55.874	

第 1 表 の 6

日	時分	荷重(t)	A_1 合計沈下(mm) 最近荷重后	A_1 合計沈下(mm) 最初ヨリ	A_2 合計沈下(mm) 最近荷重后	A_2 合計沈下(mm) 最初ヨリ	A_1A_2平均沈下(mm) 最近荷重后	A_1A_2平均沈下(mm) 最初ヨリ	備考
	6.30		10.159	56.798	12.643	55.564	11.401	56.181	楔ヲ直ス。
	10.30		10.349	56.988	12.893	55.814	11.621	56.401	〃
11.2 (晴)	前 8.00		10.729	57.368	13.333	56.254	12.031	56.811	
	9.20		10.814	57.453	13.393	56.314	12.104	56.884	
	10.30	−3.997=19978 (除荷時間 9.55-10.30)	−.250	57.203	+.500	56.814	+.125	57.009	
	11.10		−.295	57.158	+.520	56.834	+.113	56.996	
	11.30		−.310	57.143	+.545	56.859	+.118	57.001	龜裂 17.6cm ニ達ス。
	12.00		−.313	57.140	+.543	56.857	+.115	56.999	
	后 2.00		−.313	57.140	+.543	56.857	+.115	56.999	
	3.00		−.313	57.140	+.543	56.857	+.115	56.999	
	4.00		−.313	57.140	+.543	56.857	+.115	56.999	
	5.00		−.313	57.140	+.543	56.857	+.115	56.999	
11.3 (曇后雨)	前 9.15		−.290	57.163	+.589	56.903	+.150	57.034	
	9.52	−4.003=15.975 (除荷時間 9.30-10.09)	−.305	57.148	+.311	56.625	+.003	56.887	
	9.53		−.290	57.163	+.101	56.415	−.095	56.789	
	10.03		−.275	57.178	+.021	56.335	−.127	56.757	
	10.06		−.335	57.118	+.011	56.325	−.162	56.722	
	10.10		−.420	57.033	+.046	56.360	−.187	56.697	
	11.03		−.415	57.038	+.041	56.355	−.187	56.697	
	12.00		−.415	57.038	+.041	56.355	−.187	56.697	
11.4 (曇后雨)	前 8.50		−.440	57.013	+.031	56.345	−.205	56.679	
	10.00	−4.000=11.975 (除荷時間 9.05-10.40)	−1.025	56.428	−.346	55.999	−.686	56.214	
	12.00		−1.025	56.403	−.334	56.087	−.692	56.245	
	后 2.00		−1.075	56.378	−.342	56.079	−.709	56.229	
	6.00		−1.087	56.366	−.342	56.079	−.715	56.223	
11.5 (雨)	前 9.00		−1.125	56.328	−.347	56.074	−.736	56.201	
	10.25	−3.993=7.982 (除荷時間 9.40-10.24)	−1.765	55.688	−1.137	55.284	−1.451	55.486	
	后 1.00		−1.795	55.658	−1.122	55.269	−1.459	55.414	
	6.00		−1.860	55.593	−1.177	55.214	−1.519	55.404	
11.6 (晴)	前 9.15		−1.875	55.578	−1.197	55.194	−1.536	55.374	
	9.30		−1.905	55.548	−1.237	55.154	−1.571	55.351	
	10.15	−3.999=3.983 (除荷時間 9.30-10.15)	−2.465	54.988	−3.217	53.174	−2.841	54.081	
	10.20		−2.625	54.828	−3.087	53.304	−2.856	54.066	
	后 1.00		−2.645	54.808	−3.172	53.214	−2.909	54.014	
	4.00		−2.665	54.788	−3.277	53.114	−2.907	53.951	
	6.00		−2.685	54.768	−3.297	53.094	−2.991	53.931	
11.7 (雨)	前 9.00		−2.700	54.753	−3.307	53.104	−3.004	53.929	
	12.00		−5.010	52.443	−4.977	51.434	−4.994	52.939	
	后 1.35	−2.639=1.344 (除荷時間 0.30-1.00)	−5.407	52.046	−5.077	51.334	−5.242	51.690	

第 2 表 の 1

日	時分	荷重(t)	B_1 合計 沈下(mm) 最近荷重右	B_1 合計 沈下(mm) 最初ヨリ	B_2 合計 沈下(mm) 最近荷重右	B_2 合計 沈下(mm) 最初ヨリ	B_1B_2 平均 沈下(mm) 最近荷重右	B_1B_2 平均 沈下(mm) 最初ヨリ	備考
10.13	右 1.50	始原荷重 .630	0	0	0	0	0	0	
	2.50	+1.367=1.997 (載荷時間 2.35-2.50)	.687	.687	.435	.435	.561	.561	
	3.05		.687	.687	.440	.440	.564	.564	
	3.30		.736	.736	.461	.461	.599	.599	
	4.00		.747	.747	.468	.468	.608	.608	
	5.00		.748	.748	.460	.460	.604	.604	
	12.00		.756	.756	.495	.495	.626	.626	
10.14	前 8.00		.781	.781	.470	.470	.626	.626	
	9.45		.782	.782	.495	.495	.639	.639	
	10.05		1.001	1.783	1.345	1.840	1.173	1.812	
	10.56	+2.000=3.997 (載荷時間 9.45-10.00	1.025	1.807	1.407	1.902	1.216	1.855	
	12.00		1.025	1.807	1.433	1.928	1.229	1.868	
	右 1.30		1.026	1.808	1.457	1.952	1.242	1.881	
	4.00		1.057	1.839	1.525	2.020	1.341	1.980	
	9.00		1.057	1.839	1.495	1.990	1.276	1.915	
	12.00		1.046	1.828	1.475	1.970	1.261	1.900	
10.15	前 8.00		1.062	1.844	1.515	2.010	1.289	1.928	
	9.00	+1.996=5.993 (載荷時間 9.55-10.15)	1.057	1.839	1.570	2.065	1.314	1.952	
	10.15		1.497	3.336	2.115	4.180	1.806	3.758	
	10.30		1.499	3.338	2.130	4.195	1.815	3.767	
	10.50		1.568	3.407	2.140	4.205	1.859	3.806	
	11.14		1.584	3.423	2.156	4.221	1.870	3.822	
	12.00		1.625	3.464	2.179	4.244	1.901	3.854	
	右 1.00		1.650	3.489	2.197	4.262	1.924	3.876	
	2.00		1.673	3.512	2.215	4.280	1.945	3.896	
	3.00		1.678	3.517	2.225	4.290	1.952	3.904	
	4.00		1.687	3.526	2.236	4.301	1.962	3.914	
	9.00		1.691	3.530	2.245	4.310	1.968	3.920	
	12.00		1.699	3.538	2.255	4.320	1.977	3.929	
10.16	前 8.50	+1.998=9.990 (載荷時間 9.35-9.55)	1.738	3.577	2.286	4.351	2.012	3.964	
	9.57		2.633	6.210	2.669	7.020	2.651	6.615	
	10.13		2.674	6.251	2.689	7.040	2.682	6.646	
	10.25		2.688	6.265	2.704	7.055	2.696	6.660	
	10.45		2.724	6.301	2.729	7.080	2.727	6.691	
	11.02		2.745	6.322	2.739	7.090	2.742	6.706	
	11.17		2.762	6.339	2.747	7.098	2.755	6.719	
	11.45		2.781	6.358	2.769	7.120	2.775	6.739	
	右 12.30		2.820	6.397	2.791	7.142	2.806	6.770	
	1.30		2.860	6.437	2.819	7.170	2.840	6.804	
	3.05		2.902	6.479	2.854	7.205	2.878	6.842	
	4.00		2.927	6.504	2.869	7.220	2.898	6.862	
	9.45		3.009	6.586	2.904	7.250	2.957	6.921	
	12.00		3.026	6.603	2.919	7.270	2.973	6.937	
10.17	前 12.40		3.016	6.593	2.939	7.290	2.978	6.947	
	9.00		3114	6.691	2.974	7.330	3.047	7.011	
	9.45	+1.993=9.984 (載荷時間 9.45-10.10)	3.147	6.724	3.005	7.356	3.076	7.040	

第 2 表 の 2

日	時分	荷重 (t)	B_1 合計沈下 (mm) 最近荷重后	B_1 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	B_2 合計沈下 (mm) 最近荷重后	B_2 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	B_1B_2 平均沈下 (mm) 最近荷重后	B_1B_2 平均沈下 (mm) 最初ヨリ	備考
	10.12		2.210	8.934	2.638	9.994	2.424	9.464	
	10.25		2.325	9.049	2.704	10.060	2.510	9.555	
	10.48		2.420	9.144	2.769	10.225	2.590	9.634	
	11.20		2.568	9.292	2.814	10.170	2.691	9.731	
	11.50		2.641	9.365	2.854	10.210	2.747	9.787	
	后 1.00		2.780	9.504	2.904	10.260	2.842	9.882	
	2.00		2.860	9.584	2.952	10.308	2.901	9.946	
	3.00		2.910	9.634	2.979	10.335	2.944	9.984	
	4.00		2.960	9.684	3.009	10.365	2.984	10.024	
	5.30		3.015	9.739	3.034	10.390	3.024	10.064	
	7.50		3.060	9.784	3.073	10.429	3.066	10.106	
	正 12.00		3.165	9.889	3.207	10.563	3.186	10.226	
10.18	前 3.00		3.210	9.934	3.243	10.599	3.226	10.266	
	10.00		3.280	10.004	3.303	10.659	3.291	10.331	
	10.17	+1.9962=11.980 (載荷時間 10.05-10.15)	2.440	12.444	2.560	13.219	2.500	12.831	
	10.30		2.578	12.582	2.680	13.339	2.629	12.960	
	10.35		2.662	12.626	2.720	13.379	2.671	13.002	
	10.40		2.660	12.664	2.784	13.443	2.722	13.053	
	10.55		2.745	12.749	2.825	13.484	2.785	13.116	
	11.10		2.828	12.832	2.879	13.538	2.853	13.185	
	11.25		2.879	12.883	2.932	13.591	2.905	13.237	
	11.50		2.955	12.959	2.998	13.657	2.976	13.308	
	后 12.18		3.012	13.016	3.075	13.734	3.043	13.375	
	1.00		3.117	13.121	3.147	13.806	3.132	13.463	
	2.00		3.206	13.210	3.180	13.839	3.193	13.525	
	3.00		3.281	13.285	3.239	13.898	3.260	13.592	
	4.00		3.332	13.336	3.287	13.946	3.310	13.643	
	6.00		3.432	13.436	3.377	14.036	3.405	13.736	
	11.50		3.610	13.614	3.535	14.194	3.573	13.904	
10.19	前 3.00		3.698	13.702	3.613	14.272	3.656	13.987	
	8.00		3.779	13.783	3.758	14.417	3.769	14.100	
	正 12.00		3.840	13.844	3.811	14.470	3.826	14.153	
	后 4.00		3.915	13.919	3.865	14.524	3.890	14.222	
	正 12.00		3.982	13.986	3.931	14.590	3.957	14.278	
10.20	前 2.50		4.013	14.017	3.952	14.611	3.984	14.314	
	8.13		4.093	14.097	4.008	14.667	4.051	14.382	
	后 4.00		4.259	14.263	4.102	14.761	4.181	14.522	
	7.40		4.279	14.283	4.109	14.768	4.194	14.526	人体感ズル地震アリ。
10.21	前 8.30		4.438	14.442	4.154	14.813	4.296	14.628	
	正 12.00		4.438	14.442	4.238	14.897	4.338	14.670	
	后 4.00		4.540	14.544	4.279	14.938	4.410	14.741	
	11.50		4.552	14.556	4.281	14.940	4.417	14.748	
10.22	前 8.00		4.557	14.561	4.282	14.941	4.420	14.751	
	后 12.30		4.683	14.687	4.354	15.013	4.519	14.850	
	4.00		4.707	14.711	4.355	15.014	4.533	14.863	
	正 12.00		4.767	14.771	4.356	15.015	4.562	14.893	

第 2 表 の 3

日	時分	荷重 (t)	B_1 合計 沈下(mm) 最近荷重后	B_1 合計 沈下(mm) 最初ヨリ	B_2 合計 沈下(mm) 最近荷重后	B_2 合計 沈下(mm) 最初ヨリ	B_1B_2 平均沈下(mm) 最近荷重后	B_1B_2 平均沈下(mm) 最初ヨリ	備考
10.23	前 8.00		4.838	14.842	4.356	15.015	4.597	14.929	模ヲ外ス。
	正 12.00		4.958	14.962	4.356	15.015	4.657	14.989	
	后 1.30		4.976	14.980	4.356	15.015	4.666	14.998	
	3.00		4.993	14.997	4.358	15.017	4.676	15.008	
	4.00		5.026	15.033	4.358	15.017	4.693	15.024	
	正 12.00		5.036	15.040	4.359	15.018	4.698	15.029	
10.24	前 8.05		5.108	15.112	4.378	15.037	4.743	15.075	
	正 12.00		5.127	15.131	4.418	15.077	4.773	15.105	
	后 4.00		5.158	15.162	4.458	15.117	4.808	15.140	
10.25	前 12.50		5.159	15.163	4.458	15.117	4.801	15.140	
	7.30		5.160	15.164	4.483	15.142	4.822	15.153	
	9.50		5.160	15.164	4.496	15.155	4.828	15.160	
	10.39	+1.994 = 13.979 (載荷時間 10.20 − 10.38)	2.382	17.546	2.110	17.266	2.246	17.406	
	1043		2.662	17.826	2.144	17.300	2.403	17.563	
	10.50		2.877	18.041	2.208	17.364	2.543	17.703	
	11.00		3.042	18.206	2.262	17.418	2.652	17.812	
	11.15		3.202	18.366	2.333	17.489	2.768	17.928	
	11.30		3.297	18.461	2.368	17.524	2.833	17.993	
	11.40		3.372	18.536	2.408	17.564	2.890	18.050	
	正 12.00		3.452	18.616	2.443	17.599	2.947	18.108	
	后 12.30		3.532	18.696	2.493	17.649	3.013	18.173	
	1.00		3.622	18.786	2.533	17.689	3.078	18.238	
	2.00		3.742	18.906	2.613	17.769	3.178	18.338	
	3.00		3.862	19.026	2.683	17.839	3.273	18.433	
	4.00		3.952	19.116	2.733	17.889	3.343	18.503	
	5.00		4.007	19.171	2.733	17.929	3.390	18.550	
	6.00		4.062	19.226	2.808	17.964	3.435	18.595	
	9.00		4.172	19.336	2.873	18.029	3.523	18.683	
	正 12.00		4.237	19.401	2.918	18.074	3.578	18.738	
10.26	前 3.00		4.290	19.454	2.957	18.113	3.624	18.784	
	8.00		4.402	19.566	3.073	18.229	3.738	18.898	
	后 1.00		4.507	19.671	3.168	18.324	3.838	18.998	
	4.00		4.552	19.716	3.223	18.379	3.888	19.048	
	正 12.00		4.642	19.806	3.303	18.459	3.973	19.133	
10.27	前 8.00		4.742	19.906	3.363	18.519	4.053	19.213	
	8.45		4.832	19.996	3.368	18.524	4.101	19.261	
	9.45	+1.991 = 15.969 (載荷時間 9.08 − 9.40)	7.570	27.566	4.905	23.429	6.238	25.493	著シキ偏心アリシタメ
	9.50		7.030	27.026	6.285	24.809	6.658	25.918	屢々鐵筋ヲ移動ス
	9.55		6.960	26.956	6.845	25.369	6.903	26.163	調節シタリ。
	10.05		7.170	27.166	7.745	26.269	7.458	26.718	
	10.10		7.212	27.208	7.775	26.299	7.494	26.754	
	10.15		7.250	27.246	7.775	26.299	7.513	26.770	
	10.20		7.275	27.271	7.790	26.314	7.533	26.793	
	10.25		7.290	27.286	7.805	26.329	7.548	26.808	
	10.30		7.312	27.308	7.828	26.352	7.570	26.830	
	10.45		7.358	27.354	7.870	26.394	7.614	26.874	

第 2 表 の 4

日	時分	荷重 (t)	B_1 合計沈下 (mm) 最近荷重后	B_1 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	B_2 合計沈下 (mm) 最近荷重后	B_2 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	B_1B_2 平均沈下(mm). 最近荷重后	B_1B_2 平均沈下(mm). 最初ヨリ	備考
	11.00		7.398	27.394	7.913	26.437	7.656	26.916	
	11.30		7.441	27.437	7.953	26.477	7.697	26.957	
	正12.00		7.478	27.474	7.987	26.511	7.733	26.993	
	后12.55		7.540	27.536	8.060	26.584	7.800	27.061	
	2.15		7.621	27.619	8.215	26.739	7.918	27.178	
	3.00		7.661	27.657	8.260	26.784	7.961	27.221	
	4.00		7.701	27.697	8.305	26.829	8.003	27.263	
	5.00		7.716	27.712	8.338	26.862	8.027	27.287	
	6.00		7.721	27.717	8.364	26.888	8.043	27.303	
	正12.00		7.870	27.866	8.539	27.063	8.205	27.465	
10.28	前 3.00		7.914	27.910	8.605	27.129	8.260	27.520	
	7.30		7.984	27.980	8.685	27.209	8.335	27.595	
	9.30		8.025	28.021	8.739	27.263	8.382	27.642	
	10.06	+2.004=17.973 (載荷時間 9.45-10.15)	2.892	30.913	2.785	30.048	2.839	30.481	
	10.10		3.087	31.108	2.820	30.083	2.954	30.596	
	10.15		3.257	31.278	3.125	30.388	3.191	30.833	偏心直ジ
	10.20		3.331	31.352	3.180	30.443	3.256	30.898	
	10.3		3.484	31.505	3.325	30.588	3.405	31.047	
	11.00		3.682	31.703	3.515	30.778	3.599	31.241	
	11.30		3.782	31.803	3.645	30.908	3.714	31.356	
	正12.00		3.882	31.903	3.735	30.998	3.809	31.451	
	后 1.00		4.037	31.958	3.905	31.168	3.971	31.563	
	2.15		4.179	32.100	4.025	31.288	4.102	31.694	
	3.00		4.253	32.174	4.081	31.344	4.167	31.759	
	4.00		4.363	32.284	4.188	31.451	4.276	31.868	
	5.00		4.398	32.319	4.250	31.513	4.324	31.916	
	正12.00		4.683	32.604	4.550	31.813	4.616	32.208	
10.29	前 8.00		4.983	32.804	4.850	32.113	4.916	32.508	
	9.08		4.988	32.909	4.850	32.113	4.918	32.511	
	9.34	+2.000=19.973 (載荷時間 9.08-9.34)	2.450	35.359	2.978	35.091	2.714	35.225	
	9.40		2.915	35.824	3.075	35.188	2.995	35.506	
	9.45		3.180	36.089	3.225	35.338	3.203	35.714	偏心直ジ
	9.50		3.320	36.229	3.320	35.433	3.320	35.831	
	10.00		3.575	36.484	3.475	35.588	3.535	36.036	
	10.15		3.850	36.759	3.740	35.853	3.795	36.306	
	10.30		4.010	36.919	3.880	35.993	3.945	36.456	
	10.45		4.170	37.079	4.010	36.123	4.090	36.601	
	11.00		4.232	37.141	4.072	36.185	4.152	36.663	
	11.45		4.481	37.390	4.324	36.437	4.403	36.914	
	后 12.30		4.661	37.570	4.476	36.589	4.569	37.080	
	1.30		4.861	37.770	4.660	36.773	4.761	37.272	
	2.30		5.019	37.928	4.790	36.903	4.905	37.416	
	3.30		5.124	38.043	4.905	37.018	5.015	37.531	
	4.30		5.249	38.168	5.002	37.115	5.126	37.642	
	5.30		5.349	38.278	5.099	37.212	5.229	37.745	
	10.30		5.719	38.638	5.435	37.548	5.577	38.093	

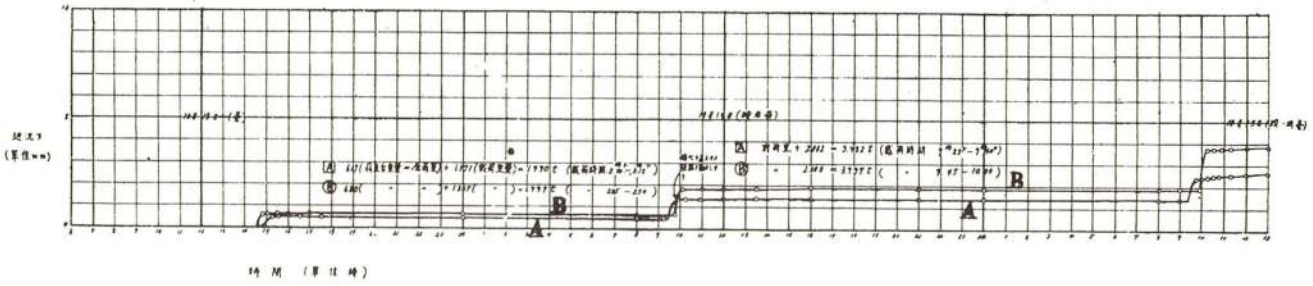
第 2 表 の 5

日	時分	荷重 (t)	B_1 合計沈下 (mm) 最近荷重后	B_1 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	B_2 合計沈下 (mm) 最近荷重后	B_2 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	B_1B_2 平均沈下 (mm) 最近荷重后	B_1B_2 平均沈下 (mm) 最初ヨリ	備考
	12.00		5.795	38.714	5.508	37.618	5.650	38.166	
10.30	前 3.00		5.874	38.793	5.578	37.691	5.726	38.242	
	8.00		6.174	39.093	5.836	37.949	6.005	38.521	
	9.30		6.208	39.127	5.894	38.007	6.051	38.567	
	10.04	+1.994 = 21.967 (載荷時間 9.45 − 10.04)	2.330	41.457	3.160	41.167	2.745	41.312	
	10.07		2.720	41.847	3.475	41.482	3.098	41.665	
	10.10		2.950	42.077	3.700	41.707	3.325	41.892	
	10.15		3.200	42.327	3.920	41.927	3.560	42.127	
	10.30		3.650	42.777	4.360	42.367	4.005	42.572	
	11.00		4.115	43.242	4.780	42.787	4.448	43.015	
	11.30		4.440	43.567	5.100	43.107	4.770	43.337	
	正 12.00		4.640	43.767	5.290	43.297	4.965	43.537	
	后 1.15		5.075	44.202	5.700	43.707	5.388	43.955	
	2.00		5.267	44.394	5.905	43.912	5.586	44.153	
	3.00		5.438	44.565	6.099	44.106	5.769	44.336	
	4.00		5.641	44.768	6.295	44.302	5.968	44.535	
	5.00		5.746	44.873	6.460	44.467	6.103	44.670	
	正 12.00		6.471	45.598	7.140	45.147	6.806	45.373	
10.31	前 3.30		6.701	45.828	7.339	45.346	7.020	45.587	
	8.00		6.971	46.098	7.561	45.568	7.266	45.833	
	9.15		7.050	46.177	7.625	45.632	7.338	45.905	
	9.50		7.080	46.207	7.656	45.663	7.368	45.935	
	10.14	+2.001 = 23.968 (載荷時間 9.50 − 10.13)	3.220	49.427	3.278	48.941	3.249	49.184	
	10.17		3.760	49.967	3.388	49.051	3.574	49.509	
	10.20		4.240	50.447	3.463	49.126	3.852	49.787	
	10.23		4.400	50.607	3.678	49.341	4.039	49.974	偏心直シ
	10.25		4.480	50.687	3.743	49.406	4.112	50.047	
	10.27		4.530	50.737	3.888	49.551	4.209	50.144	
	10.30		4.645	50.852	3.948	49.611	4.297	50.232	
	10.35		4.715	50.922	4.188	49.851	4.452	50.387	偏心直シ
	10.45		4.925	51.132	4.418	50.081	4.672	50.607	
	11.00		5.150	51.357	4.638	50.301	4.894	50.829	
	11.15		5.370	51.577	4.840	50.511	5.109	51.044	
	11.23		5.480	51.687	4.948	50.611	5.214	51.149	
	11.30		5.590	51.797	5.048	50.711	5.319	51.254	
	正 12.00		5.730	51.937	5.168	50.831	5.449	51.384	楔ヲ直ス
	后 1.20		6.225	52.432	5.688	51.351	5.957	51.892	
	2.45		6.790	52.997	6.037	51.700	6.414	52.349	
	3.35		7.005	53.212	6.221	51.884	6.613	52.548	
	4.30		7.155	53.362	6.391	52.054	6.773	52.708	
	4.45		7.200	53.407	6.442	52.105	6.821	52.756	
	8.00		7.530	53.737	6.847	52.510	7.189	53.124	
	正 12.00		7.935	54.142	7.212	52.875	7.574	53.509	
11.1	前 8.30		8.614	54.821	7.797	53.460	8.206	54.141	
	后 1.00		8.820	55.027	7.967	53.630	8.394	54.329	1時55分 偏心直シ
	2.00		8.865	55.072	8.009	53.672	8.437	54.372	

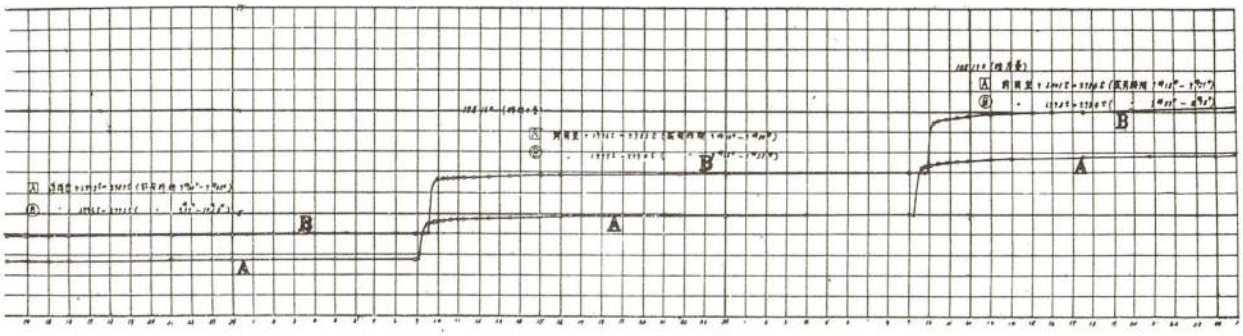
第 2 表 の 6

日	時分	荷重 (t)	B_1 合計沈下 (mm) 最近荷重后	B_1 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	B_2 合計沈下 (mm) 最近荷重后	B_2 合計沈下 (mm) 最初ヨリ	B_1B_2 平均沈下 (mm) 最近荷重后	B_1B_2 平均沈下 (mm) 最初ヨリ	備考
	6.30		9.025	55.232	8.185	53.848	8.607	54.540	
	10.30		9.150	55.357	8.322	53.985	8.736	54.671	
14.2	前 8.00		9.387	55.594	8.617	54.280	9.002	54.937	
	9.20		9.390	55.597	8.461	54.436	8.926	55.017	
	10.35		+.219	55.816	-.296	54.140	-.036	54.978	
	11.30	-3.995 = 19.973 (除荷時間 10.35 - 11.03)	+.219	55.816	-.296	54.140	-.036	54.978	
	正 12.00		+.219	55.816	-.306	54.130	-.046	54.978	
	后 1.00		+.219	55.816	-.306	54.130	-.041	54.973	
	3.00		+.219	55.816	-.306	54.130	-.041	54.973	
	5.00		+.219	55.816	-.306	54.130	-.041	54.973	
	9.00		+.219	55.816	-.306	54.130	-.041	54.973	
14.3	前 9.15		+.229	55.826	-.306	54.130	-.036	54.978	(人夫台ノ上ニノボッテ ダイアルゲージ上ル)
	10.12		+.210	55.807	-.176	54.260	+.017	55.034	
	10.25	-4.003 = 15.970 (除荷時間 10.12 - 10.55)	+.325	55.922	-.181	54.255	+.072	55.089	
	10.45		+.297	55.894	-.181	54.250	+.056	55.072	
	11.00		+.509	56.106	-.421	54.015	+.043	55.061	
	正 12.00		+.540	56.137	-.401	54.036	+.070	55.086	
	后 6.00		+.545	56.142	-.401	54.036	+.072	55.089	
14.4	前 8.50		+.555	56.152	-.466	53.970	+.045	55.061	
	10.45	-4.009 = 11.961 (除荷時間 10.07 - 10.43)	-.331	55.266	-.574	53.862	-.453	54.564	楔ヲイケル。
	正 12.00		-.388	55.209	-.576	53.860	-.482	54.535	
	后 2.00		-.393	55.204	-.576	53.860	-.485	54.532	
	6.00		-.393	55.204	-.576	53.860	-.485	54.532	
14.5	前 9.00		-.388	55.209	-.576	53.860	-.482	54.535	
	9.20		-.388	55.209	-.576	53.860	-.482	54.535	
	9.30		-.388	55.209	-.576	53.860	-.482	54.535	
	11.15	-4.014 = 7.947 (除荷時間 10.32 - 11.10)	-.674	53.933	-1.514	52.922	-1.094	53.427	
	后 3.00		-.699	53.908	-1.516	52.920	-1.108	53.414	
	6.00		-.709	53.898	-1.529	52.907	-1.119	53.403	
14.6	前 9.15		-.739	53.868	-1.573	52.863	-1.156	53.366	
	11.00	-3.997 = 3.950 (除荷時間 10.20 - 11.00)	-1.314	52.293	-2.256	52.180	-1.785	52.237	
	后 4.00		-1.363	52.244	-2.308	52.128	-1.836	52.186	
	6.00		-1.380	52.227	-2.332	52.104	-1.856	52.166	
	9.00		-1.410	52.257	-2.348	52.088	-1.879	52.173	
14.7	后 1.30	-2.721 = 1.229 (除荷時間 1.00 - 1.30)	-4.416	49.249	-4.413	50.023	-4.415	49.636	
	1.45		-4.710	48.955	-4.563	49.873	-4.637	49.414	

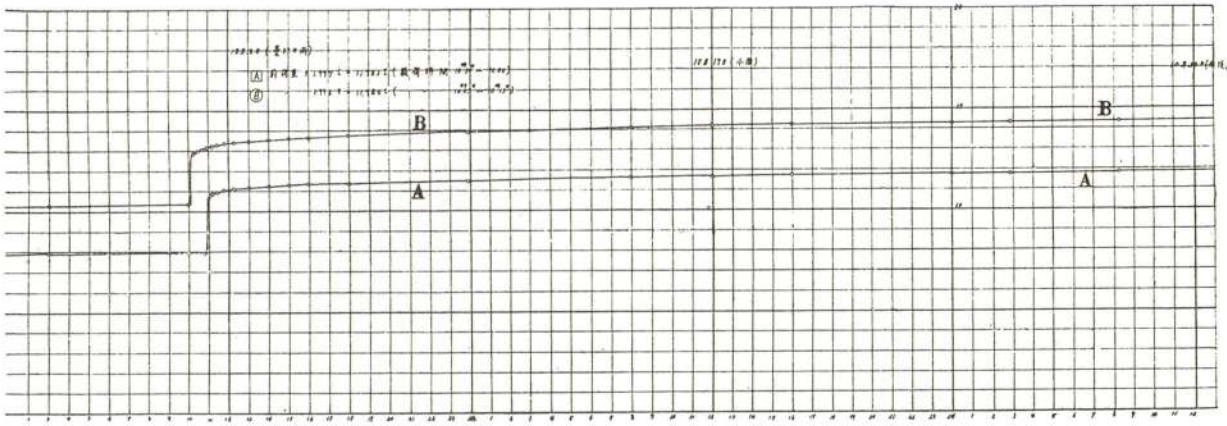
第16圖の 1 ・ 時 間 沈 下 曲 線



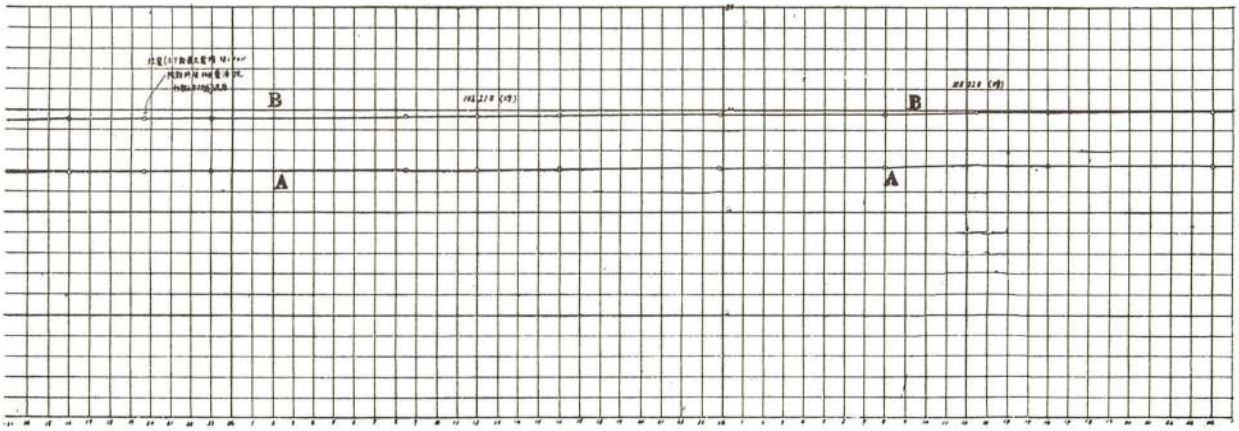
同　2



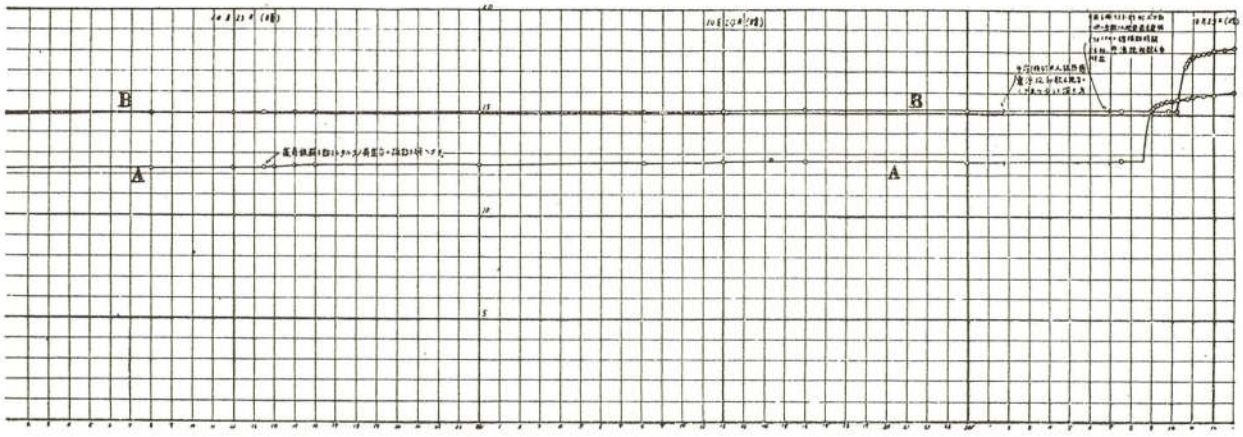
同　3



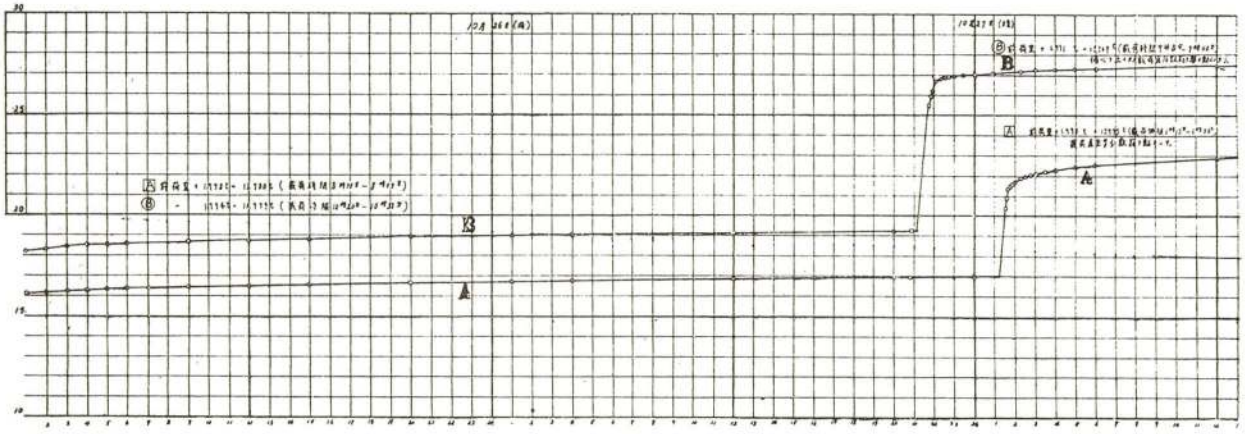
同　4



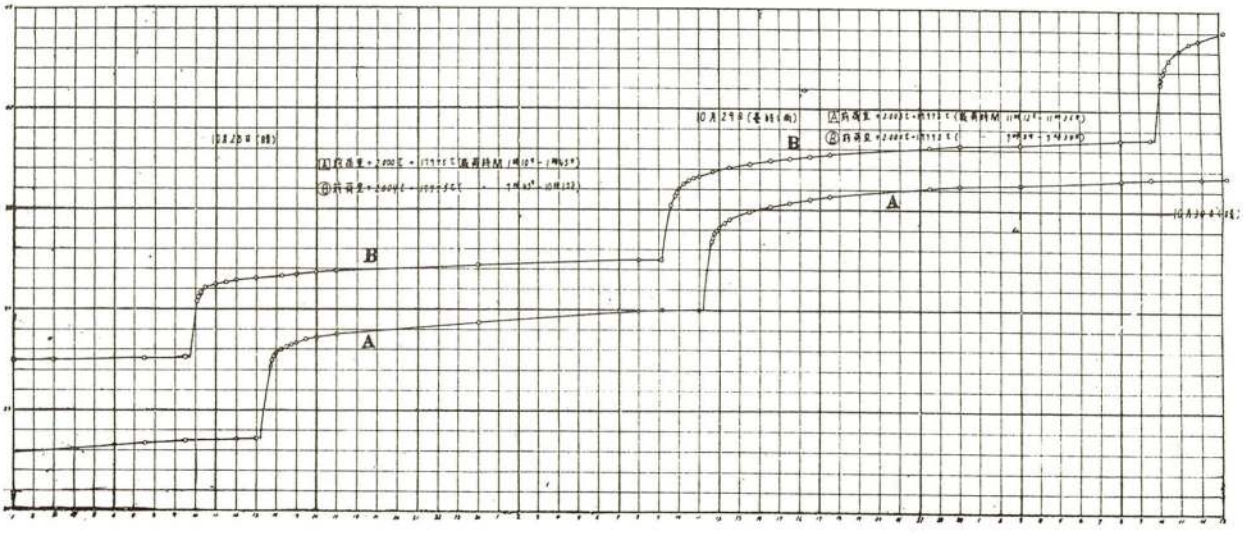
同　5



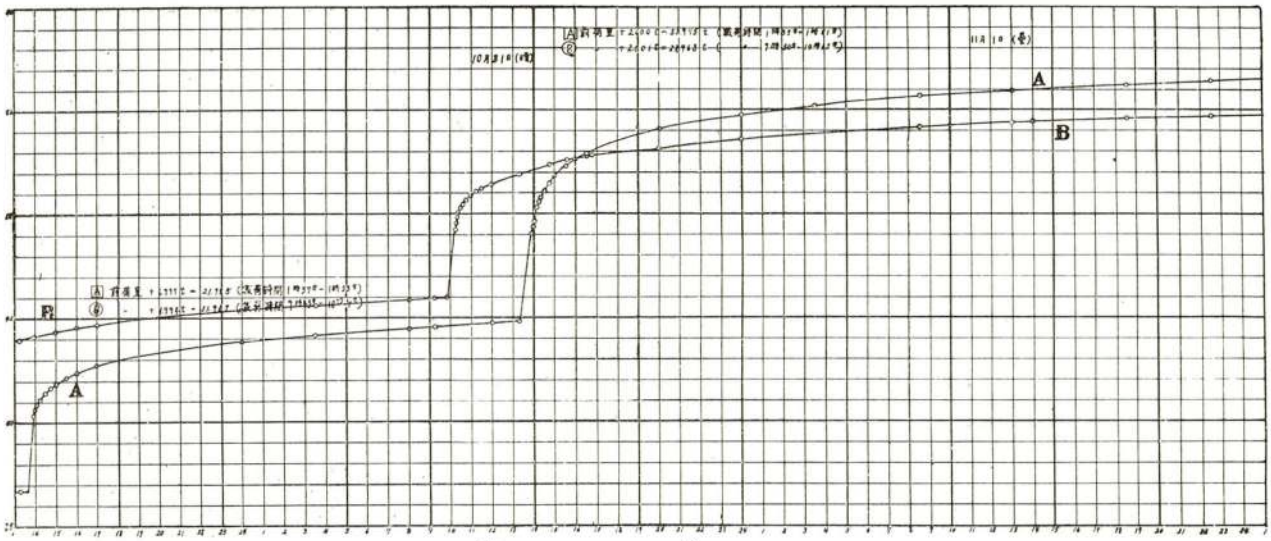
同　6



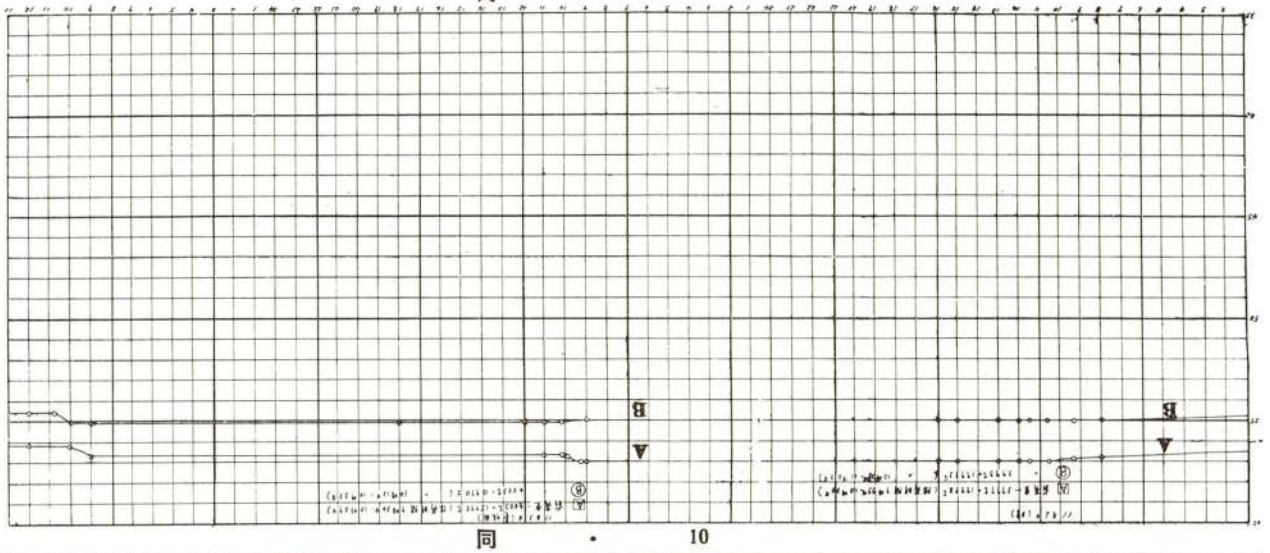
同　7



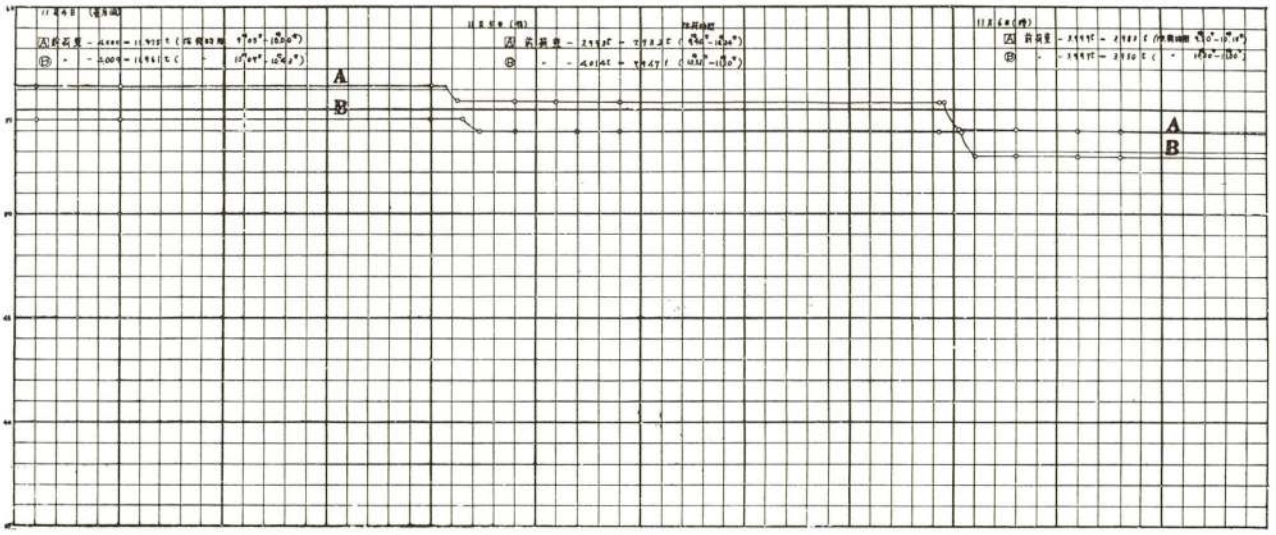
同　・　8



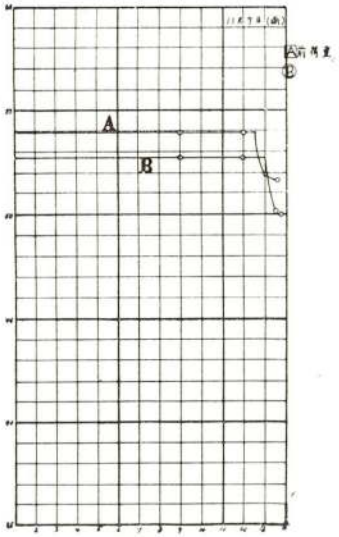
同　・　9



同　・　10



同 • 11

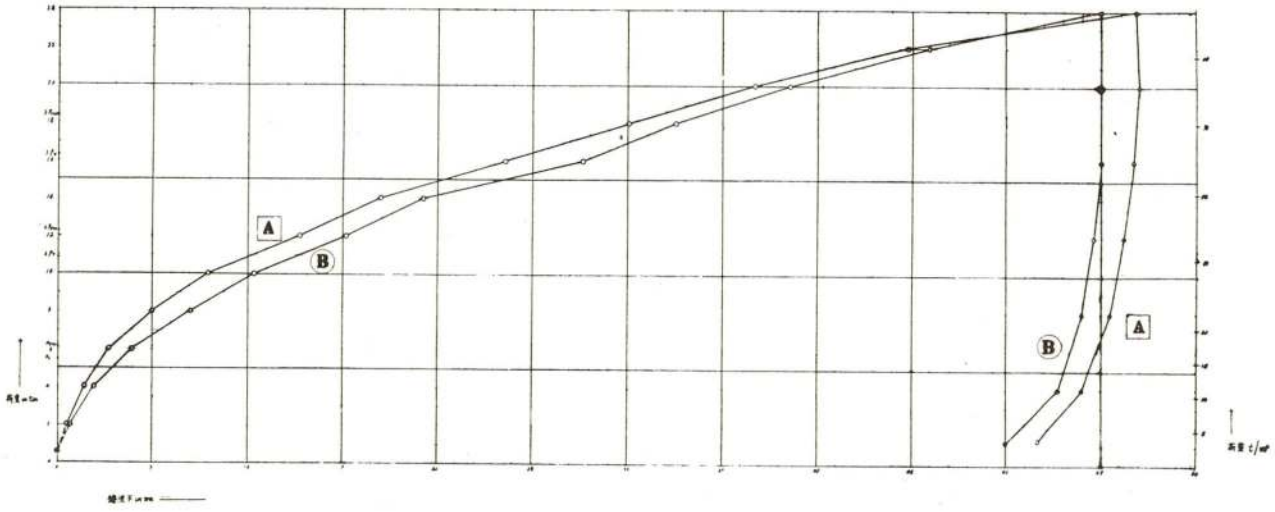


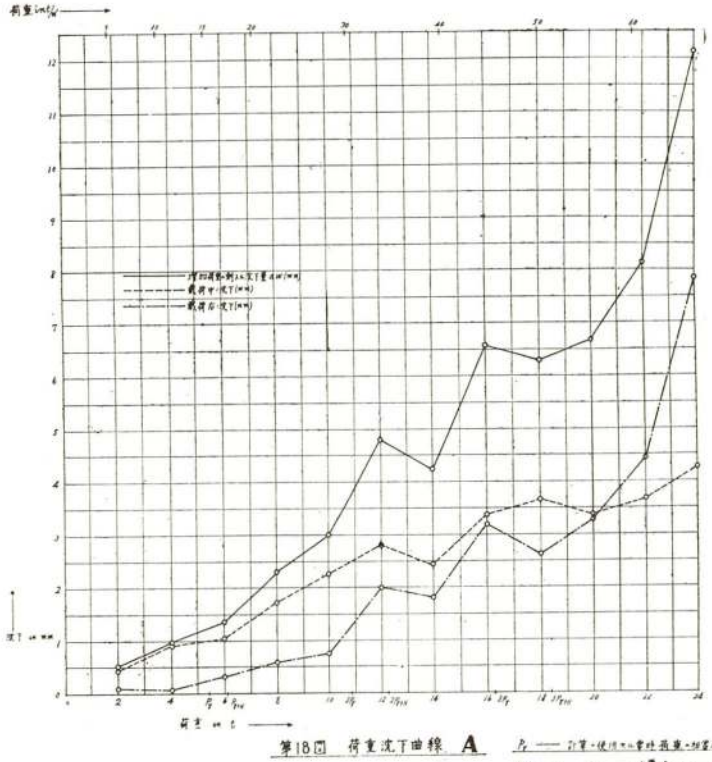
第3表及び第17、18、19圖は荷重と沈下との關係を示すものである。

第 3 表

		Ⓐ					Ⓑ		
荷重 in t	載荷中沈下 in mm	載荷后沈下 in mm	增加荷重=對スル沈下量 in mm	總沈下 in mm	荷重 in t	載荷中沈下 in mm	載荷后沈下 in mm	增加荷重=對スル沈下量 in mm	總沈下 in mm
1.990 - .619	422	072	494	494	1.997-.630	.561	.078	.639	639
3.992	.900	.033	.933	1.427	3.997	1.173	.141	1.314	1.952
5.987	1.026	.283	1.309	2.736	5.993	1.808	.204	2.012	3.964
7.983	1.708	.556	2.264	5.001	7.990	2.651	.425	3.076	7040
9.984	2.233	.737	2.970	7.971	9.984	2.424	.868	3.292	10.332
11.983	2.795	1.994	4.789	12.758	11.980	2.500	2.329	4.829	15.160
13.980	2.413	1.795	4208	16.966	13.979	2.246	1.855	4101	19.261
15.975	3.346	3.199	6.545	23.573	15.969	6.238	2.144	8.382	27.642
17.975	3.640	2.625	6.265	30.038	17.973	2.839	2.079	4.918	32511
19.978	3.379	3.283	6.662	36.699	19.973	2.714	3.337	6.051	38567
21.975	3.655	4439	8.094	44780	21.967	2.745	4623	7.368	45.935
23.975	4252	7.852	12.104	56.884	23.968	3.249	5.933	9.182	55.017
19.978	.125	-.010	.115	56.999	19.973	-.036	0	-.036	54.978
15.975	-.337	-.017	-.354	56.679	15.970	.068	-.010	.058	55.010
11.975	-.481	-.051	-.532	56.148	11.961	-.496	-.029	-.525	54.576
7.982	-.715	-.093	-.808	55.340	7.947	-.607	-.660	-.667	53.907
3.983	-1.270	-.169	-1.439	53.925	3.950	-1.079	-.144	-1.223	52.715
1.344	-1.990	-.249	-2.239	51.664	1.229	-2.771	-.012	-2.783	49.957

第17圖・荷 重 總 沈 下 曲 線

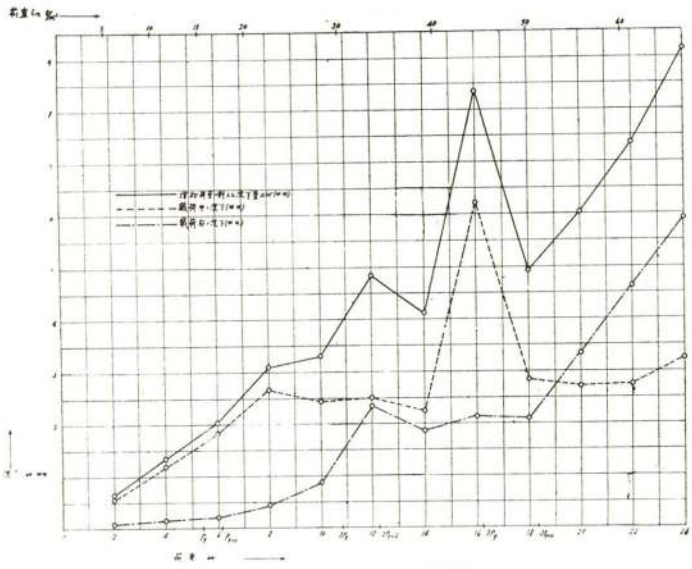




第18圖・荷重沈下曲線

第18圖 荷重沈下曲線 A

第17圖の右側の縦軸並に第18、19圖の上側の横軸には單位面積、(m^2) 當りの荷重 (t) を記した（A、Bともに面積を 3600cm^2 とする）第18、19圖に於て 12tに於ける增加荷重2t に對する沈下が 14t のそれに比して大きいのは 12t に於て 1 週間放置したゝめで第19圖に於てB曲線が 16t に於て著しい變位の進行を示すのは鐵筋の偏心の結果荷重臺に著しい傾きを與へたことによる。



第19圖　荷重沈下曲線 **B**

第17圖に於ける如く本試驗では荷重沈下曲線に於て砂の壓縮曲線の形のみ明瞭に表はれ普通これに先だつて起るべき壓密曲線の形は認められず、從つて本曲線には反曲點が表はれてゐない。依つてこの曲線を表はす實驗式を導くのに、應力歪曲線を表はす通常式を借用して見た。

即ち第17圖に於ける曲線を沈下が荷重に比例する部分と塑性變形と目さるべき拋物線型變位の部分とに分離すれば、對數方眼紙を利用して次の實驗式を得た。

正方形版Aに於て

$$W = \frac{P}{1250} + \frac{1}{3.348 \times 10^{-5}} \left(\frac{P}{1250}\right)^{2.369}$$

圓版Bに於て

$$W = \frac{P}{1250} + \frac{1}{4.354 \times 10^{-5}} \left(\frac{P}{1250}\right)^{2.070}$$

但しこゝにWは沈下(cm)、Pは單位面積の荷重 (kg/cm^2) である。

曲線の直線部分と見做し得る範圍は荷重の極めて小なる範圍に過ぎないから直線部分の終止點を以て土の降伏點と見ては基礎の設計は出來ない。故大澤氏は載荷後の沈下が載荷中の沈下に對して大とならない極限を以て土の降伏點と定義された。第18、19圖の曲線から推して二の定義による降伏點は荷重12t即ち2Pv、2Pv+h(Pvは常時設計荷重≒15t/m^2、Pv+hは地震時設計荷重≒17t/m^2)附近までには存在せぬことが知られる。地耐力を定めるには、其の荷重に對する時間沈下曲線が時間の軸に平行した漸近線をもつことは勿論であるが、終止沈下の量を規定しておいて、その限度を越させない様な荷重を採用する必要があ

る。本試驗の12tは前者の條件を充たし、沈下は平均13.96mmで、設計荷重附近(6t)では平均3.35mmを示してゐる。

9. 附　　記

本試驗は廳舍新營工事仕様書中に規定して根伐工事の適當に進行したときを見て工事請負者清水組に裝置を設備せしめ短時日に行つたもので豫備實驗等の餘裕もなく、一面今後の工事進行上日數にも制限せられ意に充たぬ點は多々ある。土質の物理的性質等も測定するに至らなかつたが、含水率は計量の結果大體8%位で本試驗中は載荷裝置附近一帶の根伐面に莚を布き適宜撒水して自然の濕潤狀態を保たせる樣に努めた。第17圖の荷重總沈下曲線に於てA曲線がB曲線に比して沈下の小なる範圍の大きいのはA、B略等面積ではあるが、周圍の長さに於て正方形版が圓版に比して大なることの影響が與る樣に思ふ。西尾式ボーリングによる第2圖の耐壓力をA、Bの深さ(4.10m、4.15m)で且A、Bの附近に求めるとNo. 1 (h=3.92～4.91m)、No. 6 (h=3.82～4.90m)から

$$P = \frac{1.78 + 1.19}{2} = 1.49\ (t/□') = 16.49\ (t/m^2)$$

$$2P = 2 \times 16.49 = 32.98\ (t/m^2)$$

は大體本試驗の12tに相當する。

猶實際の基礎に就ては形狀、大さの影響により荷重試驗による建物沈下が果して3.35mm程度であるかは不明であつて、目下工事進捗に應じて建物沈下狀況を觀測中である。

(12.3.20)

我國都市計畫の變遷

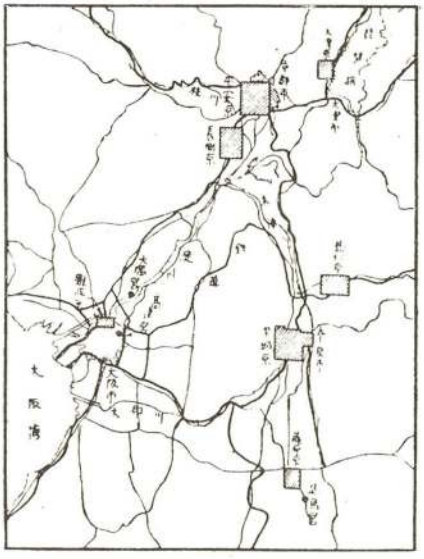
武居高四郎

1. 緒　　言

都市は產業、文化、政治の中心地で、國家の隆盛、文化の進展は都市に於て見られる。我國に於ける都市建設事業は古く朝鮮、支那の文物を移入した古代より雄大な規模の下に行はれた。其後封建時代には各地に政治的經濟的の城下町の建設を見たが、明治大正の時代には歐米の文物移入と產業の發達に伴ひ、人口の都市集中、都市の急激な發達を來たし、都市建設事業は目覺ましい發展を遂げた。而も都市文化現象の旺盛となるに伴ひ大都市の弊害をも隨伴しつゝあるので、之が對策、都市と農村との健全な發達及國土の適當有利な利用方策は今後一層の關心研究を必要とする事項となつた。

2. 古代の都市建設（圖-1參照）

圖-1 歷代帝都位置圖



我國に於ける都市の建設は遠く古代に溯る事が出來る。唐の長安、洛陽の都制を採つた平城京、平安京は謂ふまでもなく、孝德天皇の難波京、推古天皇の大和藤原の京等に其遺蹟を探める事が出來るが、古代の都市は帝都以外には見るべきもの殆どなく、各地に原始的經濟的の都市と看做し得る市場聚落があつたが何れも小であつた。

孝德天皇大化元年（1305年）の難波長柄豐崎の宮は唐制を採り入れ、區劃整然たる碁盤目街路を以て計畫された我國都市建設の最初のものである。然し飛鳥の政治的勢力に壓肘せられて僅に7年にして飛鳥に歸り天智天皇の大津京も2代にして飛鳥の地に復歸した。かくして持統天皇は飛鳥の郊外耳成山、香久山、畝傍山の3山に圍まれた平地に藤原京を建設され、1354年12月に遷都された。

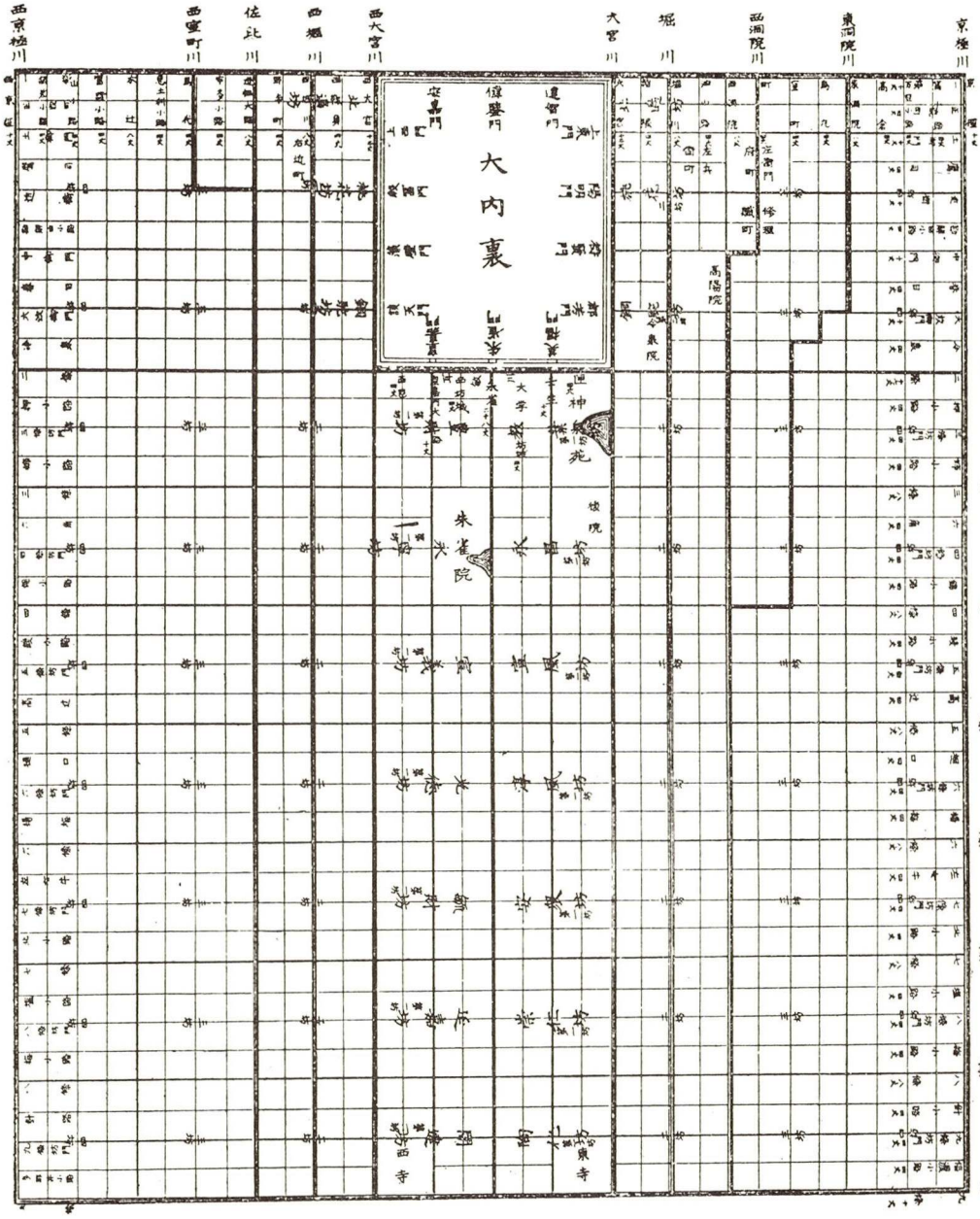
次で元明天皇には和銅元年2月平城遷都の詔を下し、奈良市の西郊外地に廣袤東西約40町、南北約45町に亘り、唐の長安、洛陽の都制を採つて區劃整然、代表的碁盤目型街路系統を有した壯麗無比の模範都市を計畫建設せられ、和銅3年（1370年）3月遷都され7代70餘年間の帝都となつた。

都の中央には下津道中街道を中心として幅員20丈の朱雀大路を通して左右兩京に分ち、且つ南北9條東西10條の大路を通して72の坊に分ち、內北方中央の4坊を宮城の位置とした。各坊の大さは180丈4角で其中に東西、南北各3條の小路を通じて方40丈の16の坪に分つた。大路の幅は各8丈、小路の幅は各4丈であつた。

都城の西方、西北方は出地で市街地とするに不適當である。當時斯る方面まで開發されたのではないが、東南に5～6町も移動させれば平坦地に出來たのである。然し當時は中街道の位置、中央朱雀大路の位置に左右されて斯くなつたのである。

桓武天皇の御代には一時木津川の上流相樂郡瓶原村の恭仁の京に遷都されたが、再び平城京に歸り7代の都となつた。桓武天皇の延暦3年（1444年）には、交通の便な現在向日町附近の長岡京に遷都さ

圖-2　平安京全圖及川路圖



れ、新都の經營に當られたが藤原種繼暗殺の事あり工事進捗せず、 遂に中止して現在の京都市のある葛野の地に平安京を新營、延曆13年（1454年）10月22日遷都された。 斯くして平安京は明治天皇の東京遷都まで1074年間の都であつた。

平安京（圖-2 參照）の大さは南北1753丈、東西1508丈、唐の長安京の制度を採り碁盤目型街路割を行つたもので、大體平城京の制に據つてゐるが、道路の幅員は大となり朱雀大路は28丈、 其他の大路は17丈、12丈、10丈、8丈となり、小路は同樣に4丈であつた。尙北方には北邊坊、 半坊を附加した。各坊には長安、洛陽の制を採つて名稱を附した。 今日尙小學校名として殘つてゐる銅駝、敎業の如きは其坊名である。都の周圍には羅城を築き內外に溝を廻らした。 これは支那に於けるが如く外敵侵入防禦の爲ではなく裝飾的外觀に過ぎなかつた。

朱雀大路の南端には2層の壯麗な羅城門を設け其左右に東寺と西寺とを建てた。

各坊は4保16町に分ち、各町は4行8門で32戶主に分ち、各戶主は大體間口5丈奥行10丈であつた。

宮城は東西大宮間東西384丈、二條通以北南北460丈で、面積約490620坪、12門を備へ、 其中に皇居朝堂院、朝集堂、龍尾堂、豐樂院、武德殿等百官衙を並べ、 我國代表的首都で將又世界に誇り得る古代都市であつた。

3. 中古の都市建設

戰國時代以後は地方大小名の割據によつて封建制度に入り、政治、軍事上の都市が出來た。 最初は山岳天險の地に城廓を築き其位置は要害即ち戰略地理學上の地形より來たのであるが、 次で平地に移り商業、交通の發展と相俟つて地方都市を出現した。 斯くして山城、平山城、平城となり、城主、從士の居宅を圍む城池と之を繞つて商工人の市街地が出來所謂城下町の建設となつた。

鎌倉、小田原、安土、山口、平泉等はこの時代のものである。

尙この時代には外國貿易港として發達した堺、博多、坊津、安濃沖、敦賀、尾道等があり、 經濟關係上生產品交換の必要より市を生じ一定期日に一定の場所に附近農民が集り 地方の經濟的中心の都邑を發達させた。今日各地にある上市、下市、古市、今市、二日市、三日市、四日市、…… 十日市、二十日市等の地名はその名稱の殘つてゐる例である。

4. 近世の都市建設

鎌倉、室町時代は分權的封建時代であるが、桃山、 江戶時代は集權的封建時代で有力諸侯は小豪族を併合し城廓を築いた。これが城下町で江戶時代に急激に發達し各種小工業が起り、 今日も引續いて政治、軍事、經濟、文化上の地方中心地となり我國都市中最も重要な部を占めてゐる。 多くの城下町は多數人口を收容出來る交通便利の地に經濟的文化的都市を作つたもので、 城に近く重臣の屋敷を又距れて市街の外邊部に輕輩、足輕の屋敷を設けた。 又消費都市であると同時に產業的發展を圖るために商人を招致し工匠を集めて町屋を設け、陶器、漆器、製紙等の業を盛ならしめたものがある。 街路系統は矩形型規則正しいものが大多數を占めてゐるが、地勢又は防禦上故意に不整形又は1部を彎曲せしめた市街も尠くない。 何れも組織的形態を與へた都市計畫を實施したもので、住居、商業、工業の集團的地域を定め、又寺院を1箇所に集め火除地を設け建築物に防火的制限を加へる等、都市建設、建築物に對する統制を實行したものである。 尙當時參覲交代の制度により交通上各地に宿場町が出來、

細長い町、平行に開けた市街地を構成した。

5. 現代の都市計畫

都市は政治、軍事、教育、宗教、文化等社會的優越な地位にある事によつて發達するが、特に經濟的に優位にある事による事が大である。かくして現代の產業的、經濟的都市は現出し、急激な發展を遂げるに至つた。之が誘因としては18世紀以後の工業の發達、交通機關の改良進步を擧げる事が出來る。從て都市は交通上便利な平地、水路、鐵道の附近地に、又原料、勞働力、動力、水利の豐富低廉で生產品の運搬至便、顧客商店關係の好都合な地點に起る。而して斯る地點に都市の合理的建設と其發達を圖る必要があり、都市改造と都市建設の2方面となつて現はれる。

6. 明治時代の都市計畫

明治初年の新都市建設としては、北海道札幌、旭川の矩形型規則正しい街路割のものがあるが、多くは封建時代諸侯の城下町で其後引續いて地方政治、軍事、教育、產業の中心地となつて發展し、又交通上、產業上有利至便の地を占めて開港場、商業、工業或は鑛業地として發達した。併し之等都市の發展膨脹は無統制亂雜であつた。

斯くして都市的弊害の最も著しく現はれたのは東京であつて、交通運輸、保安、衞生等各般の改良を行ふ必要ある事を痛感せしめた。又當時佛白諸國の都市改良の實況等に鑑み、明治15年東京府知事芳川顯正が市區改正の根本計畫を樹てんとして調査し、17年11月成案を得、內務卿山縣有朋に建言した。次で明治21年8月16日東京市區改正條例が公布された。これが我國都市計畫法の前身で、東京市に於ては道路、橋梁、河川、運河、公園、上下水道等の新設改良が行はれ、都市改善に大に貢獻する處があつた。然るに他の都市にあつては法制上何等の便宜もなく、都市の發展に對して市民が一般に無關心であつた事にも因るが、甚だ亂雜な發展をなし混亂の狀態に陷つたものが尠くなかつた。

7. 大正時代の都市計畫

歐洲大戰の影響を受け我國各都市は急激な膨脹發展をした。各種產業は勃興し工場は各所に亂設され、特に大都市の周圍部に於ては極めて亂雜な發展をしたと共に住宅の不足を來した。こゝに都市の改良と郊外地發展統制の必要を感じ、先づ大正7年東京市以外の5大都市に東京市區改正條例を準用する事とし、次で都市計畫調查委員會を設置して都市計畫に關する方針を調查審議せしめ、翌8年4月4日には都市計畫法並に市街地建築物法が公布せられ、前者は9年1月1日より、後者は9年12月1日より6大都市に施行された。

併し都市の改善計畫的統制の必要は大都市のみに限らず中小都市に於ても同樣であるから、勅令を以て順次指定され、大正12年7月札幌市を初め25市に適用されたのを最初として、昭和8年3月末には全國111都市中105都市に之が適用を見た。

8. 昭和時代の都市計畫

然るに都市計畫の必要は行政上の市に限られるべきでなく、町村にあつても其發展顯著なもの及市街地を構成せるものにあつては同樣に必要な事が一般に認められ、昭和8年3月都市計畫法に大改正を

加へ全國の市は別に指定を俟たずして適用する事とし、 尙町村に於ても主務大臣の指定により適用せられる事となり、同年5月10日より施行された。

町村にして都市計畫法を受くべきものゝ標準として當時內務次官通牒によれば、大體、(1) 人口增加顯著なもの、(2) 人口10000人以上のもの、(3) 溫泉地、海水浴場、史蹟地、遊覽地等を有するもの (4) 港灣修築、工場、停車場の設置に伴ひ市街地の構成せられんとするもの、(5) 災害を蒙つて復興を要するもの、以上である。

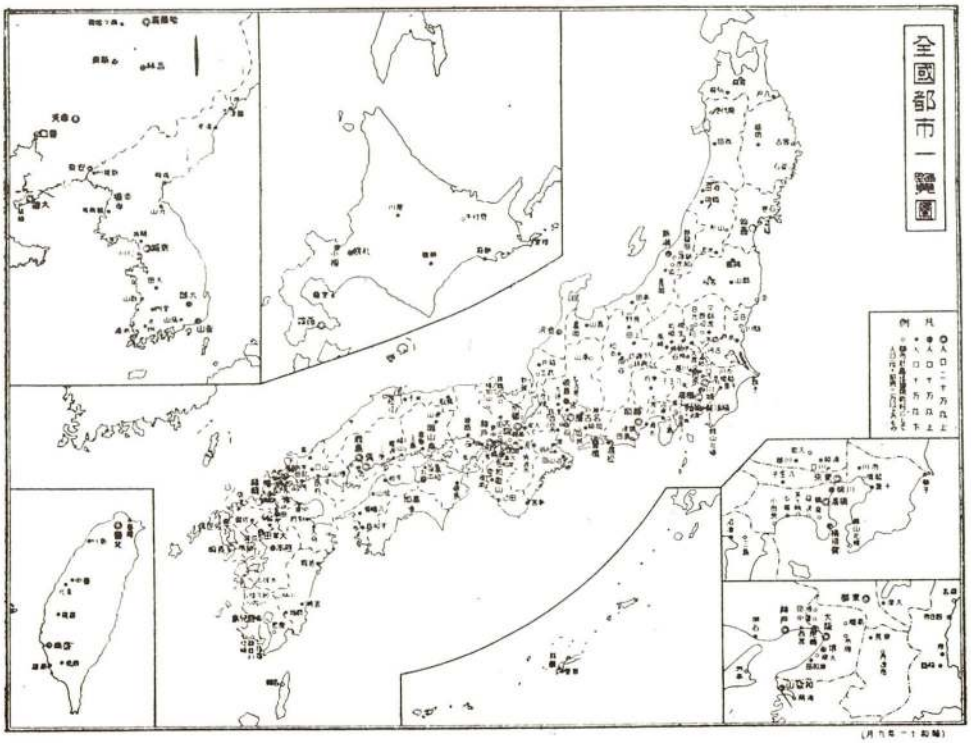
斯る町村は全國に約1000個を算し昭和12年4月1日までに335町村に適用された。(圖-3 參照)

斯くして我國都市計畫は大都市の弊害除去、市區改正に始まり、大都市改善、 大都市建設の都市計畫より中小都市惹いて町村の都市計畫と其普遍化に向つた。 斯る傾向は我國に限るものではなく、歐米都市計畫界に於ても軌を一にするものである。

9. 都市計畫最近の傾向

從來の都市計畫は都市を中心として交通機關の發達、都市經濟的活動の伸長、 衞生施設及社會施設の普及を圖り、1大都市の建設を目的とする有樣であつたが、都市機構の複雜化、大都市弊害の除去、都市と農村との協調的發展とのために、より廣き範圍に亘る都市と農村とを含む地域の計畫、 即ち地方計畫へと進展しつゝある。これは1924年アムステルダム (Amsterdam) に於て開催された國際都市計畫會議の決議にも見られる處であつて、都市計畫の普遍化は其結果の1であり地方計畫の必要が益々强調されつゝある有樣である。

圖-3 全 國 都 市 一 覽 圖



尙1歩進んで全國に於ける人口の分布、都市の分布、産業の地方分布、天然資源の開發、國土の最も適當な利用計畫を考究する國土計畫を樹立すべきであるとし、特に獨逸、米國等にあつては多大の關心を以て進められてゐる。昨年5月富山市に於ける都市計畫會議に於ける近畿地方計畫、關東地方計畫の意見發表の如きは其第1歩であると謂へる。

10. 帝都復興事業と函館市復興事業

大正12年9月1日關東地方を襲つた大震火災は東京、横濱の大半を灰燼に歸した。是が復興は兩市のみならず國家の大事業で、其復興計畫は都市計畫の極めて大規模に行はれた注目に値するものである特に土地區劃整理により街衢の整理を斷行した事は世界に其類例を見ない程のものである。其後昭和9年3月21～22日函館大火災後の復興計畫も略ぼ同樣に行はれたもので、防火を主とし、火防線20間及30間の綠植街路を配置して全市を數個の區劃に分ち、道路、橋梁、公園、防火地區の施設、上水道の擴張を行つたが、燒失地全部の土地區劃整理を斷行して宅地の利用を增進すると共に街路用地を無償提供させた。

11. 都市計畫と都市計畫事業

我國に於ては都市計畫と、市計畫事業とを區別し、單に計畫に止るものを都市計畫とし、事業の執行に關するものを都市計畫事業と謂つてゐる。

現在都市計畫及都市計畫事業として認められてゐるものは地域、防火地區、美觀地區、風致地區、風紀地區の設定、道路、廣場、河川、港灣、公園、鐵道、軌道、運河、飛行場、水道、下水道、土地區劃整理、運動場、1團地の住宅經營、市場、屠場、墓地、火葬場、塵埃燒却場、及防風、防火、防水防砂、又は防潮の施設であるが、尙必要に應じては追加出來るものである。

之等の內都市計畫並に都市計畫事業として最も盛に行はれてゐるものは、道路の新設備擴築、舖裝並に路幅整理、地域地區の指定（地域は70市、防火地區は6大都市と函館市）、河川運河の改修（大阪寶屋川、富岩運河、中川運河、東京大阪の運河）、公園（東京、大阪、名古屋、京都、岐阜等）、風致地區の設定（京都、東京、大阪、福岡、仙臺、靜岡、熊本、堺、其他合計37ヶ市町であるが、京都市の風致地區は最も大で面積7998ha、市面積の25%に相當する）、美觀地區の設定（東京、皇城の外廓一帶293ha、大阪中之島を中心とする土佐堀川、堂島川沿岸一帶と大阪城附近並に御堂筋兩側153ha）、下水道（東京、大阪、京都、豐橋、岐阜其他）、水道（東京、函館）、土地區劃整理（京都、東京、大阪名古屋、横濱、函館、靜岡、堺、富山其他に行はれ、組合組織による土地區劃整理は各都市に於て盛に實行され、街衢整然たる郊外地宅地造成を圖りつゝあるが、都市計畫事業として決定されたのは京都を以て最初とする）、この他に高速度交通機關（東京、大阪）、墓地、火葬場、市場の設置、關西風水害に鑑み之が對策として行はれた防潮堤（堺、西宮等）、高潮防禦（東京）、其他1團地の住宅經營（大阪府小阪町）、軌道（富山市）等がある。

驛前廣場の建設と土地區劃整理事業は新宿、名古屋、大阪驛前廣場開設と併行實施されるので極めて有效である。

尙大火災、津波等の災害と都市の復興に當つては、土地區劃整理或は市街地建築物法の適用、建築線の指定によつて最も有效に行はれ、東京市、横濱市、函館市、山中町、三島町、伊東町、三陸地方

に適用せられた。

12. 神　都　計　畫

宇治山田市は內宮外宮の所在する我國最高の聖地で國民尊崇の地である。其清淨を少しでも損じてならぬ事は古來よりの國民的信念である。昭和8年神都計畫調査會が內務省に設置され25名の委員を設け具體的調査を進めてゐる。

13. 重要都市の防空計畫

都市防空の問題は國際關係が極めて複雜化し緊張しつゝある現下の情勢にあつては 最も重要視されるに至つた。昭和9年7月近畿地方陸軍防空演習を機會に日本建築協會が都市武裝促進運動を起し、其後內務省は重要都市の防護計畫を樹立するため陸軍省と協力して 諸般の防護施設狀態の調査研究を進め防空法は第70議會を通過した。

都市の保安は國防上極めて重要な事項となるのである。

14. 朝鮮及臺灣の都市計畫

京城、平壤、釜山其他の都市にあつては市街地改善に關する所謂市區改正事業は從前より行はれ、街路の新設擴築は其主要なものであつたが、都市計畫に關する法制なく種々不便があつたので昭和9年6月20日朝鮮市街地計畫令が制定公布せられた。3 章50條よりなり、我國の都市計畫法と市街地建築物法とを一體の法令に綜合統一した法制である。最近極めて急激な發展をなしつゝある羅津にては、都市建設の計畫を樹て大規模の土地區劃整理を行つて近代的都市の建設に邁進してゐる。

臺灣各市の改良計畫は領島以來街路の改良、衞生施設の改善に努力して來たのであるが、都市の發展をして統制あらしめ而も能率よく遺漏無からしめるために 最近多大の努力が拂はれ都市計畫令が公布された。

15. 關東州並に滿洲國の都市計畫

大連市は領有當時には露西亞の計畫により1部都市の建設が行はれたのみであつたが、其後我國の手で東洋に於ける近代都市中最も立派なもの丶1つとなつたのである。最近港灣、鐵道、街路、地域、公園、公共的施設と各般の計畫を確立した。これが實現と共に現代都市の模範的のものとなり得ると考へられる。

滿洲國の都市は、奉天、新京、鞍山等滿鐵附屬地の範圍內に、規則正しい幾何學的に割られた街路計畫を有するもの及露西亞の手でなつた哈爾賓市街の他は、極めて不規則亂雜に發展した支那市街であつたが、滿洲國建國以來國都新京の建設、哈爾賓、奉天其他各地の現代的都市建設の計畫並にこれが事業に邁進着々と進展しつゝある。殊に新京國都建設事業は其規模の雄大、諸般の施設完備せると事業進展の顯著なる事は刮目に値するものである。

16. 我國都市計畫の將來

我國都市計畫は最近異常な發達をしたと謂へる。全國の市は勿論300餘の町村に都市計畫法が既に適用され、吾々の生活を最も衞生的に能率よく且つ愉快ならしめるもので、國民生活の改善に國家の發

展に貢獻する處が極めて大である。而も最近は都市に限らず、都市と農村との協調ある發展、國土及天然資源の最も有効適切な利用方法を策するに至つては、其重要性は一層增大するものである。

從て之が實行に當つては、其計畫の內容手段方法が夫々適當のものである事が肝要である。計畫方面に於ては學校教育の普及發達、土木、建築、造園等各學會が一層の關心と熱意とを有し、又都市計畫會議、協議會等を開催して斯界の發展を圖る事が肝要である。

行政方面にあつては都市計畫委員會制度の改善と强化を圖る事を要するが、委員會制度の格一は不可である。大都市に於けるものと小都市に於けるものとは其重要の程度に應じて區別するのが適當である。

事業執行に當つてはこれが實行を容易ならしめる樣に財政方面にも便宜を與へ、受益者負擔制度の勵行、超過收用地帶收用制度の擴張勵行の如きは大に考慮さるべき事項である。

市民、技術者、官廳等各方面協力してこれが進步と發達を圖るに於ては、都市計畫は非常な進步と發展とを見る事であらう。各地に盛に行はれてゐる土地區劃整理、街路計畫の設計の如きも單なる器械的、圖式的計畫に陷る事なく、地域制に就ても緩和規定などゝ稱して地域制の根本を忘却閑却せる過を悟り、最近問題となつてゐる地域制の再檢討、用途地域の細分指定、格一規定とせず地方的事情を參酌して規定に緩嚴を設ける制度の本旨に立歸る事が出來、飛行場の設置、交通施設等は申す迄もなく、都市の健全な發達、市民の幸福な生活に必要缺くべからざる綠地問題、住宅問題にも一段の關心と熱意とを有し、之が解決を容易ならしめるであらう事を確信する。

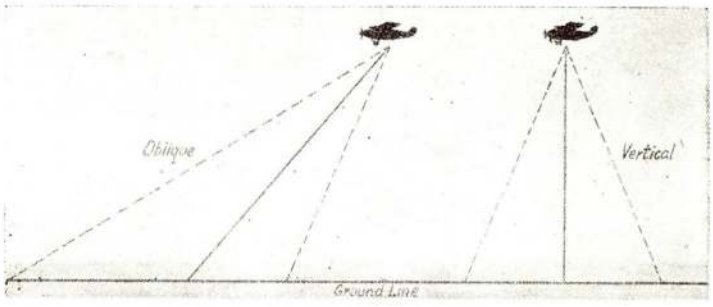
航空測量による地圖成作に就て

森口　清譯

（今日誰でも——少くとも我が"War in the air"の讀者の大多數は——航空寫眞に就いて不思議の感を抱く者が殆んどない程普通になつて來たのであるが、かゝる發展は製圖科學に非常な利便をもたらし且つ又空より見た世界地圖の作製に就いて、今や實行に移されて居るのであるが、そのことに關して携さはつた事の經驗ある人によつてビビツトな筆致を以つて記述されてゐる。）

航空測量に就いては新聞紙上でしばしば報道されてゐる處であるが、此の仕事に關し永年の經驗の結果大英測量部では廣範圍に亘り地圖の修正の決定を爲し直ち實行に這入つたのであるが、然も此の航空測量は此の事業に於て重大な役割を演ずる事になるであらう。歐洲大戰以後の經濟的地盤の上に引續で出現した政府としては、直接人々の稱讚を受け難いものとして、此の事業の切詰を行つた。且又大戰中の此のギヤップが相當此の事業を遲滯せしめた事も爭へぬ。であるから今日20年間も或は30

Mapping from the Air, by C. A. Hart, M. sc. (Eng.) A. M. I. C. E:
War in the Air; Aerial Wonders of our time; Part 15; P. 479.



第1圖・測量術として用ひられる航空眞眞の2つの形式。航空寫眞には垂直航空寫眞と傾斜航空寫眞とがある。地圖を作るのに垂直航空寫眞は縮尺の大なものに用ひ傾斜航空寫眞は地面が平坦な時縮尺の小さい場合に用ひられる。此の寫眞（Goldens Green N. W. 11,）とダイアグラムは平かな地表面場合垂直航空寫眞はトラバーを組むのに正方形の格子型であるがそれが傾斜航空寫眞の場合には如何に歪んだ格子をなして居るかを明にして居るのである。かくの如く後者は透視圖的効果があり寫眞の上部が次第に縮少してゐる。右に示すのは時間と高さ及寫眞が露出された時を自動的に寫眞の數の記錄を示す機械である。

年間も經つて尙且つ地圖の改訂の行はれぬ地域のあるのはあたりまへの事である。が然し戰後發達した地域に於て此の事が始まつてからはかゝる地圖の價値は頗る減じたのである。幸にも、所謂アップ－ツ－デートな地圖が國家的に重要性を有する事が最近公務上に認められて來たのである。而も此の地圖の改訂に關しては航空寫眞による作製法が最も手取早いと言ふ事が一致した意見であつた。

英國に住んでゐる人達は未だ世の中には何人も行き得なかつた部分や又ドライヴやハイキング或は土地を買ふ爲めに適した地圖を買ひ得ない部分がある事を知らなかつた。即ち彼等は自分達の幸福を認識しなかつたのである。何故ならば世界の多くの部分に就いて正確な地圖は全然作製されて居らず然も大低の地圖は小さな縮尺のものが多かつたからである。例へばエチオピアには正確な信頼に足る地圖が全くない許りでなく、陸軍の近代戰爭に於ける作戰上の必要な比較的大なる縮尺の地圖さへ一つもない事は確であつた。

さて私は普通の地上測量家をその仕事から追拂ふと考へられる新しい簡單な航空測量法に就いて理解してゐる讀者達の迷夢を醒すべく急がねばならない。即ち實際航空測量と言ふのは一般測量方法の擴張されたもので地上測量家は所謂略測量を除いては今尙缺くべからざるものである。航空測量には飛行術や寫眞術のみならず地上の仕事即ち寫眞より地圖を作る事等に關しても、高級な技術的熟練が要求されるのである。地圖は此の新しい方法で速かに作製され仕事の手配は地圖の縮尺の要求の要求により決定され、且つ又縮尺は代表的分數（Representative Fraction）に依つて表はされるのである。

1吋で1哩を表す縮尺のものでは1/63,360であるが、これは地圖の上の1吋が地盤面上の63,360吋を表はすと言ふ事を意味するのである。一般に地圖の縮尺は（a）大なる縮尺を1/10,000以上とし（b）中間の縮尺を1/15,000より1/50,000とし（c）以上二つの縮尺より小さいものと此の三つに區別される。陸地測量部の航空修正地圖又は平面圖は1/2,500であつて等高線のないものである。英國諸島に就いては將來の修正を必要としない程完全な地圖が作製されてゐる。そして此の事は今迄に測量された事のなかつた地域の地圖を作製すると云ふ仕事とは全然違つてゐるのである。縮尺が大きくなり且つ等高線を表はす必要のある場合には地上に於て處理されてゐる測量が多くあるのである。

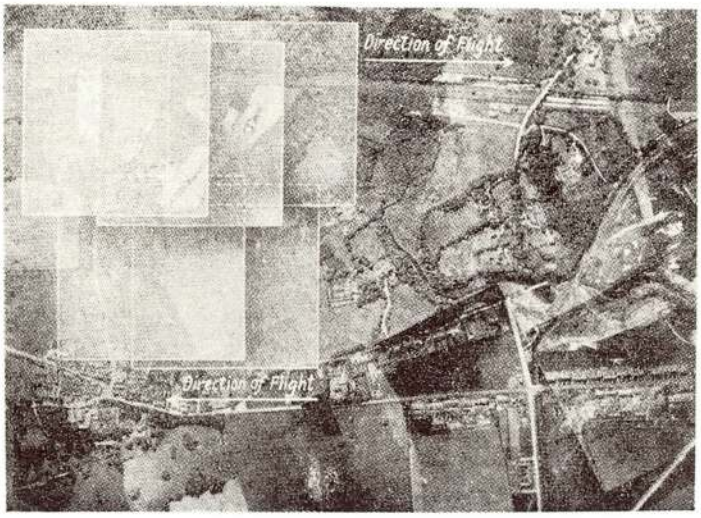
解決すべき問題を論議する前に航空測量がどの程度まで發達が可能であるかを考察せんとす。寫眞術なるものが完成されて間もなく座席に乘込んで カメラで測量がなし得る事が現實化したのである。此の形式の測量は大戰前アルプスや西カナダで行はれ居る一方、繫氣球による測量が提案されたので

あつた。 戰爭の刺戟と急激なる技術的進歩はフランスに於て垂直航空寫眞から非常に明確なる地圖を作製し得る結果をもたらした。 そこで吾々は航空寫眞には垂直の寫合と傾斜の寫合とがある事を說明せねばならぬが、此の點に就いては前に採錄した寫眞が兩者の相異を克明に說明してゐる。（第2圖參照）同じ地域を撮影した1組の垂直寫眞による直接の觀察だけでは容易に斷定する事が出來ぬ多くの事がある事を聰明なる偵察者は發見した。 新しく變へられた土地は明確に示されるが又一方陰影のない事によりて僞裝壘壕が容易に探索出來るのである。 人や車輛等による足跡が明瞭にわかるので戰爭に於ける作戰の一つとして此の事がカモフラージに應用されたのはそんな以前の事ではなかつた。 其の後垂直寫眞はモザイックの形式で互に繋ぎ合せる事に依つて其の地域に繪畫的な眺を與へてゐる。 けれども此のモザイックによる再製は非常に困難が伴ひ且つ不正確になる事は免れない。 尙其の後論爭されてゐる地域の地圖が古い地圖の上に此の垂直寫眞を合せ 新しい詳細圖に適合させることに依つて作製する事が出來る樣になつた。 パレスタインに於ては地上處理が殆んど不可能であつたので飛行機の高度を測定し水平に保つて傾く事がない樣にする方法を考へる事が必要になつて來た。

大戰中航空測量に經驗のある2、3の人が大戰後を地圖作製の方法として それを發達させるべく彼等の注意を此の方へ傾向せしめた。 最初は地上測量家達は此の航空測量が不正確なものとして此の新しい方法に殆んど注意を拂はなかつたのであつた。 然るに飛行家達は軈て地上測量が不必要になる事を仄かす傾向があつたので、更に多くの調査や實驗的仕事の結果、 此の新しい方法が光明ある地位を獲得する樣になり、且つ測量師も寫眞師も現代的な條件の下で地圖を作製する上に於て共に等しく必要缺くべからざるものなる事が實認されたのである。休戰後まもなくフランスの蹂躙された地域の地圖が垂直航空寫眞によりて再製された。縮尺は可なり大きかつたが地上作業を容易ならしむべきオリヂナルな



第2圖・モザイック寫眞と地圖 1連の航空寫眞より成作した此のモザイック寫眞はIrag（メソポタミア地方）の測量の際航空寫眞會社の手によつて撮影されたものであつた。右側にあるのは同地方の線によつて描いた地圖である。此のモザイックの方は頗る注目すべきものであるが、必要なる詳細が明瞭を缺く爲にその價値を失はれて居るものである。此の理由よりしてモザイク寫眞より線による地圖が作成されるのである。



第3圖・全體を形成すべき片々 航空地圖製作に當り先づ要測量地域は航空寫眞の小片で蔽はれる3つの寫眞に現れた詳細な各點を確實ならしむ爲に縱に60%重ねて寫眞が撮られる。飛行機がその進路を少でもそらして空隙を生ずるのを防ぐ爲に寫眞の小片の1方の端は25%位重ね合す。斯かる方法でモザイック作業が行はれ下圖に示す樣に飛行機の前後の進路が明にされるのである。

詳細が充分爰されてあつた。1924年に於けるイラワデ3角州（Irrawaddy delta）の航空測量は、一般社會に此の方法の可能性を證據立てたのである。嘗て3,4吋が1哩の割の縮尺で9.400呎の高度より1.000平方哩の範圍が撮影されたのであつた。此の1.000平方哩の範圍の內350平方哩は地上測量では絕對に不可能とさへ云へる程測量の困難なる多數の水路と分類されざる森林帶であつた。それ以來世界の各方面で航空測量が行はれ或は又進歩したのだつた。是等測量の縮尺はその要求に從つて比較的自由に變へ得るのである。かくてリオデジヤネロ及其の地方の測量に於ては航空機會社（Aircraft Oprating Company）の手により垂直航空寫眞による縮尺1/1,000の市の中央部の地圖が完成したのである。此の測量は完成にまで3年の日月を要したのであるが、地上の測量のみならば恐らくは10年をも要しただらうと見積られてゐる。縮尺は1/250,000程度に縮少し得るが、普通かゝる縮尺の地圖は傾斜航空寫眞より作製されるのである。同じ會社の手にて傾斜航空寫眞により縮尺1/250,000のエヌローデシア地方73,000平方哩の範圍の地圖が作製された。然るにカナダでは平坦な森のある島を含んだ重要なる地域の地圖で、但し此處では唯海岸線の詳細を要求された丈けであるが1吋が1哩の割合即ち縮尺1/253,440のものが作製されてゐた。

將來多數のレンズに依り撮影された垂直寫眞は或る範圍の傾斜部分を除くと言ふ事はあり得る事である。そしてそれが非常に效果的にして比較的經濟的でもあるとされてゐる。大きな地圖の作製に於てしばしば寫眞が要求され大さより小さき縮尺で撮影されるのである。是も亦重要な比較的經濟的の結果であるとされてゐる。けれども現代の陸地測量部の修正では1/5,000の縮尺で撮影された寫眞が1/2,500の大きさに擴大されるのが普通である。

吾々の大低の者は普通の寫眞から確定的に指摘された或る部分の詳細を撮示するの困難に就いての經驗を持つてゐる。10,000乃至15,000呎程度の上空より撮影した寫眞の場合には如何にかゝる困難を經驗せねばならぬかを想像してみるがよい。かゝる高度に於ては田園地は浮影が缺けた樣に見え、又は總ての色彩は景色より消え去り單に蔭影のみの變化が殘つてゐるに過ぎないのである。技術的考察より離れてかゝる理由より彩色寫眞は實用的ではなく、隨つて蔭影の調子に依りその事物を認定する

事が必要となるのである。此の爲には相當經驗を積む事が必要なのである。何故ならば同じ事物が全く異つた調子を持つ二つの寫眞から發見せねばならぬと云ふ場合が普通であるからである。湖の場合で云へば一方では白く現れ他方では黑く現れるかも知れないのである。此の事は光の反射の方向の場合と或は又風に依る湖水面の防害とで說明が出來る。

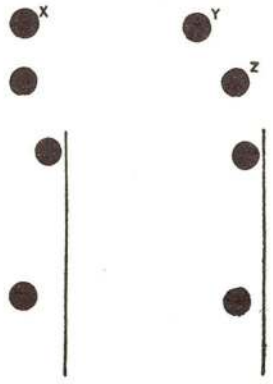
是等多くの困難は一對の寫眞の實體鏡寫眞の觀察によつて解消出來る。大戰前までは此の實體鏡寫眞は兩側に並んで置きそれを雙眼鏡を通じて見ると一つに融合した影像が出來、それが風景の如き場合には或る深味を感じて眺め得る樣な仕組になつてゐる玩具でしかなかつたのである。で是等の寫眞は特殊な裝置をした實體寫眞機、即ち2つのレンズを有し、そして2つの畫面が同時に通常目の間隔2.5吋にて撮影し得る寫眞機で撮影した寫眞である。

此の原理は航空測量に於て大なる價値のあるものである。今垂直航空寫眞が高さと縮尺に從つて1哩の部分が約牙に撮影されたとする。その場合撮影された寫眞の約60%が重り合つてゐるのである。で是等の寫眞は特殊な裝置をした實體鏡寫眞の中に置かれて眺められる。すると浮彫畫となつて非常に誇張されて見へ、岡や谷は一層はつきりと區別され建物などは小さな玩具の家の樣に見えるのである。であるから此の航空測量より實體鏡寫眞を取除くと言ふ事は一方の目の上に布切を當てゝ生涯を暮して行く人と同樣であると言ふ事が出來やう。

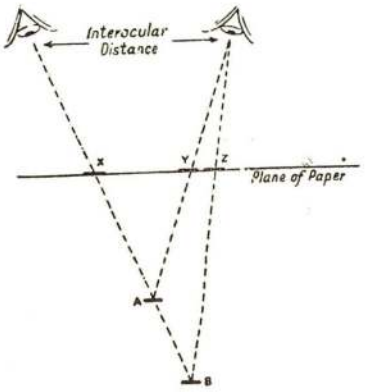
此の事は私自身の經驗がよく此の間の消息を說明してゐるのである。私は嘗て或る高度のものに對して地上處理に從事して居つたのであるが その時私はその寫眞から最も好都合の位置は全く手頃な大さと思はれるところの村に導いて居る道路に接合して居る生垣のある點であらうと決定したのである。その後此の村にドライヴをした時道路は頗る貧弱に見へた。そして結局大きな農場に到達して仕舞つたのである。此の農場内は寫眞では家の樣に見えたのであるが穀類の堆積で一杯だつたのである。其後の實體鏡寫眞による試驗の結果は全く此の事實が明瞭に示されたのであつた。此の實體鏡寫眞的奥行（Depth）に對する理解は只に同一點を正しく立證するに助けになる許りでなく等高線を描くのに非常に重寶なのである。

航空測量寫眞撮影の爲の飛行をなしてゐる時寫眞機は飛行機に積まれ、そして飛行機が一定の豫定進路を飛行中に寫眞が撮影されるのである。垂直航空寫眞による良い結果を擧げるのに要求される飛行は非常に高い標準のものである。小柄で熟練した飛行士のみが此の單調で酷寒の狀件下で忍耐と確實性のある飛行を爲すのに適してゐるのである。其處では一瞬間でもの不注意を許さぬと言ふ事が冒險飛行の實行より大切な事柄なのである。

飛行機は、豫定した進路を進んでゐる間一定の高さと一定の速度に於て水平を保たねばならないのである。實際的には飛行機を下へ2°は傾斜させた儘で一定の高度を



第4圖・1つの實驗 實體鏡の原理が此の圖に示されてゐる。XとYを除いた總ての點を蔽ひ6吋離れた處より中央の1點に目を集中させて見ると2つの點は1緒に混合して第3の點が現れる。更に次の1對を蔽はないで4つの點全部を見ますと是等は又混合して下のものより接近して見える。



第5圖・實體寫眞の原理

さてXとYとが中央の圖の1對の點の上部に於て1致する實體鏡的に混合した時A點に像が現れるXとZとは下の1對と1致する。是等が混合した時深さの印象を與へBに像が現れる。同樣の試驗により中央の圖の線に近い下の1對は混合した時異つた水平面に現れる。

正確に經續的に保たねばならぬのである。是れは寫眞が合理的に統一された縮尺である事が必要な爲めである。

寫眞機は特別の型のもので通常7×7吋或は9×6.5吋の大さで、その側に高度計があり其れに高さや寫眞の番號及び時間等の記錄が示される樣になつてゐる。フイルムは殆んど必ず100呎卷が使用されて居り露出は決定された時間の間隔で行はれ而かも天候によりて調節出來る樣になつてゐる。最近回轉儀式コントロール（Gyroscopic Controls）により優れた試驗が行はれ その結果自動的に水平及垂直飛行を爲す事が出來たのである。

けれども不便な事には寫眞撮影に好適の日は殆んどないのである。英國に於ては、10,000乃至15,000呎の間の處では、1年間に雲の無い日と言ふのが30日か40日以上しか無いのが普通である。そして其の雲は只に風景を蔽ふて仕舞ふのみならず雲の影が常に寫眞に理解し難い斑點の部分を作るのである。そして飛行中の高度にも2,000より1800呎位の變化がある。

撮影された時若し地面が充分平坦であり且寫眞機が垂直であつたならば寫眞は その地域の眞の平面を表してゐる。であるから飛行中の高さを知る事が出來れば直に縮尺を定める事が出來るのである。けれども不幸にも高度計で高度が正確に決定出來ず、そして通常よくある如く地盤面が水平でない場合には光線が垂直でない時中心より點の影が變位して居る如く 寫眞上の點の位置も寫眞の中心より變位してゐる事がわかるのである。此の變位量はその點の高さに依るものである。若し等高線が寫眞上に描かれる場合にはその各々が異つた縮尺で表はされるであらう。かくして地上測量家は更に詳細に寫眞に適合する樣に平面圖に注意深く點の數を正確に決定する仕事を持つてゐるのである。そして等高線を必要とする場合には彼は又知つてゐる同じレヴエルにある點を定めねばならない。

英國では簡單な圖式方法が發達したが、他の歐洲大陸では複雜な器械が使用されてゐる。通常の方法は飛んで行つた方向の多數の寫眞で地域全體を蔽ふのであるが、實體寫眞 として此の地域が完全に蔽はれる爲に確實に縱に寫眞の60%を重ね合さる樣に撮影するのである。橫に25%の重なりは進路より外れて生ずる空隙を防ぐ爲である。そして寫眞が要求された縮尺に撮影出來る樣に高度が選定されるのである。

寫眞が燒付られると地圖の作製が開始される。地上に於て知られてゐる點は正方形又は方眼紙の上に畫かれ、且つその上で必要な縮尺又は大さに縮小されるのである。此等の知られて居る多數の點は

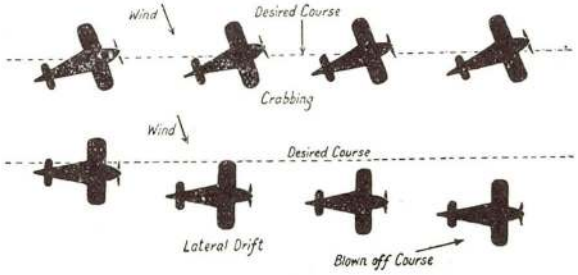
寫眞の上に明確ならしめる。寫眞に表現される如き寫眞の中心點（主要點）と點を結んだ線と、此の主要點と次の寫眞の主要點を結んだ線の間に於て爲す角は修正さるべきものと假定する。是れは丘の多い地方を除いては本當である。何故なれば此の線に沿つて測定した高度によるどの歪みも實際の飛行高度の10%程度までの小さい變化しか無いからである。此のストライプの上に詳細に明確なる此の點を數點選定する事に依つて、我々は方眼紙の上に縮尺に合せ正確に彼等をプロットして行く事が出來るのである。是等の點は一般に各寫眞毎に6ヶ所選定されるのが普通である。此の結果として、連續寫眞の主要點の總てが正確にプロットされる。そして同樣にして多數の點の印を附ける事に依つて此の所謂プロッチングが完成されるとやがて詳細を書き込む事が爰されるのである。寫眞の大略の縮尺への此のプロッチングが終了すると、最後的プロットが地圖の縮尺に合すべく寫眞の縮小又は擴大が行はれるのである。今此處に製作される縮尺1/2,500の陸地測量部校閲地圖は是等の一般的方法を經過して作製されるのである。

適當なる注意と地上操作が有效でありさへすれば航空測量により殆んど例外なく如何なる縮尺の地圖でも正確に作製する事が可能な譯である。が、然し等高線に就いては同樣な正確さには作製が出來ないのである。多くの點の高さがわかつてゐる場合には說明された點の原理を應用する事に依つて普通の縮尺の地圖に等高線を描いて高さの相違を充分正確に見分ける事が出來る。垂直航空寫眞に依る測量は世界の總ての國々で行はれて居り、且つその發達に依つて完成に近き地方の地圖作製を可能ならしめてゐる。

地上測量方法では道路や鐵道の最良の進路の選定するのに幾月も、或は幾年もの幾月を費した後に最善の進路が指適される爲には非常な經費を費され、最後に1地方の地圖が完成された後にすら屢々そのルートの選擇が最善でなかつた事がよく示されるのである。特に鐵道敷設の場合などには此のルートの選擇を過つた爲に無駄な經費が增加する事がよくあつた。

航空測量の迅速な事及び便利な事が今や一般に認められた。初期に於ては新しい地方の地圖を完成する爲に財政的困難が伴つた。完全な地方測量は多くの年月を要し費用が年々の豫算案に依り計上されねばならなかつた。然るに航空測量の場合は恐らく2、3年で完成される許りでなく、地上測量の如く、地上作業に備へる爲の要所要所に點を定めおく外、トラバーを組む必要がないと言ふ非常な利便がある。

此の關係が一般にプロットされて出來た地圖と同樣な地圖がモザイックに依つて作製される譯である。此の事が南アフリタやローデンア及び西部オウストラリヤ等の探鑛踏査上に相當價値ある事が證明されたのである。給水及び灌漑池、道路及び鐵道計畫等の踏査測量には航空測量に依り迅速に遂行



第6圖・帶狀に飛行して居る時の吹き流され狀態　小片内の飛行の酌量は圖の爲に生ずる漂流に對して爲される、!方飛行機は此處に示す如くその進路より外れる。此を制する爲に點線に沿つて寫眞を撮る樣寫眞機を向けて上圖に示す如く橫に飛んでゐる。仕事に對する航行が計畫されたストライプを得る爲に地域の廻を長方形の進路をとつて飛ぶ事が常である。

され、そして全體的に技術家がその地域に對する研究の機會を持つ樣になるのである。

モザイツクの方法は寫眞に示された特殊の地點に興味ある專門家にとりては 非常に價値あるものである。 然し地圖は餘り詳細に渡る事は一般の人々が地圖として使用するのに混雜を招來させる事になる。更に又其處には多くの不正確な點はなるが、寫眞より正確な縮尺で修正された地圖は一般的價値が大である。

樣々の場合幾度か實行して陸地測量部の地圖になつた大縮尺（1/2,500）のものは、此の國の市役所に取つては都市計畫案作成上頗る重要なものになつた。 此の垂直航空寫眞はカナダに於いても地圖作製上可なり廣範圍に利用されてゐるが、 その國の北東にある島の擴大なる地圖を作製する爲には特殊の方法が採用されてゐた。扨てそれは傾斜航空寫眞（Obilque Photographs）と言ふので水平線を含んだものを撮影して居り或る時は單獨に撮影される事もあるが、多くは三組撮影するのが普通である。 そして一つは前方を指摘し他の一つは別の側を撮影してゐる。 夫故幾分の重が出來る譯である。カナダに於ける測量は地上測量より20倍も早くて一層正確であると評價されてゐる。

飛行機の高さが分り寫眞の傾斜角が此の高さと水平線の位置より決定されて居るならば 寫眞の上に透視圖的に四角の格子を描く事が出來る。詳細圖は夫から矯正された格子に描かれる。 その方法はローデシヤに於て廣く用ひられたのである。 斯くして上述の如く此の測量で英國のゲイアナ及び其他の地方の測量を遂行したのである。が然し、此の方法は高さの決定の爲には使用されなかつた。

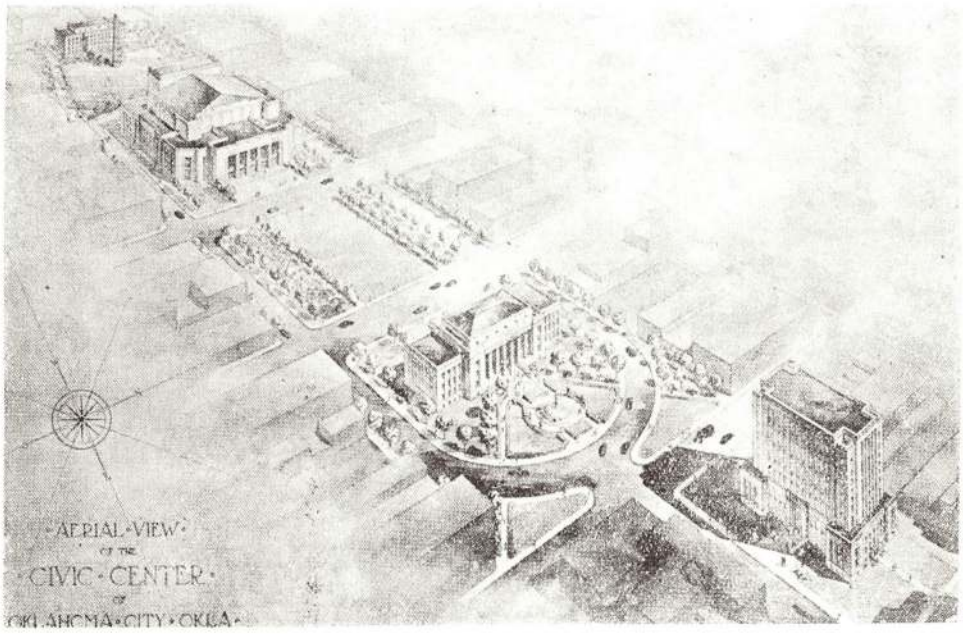
インドに於いては此の垂直航空測量と傾斜航空測量とを組み合せて使用し、 斷崖絕壁の山腹のある谷間の地圖を作製するのに應用されて居つた。或は又分つてゐる位置から80哩乃至100哩も離れて居る山の高さを決定する場合にも使用される。（了）

元鐵道構內敷が Oklahoma 市の都市中樞地となる[1)]

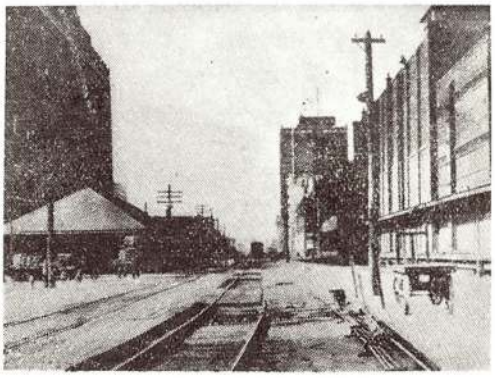
Oklahoma 市の所謂 8,000,000 弗の新都心地は、現在非常な迅速さを以て完成に近づきつゝあるが、此の都心地開發に就て煩はしかつた障碍物を取り除き、且つ其處を都市の遺產として變化さすことに就て永い間協力した努力が傾注されて居つたが、玆てそれが限度に當達し遂に實を結んだものである。此の障碍物と云ふのはトラツク、客車等の鐵道の幹線と貨車驛等より成立つて居るのである。而も是等の障碍物は終端驛的交通機關として、商業地域の中央部と市の北端を横切つて居り、そして又住居地域の主要部分を此處で遮斷して居るのである。 であるから、列車の切換等の爲めに交通を停滯さすので、かゝる阻害の移轉に關する要求が屢々繰り返へされて居つたのである。 更に又地域的に見ても、商業地域擴張への自然の道筋に直接して鐵道の構內敷が横はり且つ倉庫地帶が存在する現狀なのである。

1920年、遂に商業會議所の指導者達並に都市集團（Civic Groups）等の下で行はれた協議會に於て、市當局と三鐵道會社の間に或る協定が成立したのである。 而もその時の條件には、鐵道及その附屬設備を、より適當な位置に移轉さす爲めの準備をなすと云ふことがあつた。市は4,000,000弗の公債を發

1) Donald Gordon; Oklahoma City Park Superintendent: "Site of Former" Railroad Yard Becomes Oklahoma City's Civic Center; American City, May, 1937. PP. 50-51



第1圖・オクラハマ　シヴイツクセンター計畫圖



號2圖・元オクラハマ市の鐵道構內停車場



第3圖・現在開發中の敷地

行し、一般から此の事業の基金を得ることになつた。

此處で處理された事務の部分だけに就ては立退き完了して、空地となると同時に、鐵道の所有地の所有權が市に移ることになつて居るのである。此の土地の主要部分の廣さは、大約幅400呎、奥行1,500呎にして、小面積でも約1ブロック半の廣さがあり且つ第三の地區は、幅100呎、奥行が3ブロック位の長さがあるのである。而も總面積は約18英町を含包する廣濶なる面積である。

此の地區が市によつて利用される爲めの提案に就ては、變化に富んだ種々様々な計畫があつた。然し乍ら此の特別時にあたつて、既に斷乎たる都市計畫家が、都市將來の發展のめめに、完全なる計畫を準備すべく、都市計畫に從事して居つたのである。そして彼等は、此の地區は新市廳舍（City Hall）や公會堂を含む、特に社會が要求して居るところの幾つかの公共建築物の爲めの敷地として使用さるべきことの示唆を與へたのである。而も此の

土地は、商業地域の主要部に接續して居り且つ都市の各部分より容易に參集し得べき場所でもあるので、如斯用途の爲めには頗る付きの適地であつたのである。更にかゝる土地の利用法は隣接せる周圍の建物に刺戟を與へて高級な私的建築物の發展を促進することになるであらう。

1935年に至るや、かゝる計畫を實現すべき機會が當來したのであつた。それは即ち、時恰も45～55の基礎の上に公共的事業改善に對する公益事業管理局（The Public Works Administration=PWA）の事業計畫が起案され時たであつた。であるからOklahoma郡では新し裁判所を建築する要望があつたので、結局之れを此の開發計畫に加へて、裁判所、市廳舍（City Hall）、約800人の座席を有する公會堂及新警察本部と監獄舍等の施設の爲めに、此の機會をとらへる事に意見の一致を見たのである。尙ほ是等4個の建築物の建築費は約3,176,318弗を必要とするのであるが、內1,747,210弗、即ち總經費の55%は市及郡の公債發行による收入見込で、殘りの45%はPWAによる補助金であるとして居つた。



第4圖・建築家によつて製圖されたシヴイツクセンター內の3個の建物

（上）警察本部（中）市廳舍（下）市公會堂

此の4個の建築物完成への建築工事開始後は、不必要なる工事遲滯を避くる方法として、此の建築工事を4つの建築家集團に分割したのである。そこで、是等4個の建築物間に於ける一般的な建築的調和を計るべく、以上の集團による仕事の平均を得せしむる責任を筆者（Donald Gordon）が負はねばならなくなつたのである。何故なれば本工事のあらゆる關係に於て協力と云ふことなしには達し得られないからである。1935年12月に是等の建築に關する工事が開始されたのであつたが、早くも本年春早々までには凡の建築物が完成されるであらうと云ふのである。

本地區內に於ける4個の建築物の配置に就ては敷地計畫の自由な變化を許されなかつたところの物理的並に法律的制限によつて決定された點が多分にあつた。即ちその一つは、地區の形狀が此の計畫を支配するところの重大な要素の一であつた事と、他の一つは此の土地より鐵道が立退くと同時に多くの訴訟事件が惹起した事であつた。

即ちその事件は歸屬權の爲めの主張が最初の土地所有者及其他の所有者によつて起されたのであつた。で、結局土地の幾分は是等の主張の影響を受けたのも事實であるが、他に明確なる題目を持つた要求もあつた。此の故に是等の要求を一掃するのに數年を必要とするかも知れないので、土地が空けられたら出來るだけ早く、是等の建築物の幾つかの建築を始める事が得策であると思考されて居つた。

市廳舍、公會堂及警察本部等の建築物は此の地區の主要部に配置されてある。建築費875,000弗の市廳舍は東部の第一道路（First Strect）の中軸に配置され且つ此の建築物に對しては充分な敷地として1

ブロックが充當されて居る。市廳舍の西は、幅600呎の廣場を隔てゝ建築費1,042,000弗の公會堂である。更に西方の公會堂の後部は警察本部である。此の建物の建築費は172,000弗であらう。建築費1,200,000弗の裁判所は市廳舍の東にして且つ第一道路の北側の敷地に配置されてある。此の建物から東方は、商業用建築物の背面によつて側面を衝いてゐる狹い細長い土地が長く伸びてゐる。で、此の100呎帶狀地（100-foot strip）の自然的開發に就ては、決定的な斷乎さがなかつたのである、何故なれば、それには法律上の地上權の問題が附隨して來るからである。建築敷地には凡て造園の爲め、充分なる餘地が取つてあり、市はその爲めに50,000弗の經費を充當して居るのである。尙ほ、兩側の主要道路なるドライヴウエイを含む造園工事に關しては、市の公園課並に工務課（The Park Dept. and the Engineering Department）によつて工事が進められてゐる。

Oklahoma 市の元鐵道橋內敷を都心地に變へる工事に就ては、先例のない速度を以つて進行されて居る。今日までに單一な構築計畫だけで、都市の爲めに、かゝる大規模な都心地の開發を完成さすと云ふ事は殆んど不可能事とされて居つたが、此の場合は、市會、郡委員（County Commissioners）及 PWA 當局等の協力とそして又必要に應じて公債發行の決議をなした公共的の信賴とが、あいまつて實行可能にまで之れ等の事業を誘導して行つたと云へるであらう。（邊井幸次郎）

被洪水地に於ける住宅地開發としての對策[2]

Bridge port Conn. に本部を置く Fairfield 郡計畫協會（the Fairfield County Planning Association）では "It Can Happen Here" といふ見出しと "我々は洪水の備へをして居るや？" といふ副見出の下で素晴しく効果的な公報（bulletin）を發行したのであるが、今本誌（the American City）に收錄したのはこの解說の或る部分である。

記述されてある條件と提案されてゐる救治策とは、全體を引用するに値するもので、此の公報はテクストとして一般的に採用し得るものである。

現代住宅政策の便宜のために、不景氣時代の間は容積が狹く築造されたものに對する需要が高まつた事に關連して、それが Fairfield 郡に於ける住宅建築活動の將來に就て特徵付けてゐることを指摘してゐる。不良なる區劃整理の結果、1920～1929の洪水に就ての最近の擴張に際し、づさんな地形圖の上に直線的列をなして設計された20步式敷地割（a crop of 20-foot lots）と稱する地區では汚水の排水設備が不可能になつたのである。公共的慰樂休養地開發のための自然的風致が一種の產財として利用される代りに、成行きにまかされた敷地と下水網のために莫大なる經費が流出したのであつた。

地方當局による統制が、計畫の全體に對し全く行はれてなかつたので、多くの場合計畫地の道路網と隣接地區との關係とが全然無關係な狀態に置かれてあつたのである。

此の故に洪水が續いた場合には、是等を修正のために莫大な經費を必要とし、所有者を失望せしめ當局を當惑せしめ、そして配達及交通運輸に關する經費が繼續的に追加を必要とし、且つ是等を行ふに必要なる規定を得るの困難に遭遇したのであつた。或は又かゝる狀態を改造する場合新設道路が高

2) "It Can Happen Here", Are We Prepared for a Boom ?: the American City; May, 1937: PP.52-53.

い建物などを貫通する事なども あつて、それも經費がかさむ事の原因であつた。

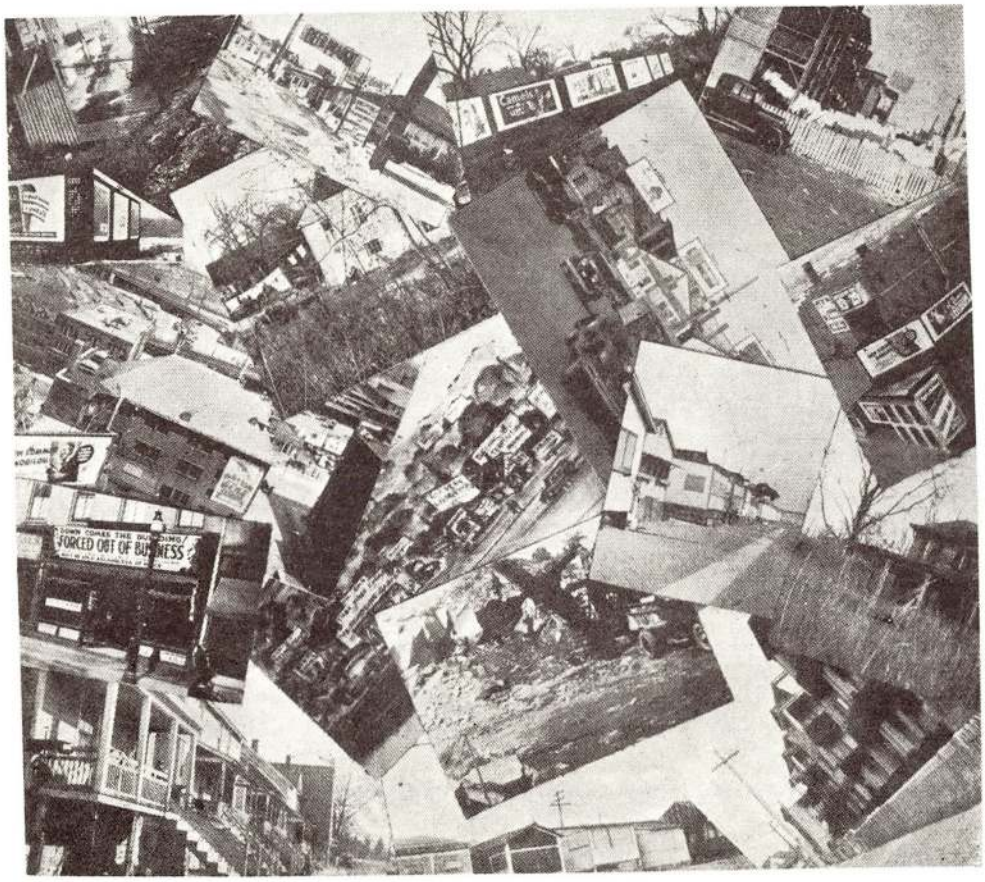
地方自治體（local communities）では、新しい、住宅地の開設、廣範圍な建築作業及永續的に公共の利益を保證するであらう處の 適切なる指導調節の手段として建築方法の革新問題に直面すべき用意があるや否やといふ問題が惹起するのである。

是等の自治體に於ては、建築計畫の迅速なる擴張に備へて、計畫地の開發と地域制のために最善なる準備として効果的な規則が組織されたのである。

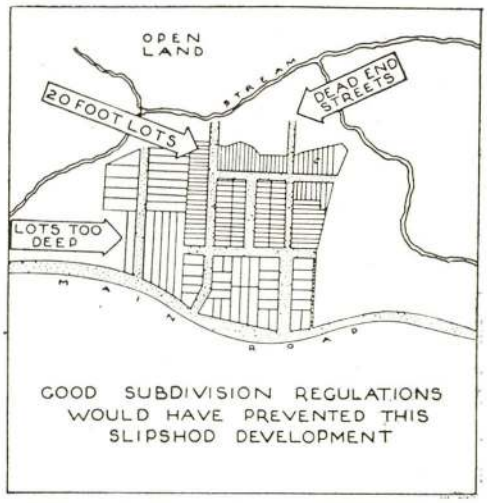
何にがなさるべきや？

公共的の統制に堪へ得る幾らかの要素が、新しい區劃整理に際し、價値ある安全性として影響を與へてゐる。健全にして着實なる建物の築造方法は、充實した建築規則を通して、投資者又は自治體を惡質材料より被る損失から保護する事が出來るのである。

敷地の大さを充分にし且つ道路設計にそれを關連せしめる事は、區劃整理規則（Subdivision regulation）を通して達し得るのである。（その規則といふのは敷地を餘り細く刻み込む事は何人も利益しないのみか自己又は隣の土地を損ふといふ事を防ぐ處のものである。）最近の洪水の際 Fairfield 郡に於ては1.500個以上も異樣な敷地（freak lots）が區劃されたのである。——即ちその敷地の或るもの



第1圖・洪水による被害區域に於ける住宅の狀態を說明する寫眞のモンタージュ



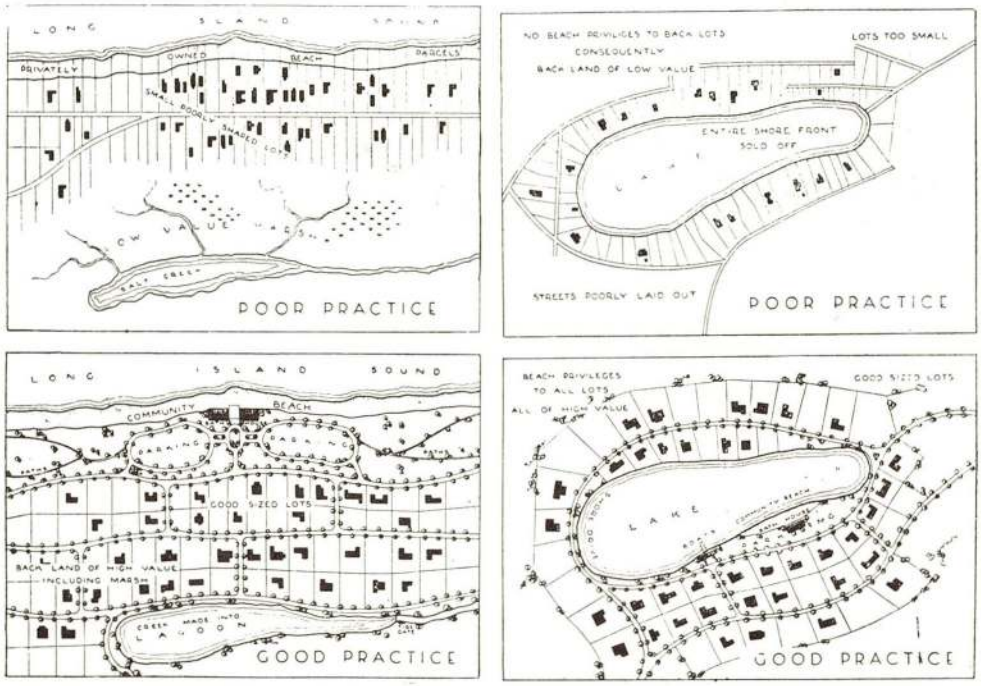
第2圖・よき區劃整理法はこの不整頓開發を防ぎ得るであらう

は幅18呎、奥行2.000呎もあるものもあつたが多くは20呎乃至80呎であつた。敷地のかゝる區劃整理は何等の價値をもたらす筈がないのは勿論である。であるから孤立してゐる地區の所謂20步敷地（20-foot lats）の區劃整理地では、保健衞生に關する費用と稅金とが支拂へないばかりか、學校に對する負債等の問題まで惹起してゐるのである。

協會によつて作成された最近の調査によれば Fairfield 郡に於て築造された一家族住宅の 98.2 %は地域的によく保護されてない事が吾々の前に示されてゐる。

二家族住宅に對する評判が頗るよく且つ大型の二家族住宅地域が準備化された時、地域制に關する多くの法律が作成されたのであつた。が現在の趨勢としては一家族住宅に就て その方向が向けられてゐる事を指摘してゐるが、それは多分この形式のものゝ發達を保護するため 多くの都市の地域制の變更する時を意味するのであらう。

Fairfield 郡計畫協會（Fairfield County Planning Association）による最近の調査によれば Boston Post に



第3圖・水邊地開發設計のよい塲合と惡い塲合（上は不良、下は良）

添ふてゐる土地の34.6%が空地であつた事が示されてゐる。この所謂 Post Road に添ふて植込による細長い緩衝地帯が充分用意されてありさへすれば、後部の土地は住宅用地の開發としては 相應しい土地となるのである。で、此の住宅地は海岸の慰樂休養地、商業又は商店街地域に近く且つ Poston Post Road に容易に接し得るばかりでなく同時にそれから保護されてゐるといふ利點を持つてゐるのである。であるから上記と同樣な條件下にある湖邊、海岸又は河邊等に添つてゐる土地の計畫は、公共的所有地として、海岸地の一部若くは全部を保存すべきであり、且つ その事により後部に於ける廣大な地域をより價値のあるものにすべきである。(**亀井幸次郎**)

第1回全國都市美協議會概況報告

都市美協會主催にかゝる第1回全國都市美協議會は、昭和12年5月11日及12の兩日東京に於て開催されたのであるが、第1日は、東京市深川區清澄町の東京市清澄公園内の會場に於て、下記の如き順序で協議會が開催され、2日目には見學(下記の見學コース參照)と云ふことで豫定のコースを見學し、更に此の見學を土臺として "他の都市より見たる東京市" と云ふ題目の下で 座談會が日比谷公園内松本樓上に於て開催されたのである。

筆者は、本協會都市計畫委員として出席したのであるが、尙ほ筆者以外に 本委員の一人である堺市技師加藤善吉氏の參加を見たのは心强い次第であつた。以下本協議會に於ける 協議概要を記し出席に對する報告としたのである。

本協議の會場にあてられた清澄公園は、もと岩崎家の庭園であつたのであるが、大震火災後 之れを東京市に寄贈されたもので、現在では、東京市清澄公園として、市の公式催の場合の各種のレセプション用の會場として利用されて居るところである。

時恰も、5月の中旬で、新緑のうらゝかに晴れ渡つたすがすがしい日和であつた。清楚な氣分の横溢して居る庭園を前にした會場で本協議會が進められたのである。而も朝から夕方まで(自午前9時半至午後5時)の長時間に亘り熱心に續行されたのである。協議の次第は下記の通りであつた。

第1回都市美協議會次第

第1日　5月11日(火)

1　挨拶　都市美協會々長　男爵　阪谷芳郎氏

(但し會長挨拶は病床を押して正午近く會場に御出席なされ、その時になしたのである。)

2　祝辭　内務大臣、文部大臣、鐵道大臣、東京市長

3　報告

(イ)都市美協會の活動と現場　都市美協會理事　石原　憲次氏

(ロ)大阪に於ける都市美運動　大阪市保健部長醫學博士　藤原九十郎氏

(ハ)京都市に於ける都市美運動　京都市産業部觀光課長　西田　利八氏

4　協議

本協議に入るや、都市美協會副會長近新三郎氏議長に推選され、次の多き諸事項に付き協議をし、且つ之れを建議案となしたのである。

1　都市美審査委員會設置ニ關スル件（都市美協會提出）　井下　清氏說明

都市風致ノ維持增進建、築物其他工作物ノ美的統制竝都市醜排除等都市美ニ關スル 重要ナル事項ヲ審議スル機關トシテ都市美審査委員會設置ニ關スル法令ヲ制定スルノ必要アリト認ム

本提案に對して、日本建築協會外一名の賛成動議があり、且つ時間の都合上細部に亘る審議は 省略し、尙ほ內容の研究其他に關しては都市美協會へ一任と云ふことにして可決されたのである。

2　街路照明統制ニ關スル件（都市美協會提出）　堀　信一氏說明

街路ノ照明ハ都市保安、交通ノ重要ナル設備ナルノミナラズ、都市美ノ要素タルヲ以テ照度、形狀、樣式等ニ適當ナル統制ヲ要ス。

故ニ之ヲ道路ノ附屬物トシ一定ノ基準ヲ設ケ以テ其ノ統制ヲ圖ル必要アリト認ム

3　廣告物取締法改正ニ關スル件（都市協會提出）　石原憲次氏說明

現行ノ廣告物取締法ハ明治44年ノ制定ニ係リ現今ノ實情ニ副ハザルノミナラズ其ノ運用ニ關スル地方廳令區々ナルヲ以テ取締ノ徹底ヲ望ミ難ク俗惡ニ流レ風致ヲ害スルモノ隨所ニ現ハルヽ狀態ナリ。

仍テ廣告物取締法ノ改正ヲ行ヒ取締ノ基準ヲ確立シ、都市美ノ維持、廣告物ノ美的統制ヲ圖ル必要アリト認ム。

4　喀痰ノ取締ニ關スル件（東京婦人結核豫防委員會提出）　吉岡彌生女史代
竹內女史說明

喀痰ハ結核傳染ノ危險最モ大ナルノミナラズ、都市美ヲ害シ人ヲシテ不快ノ念ヲ抱カシムルコト甚ダ多シ、之ハ一ノ習癖ニシテ容易ニ脫却スルヲ得ザルモノナレバ法令ヲ以テ嚴禁シ、路上其他公共利用ノ場所等ニ於テ之ヲ犯シタル者ニハ相當ノ制裁ヲ加ヘ、以テ我國ヨリ喀痰ノ存在ヲ消滅セシムル必要アリト認ム。

5　全國都市美協議會繼續ニ關スル件（都市美協會提出）　平野眞三氏說明

都市美運動ハ一朝一夕ニ目的ヲ達シ難ク、而モ一都市ノミノ問題ニアラザルヲ以テ本協議會ハ將來繼續シテ開催シ相互研究、協力スルノ必要アリト認ム。當分ノ內每年一回持廻リテ開催シ主催者ハ開催地ノ市又ハ都市美運動團體トシテ其ノ年ノ會議ニ於テ翌年ノ場所ヲ定ム。

之れに對し仙臺市より開催地としての要望ありたるも、翌年の開催地の件は、ひとまづ都市美協會一任と云ふことで可決さる。

以上を以つて第4議題を終了、直ちに休憩となり、氣持のよい庭園と池を前にして晝食となつたのである。

午後一時より再會が宣せられ、第5議題に移つたのである。

5　議演　都市美の種々相　工學博士　佐藤功一氏

氏一流のユーモラスの口調を以て美學のイロハを引用し、都市建築に表現されてゐる 橫の線又は縱の線等に對す特有の解釋を與へたり、或は又道路割や、曲線道路の都市美的取扱方に對する 示唆を與へた、有效な講演であつた。

6　研究發表

各自の研究の發表がある前に、遲れて參加した吉岡彌生女史が本議題の劈頭に〝女性から見た都市美運動〟に就ての女史獨特の能辯を振はれたのである。その後、通告の順に從つて發表論文の說明があ

つたのである。以下紹介するのは論文の説明者とその題である。　（發表順不同）

イ、都市生活と景觀、都市美	慶應大學教授	奥井復太郎氏
ロ、都市の品性	神戸市都市計畫課長	奥井喜代一氏
ハ、都市美運動の精神部門への展開	都市計畫東京地方委員會技師	石川　榮耀氏
ニ、屋外廣告物の取締に就て	東京市建築課技師	石原　憲次氏
ホ、街燈の意匠と其の合理化	東京電氣株式會社照明學校長	關　重廣氏
ヘ、都市美と綠化	大阪市公園課長	推原　兵市氏
ト、都市綠地と都市美	東京市公園課長	井下　清氏
チ、警視廳管下に於ける煤煙狀況	警視廳工務課	關　新四郎氏
リ、京阪神に於ける塵芥箱に就て	大阪府警察部建築課技師	龜井幸次郎氏

尙以上の外に建築協會々員にして論文又は研究報告を提出した人々は下記5氏であつた。

A、都市美に於る輿論と科學	大阪市營繕課	宮田　秀穗氏
B、都市構築の重點	大阪府警察部建築課長	中澤誠一郎氏
C、大阪都市美と都市美運動	都市計畫大阪地方委員會技師	鳥井　信氏
D、都心地の計畫と東京市廳舍	大阪市營繕課技師	新名　種夫氏
E、都市美から一團地住宅經營の實相	堺市技師	加藤　善吉氏

提出論文及報告は全部で40通の多數に達し、都市美協會では是等を一括として "現代の都市美" として400頁以上に達する冊子を發行したのである。前記の如く約、三時間に亘る長時間の研究發表の後副會長近新三郎氏の閉會の辭を以て議題の全部を終了したのである。最後に、夕方六時より、日比谷三信ビル内東洋軒に於ける市長招待の晩餐會があつて、日程の第一日が終つたのである。

第2日　5月12日（水）

前記の如く第二日目は見學であつたので、指定集合場に九時までに參集し筆者の生れて此の方初めて乘るところの遊覽自動車に分乘して下記の如き豫定のコースで見學を遂げたのである。

集合　午前9時東京市日比谷公會堂前

出發　午前9時20分（大型自動車）

1　帝國議會議事堂參觀

2　新宿御苑拜觀

3　明治神宮外苑　聖德記念繪畫館參觀

晝餐　於日本青年館

出發　午前1時30分（大型自動車）

4　櫻田濠

5　東京市中央卸賣市場（午後2時乘船）隅田川口ヨリ隅田川ヲ上ル

6　隅田公園（吾妻橋附近ニ上陸）

休憩　淺草松屋（六階特別室）

隨意解散（午後4時頃）

拜觀並に視察箇所說明

帝國議事堂

本議事堂建築は古く明治19年2月内閣に臨時建築局が設置せらて以來外國建築技師の招携、諸國議事堂の視察、懸賞設計募集、用材の調査試驗等の準備期間を經 且つ幾度に亘る設計變更、工事豫算の改變等種々の困難を克服して昭和11年秋漸くその功を竣つたものである。

竣功した議事堂は工費2千580萬圓、使役延人員約254萬3千人、16ケ年繼續の大工事であつた。

高塔を中心として嚴正な左右對稱を爲し、古典的精神に自由濶達な近世式手法を加味して 堂々たる安定感と實實莊重を旨として 國政を議する殿堂として適しいものである。然して内部の設備、裝飾は實に近代日本科學の精粹を總動員したもので、 議事堂機能の完全なる發揚は勿論、一貫せる國產品使用の大方針により、日本建築工藝技術を躍せしめた事は間接的な功績として看過出來ない事項である。

新　宿　御　苑

德川幕府の瓦解までは新宿一帶及御苑は 内藤駿河守の所領であり是を内藤新宿と呼んで居た。御苑は其中屋敷であつたのであるが、明治 5年内務省より移して宮内省所轄となし、同年 5月新宿植物御苑とし3、9年5月新宿御苑と稱する樣になつた。現在の御庭の原設計者は佛人アンリー・マルネー氏であつて、故農學博士福羽逸人氏と前宮内技師 市川之雄氏畢生の努力に依り、明治39年に竣功したものである。面積約19萬坪。

明　治　神　宮　外　苑

大正4年明治神宮創設の爲めその造營に關する事務を掌る明治神宮造營局の設置せらるゝや、それと別に國民奉贊の赤誠よりなる資を以て 同神宮に外苑を造設し、以て祭神を永へに記念する一大施設を起さんとする議が起り、これが請願の提出となり、審議の結果、 舊青山練兵場を中心とする一帶、約15萬 5千坪の地域を劃して明治神宮の外苑を造設せんとする計畫を見、これが實施の目的を以て同年9月伏見宮貞愛親王殿下を總裁に奉戴し、 公爵徳川家達を會長とする財團法人明治神宮奉贊會設立せられ、廣く國民の獻資を募りしに、應募總額は忽ちにして豫定額（4百50萬圓）を遙かに突破し6百70餘萬圓の金額に達したるのみならず、皇室亦該事業補助の御思召を以て 御内帑金30萬圓を下賜あらせられた。こゝに於て奉贊會は翌 6年 2月外苑造設の工事を明治神宮造營局に委囑せん事を申請した。而して同年8月勅令を以て奉贊會の造營局に於て施行せしむることゝなつた。仍て造營局は直ちに敷地の測量に著手し、一方奉贊會より提供せる外苑計畫綱領に基づき工事の大體計畫を樹立した。翌6年12月工事に着手したるに、會々歐洲大戰亂、關東大震災等の事故ありて、大正13年 漸く競技場の竣工を見、翌14年には新たに野球場及相撲場の建設を追加せられ、かくて大正 6 年以來10年の歲月と8百餘萬の巨費とを費して同15年漸く竣工を見、同1年22日竣工奉獻の盛儀が擧行せられた。同月勅令を以て外苑管理署の職制を定められて、是を管理せしめらるゝ事となつた。

聖　德　記　念　繪　畫　館

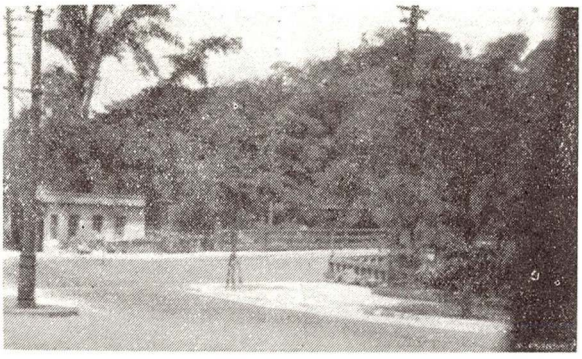
本館は神宮外苑中最主要なる建造物にして、明治、大正に於ける技術の粹を集めて代表的建築とし内部壁面には明治天皇御一代の御事蹟中主要なるものを表した 繪畫を掲げて公衆の拜觀に供し、永く天皇の鴻業聖思を讃仰するの資に供するものである。

大正6年懸賞競技によりて得たる一等當選圖案に準據し明治神宮造營局に於て研讃修正を加へて施行し、造園計畫の實施と相俟つて、その偉容を誇るものである。

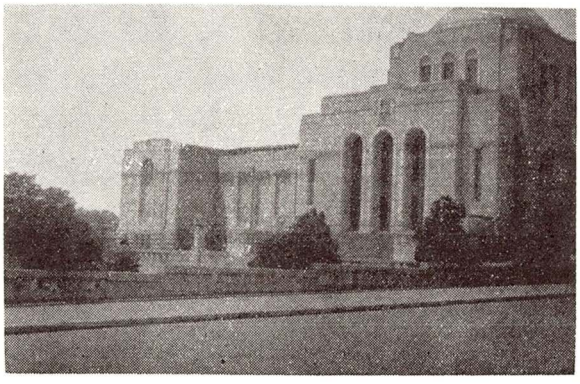
尙ほ視察順序を寫眞のみで說明に代へる。



第1圖・**櫻田門外より帝國議會を望む**
（大東京建築祭懸賞寫眞入選作品より）



第2圖・**遊覽バスより辨慶橋（赤坂見附）を望む**（筆者撮影）



第3圖・**明治神宮外觀　聖德記念繪畫館**（筆者撮影）

第4圖・櫻田門外官衙街の朝（警視廳と並木）
（筆者撮影）





第5圖・並木と水とそして建築物の構成が醸すところの都市美（日比谷交叉點附近よりの眺め）（大東京建築懸賞寫眞入選作品より）



第6圖・商業地區に於ける都市美の一例（數寄屋橋附近）　（筆者撮影）

尙、當日5時半より、日比谷公園に於て開催された座談會はテーマが〝他の都市より見たる東京市〟と云ふのであるから、筆者も建築協會として出席致し、新名氏提出の論文の內容を取り擧げ、東京市廳舍の建設が、此の際急務なることを述べて、その責任をはたした。（龜井幸次郎記）

當日出席の各都市代表者下の如し。

都市美協會副會長	近　新三郎氏	堺市役所	加藤　善吉氏
新潟地方委員會事務官	西　芳雄氏	神戸市都市計畫課長	奥中喜代一氏
愛知　同　技師	中村　綱氏	市政調査會	幸島　禮吉氏
石川　同　事務官	木村　强氏	川崎市都市計畫課長	山田　敬助氏
同　技　師	如藤彌太郎氏	都市美協會常務理事	石原　憲治氏
日本建築協會	龜井幸次郎氏	同	平野　眞三氏
京都市保健部長	飯野　斐氏	同　囑　託	上床三次郎氏
同　土木局庶務課長	光明　正道氏	同	市川　政司氏
同　都市計畫課長	岩井　芳通氏	同	大久保嘉彦氏

市街地建築物法施行規則中强度計算の改正

◎內務省令第25號

市街地建築物法施行規則中左ノ通改正ス

昭和12年6月21日　　內務大臣　馬場鍈一

第44條第2項中「構造用鋼材」ヲ「構造用壓延鋼材」ニ改ム

第83條第2項中「1倍半」ヲ「2倍」ニ改ム

第101條中「松」及「杉、檜、樅「オレゴンパイン」北海道松ノ類」ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

スギ、エゾマツ、トドマツ、トウヒ、ベイスギ、ベイツガ	1立方米ニ付	450.0
ヒバ、ベイヒ、ヒノキ、モミ	〃	500.0
アカマツ、クロマツ、ツガ、ベイマツ	〃	550.0

第102條第1項ノ表ヲ左ノ如ク改ム

材料	應壓力度（1平方糎ニ付瓩）	應張力度（〃）	應剪力度（〃）	應曲力度（〃）
スギ エゾマツ トドマツ トウヒ ベイスギ ベイツガ	60	70	7	70
ヒバ ベイヒ	70	80	8	80
ヒノキ アカマツ クロマツ ツガ ベイマツ	80	90	9	90
クリ ナラ ブナ	70	95	10	95
ケヤキ	80	110	12	110

アカガシ シラガシ	90	125	14	125
花崗岩	110			15
硬質安山岩	80			9
煉瓦積	22			
「コンクリート」 {「セメント」 1 砂 3 砂利又ハ碎石 6	30	3	3	3
壓延鋼	140 「リベット」ノ側壓ニ對シテハ 2500	1400	700 「リベット」ニ付テハ 1000	1400
錬鐵	85	850	550	850
鑄鐵	850	200	200	200

第102條第2項ノ次ニ左ノ1項ヲ加フ

壓延鋼ニシテ下降伏應力度1平方センチメートルニ付3500キログラム以上ノモノ（「リベット」ニ在リテハ應張强度1平方センチメートルニ付5000キログラム以上ノモノ）ノ應力度ニ付テハ第1項ノ限度ニ依ラザルコトヲ得

第105條　强度計算ニ適用スル各種床積載荷重ノ最小限左ノ如シ

	床ノ種類	積載荷重（1平方米ニ付瓩）
イ	住宅 （別段ノ定アル部分ヲ除ク）	200
ロ	住戸又ハ住室 宿泊室 病室 ノ類	200
ハ	事務室 店舗ノ賣場 公衆食堂 倶樂部室 ノ類	300
ニ	教室	350
ホ	體操室 舞踏室 ノ類	400
ヘ	集會室 講堂 觀覽席 聽衆席 陳列室 百貨店ノ賣場 ノ類	450
ト	自動車々庫 自動車通路	500 1000
チ	作業室	實況ニ依ル 但シ1平方米ニ付350瓩ヲ下ルコトヲ得ズ
リ	倉庫又ハ書庫	實況ニ依ル 但シ1平方米ニ付400瓩ヲ下ルコトヲ得ズ
ヌ	廊下、廣間又ハ階段 住宅ニ屬スルモノ ニ又ハホニ連絡スルモノ ヘニ連絡スルモノ 又ハ多人數來集スルモノ 其ノ他ノモノ	200 350 450 300
ル	屋上廣場又ハ露臺 住宅ニ屬スルモノ 運動場ニ使用スルモノ 多人數來集スルモノ 其ノ他ノモノ	150 350 450 250
ヲ	前各欄ニ記載ナキ室	300

1　特ニ重量ノ物品ヲ積載スル床ノ積載荷重ハ各欄ノ限度ニ拘ラズ其ノ實況ニ依ルコト

2 自動車々庫、自動車通路、作業室等ノ床ニシテ大ナル集中荷重ヲ受クル部分ニ付テハ別ニ其ノ影響ヲ加フルコト

3 衝撃又ハ振動著シキ機械設備ヲ有スル作業室等ノ床ノ積載荷重ハ10分ノ2.5以上ノ割増ヲ爲スコト

前項ノ積載荷重ハ其ノ實況ニ應ジ小梁ニ對シテハ其ノ10分ノ1以内ヲ、大梁ニ對シテハ其ノ10分ノ2以内ヲ、柱又ハ基礎ノ直壓力ニ關シテハ其ノ支持スル床ノ數ニ應ジ左ノ割合以内ヲ、震力計算ニ關シテハ其ノ10分ノ5以内ヲ減ズルコトヲ得但シ集會室、講堂、觀覽席、聽衆席、陳列室、倉庫、書庫等ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

支持スル床ノ數	1	2	3	4	5	6	7以上
輕減ノ割合	10分ノ2	10分ノ2.5	10分ノ3	10分ノ3.5	10分ノ4	10分ノ4.5	10分ノ5

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）大正9年11月9日内務省令第37號市街地建築物法施行規則抄錄

第44條第2項

構造用鋼材ハ商工省告示日本標準規格第20號ノ規定ニ依ル品質以上ノモノナルコトヲ要ス

第83條第2項

接合用「リベット」又ハ「ボールト」ノ中心距離ハ其ノ直徑ノ2倍半未滿ト、其ノ中心ト材端トノ距離ハ其ノ直徑ノ1倍半未滿ト爲スベカラス

第101條 强度計算ニ適用スル各種材料ノ重量ノ最小限下ノ如シ

（左表略ス）

第102條第1項

强度計算ニ於テ建築物ノ各部分ニ生ズベキ應力度ハ各種材料ニ付左ノ限度ヲ超過スベカラス

（左表略ス）

第105條 强度計算ニ適用スル各種床動荷重ノ最小限下ノ如シ

（左表略ス）

倉庫、書庫、作業場等ニ付テハ其ノ實況ニ應スル適當ナル動荷重ニ依ルヘシ

本條ノ動荷重ハ其ノ實況ニ應ジ小梁ニ對シテハ其ノ10分ノ1以内ヲ、大梁ニ對シテハ其ノ10分ノ2以内ヲ、柱ニ對シテハ其ノ10分ノ3以内ヲ、震力計算ニ關シテハ其ノ10分ノ5以内ヲ減スルコトヲ得但シ倉庫、書庫、集會室、劇場棧敷、陳列室等ニ對シテハ本項動荷重ノ輕減ヲ爲スコトヲ得ス

本號執筆者紹介

（五十音順）

伊藤正文	大阪市校園建設所設計係長
岡田孝男	大阪三越住宅設計部・技師
川勝健二	大阪府警察部建築課
城戸久	名古屋高等工業學校助教授
香野雄吉	松竹下加茂撮影所
坂井則夫	日本工業新聞記者
高井末吉	名古屋私立總合病院建築場
武井高四郎	京都帝國大學教授
棚橋諒	京都帝國大學助教授・工學博士
田中彌一	大阪府建築課・技師
坪井善勝	和歌山縣廳建築課・技師
長谷川如是閑	評論家
增田八郎	和歌山縣廳建築課・技師
森口多里	美術批評家・早稻田大學理工學部講師
森口清	大阪府警察部建築課

7月號

臺灣都市計畫令施行規則

(4)

第7節　雜　則

第205條　計畫令第36條及38條ノ規定並ニ之ニ基ク本令ノ規定（第206條ヲ除ク）ハ建築工事中ノ建築物及建築工事ニ著手セザルモ設計アル建築物ニ之ヲ準用ス

第206條　知事又ハ廳長ハ建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ著手セザルモ設計アル建築物ニシテ其ノ建築竣功ノ後ニ於テ計畫令第38條第1項ノ規定ニ依ル措置ヲ命ズル必要ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第207條　計畫令第26條、第31條、第34條、第37條乃至第40條及第43條ノ規定並ニ之ニ基ク本令ノ規定ハ建築物ノ敷地ヲ造成スル爲ニスル擁壁ニ之ヲ準用ス

計畫令第36條及之ニ基ク本令ノ規定ハ前項ノ擁壁ニシテ高サ2メートルヲ超ユルモノニ之ヲ準用ス

第208條　計畫令第2章ノ規定ハ史蹟名勝天然記念物保存法ノ適用ヲ受クル建築物ニ之ヲ適用セズ

第209條　左ノ各號ノ1ニ該當スル建築物ニシテ知事又ハ廳長ニ於テ支障ナシト認ムルモノニ付テハ計畫令第29條、第31條及第34條ノ規定ニ拘ラズ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

1　鳥居、形像、記念門、記念塔ノ類
2　交通信號塔、公共便所ノ類
3　陸橋ノ類
4　地下停車場ノ類
5　高架工作物内ニ設クル倉庫、店舖ノ類

第210條　博覽會建築物、觀覽場、飾門、飾塔、足代、棧橋其ノ他ノ假設建築物ニシテ知事又ハ廳長ニ於テ支障ナシト認ムルモノニ付テハ計畫令第19條乃至第24條、第31條及第34條ノ規定ニ拘ラズ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第211條　計畫令第41條ノ道路豫定地域内ニ於テ知事又ハ廳長支障ナシト認ムルトキハ同令第29條、第31條及第34條ノ規定ニ拘ラズ存續期限ヲ付シ假設建築物ヲ許可スルコトヲ得

第212條　臺灣總督ハ區域ヲ指定シテ第76條乃至第79條、第81條乃至第84條、第86條乃至第88條第90條、第92條、第96條、第100條、第101條、第106條、第107條、第109條乃至第123條、第125條乃至第148條又ハ第150條乃至第184條ノ規定ヲ適用セザルコトアルベシ

第3章　土地區劃整理

第1節　1人施行及共同施行

第213條　計畫令第49條第1項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

1　1人ニテ土地區劃整理ヲ施行セントスル者ニ在リテハ事業ノ範圍
2　第230條第1號乃至第3號ノ事項
3　整理施行者ノ員數
4　整理施行者ノ所有權又ハ計畫令第48條ノ規定ニ依リ土地ノ所有者ト看做サレタル者ノ權利ノ目的タル土地、水面ノ權利別、地目別ノ地積及土地臺帳ニ登錄セラレタル地租額
5　整理施行地區ヨリ特ニ除キシタル土地アルトキハ其ノ事由

整理施行地區内ニ左ニ揭グル土地アルトキハ前項ノ申請書ニ其ノ表示ヲ爲スベシ

1　官有地
2　官ノ用ニ供スル土地
3　公共團體ノ公用ニ供スル土地
4　名勝地及舊蹟地
5　古墳墓地及墳墓地
6　社寺境内地
7　鐵道及軌道用地

前項第2號及第3號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付キ主務官廳又ハ公共團體ノ承認アリタルコトヲ證スル書面、其ノ承認ヲ得ザルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ申請書ニ添附スベシ

第214條　設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テ第4號、第5號、第8號及第9號ノ事項ハ各區毎ニ之ヲ記載スベシ

1 整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的
2 工事其ノ他ノ事業ノ計畫說明
3 主要工事ノ仕樣
4 工事ノ施行前及施行後ニ於ケル土地ノ筆數及地積ノ地目別合計
5 工事施行ニ依リテ得ベキ利益
6 整理施行地及之ニ隣接スル土地、水面ノ現形圖
7 整理豫定圖
8 工事ノ著手及完了ノ豫定時期
9 工事費其ノ他一切ノ費用ノ豫算

第215條 規約ニハ臺灣都市計畫關係民法等特例、計畫令又ハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載スベシ
1 事業ノ範圍
2 事務所
3 役員ヲ置クモノニ在リテハ其ノ名稱、定數職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
4 會議ニ關スル規定
5 庶務及會計ニ關スル規定
6 補償金評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
7 費用ノ分賦及收入方法並ニ延滯利息又ハ過怠金ニ關スル規定
8 計畫令第70條第4項ノ告示前ニ於ケル土地使用ニ關スル規定
9 計畫令第70條第1項及第2項ノ規定ニ依ル處分方法
10 土地、水面ノ等位ノ評定ニ關スル規定
11 設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ニ關スル規定
12 計畫令第48條第2號又ハ第3號ノ規定ニ依リ土地ノ所有者ト看做サレタル者ノ權利消滅ノ場合ニ於ケル補償金徵收ノ方法ヲ定メタルトキハ其ノ規定

第216條 計畫令第49條第2項ノ規定ニ依ル設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載シ之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ
事業ヲ廢止シ、債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更シ又ハ整理施行地區ヲ減少セントスル場合ニ於テ借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面又ハ同意ヲ得ザリシ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ
整理施行地區ヲ變更セントスル場合ニ於テハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除斥セラルベキ土地、水面ノ整理施行者タルベキ者又ハ整理施行者ノ同意ヲ證スル書面、其ノ變更ガ計畫令第48條第2號又ハ第3號ノ規定ニ依リ土地ノ所有者ト看做サレタル者ノ權利ノ消滅ニ依ルモノナルトキハ權利ノ消滅ヲ證スル書面ヲ添附スベシ
第213條ノ規定ハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除斥セラルベキ土地、水面ニ之ヲ準用ス

第217條 1人ニテ施行スル土地區劃整理ヲ變ジテ數人共同ノ施行ト爲サントスルトキハ認可申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ協議一致ヲ證スル書面、規約、數人共同ノ施行ト爲ス爲メ定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面及第213條第1項第3號第4號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第218條 數人共同シテ施行スル土地區劃整理ニシテ整理施行者ガ1人ト爲リタルトキハ其ノ旨ヲ臺灣總督ニ届出ヅベシ

第219條 土地區劃整理事業ガ公共團體ノ事業ニ關スルトキハ整理施行認可申請書ニ其ノ團體ノ承認ヲ證スル書面、其ノ承認ヲ得ザルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ
前項ノ規定ハ設計書、規約又ハ整理施行地區ノ變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第220條 整理施行認可申請者又ハ整理施行者ハ整理施行地區ノ屬スル市、街庄又ハ區ニ事務所ヲ設クベシ但シ特別ノ事情アルトキハ之ヲ其ノ隣接市、街庄又ハ區ニ設クルコトヲ得
事務所ニハ土地區劃整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ備ヘ置クベシ
共同整理施行者又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第221條 整理施行認可申請者ハ其ノ氏名又ハ名稱、住所、整理施行地區及事務所ヲ整理施行地區ノ屬スル各市尹、街庄長又ハ大正9年勅令第361號第2條ノ區長（以下區長ト稱ス）ニ届出ヅベシ

第222條 整理施行ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事著手前第214條第6號ノ圖面ヲ添附シテ左ノ事項ヲ知事又ハ廳長ニ申告スベシ其ノ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

1　整理施行地ノ屬スル市、街庄又ハ區並ニ土地ノ大字、字、地番、地目、地積及水面ノ位置、地積

2　整理施行又ハ整理施行地區變更ノ認可年月日

3　工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及地積ノ地目別合計

4　工事ノ著手及完了ノ豫定時期

第223條　整理施行地區ニ一筆ノ土地ノ一部ヲ編入シタルトキハ臺灣地租規則施行規則第13號書式及第14號書式ニ依ル圖簿ヲ添附シ前條ノ申告ト共ニ分割ノ手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依ル分割ニ付テハ臺灣地租規則施行規則第20條ノ手數料ハ之ヲ納付スルヲ要セズ

第224條　整理施行認可申請者又ハ整理施行者第213條第1項第4號、第230條第1號、第2號及第231條第1號ノ地租ヲ計算スル場合ニ於テ整理施行地區ニ一筆ノ土地ノ一部ヲ編入シタルトキハ其ノ現況ニ依リ整理施行地區內ノ土地ノ地租ヲ參酌シテ地租ニ準ズル相當ノ額ヲ附スベシ

第225條　整理施行者ハ工事著手前整理施行地區內ノ土地、水面ノ等位ヲ評定スベシ

第226條　工事ニ著手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ臺灣總督及知事又ハ廳長ニ届出ヅベシ

第227條　規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ各區毎ニ第222條、第223條及前條ノ手續ヲ爲スベシ

第228條　共同整理施行者ハ土地區劃整理ノ施行ニ關シ書類又ハ通知ノ授受ノ爲代表者1人ヲ定メ整理施行ノ認可申請ト同時ニ其ノ氏名及住所ヲ臺灣總督及知事又ハ廳長ニ届出デ且之ヲ公告スベシ代表者又ハ其ノ氏名若ハ住所ニ變更アリタル場合亦同ジ

第229條　整理施行者ハ整理施行ノ認可アリタル後遲滯ナク土地原簿及權利者名簿ヲ調整スベシ

第230條　土地原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

1　整理施行地ノ總地積及土地臺帳ニ登錄セラレタル地租總額

2　整理施行地ノ筆數、地積及土地臺帳ニ登錄セラレタル地租額ノ地目別合計

3　土地各筆ノ字、地番及地目並ニ水面ノ位置

4　第213條第2項第1號乃至第3號ノ土地、官有地ノ賣拂若ハ賣渡ノ豫約ヲ受ケタル土地、工作物アル土地又ハ所有權以外ノ登記シタル權利ノ目的タル土地アルトキハ其ノ表示

第231條　權利者名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

1　整理施行者ノ氏名又ハ名稱及住所並ニ其ノ所有權又ハ計畫令第48條ノ規定ニ依リ土地ノ所有者ト看做サレタル者(埋立特許者ヲ除ク)ノ權利ノ目的タル土地ノ字、地番、地目、地積、土地臺帳ニ登錄セラレタル地租額及權利ノ表示

2　整理施行者タル埋立ノ特許ヲ受ケタル者ノ氏名又ハ名稱及住所並ニ其ノ權利ノ目的タル水面ノ位置及地積

3　土地、水面ノ等位

4　地積ヲ實測シタルトキハ其ノ實測地積

5　整理施行地ニ付所有權以外ノ登記シタル權利ヲ有スル者又ハ整理施行地ニ存スル建物ニ付登記シタル先取特權、質權若ハ抵當權ヲ有スル者ノ氏名又ハ名稱、住所及登記ノ要領

6　工作物所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及工作物ノ表示

7　臺灣都市計畫關係民法等特例第10條第2項又ハ第11條第2項ノ訴訟當事者アルトキハ其ノ氏名又ハ名稱、住所及訴訟ノ要領

第232條　土地原簿又ハ權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク之ヲ更正スベシ

第233條　共同施行ニ依ル土地區劃整理ノ事業年度ハ1年トス

前項ノ事業年度ハ4月1日ヨリ翌年3月31日迄トス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第234條　共同整理施行者ハ每事業年度開始前經費ノ收支豫算ヲ定ムベシ但シ初年度ニ於テハ整理施行ノ認可後遲滯ナク之ヲ爲スベシ

第235條　共同整理施行者ハ每事業年度經過後遲滯ナク當該年度ノ事業報告書及收支決算書ヲ臺灣總督ニ差出スベシ

第236條　前條ノ規定ニ土地區劃整理事業完了シ又ハ廢止セラレタル場合ニ於テ整理施行者ニ之ヲ準用ス

第237條　土地區劃整理事業完了シ又ハ廢止セラレタルトキハ整理施行者ハ土地區劃整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ整理施行地區ノ屬スル市尹、街庄長又ハ區長ニ引渡スベシ其ノ整理施行

地區2以上ノ市、街庄又ハ區ニ渉ルトキハ整理施行者ノ申請ニ依リ知事又ハ廳長ニ於テ其ノ書類及帳簿ヲ引渡スベキ市尹、街庄長又ハ區長ヲ指定スベシ

第238條　市尹、街庄長又ハ區長前條ノ規定ニ依リ書類及帳簿ノ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ左ニ揭グルモノニ付テハ10年間、其ノ他ノモノニ付テハ5年間之ヲ保存スベシ

1　計畫令又ハ本令ニ依ル認可、承認又ハ同意ニ關スル書面
2　設計書
3　規約
4　土地原簿
5　權利者名簿
6　議事錄
7　換地說明書
8　整理確定圖
9　事業報告書
10　收支決算書

第239條　第16條、第17條及第18條第2項ノ規定ハ計畫令第58條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入リテ測量若ハ調查又ハ障害物ノ變更若ハ除却ヲ爲サントスル塲合ニ之ヲ準用ス

第240條　道路、廣塲、河川、公園其ノ他公共ノ用ニ供スル土地ヲ整理施行地區ニ編入スル塲合ニ於テハ國又ハ公共團體ノ承認ヲ要セズ

整理施行地區ニ編入シタル前項ノ土地ニ付テハ國又ハ公共團體ハ之ヲ整理施行者ト看做サズ

第241條　計畫令第62條ノ規定ニ依ル公告ハ整理施行地區ノ屬スル各市役所又ハ街庄區役塲ノ揭示塲ニ3日間送付スベキ書類ノ要領ヲ揭示シテ之ヲ爲スベシ

第2節　行政廳施行

第242條　土地區劃整理ノ施行ヲ命ゼラレタル行政廳ハ遲滯ナク設計書及整理施行規程ヲ定メテ之ヲ告示シ10日間土地ノ所有者及利害關係人ノ縱覽ニ供スベシ

前項ニ揭グル事項ニ關シ土地ノ所有者又ハ利害關係人ニ於テ異議アルトキハ同項ノ告示アリタル日ノ翌日ヨリ起算シ15日以內ニ當該行政廳ニ之ヲ申出ヅルコトヲ得

第214條及第215條ノ規定ハ第1項ノ設計書及整理施行規程ニ之ヲ準用ス

第243條　行政廳ハ前條第2項ノ期間經過後遲滯ナク計畫令第53條ノ規定ニ依ル認可ヲ申請スベシ前項ノ申請書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

1　整理施行地區內ノ土地所有者及計畫令第48條第1號乃至第3號ニ揭グル者ノ員數
2　第230條第1號乃至第3號ノ事項
3　第213條第1項第4號及第5號ノ事項
4　整理施行地區內ニ第213條第2項第1號乃至第7號ノ土地アルトキハ其ノ表示
5　異議ノ申出ニ關スル顚末
6　異議ノ申出ニ因リ變更シタル部分及其ノ變更事由

第244條　整理施行地區內ニ第213條第2項第1號乃至第3號ノ土地アルトキハ當該行政廳ノ統轄スル公共團體ノ公用ニ供スルモノヲ除クノ外其ノ編入ニ付主務官廳又ハ公共團體ノ承認アリタルコトヲ證スル書面、其ノ承認ヲ得ザルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ前條ノ申請書ニ添附スベシ

第245條　行政廳其ノ施行スル土地區劃整理ノ爲土地ヲ分割スルノ必要アル塲合ニ於テハ其ノ所有者又ハ永代借地權者ニ代リ之ニ關スル手續ヲ爲スコトヲ得

第246條　整理施行地區內ノ土地ノ共有者ハ土地區劃整理ニ關スル書類又ハ通知ノ授受ノ爲代表者1人ヲ定メ第242條第1項ノ告示アリタル後遲滯ナク其ノ氏名及住所ヲ當該行政廳ニ屆出ヅベシ代表者又ハ其ノ氏名若ハ住所ニ變更アリタル塲合亦同ジ

前項ノ手續ヲ爲サザル土地共有者ニ對スル書類ノ送付ハ其ノ1人ニ對シテ之ヲ發送シタルトキニ於テ完了シタルモノト看做ス

第247條　第220條第2項、第3項、第222條乃至第227條、第229條乃至第236條、第238條及第240條第1項ノ規定ハ行政廳ノ施行スル土地區劃整理ニ之ヲ準用ス

第3節　整理施行地ノ地租

第248條　土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ地租ニ關スル特例ニ付テハ本節ノ規定ニ依ル

第249條　土地區劃整理ヲ施行シタル土地ニ付知事又ハ廳長第282條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタ

ルトキハ一筆毎ニ地番、地目、地積及等則ヲ定ム但シ第261條ノ土地ニ付テハ等則ヲ定メズ

前項ノ等則ハ土地ノ收益其ノ他ノ情況ヲ審査シ之ヲ詮定ス

知事又ハ廳長第1項ノ規定ニ依リ地番、地目、地積及等則ヲ詮定シタルトキハ臺灣總督ニ之ヲ報告シ且整理施行者ニ之ヲ通知スベシ前項ノ規定ニ依リ等則ヲ詮定シタル後土地區劃整理減租年期付與前ニ於テ一般ニ等則ヲ改訂シタル塲合亦同ジ

第250條　土地區劃整理ヲ施行シタル土地ニ付テハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事完了ノ年ヨリ10年ノ土地區劃整理減租年期ヲ付與ス

前項ノ年期中ノ土地ノ地租ハ前條ノ規定ニ依リ詮定セラレタル等則（土地區劃整理減租年期付與前一般ニ等則ノ改訂アリタル塲合ハ改訂等則）ニ依ル地租ニ相當スル額ニ整理施行地區內ノ原地（整理施行前ノ土地）ノ地租ノ合計額ヲ前條ノ規定ニ依リ詮定セラレタル等則（土地區劃整理減租年期付與前一般ニ等則ノ改訂アリタル塲合ハ改訂等則）ニ依ル地租ニ相當スル額ノ合計額ヲ以テ除シテ得タル比率ヲ乘ジテ之ヲ定ム但シ計畫令第61條ノ規定ニ依リ官有地又ハ公共團體ノ所有地ニ編入シタル土地ノ地積ガ計畫令第60條ノ規定ニ依リ交付シタル土地ノ地積ヨリ多キ塲合ニ於テハ其ノ地積ノ差數ヲ原地ノ地租ノ平均額ニ乘ジタル額ヲ原地ノ地租ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ原地ノ地租ノ合計額トス

規約又ハ整理施行規程ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル塲合ニ於テハ其ノ各區ヲ以テ前項ノ整理施行地區ト看做ス

第251條　土地區劃整理減租年期ヲ付與シタル土地ニ付テハ其ノ年分ヨリ前條第2項ノ規定ニ依ル地租ヲ徵收ス但シ其ノ年分ノ地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後ナルトキハ其ノ後ニ開始スル納期分ヨリ之ヲ徵收ス

第252條　土地區劃整理減租年期地ニシテ他ノ地租ヲ課スル土地ト爲リタルトキハ其ノ地租ニ相當スル額ニ第250條第2項ノ規定ニ依ル比率ヲ乘ジタル額ヲ以テ其ノ幾年期間中ノ地租トス

第253條　土地區劃整理減租年期中ノ土地ニ付荒地免租年期ヲ付與シタルトキハ付與シタル年ヨリ荒地免租年期滿了ニ至ル迄ハ土地區劃整理減租年期ハ其ノ進行ヲ止ム

第254條　一般ニ等則ヲ改訂スル塲合ニ於テハ土地區劃整理減租年期地ノ地租ハ改訂等則ニ依ル地租ニ相當スル額ニ第250條第2項ノ規定ニ依ル比率ヲ乘ジタル額ニ之ヲ修正ス

第255條　土地區劃整理減租年期ノ滿了シタル土地ニ付テハ年期ノ滿了シタル年ノ分ヨリ其ノ等則ニ依ル地租ヲ徵收ス

第251條　但書ノ規定ハ前項ノ塲合ニ之ヲ準用ス

第256條　土地區劃整理ノ施行ニ依リ地租ヲ課スル土地ヲ他ノ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ知事又ハ廳長ハ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ對シ第249條ノ規定ニ依リ詮定セラレタル等則ニ依リ假地租ヲ定メ其ノ假地租ヲ以テ其ノ土地ノ第250條第2項ノ原地ノ地租トス

前項ノ規定ニ依リ假地租ヲ定メタル土地ニシテ特ニ勞費ヲ加ヘタルモノニ付テハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事完了ノ年ヨリ6年ノ土地區劃整理地目變換減租年期ヲ付與ス

第257條　土地區劃整理ノ施行ニ依リ地租ヲ課セザル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ計畫令第60條ノ規定ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外知事又ハ廳長ハ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ對シ第249條ノ規定ニ依リ詮定セラレタル等則ニ依リ假地租ヲ定メ其ノ假地租ヲ以テ其ノ土地ノ第250條第2項ノ原地ノ地租トス

前項ノ規定ニ依リ假地租ヲ定メタル土地ニシテ特ニ勞費ヲ加ヘタルモノニ付テハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事完了ノ年ヨリ20年以內ノ土地區劃整理開墾免租年期ヲ付與ス

第258條　第256條第1項又ハ前條第1項ノ規定ニ依リ假地租ヲ定メタル後土地區劃整理減租年期付與前ニ於テ一般ニ等則ヲ改訂スル塲合ニ於テハ假地租ハ改訂等則ヲ標準トシテ工事完了ノトキノ現況ニ依リ等則ヲ設定シ其ノ等則ニ依ル地租ニ相當スル額ニ之ヲ修正ス

第259條　土地區劃整理ノ施行ニ依リ地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セザル土地ト爲シタルトキハ計畫令第61條ノ規定ニ依リ官有地又ハ公共團體ノ所有地ニ編入シタル土地ヲ除クノ外其ノ從前ノ地域ノ地租ニ相當スル額ヲ第250條第2項ノ原地ノ地租ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ第250條第2項ノ原地ノ地租トス

第260條　第250條ノ規定ニ依リ算出シタル比率ニ

1000分ノ1未滿ノ端數アル塲合ニ於テハ之ヲ切捨ツ第250條ノ規定ニ依リ平均額ヲ算出スル塲合ニ於テ1錢未滿ノ端數ヲ生ジタル塲合ハ5厘未滿ハ切捨テ5厘以上ハ切上ゲ1錢トシテ計算ス

第261條　臺灣官有財產管理規則第9條第2項又ハ臺灣官有森林原野及產物特別處分令第1條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ賣渡ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ土地區劃整理ノ施行ニ依ル開墾ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ賣渡ヲ受ケ地租ヲ課スル土地ト爲リタルモノノ中特ニ勞費ヲ加ヘタルモノニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ課スル土地ト爲リタル年ヨリ20年以內ノ土地區劃整理開拓免租年期ヲ付與ス

臺灣官有財產管理規則第17條又ハ第21條ノ規定ニ依リ賣拂ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ土地區劃整理ノ施行ニ依ル埋立（干拓ヲ含ム）ノ事業成功ニ因リ賣拂ヲ受ケ地租ヲ課スル土地ト爲リタルモノノ中特ニ勞費ヲ加ヘタルモノニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ課スル土地ト爲リタル年ヨリ60年以內ノ土地區劃整理埋立免租年期ヲ付與ス

前2項ノ塲合ニ於テ整理施行者ハ土地所有者ニ代リテ其ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第1項又ハ第2項ノ土地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ土地ノ收益其ノ他ノ情況ヲ審査シ等則ヲ詮定シ其ノ年分ヨリ詮定等則ニ依ル地租ヲ徵收ス

第251條 但書ノ規定ハ前項ノ塲合ニ之ヲ準用ス

第262條　整理施行地區內ニ開墾免租年期、土地區劃整理開拓免租年期又ハ土地區劃整理埋立免租年期ヲ有スル土地アル塲合ニ於テハ知事又ハ廳長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事著手ノトキ土地ノ收益其ノ他ノ情況ヲ審査シ假等則ヲ設定シ其ノ假等則ニ依ル地租ニ相當スル額ヲ以テ其ノ土地ノ第250條第2項ノ原地ノ地租トス

整理施行地區內ニ土地區劃整理減租年期、土地區劃整理地目變換減租年期又ハ土地區劃整理開墾免租年期ヲ有スル土地アル塲合ニ於テハ其ノ土地ノ舊等則ニ依ル地租ニ相當スル額ヲ以テ其ノ土地ノ第250條第2項ノ原地ノ地租トス

整理施行地區內ニ工事完了ノトキニ於テ荒地免租年期地アル塲合ニ於テハ知事又ハ廳長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ土地ノ收益其ノ他ノ情況ヲ審査シ假等則ヲ設定シ其ノ假等則ニ依ル地租ニ相當スル額ヲ以テ其ノ土地ノ第250條第2項ノ原地ノ地租トス

第263條　前條第1項ノ規定ニ依ル假等則ノ設定ノ申請工事著手前ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請書ニハ前條第1項ノ土地ノ大字、字地番、地目（土地臺帳ノ地目ガ土地ノ現況ト異ナルトキハ土地臺帳ノ地目及現況ニ依ル地目）地積及見込假等則ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第264條　第262條第3項ノ規定ニ依ル假等則ノ設定ノ申請ハ工事完了ノ屆出ト共ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請書ニハ從前ノ土地ノ大字、字、地番地目、地積及見込假等則ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ前項ノ書面ニハ從前ノ土地及工事完了後ノ土地ノ各筆ノ區域ヲ表示シタル圖面ヲ添附スベシ

第265條　土地區劃整理減租年期、土地區劃整理地目變換減租年期又ハ土地區劃整理開墾免租年期ノ付與ノ申請ハ第249條第3項ノ通知ヲ受ケタル後60日以內ニ之ヲ爲スベシ

土地區劃整理開拓免租年期又ハ土地區劃整理埋立免租年期ノ付與ノ申請ハ事業成功ニ因リ賣拂又ハ賣渡ヲ受ケタル後60日以內ニ之ヲ爲スベシ前2項ノ申請書ニハ其ノ土地ノ大字、字、地番地目及地積並ニ土地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第266條　第262條第1項又ハ第3項ノ規定ニ依リ假等則ヲ設定シタル後土地區劃整理減租年期付與前ニ於テ一般ニ等則ヲ改訂スル塲合ニ於テハ同條第1項ノ假等則ハ改訂等則ヲ標準トシテ工事著手ノトキノ現況ニ依リ、同條第3項ノ假等則ハ工事完了ノトキノ現況ニ依リ之ヲ改訂シ改訂假等則ニ依ル地租ニ相當スル額ヲ以テ第250條第2項ノ原地ノ地租トス

第262條第2項ノ土地ニ付土地區劃整理減租年期付與前ニ於テ一般ニ等則ヲ改訂スル塲合ニ於テハ工事著手ノトキノ現況ニ依リ等則ヲ改訂シ改訂等則ニ依ル地租ニ相當スル額ヲ以テ第250條第2項ノ原地ノ地租トス

第267條　第262條ノ土地ニ付テハ其ノ年期ガ土地區劃整理減租年期付與前ニ滿了スル塲合ニ於テハ其ノ滿了スル年ノ分ヨリ第251條ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收セラルル迄第262條第1項及第3項ノ土地ニ付テハ假等則ニ依リ同條第2項ノ土地

ニ付テハ從前ノ等則ニ依リ地租ヲ徵收ス

第251條 但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第268條 整理施行地區內ニ土地區劃整理減租年期付與ノトキニ於テ第262條ノ年期ヲ有スル土地アル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ニ依リ知事又ハ廳長ハ左ノ各號ノ金額ニ第250條第2項ノ比率ヲ乘ジタル額ヲ整理施行地區內ノ全部又ハ一部ノ土地ニ配當ス 第269條ニ定ムル期間內ニ於テ其ノ申請ナキトキハ知事又ハ廳長ハ職權ヲ以テ其ノ配當ヲ行フ

1 第262條 第1項又ハ第3項ニ揭グル免租年期地ノ同條第1項又ハ第3項ノ假等則ニ依ル地租ニ相當スル額

2 第262條第2項ノ土地區劃整理開墾免租年期地ノ從前ノ等則ニ依ル地租ニ相當スル額

3 第262條第2項ノ減租年期地ノ從前ノ等則ニ依ル地租ニ相當スル額ヨリ從前ノ地租ヲ控除シタル額

前項ノ規定ハ新ニ土地區劃整理地目變換減租年期又ハ土地區劃整理開墾免租年期ヲ付與シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ其ノ配當金額ハ左ノ各號ニ依ル

1 第256條第1項ノ假地租ニ相當スル額ヨリ原地ノ地租ヲ控除シタル額ニ第250條第2項ノ比率ヲ乘ジタル額

2 第257條第1項ノ假地租ニ相當スル額ニ第250條第2項ノ比率ヲ乘ジタル額

第250條 第3項ノ規定ハ前2項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第269條 前條ノ規定ニ依ル配當ノ申請ハ土地區劃整理減租年期付與ノ日ヨリ三十日以內ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請書ニハ配當ヲ受クベキ土地ノ大字、字、地番及之ニ配當スベキ金額竝ニ年期ノ種別及其ノ殘年期間ヲ記載シタル配當案ヲ添附スベシ

第270條 左ノ事項ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外規約ニ定ムル會議ニ於テ其ノ承認ヲ經ベシ

1 第263條第2項及第264條第2項ノ見込假等則

2 前條第2項ノ配當案

第271條 第268條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付テハ同條ノ年期ノ殘年期間中土地區劃整理減租年期中ニ在リテハ第250條第2項ノ地租（第252條又ハ第254條ノ規定ニ依リ地租ヲ修正シタル場合ニ於テハ其ノ地租）、土地區劃理減租年期滿了後ニ在リテハ其ノ土地ノ等則ニ依ル地租ヨリ配當金額ヲ控除シタル額ヲ以テ其ノ地租トス

第272條 第268條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付同條ノ年期ノ殘年期間中土地區劃整理減租年期滿了後土地ノ異動ニ因リ等則ヲ詮定スル場合ニ於テハ其ノ等則ニ依ル地租ニ相當スル額ヨリ配當金額ヲ控除シタル額ヲ以テ其ノ地租トス

第273 前2條ノ規定ニ依リ地租ヲ定メタル土地ニ付テハ地租ヲ定メタル年ノ分ヨリ其ノ地租ヲ徵收ス

第251條 但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第274條 第268條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付テハ同條ノ年期ノ殘年期間ノ滿了スル年ノ分ヨリ土地區劃整理減租年期滿了前ニ在リテハ第250條第2項ノ地租（第252條又ハ第254條ノ規定ニ依リ修正シタル場合ニ於テハ其ノ地租）ヲ、土地區劃整理減租年期滿了後ニ在リテハ其ノ土地ノ等則ニ依ル地租ヲ徵收ス

第251條 但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第275條 第268條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付荒地免租年期ヲ付與シタルトキハ其ノ付與シタル年ヨリ荒地免租年期滿了ニ至ル迄ハ同條ノ年期ノ殘年期間ハ其ノ進行ヲ止ム但シ荒地免租年期ノ殘年期間ニ付同條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第276條 知事又ハ廳長假等則ノ設定若ハ改訂、配當又ハ年期ノ付與ヲ爲シタルトキハ整理施行者又ハ申請者ニ之ヲ通知スベシ

號277條 第222條、第223條、第226條、第247條第263條第1項、第264條第1項、第265條第1項、第2項及第269條第1項ノ規定ニ依ル知事又ハ廳長ニ對スル申告、届出、申請等ノ爲ニスル書類ノ提出ハ目的地ヲ管轄スル稅務官置ニ之ヲ爲スベシ

第4節 換地處分

第278條 整理施行者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後遲滯ナク換地說明書及整理確定圖ヲ作成スベシ

第279條 換地說明書ニハ土地所有者及永代借地

權者毒ニ左記事項ヲ記載スベシ

1 換地ノ交付ヲ受クル者ノ氏名及住所（法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所）

2 從前ノ土地ノ屬スル市、街庄又ハ區竝ニ土地ノ大字、字、地番、地目、地積及等位

3 換地ノ屬スル市、街庄又ハ區竝ニ土地ノ大字、字、番號、地目、地積及等位

4 計畫令第72條ノ規定ニ依ル指定

5 淸算金額

換地ノ上ニ既登記ノ地役權存續スル塲合ニ於テハ前項ニ揭ゲタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スベシ

1 整理施行前ニ於ケル換地ノ所有者ノ氏名及住所（法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所）

2 地役權換地ノ一部ニ付存スルトキハ其ノ部分及符號

從前ノ土地數筆ニ對シ一筆ノ換地ヲ交付スル塲合ニ於テ其ノ數筆ノ土地中未登記ノモノアルトキハ其ノ旨ヲ記載スベシ未登記ノ從前ノ土地ニ對シ換地ヲ交付スル塲合ニ於テ其ノ換地ニ地役權ノ登記アルトキ亦同ジ

第280條　換地說明書ニハ計畫令第60條又ハ第61條ノ規定ニ依リ交付又ハ編入セラルベシ土地ノ整理施行及整理施行後ニ於ケル地目別地積ヲ對照シタル調書ヲ添附スベシ

第281條　計畫令第70條第3項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ換地說明書及整理確定圖ヲ添附スベシ

第282條　臺灣總督計畫令第70第3項ノ認可ヲ爲シタルトキハ換地說明書及整理確定圖ヲ添附シ其ノ旨知事又ハ廳長ニ通知ス第284條又ハ第285條ノ認可ヲ爲シタルトキ亦同ジ但シ其ノ添附書類ハ變更又ハ更正アリタル部分ニ關スルモノヲ以テ足ル

第283條　整理施行地又ハ其ノ上ニ存スル建物ニ付登記ヲ爲シタルトキハ登記權利者ハ遲滯ナク整理施行者ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第284條　計畫令第70條第1項及第2項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後同條第4項ノ告示前ニ於テ從前ノ土地ノ土地ノ全部又ハ1部ニ付所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限ニ關スル登記ヲ爲シタルモノアルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク同令第72條ノ指定ヲ爲シ臺灣總督ノ認可ヲ受クベシ

從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アル塲合ニ於テ計畫令第72條ノ指定ヲ爲サザリシモノアルトキ亦前項ニ同ジ

計畫令第70條第4項ノ告示前ニ於テ換地ノ一部ニ該當スル從前ノ土地ニ付所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルモノアルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク同令第70條第1項及2項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ臺灣總督ノ認可ヲ受クベシ

第285條　前條ノ規定ハ臺灣都市計畫關係土地區劃整理登記規則第10條但書ノ規定ニ依リ計畫令第70條第4項ノ告示後登記ヲ爲シタル塲合ニ之ヲ準用ス

第5節　損害補償

第286條　第19條乃至第22條、第24條乃至第27條ノ規定ハ計畫令第58條、第65條、第66條又ハ第69條ノ規定ニ依ル補償ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ臺灣都市計畫令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣家屋建築規則細則ハ之ヲ廢止ス

臺灣家屋建築規則又ハ同施行細則ニ依リ爲シタル許可申請其ノ他ノ行爲ハ之ヲ本令ノ相當規定ニ依リ爲シタルモノト看做ス但シ本令ニ規定スル要件ヲ具備セシムルコトアルベシ

⊙臺灣總督府令第110號

臺灣都市計畫委員會規則左ノ通定ム

昭和11年12月30日

臺灣總督　小林　躋造

臺灣都市計畫委員會規則

第1條　臺灣都市計畫委員會ハ臺灣總督監督ニ屬シ臺灣都市計畫令第2條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ前項ノ外臺灣總督ノ諮問ニ應ジ都市計畫ニ關スル重要ナル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ都市計畫ニ關スル重要ナル事項ニ付臺灣總督ニ建議スルコトヲ得

第2條　委員會ハ會長一人及委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第3條　會長ハ臺灣總督府總務長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ、臨時委員ハ知事、廳長、市尹、街庄長、州會議員、市會議員、街庄協議會員又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ズ

臨時委員ハ臺灣總督ノ指定スル事項ニ付議事ニ參與ス

第4條　會長ハ會務ヲ總理ス會長事故アルトキハ臺灣總督ノ指名スル委員會長ノ職務ヲ代理ス

第5條　委員會ニ幹事ヲ置ク臺灣總督之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第6條　委員會ニ書記ヲ置ク臺灣總督之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ臺灣都市計畫令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



坂井則夫

片桐勝元の手抜き

先日楠公の遺蹟顯彰道路をドライヴして天野山金剛寺を訪ねたとき、隈なく伽藍を案内してくれた寺僧の話である。こゝの堂塔は慶長年間に改築されたものであるが、それに就てこんなエピソートがある。—まだ秀賴の幼少であつたころ、ひどい病におかされて、生死のほども危ぶまれたことがあつた。そのとき若君つきの局某が金剛寺に祈願して「上樣の御惱平癒のうへは境内の堂塔ことごとく普請仕るべく云々」の起請をした。何とかして豐臣方の軍用金を費消させることに腐心した德川方では、此の起請文を盾に、片桐勝元に對して、伽藍修築を慫慂して來た。「よろしい」とばかりに、大きいところを見せ、直ちに勝元指揮のもとに工事が始められた。だが、豐家非常の際、大事の軍用金を、むざむざ費消してはならないと云ふので、德川への手前、表面豪華な建築美を裝ふ一方、目のとゞかぬ內部では、出來るだけ材料を落し、能ふる限り手を抜くことに努めた。先年視察に赴いた、文部省の古社寺專門の技師も、勝元の巧妙な手口と、既に慶長年間から工事の手抜きと云ふことの行はれたことに、舌を巻いたと云ふ。

文學と建築

鈴木賢とか云ふ人の「節穴禍」と云ふ小說を讀んだことがある。探偵趣味の大衆物だが、レプラの患者ばかりが集つて「太陰會」と云ふのを組織し、秘密の地下に、王宮にも疑ふやうな彼等の樂園が營まれてゐるのである。そして、事件は此の地下の豪華な殿堂を舞臺として展開する仕組みになつてゐる。何も知らずに讀めば、なるほど筋だけは、かなり獵奇的な面白味がある。併し、建築法規をくゞり抜け、取締りの目をかすめるとしても、誰が設計し、誰が施工し、誰々が材料を納入して、今日此のやうな非合法的な建築を營むことが出來るであらうか。その點になると、此の小說は、全然荒唐無稽のものでしかない。つまり作品全體がウソだと云ふことになのである。

かうした建築に關する知識の稀薄から、思はぬボロを出してゐる小說は、知名の作家の間にも、しばしば見うけるところである。例へば、菊池寬の「心の日月」の中に母親が、大阪に出てゐる息子を自慢して「大阪の高等工業を卒業して、そのまゝ向ふで建築事務所に勤めてゐますが、專務さんにも大へん可愛がられまして……」と云ふのがある。此の短い言葉の中でも、數々の誤を指摘することが出來る。先づ大阪の高工と云へば、今の阪大工學部のことだが高工時代から今日も尙ほ同校には、建築科と云ふものはないのである。それが建築事務所へ勤めると云ふのもおかしいが、更にとんでもないのは、專務さんである。何か菊池寬は、建築事務所と云ふものは、大企業形態のもとに經營されてゐるやうに思つてゐるらしいが、事實は今日の建築事務所と云ふものは、その九九%までが、個人經營のものである。長谷部竹腰と云ふ、例外的に株式組織のものもたゞ一つあるにはあるが、こゝにだつて、常務さんは居るが專務さんと呼ばれる人は居ない。當然此の「專務さん」は「先生」または「所長さん」と云はれなければならない筈のものである。こんな事は、單なる揚足とりに過ぎず作品全體の價値を論ずる上に、何のかゝはりもないではないかと云はれるかも知れない。併し、少くとも誤植だらけの新聞を讀

む不快さには匹敵するものであらう。

相馬御風と云ふ作家があるが、嘗て此の人が何だつたか長篇の執筆に際し、市ケ谷刑務所へ、出所する人を迎へに行くと云ふ筋のところへ來て、刑務所の建物の樣式が判らない。判らなければ樣式の名など書かなくてもすむのだが、わざわざ彼は、菓子折を携へて、刑務所長のところまで罷り出たのである。ところがこゝでも判らなくて建築を施工した請負者の所まで、たづね、たづねて行つて、やつと判つたと云ふ話がある。

建築とか或ひはそれに關係した事柄を扱つた文學と云ふものは、あまり見あたらないが、たまたまあれば、決つたやうに何か誤謬をおかしてゐる。「鐵筋コンクリート建て五階造り」と云つたやうな調子である。いさゝか情ない。

古典に現はれる住宅

日野山の閑居を描いて、鴨長明は「方丈記」にかう書いてゐる。

その家のありさま、世の常にあらず。廣さはわづかに方丈、高さは七尺がうちなり。所を思ひ定めざるがゆゑに地をしめてつくらず。つちをくみ、うちおほひをふきて、つぎめごとにかけがねをかけたり。若し心にかなはぬ事あらば、やすく外へ移さんがためなり。そのあらため作る事いくばくの煩ひかある。積むところはわづかに二兩。車の力をむくゆるほかには、更に他の用途いらず。

附帶設備としては、南に懸樋が水をたゝえ林も近くて薪にことかゝず、春は紫雲の藤なみ、夏はほとゝぎす、秋はひぐらし、冬は雪と、自然の妙を取り入れて、まことに閑寂な棲である。殊に面白いのは、繼目ごとにかけ金をかけ、どこへでも移轉自在と云ふことである。シーサイドハウスとかヒユツテのよろこばれる今日なら、早速「鴨式ポータブル・ハウス」と云つたやうな名でパテント物だらう。

徒然草の第十二段にこんなのがある。これも全文を引用してみよう。

神無月のころ、栗栖野といふ所を過ぎて或山里に尋ね入ること侍りしに、遙かなる苔の細道ふみわけて心細く住みなしたる庵あり。木の葉に埋るゝ筧の雫ならでは露訪ふ者無し。閼伽棚に、菊紅葉など折り散したる、流石に住む人のあればなるべし。斯くてもあられけるよと、あはれに見るほどに、彼方の庭に大きなる柑子の木の、枝も撓になりたるが、まはりをきびしく圍ひたりしこそ、少し事醒めてこの木無からましかばと覺えしか。

心細くも結ばれた庵。木の葉に埋れた筧。閼伽棚の菊紅葉など、ゆかしい風情も、枝一杯になつてゐる蜜柑を、盜まれまいために、嚴重に圍ひしてあるのを見ては、興ざめしてしまつたと云ふのである。これは、兼好だけの主觀とか好尙ではなく、よくわれわれが郊外風景にみるところのものである。

芭蕉の句に

草臥て宿かる頃や藤の花

と云ふのがある。藤棚などしつらへた草屋の樣が目に浮かぶ。

一茶に

これがまあつひの栖か雪五尺

と云ふ名句がある。諸國を放浪して、故鄕信州の柏原に歸り、雪深い我が家の景色を詠つたものである。

新しいところでは「曼陀羅」の歌人日比野道男の詠草に

庭の暗に浮きいでゝみゆる夕顏のしろ
妙の花は夜ごとにあたらし

と云ふ、夏の夕べの景色を歌つたものがある。やうやくに迫つて來る宵暗に、ふと晩酌の手をおいて、前栽に目をやれば、けふも亦新しく夕顏の花が咲き出てゐる。なつかしい住宅風景の一つである。

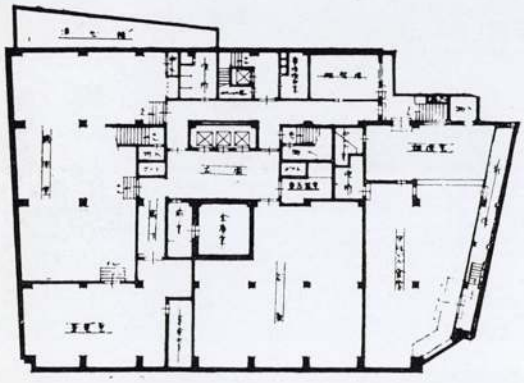


外　　觀

"宇治電ビル"　設計・長谷部竹腰建等事務所・施工・清水組



玄關ホール



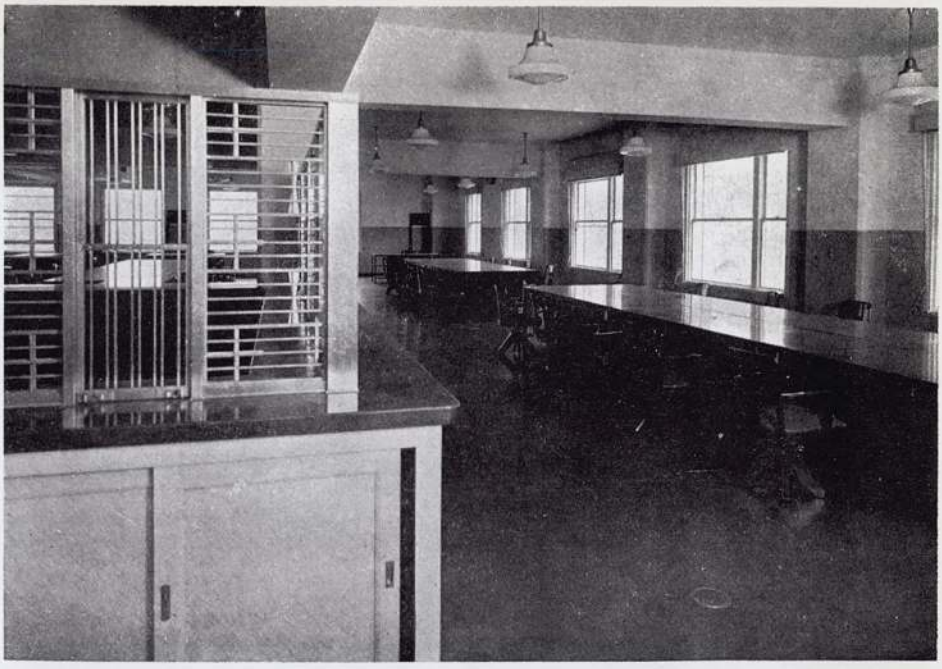
地階平面圖



1階・天井装飾レリーフ

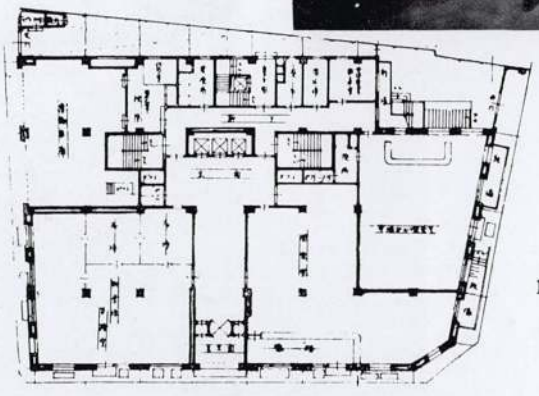
VII 2 “宇治電ビル” 設計・長谷部竹腰建築事務所・施工・清水組

事　務　室



社　長　室

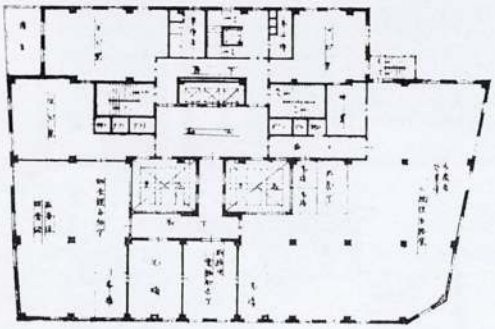




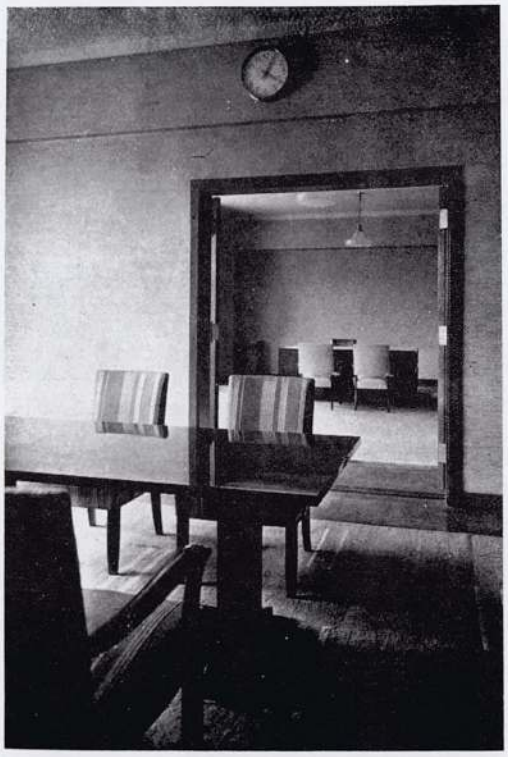
1 階 平 面 圖



副　社　長　室



3 階 平 面 圖

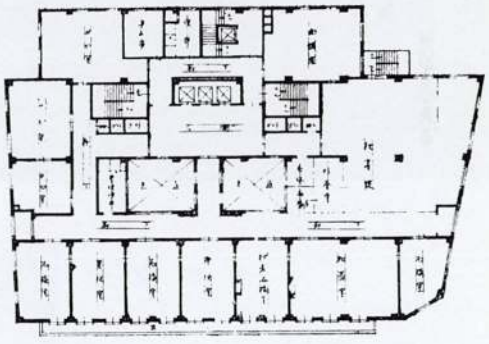


重役室及應接室

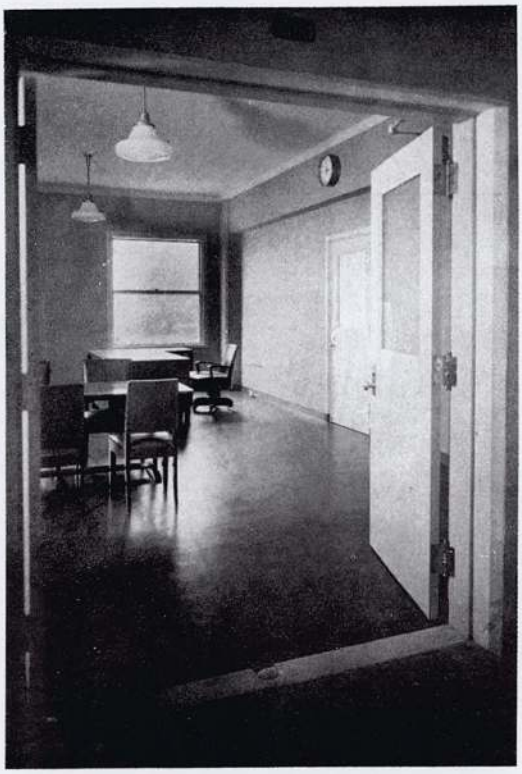
“宇治電ビル” 設計・長谷部竹腰建築事務所・施工・清水組



大クラブ室



4階平面圖

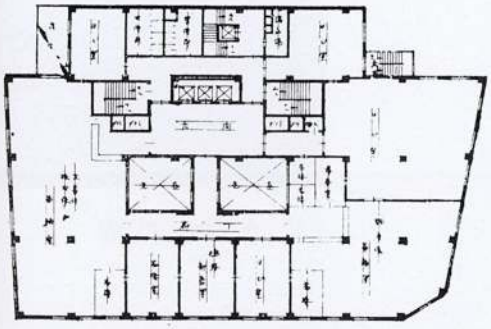


部長室

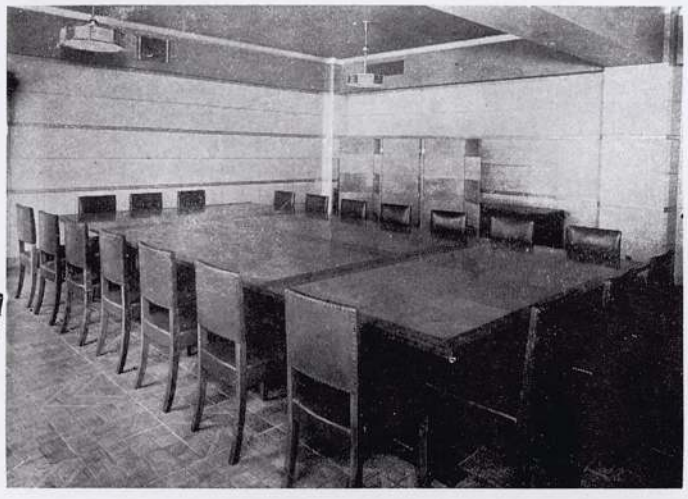


小クラブ室

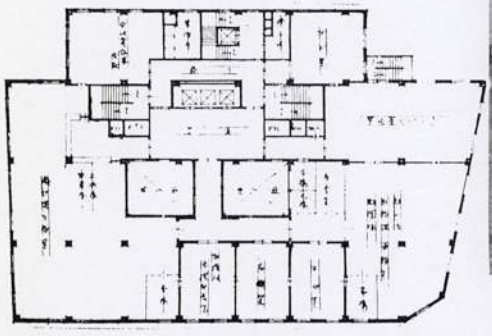
5階平面圖



來客食堂

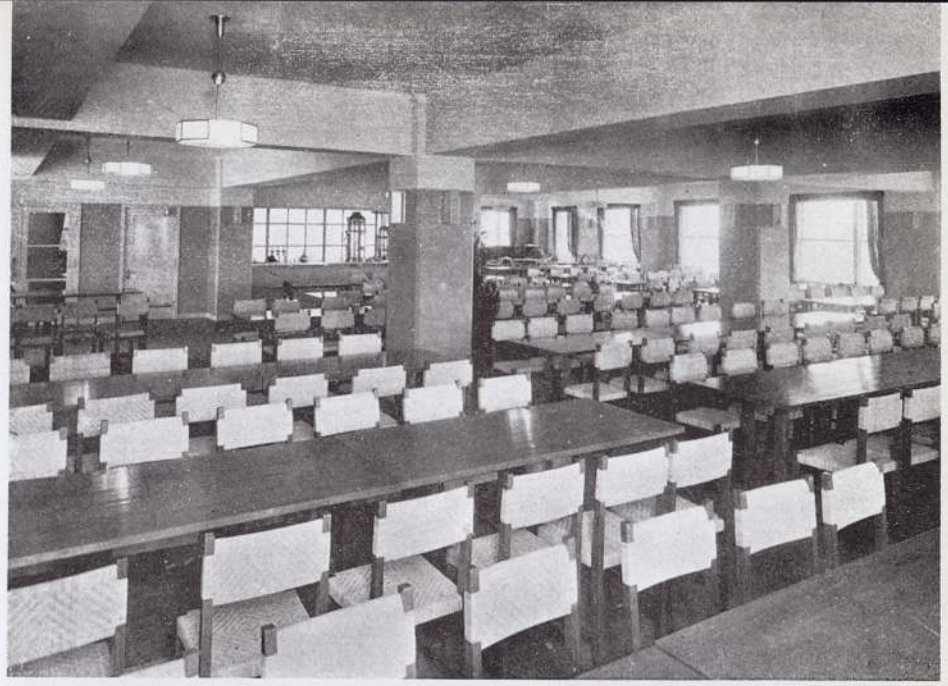


6階平面圖

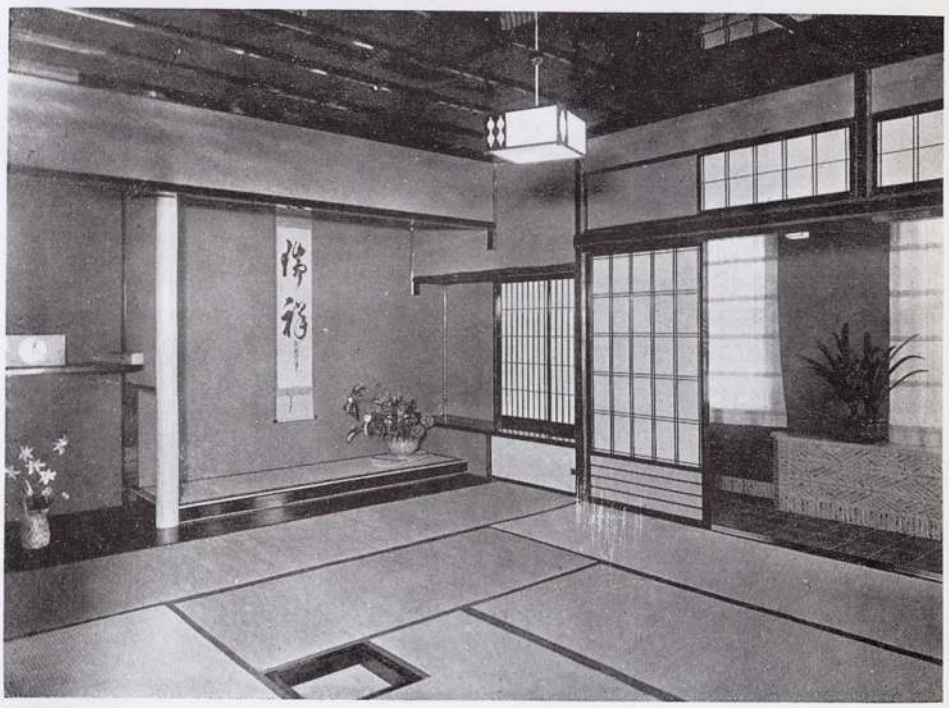


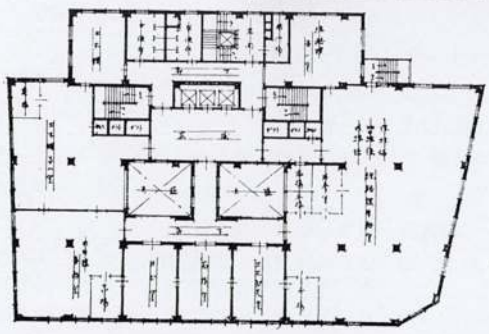
VII 6 “宇治電ビル” 設計・長谷部竹腰建築事務所・施工・清水組

第 1 食 堂



クラブ日本座敷





7 階 平 面 圖

"宇 治 電 ビ ル" 設 計・長谷部竹腰建築事務所・施 工・清 水 組



1 階 喫 茶 室

宇治電ビル新築工事概要

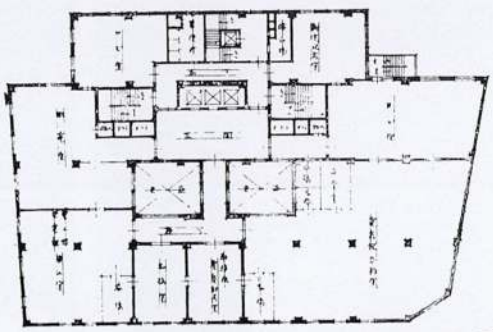
位　置　大阪市北區梅ヶ枝町百六十四番地

工　程　起工　昭和十年四月二日
　　竣工　昭和十二年四月三十日

敷地面積　1640平方米79（496坪34）

建築面積　建坪　1341平方米92（405坪9308）
　　延坪　12036平方米5288（3641坪049962）

内　譯　地階　1358平方米947（411坪0814675）
　　一階　1341平方米920（405坪9308000）
　　二階　408平方米4368（123坪552132）
　　三階　1253平方米610（379坪217025）
　　四階　1253平方米610（379坪217025）
　　五階　1230平方米821（372坪3233425）



8 階 平 面 圖

　　六階　1230平方米821（372坪3233425）
　　七階　1220平方米821（372坪3233425）
　　八階　1230平方米821（372坪3233425）
　　九階　1220平方米821（372坪3233425）

屋上一階　132平方米95（40坪217375）

屋上二階　132平方米95（40坪217375）

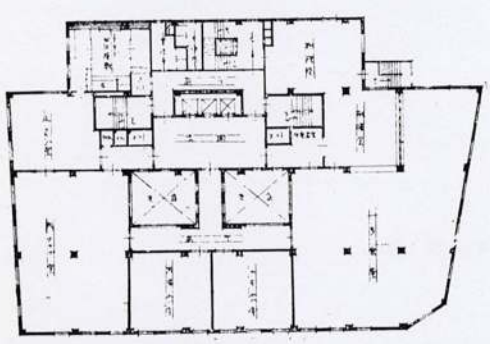
建築様式　近　世　式

建 築 高　軒高　31米　塔屋高　37米20

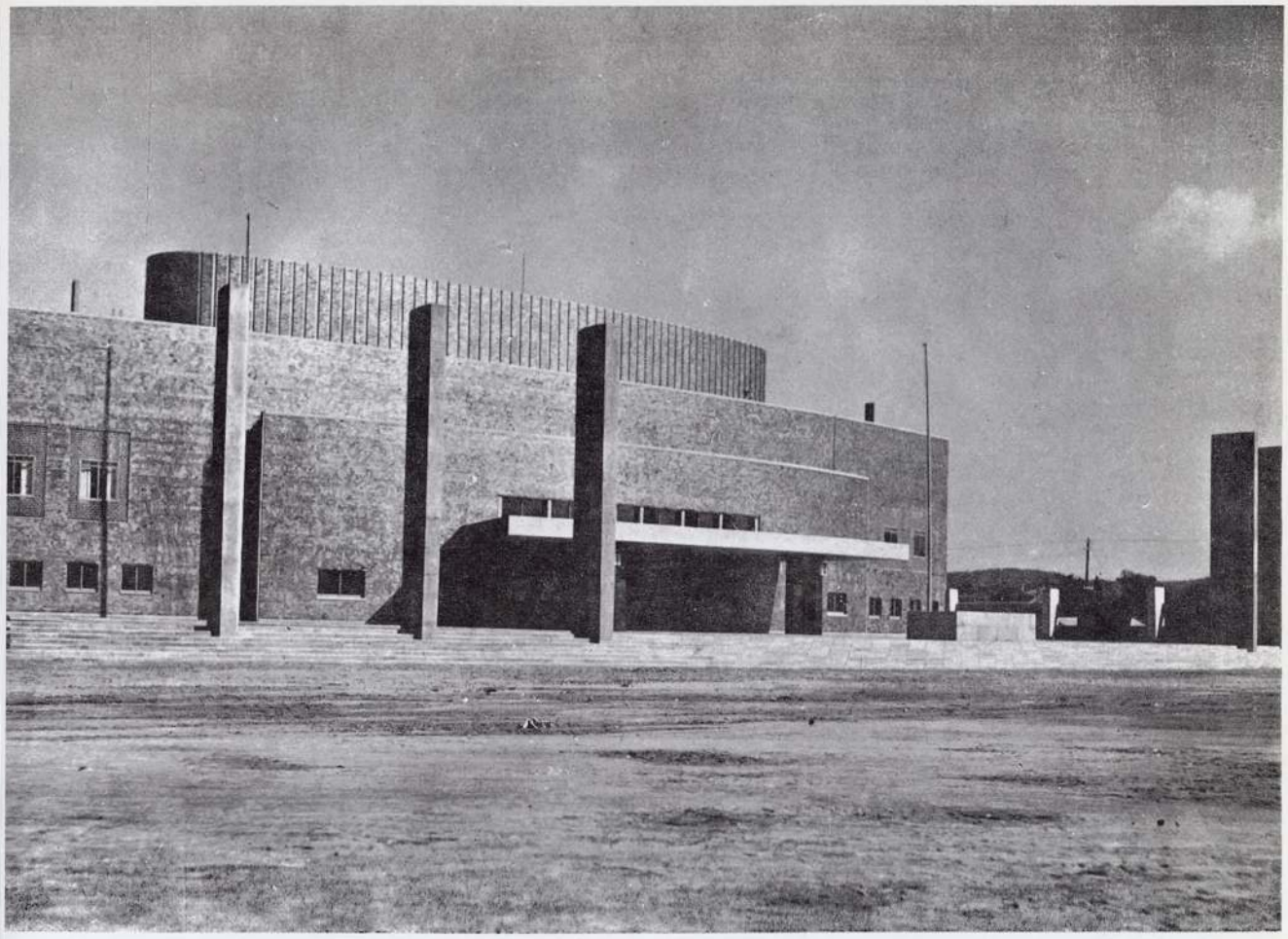
基　礎　マルチペデスタル混凝土杭打鐵筋混凝土造

主體構造　鐵骨、鐵筋混凝土造

外　裝　根石花崗石錆石腰琉球產　トラバーチン水磨一階窓廻リ琉球產　トラバーチン貼窓臺石パラペツト笠石共凝石据付　飾リ彫刻人像其他全部タイル貼塔屋色モルタル塗



9 階 平 面 圖



外　　觀

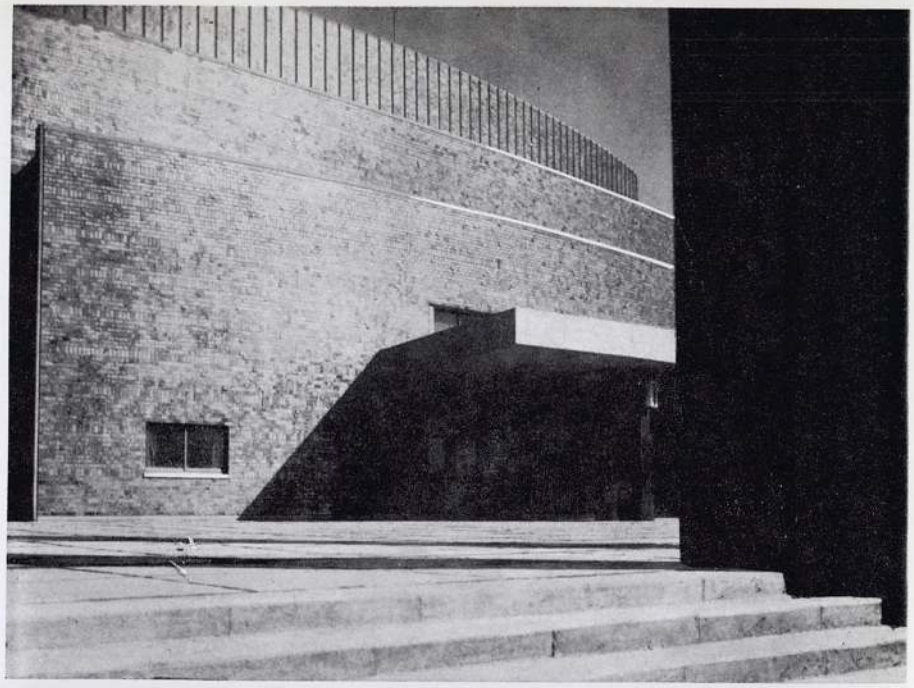


外　　觀　外裝は3寸×6寸黑褐色食鹽燒タイル。記念柱花崗石貼り。テレースコンクリート打のまま。玄關庇鼻人造石ブロック。同天井リソイド塗、柱は黑御影本磨

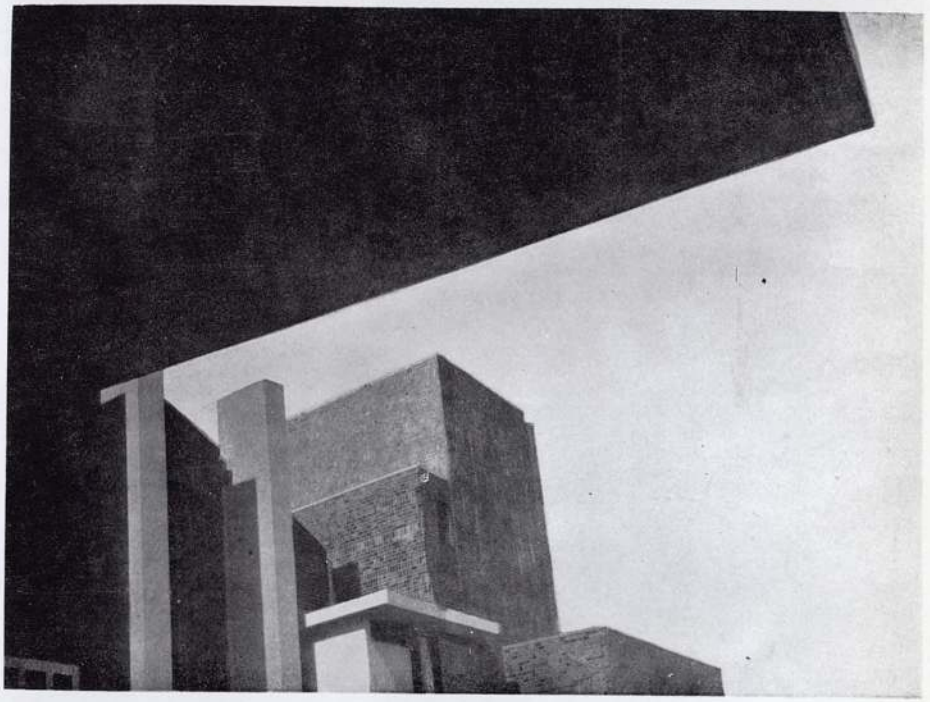


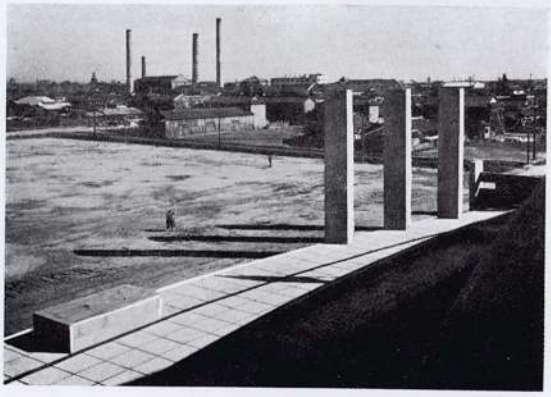
外　　觀（側　面）

外觀の一部



外觀の一部

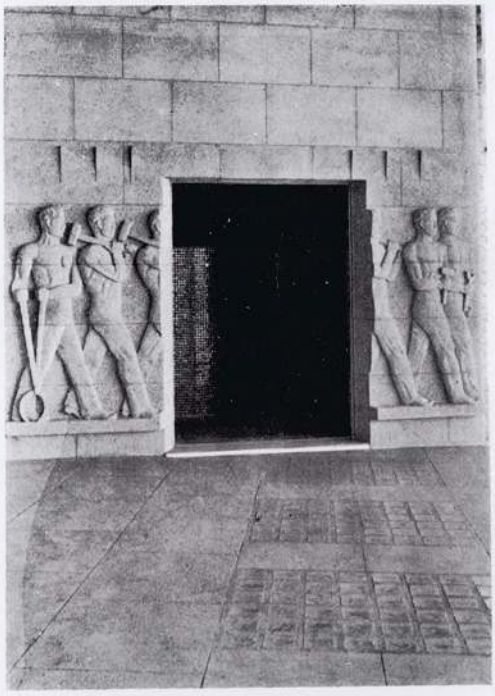




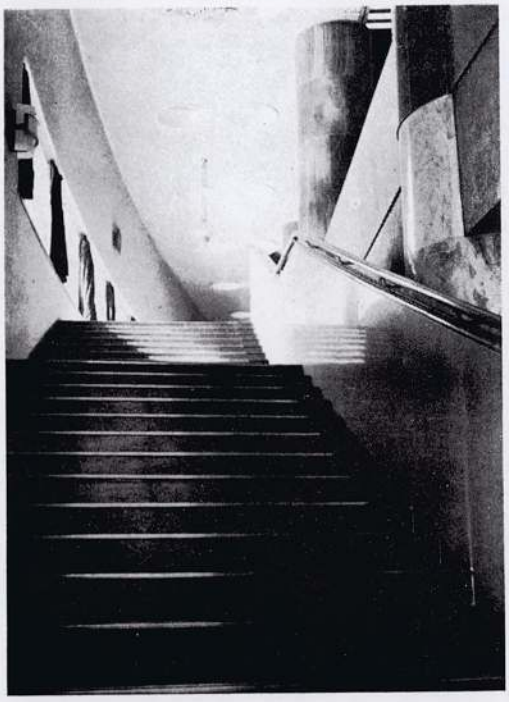
屋上より前面テレース及廣場を望む

外觀の一部

中央大階段室



正面玄關
脇壁人像彫刻人造石ブロック

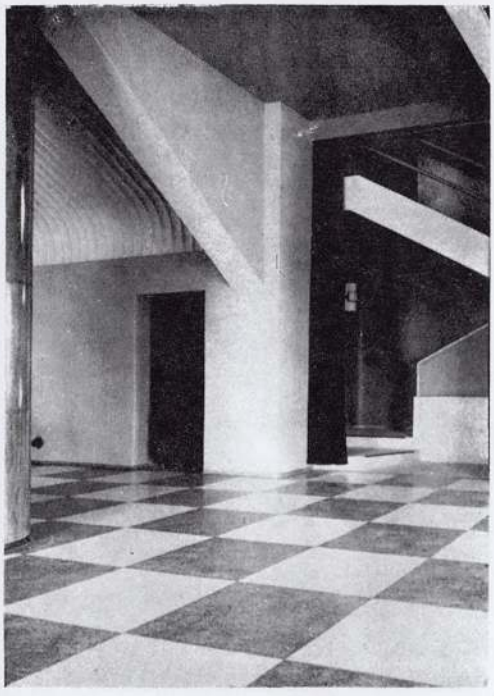


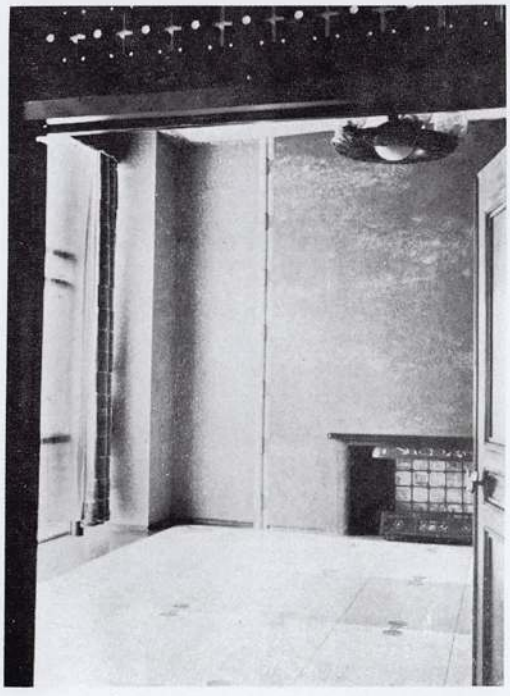
 “宇部市記念會館” 設計監督・村野建築事務所・・施工・渡邊翁記念事業委員會



2 階 **ホ ー ル**

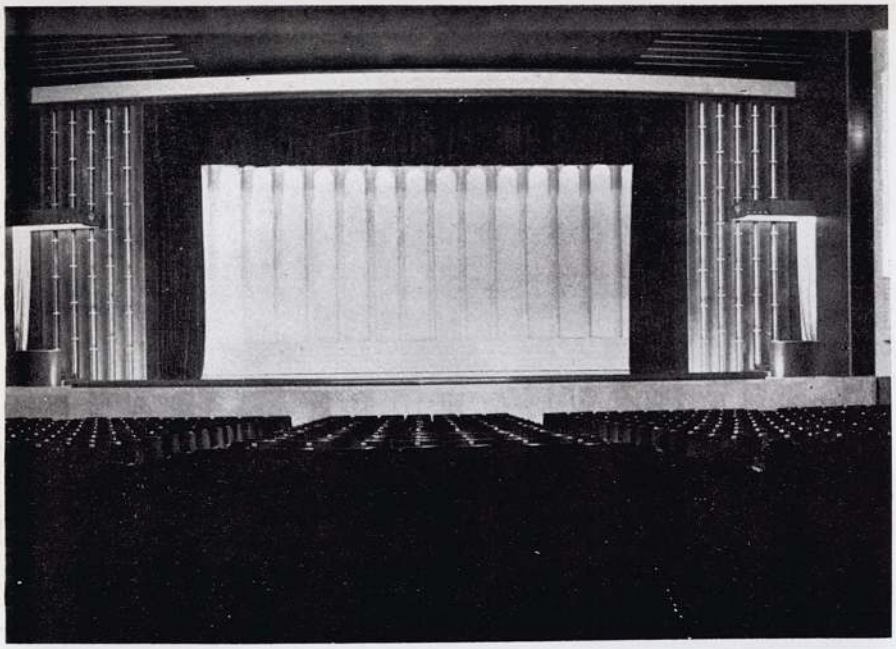
2階ホールの一部（脇階段室）





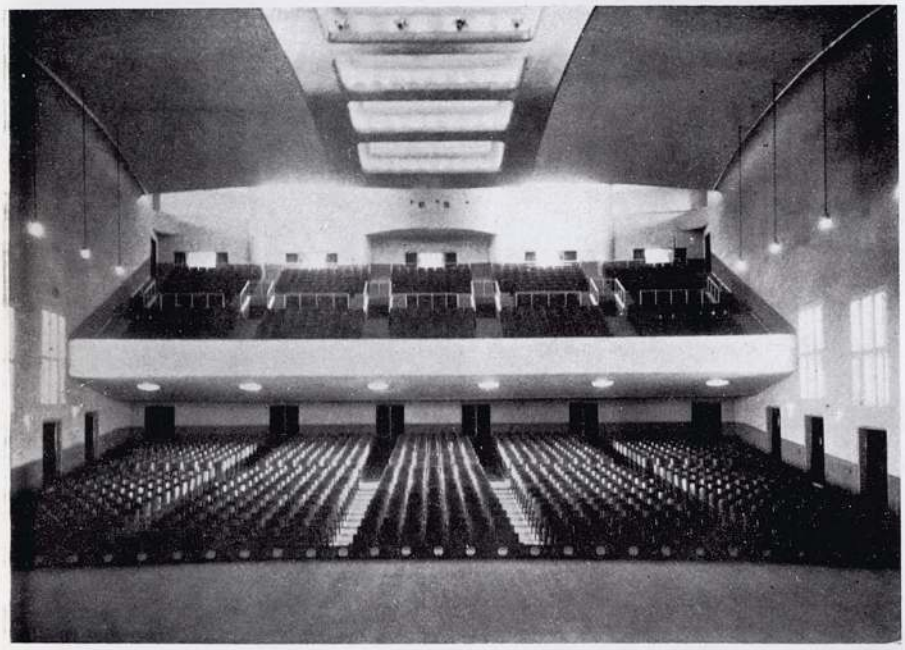
貴賓室の内部

床トラゾー大理石模様入、壁カンバスペンキ仕上、天井プラスターペンキ仕上マントルピース鋳物製



會　堂　內　部

ステーヂ廻り壁及天井オーク及櫻ベニヤ貼混ラック仕上げ



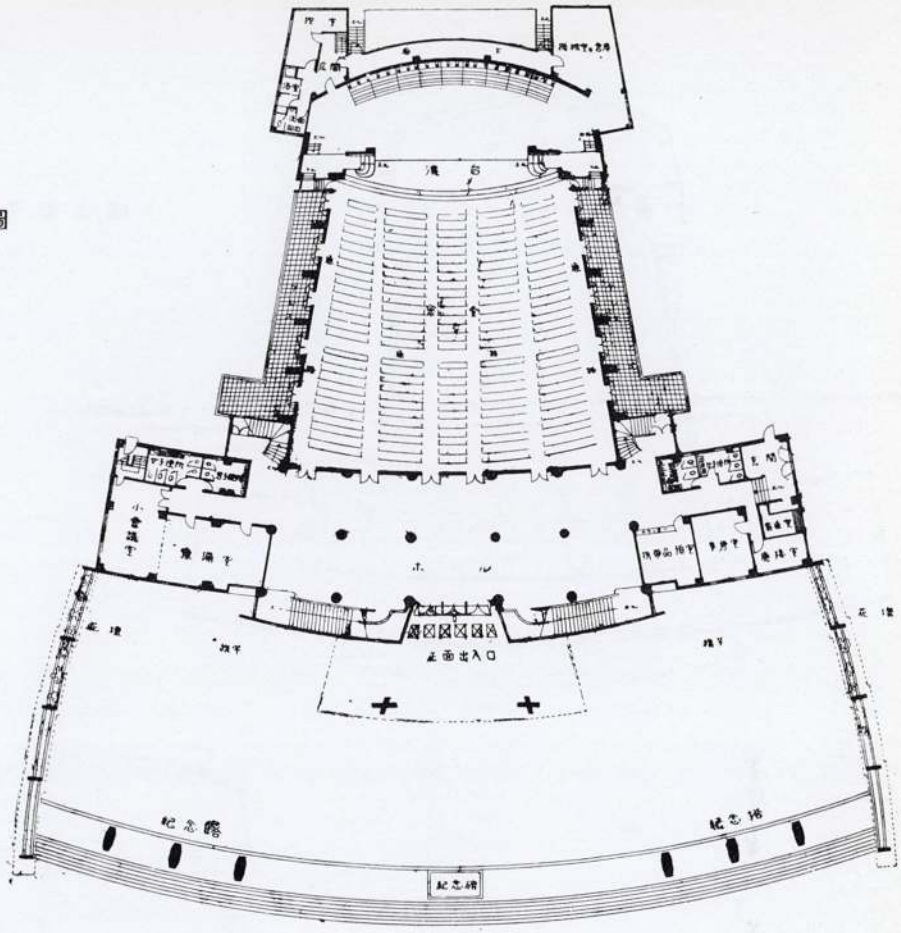
會　堂　內　部

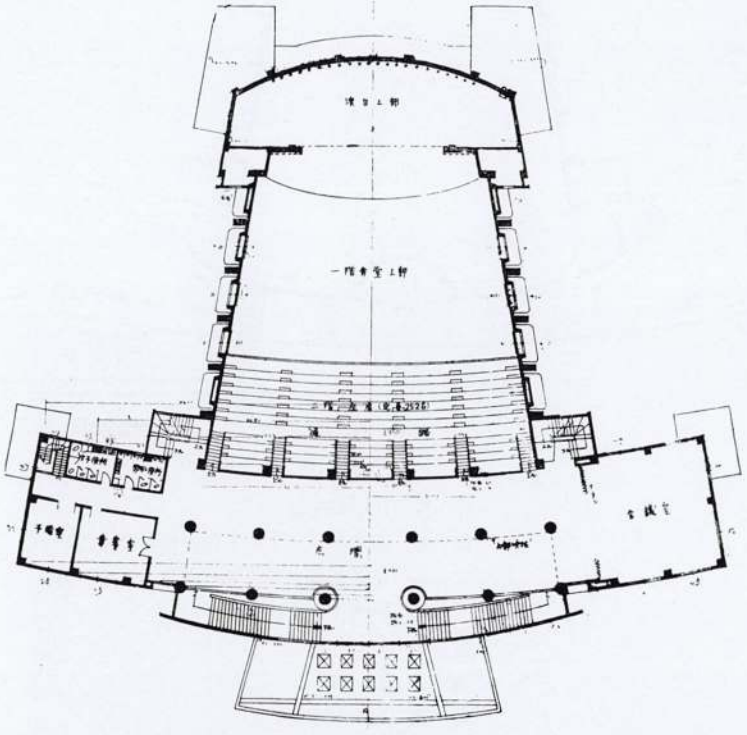
壁、天井、リソイドペンキ仕上げ、キヤラリー下部プラスターペンキ仕上げ、床通路ゴムタイル貼其他モノタイル。收容人員約 2,000人



2階ホールの一部

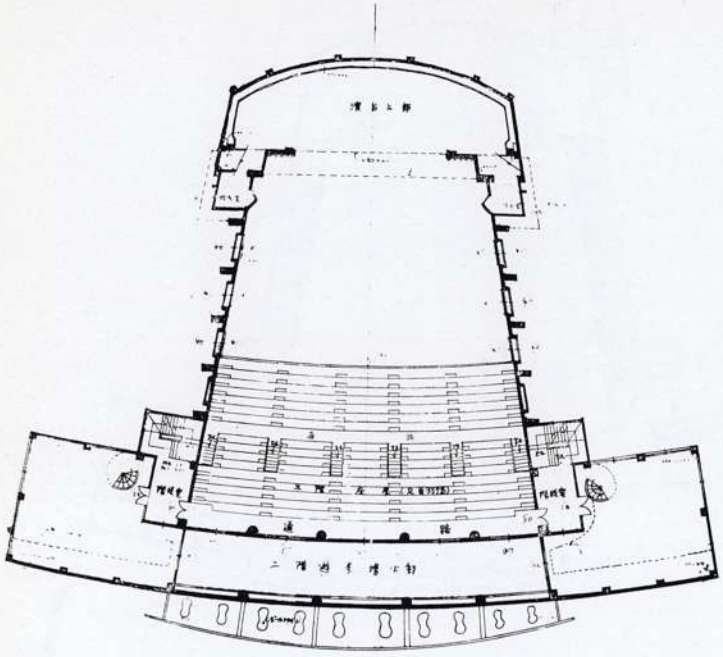
1 階 平 面 圖



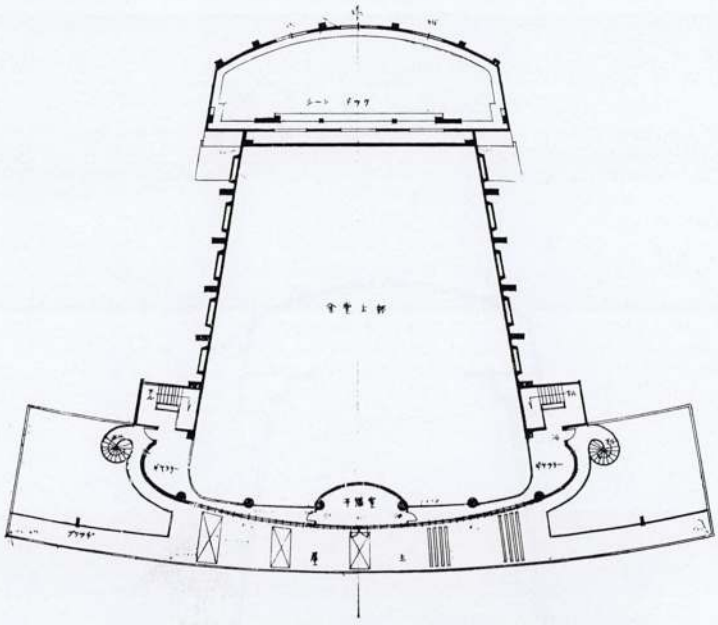


2 階 平 面 圖

“宇部市記念會館” 設計・村野建築事務所・・施工・渡邊翁記念事業委員會



2 階 上 部 平 面 圖

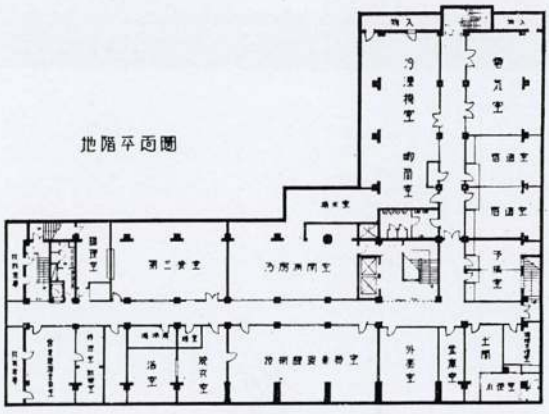


屋 上 平 面 圖

宇 部 市 記 念 會 館

位　置　山口縣宇部市
構　造　鐵筋コンクリート造、但シ會堂部分
　　鐵骨鐵筋コンクリート造一部地下室
　　附地上 3階建
延　坪　1.200坪
施　工　直　營
竣　工　昭和12年4月

外　　觀

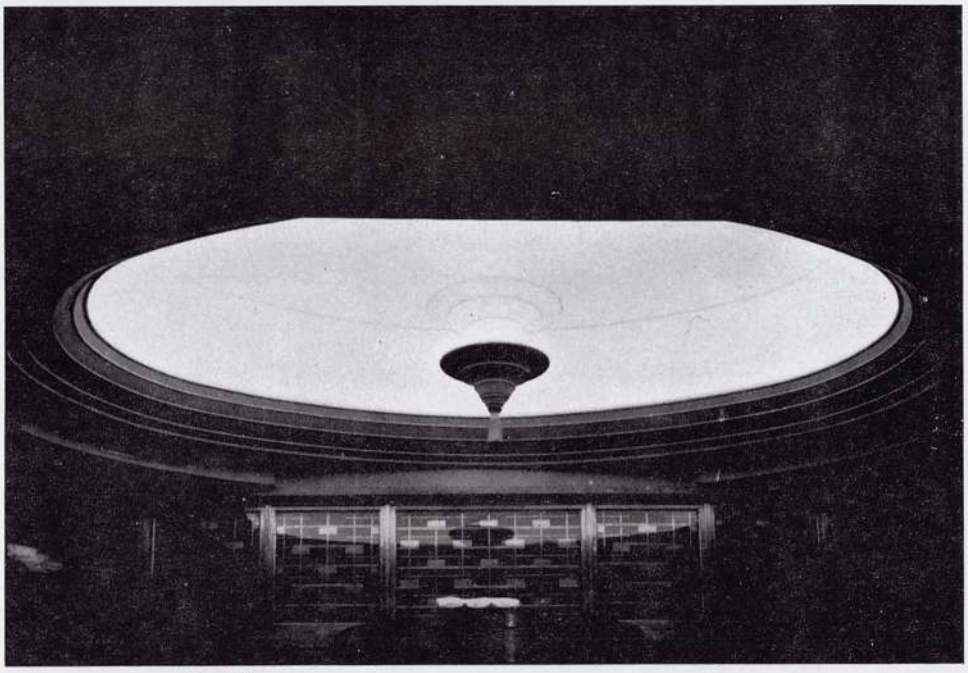


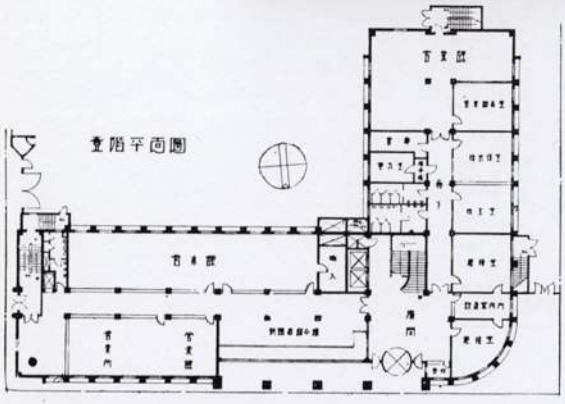
地階平面圖



玄關廣間

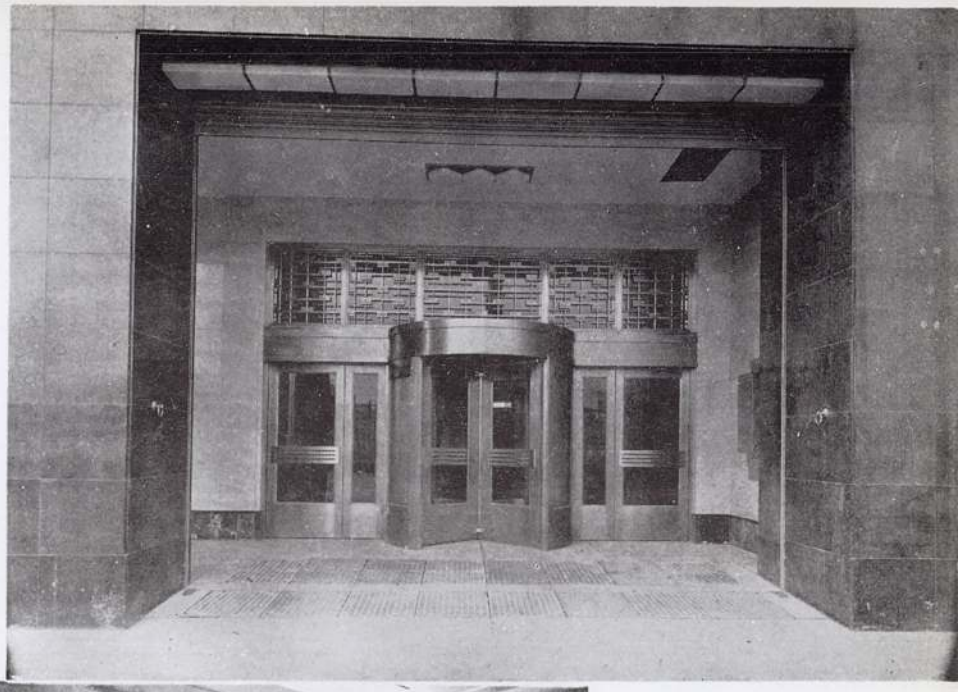
玄關廣間天井照明

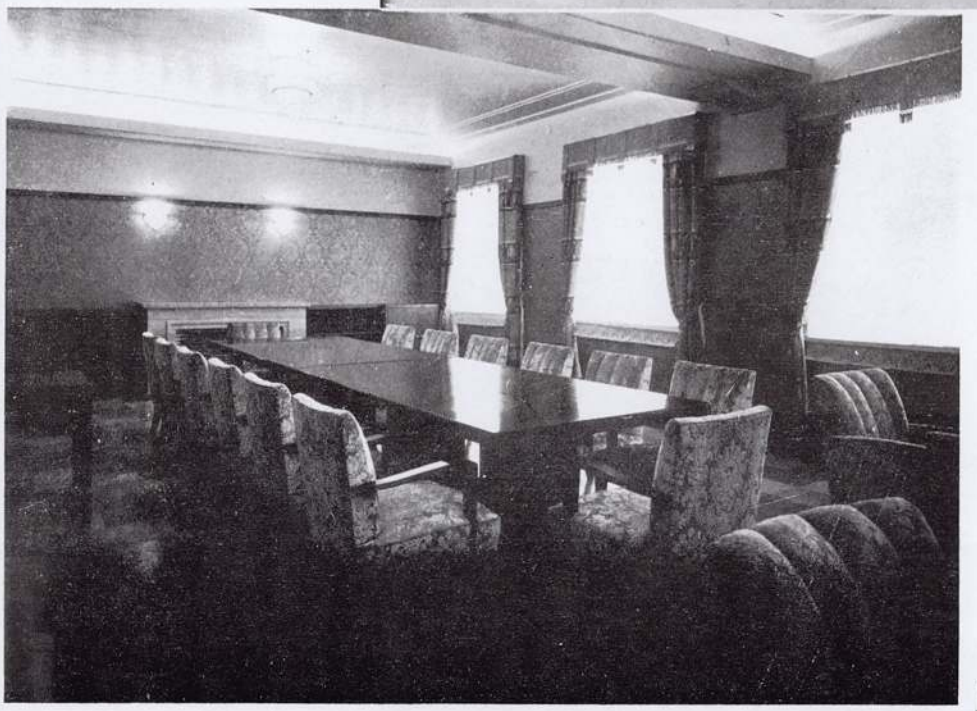




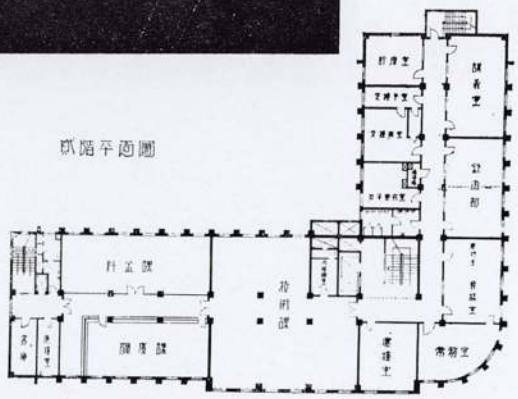
設計・武田五一・・顧問・內藤多仲・・施工・錢高組

正面玄關

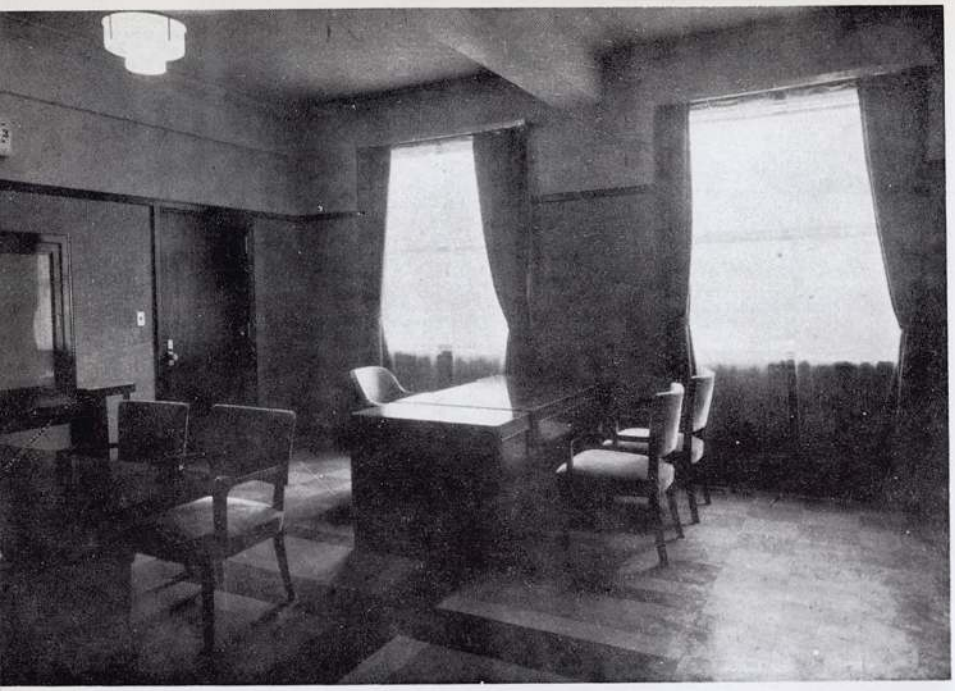




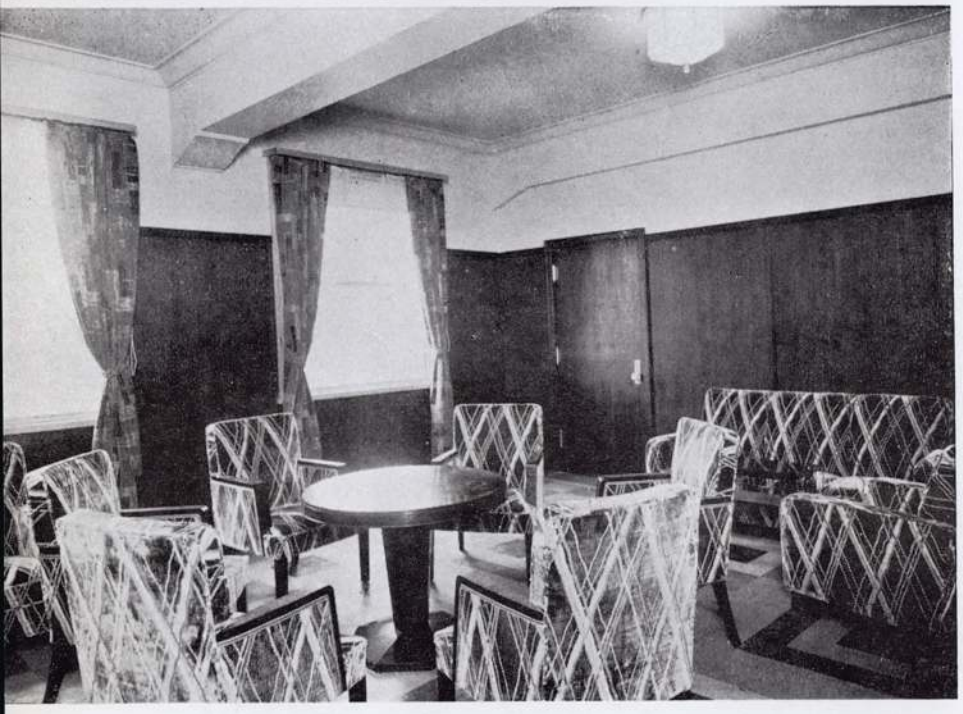
來賓室



一階平面圖

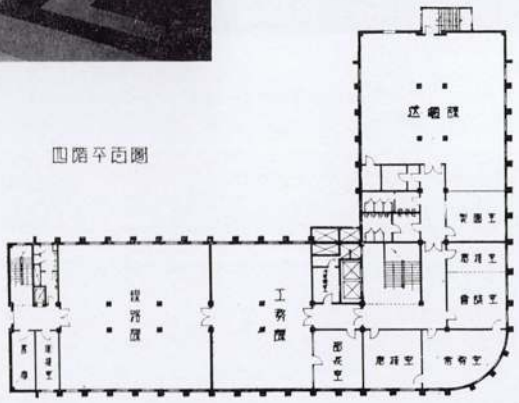


重　役　室



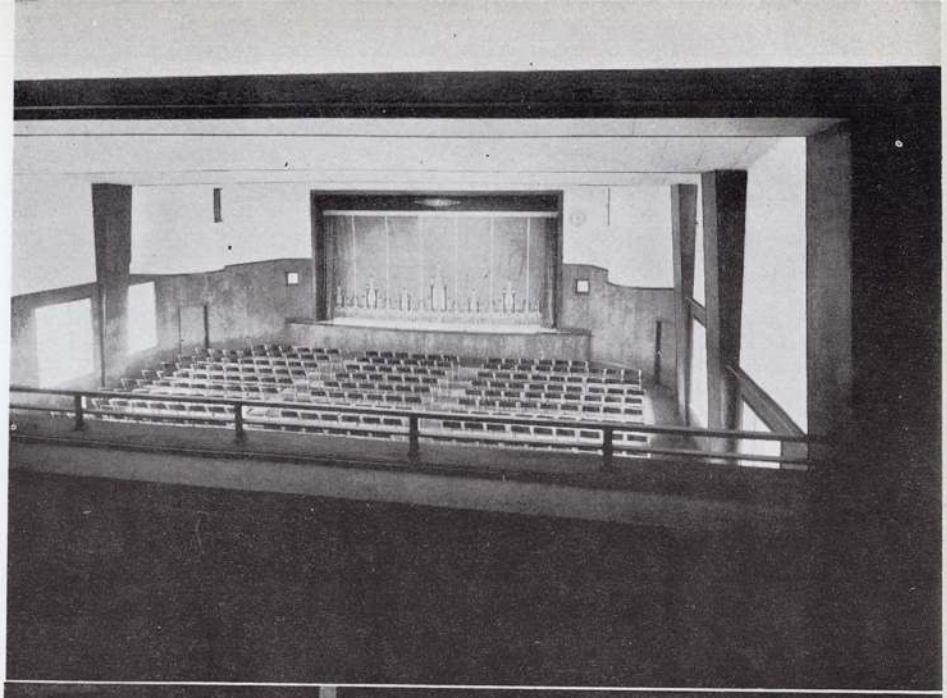
應　接　室

四階平面圖



 “京都電燈株式會社”　設計・武田五一・・顧問・内藤多仲・・施工・錢高組

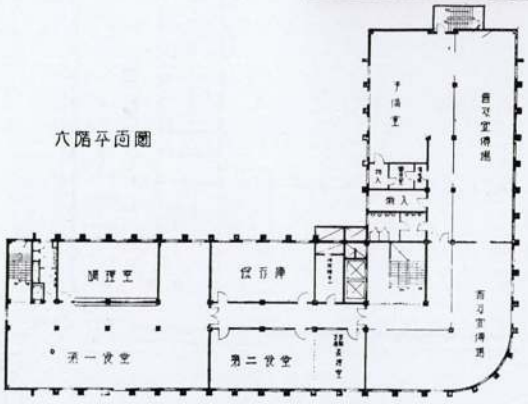
講　演　場



家庭電氣講習室



六階平面圖



“京都電燈株式會社”　設計・武田五一・・顧問・內藤多仲・・施工・鍛高組



新器具紹介場



電氣普及宣傳場

位　置　京都市下京區三哲通烏丸西入東鹽小路町579

工　事　起工 昭和10年12月　竣工 昭和12年6月

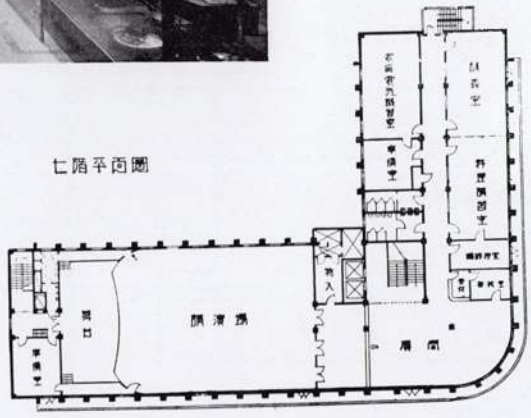
建築樣式　近　世　式

敷地面積　3.376.00平方米（1.023.00坪）

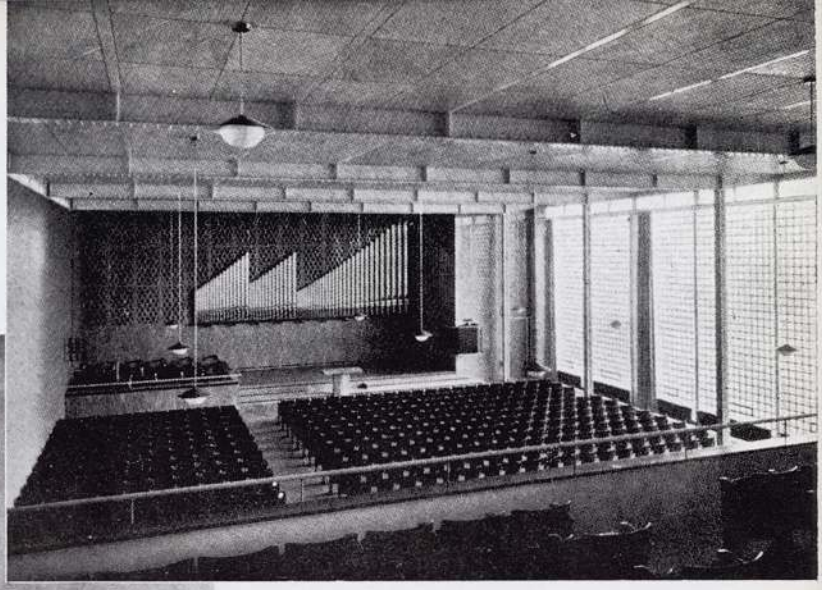
建築面積　1.263.73（382.95）

延 面 積　10.619.73（3.211.29）

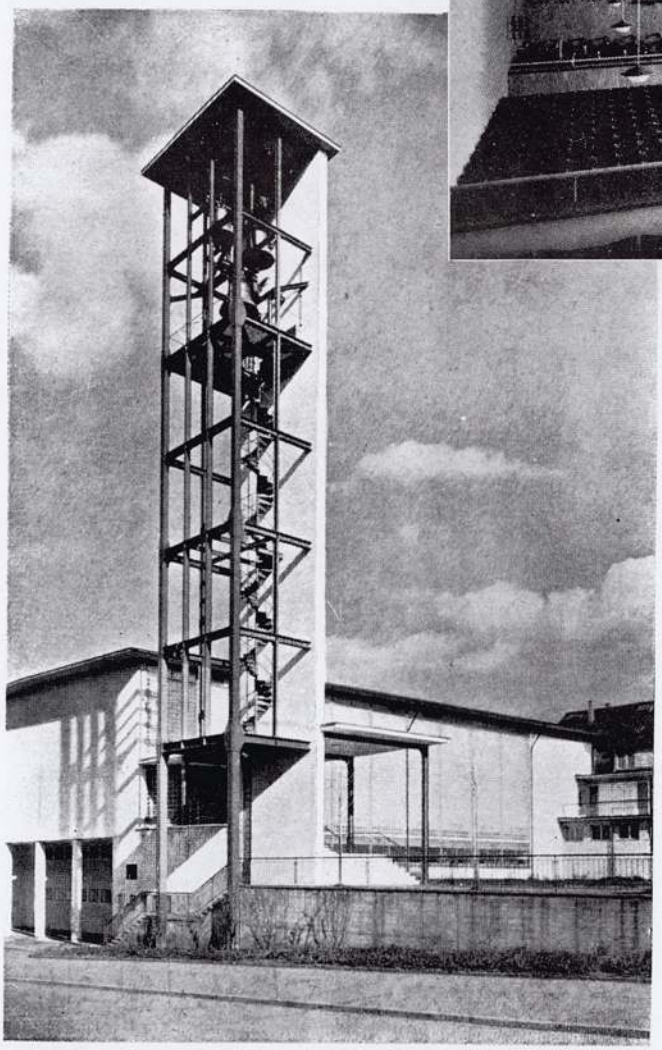
七階平面圖



設計・武田五一・・顧問・內藤多仲・・施工・錢高組



會堂內部



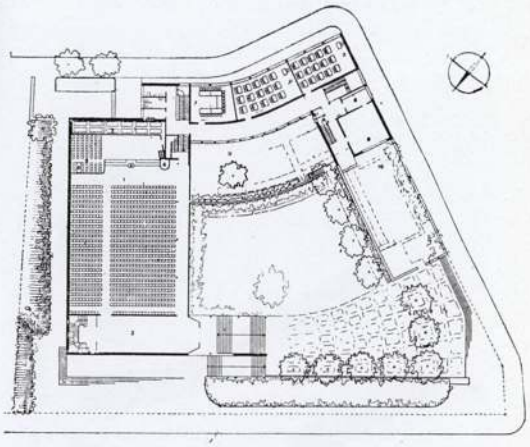
外觀

1931年懸賞募集の當選案によつたものである。教會堂は2階にあり、坐席1100、その下に坐席600の區内集會堂がある。教會堂の内部には祭壇があり、天井は白ペンキ塗の露出鐵梁の間にブナのベニヤ板が張つてある。尚特異な鐵骨の鐘樓は工事用のディレックからヒントを得たものだと云はれてゐる。

工費　750,000　スイスフラン。

（Architectural Review, May, 1937より）

平面圖



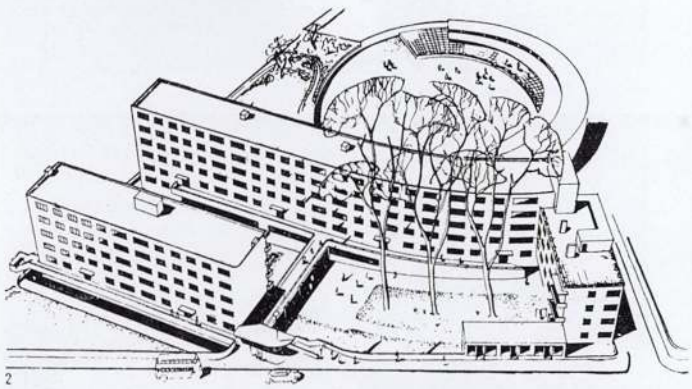
1、教會堂
2、ポーチ
3、オルガン
4、演壇
5、合唱隊席
6、オルガン演奏臺
7、日曜學校
8、待合室
9、牧師應接室
10、牧師住宅庭園
11、寺男住宅庭園

（スイス）バーゼルの教會

建築家 K. Egender 及 E. F. Burckhardt



圓形幼稚園



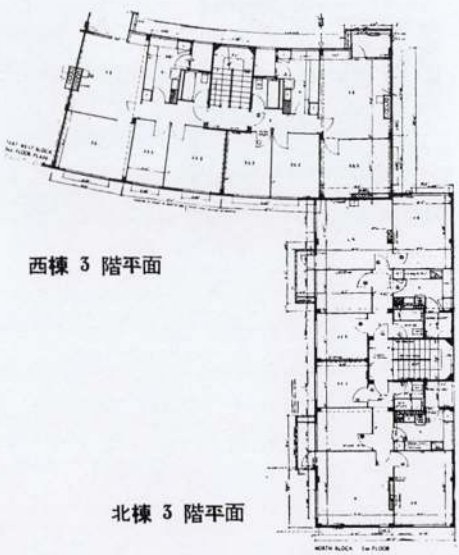
鳥瞰圖

ロンドンの住居計畫の一つとして、下級アパートに對する臺所、バスへの給溫設備、臺所に自動的な新式料理器設備、居室の煖房にコークスの使用を試みたものである。

計畫内容は8戶の住宅、クラブ室、60人收容の幼稚園等で、敷地面積 1.5エーカー、元ガス會社跡であるため、そのガスタンクの基礎を利用して兒童の遊園としたのである。68戶のうち54戶は3寢室型、殘りの14戶が2寢室型で、寢室は東側に、居室は午後の日光をうけるやうに西側に設けてある。家賃は一週11S.6d.及9S.6d。

アパートの部分は鐵筋コンクリート造、幼稚園は主として鐵骨、木造混用である。

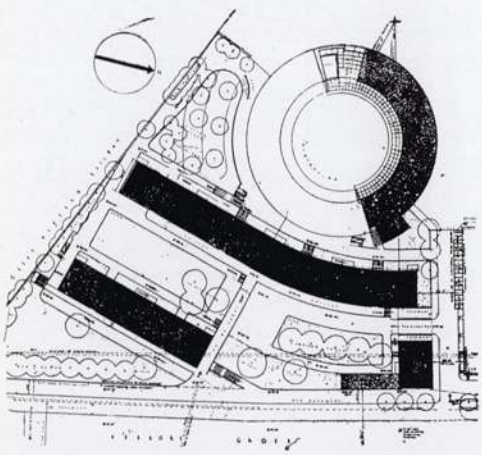
(Architectwal Revi:w, May, 1937より)



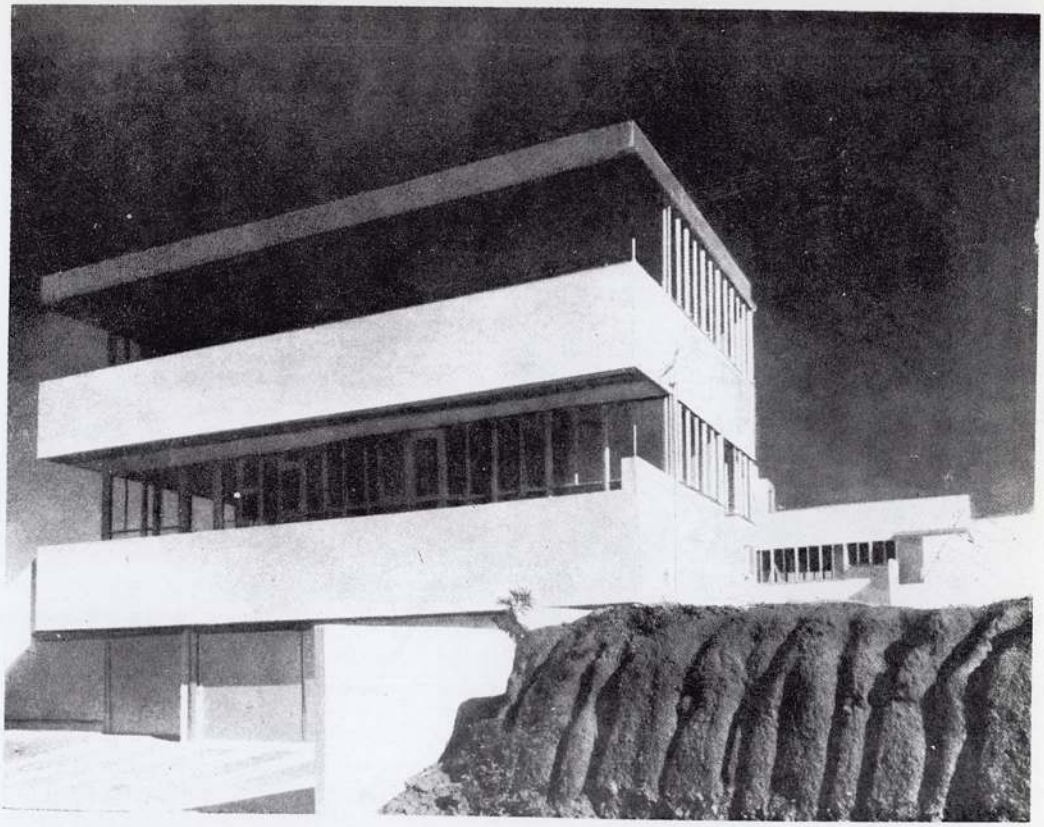
西棟 3 階平面

北棟 3 階平面

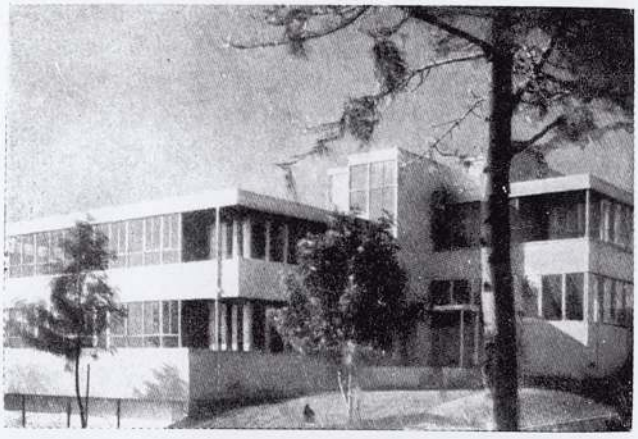
配置圖







東端部外觀



アパート入口外觀

建築主の希望を充分に斟酌して設計せられた鐵筋2階建のアパートメント。

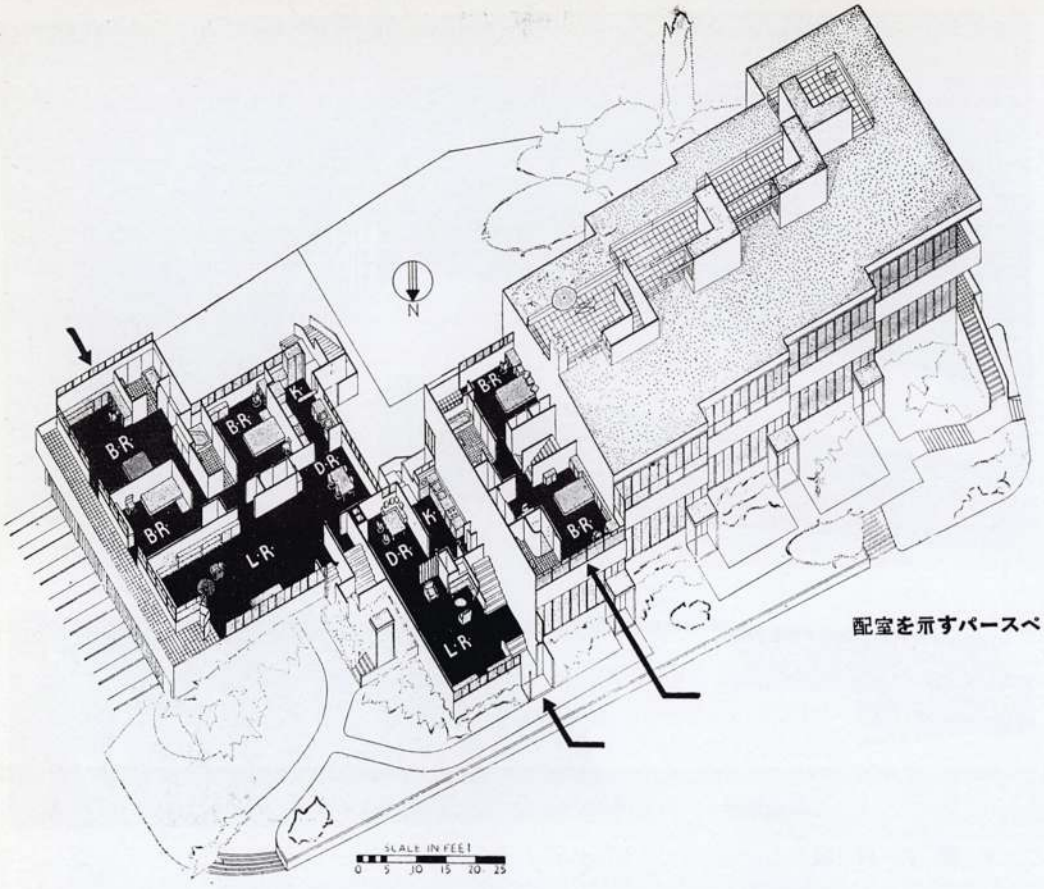
横に連續したる鐵製の窓、照明樋の附いた出張、平なスタッコの壁面等、Neutra一流の外觀を持つてゐる。

東及西からの採光をよくする爲に、プランは全體としてヂグザクに計畫されて居り、各戸は1室又は2室にも使用せられる居間兼食堂を中心として寢室浴室、臺所等が配列されてゐる。2階は浴室の爲に階段室及押入は暗い部分になつてゐる。

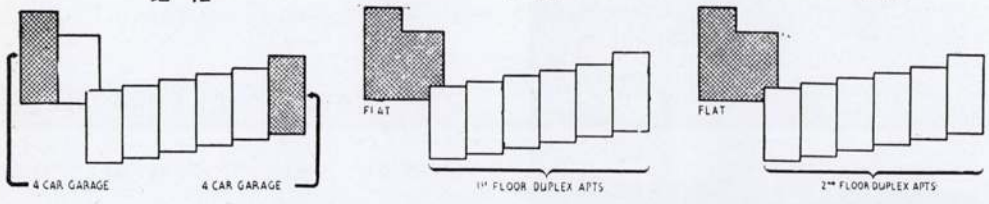
1階のプランに於て、臺所及勝手口が南面のよい部分に取られてゐるのは了解に苦しむが、南側の寢室に接してポーチの設けられた2階のプランはいい

工費 1平方呎に就き 3弗80。

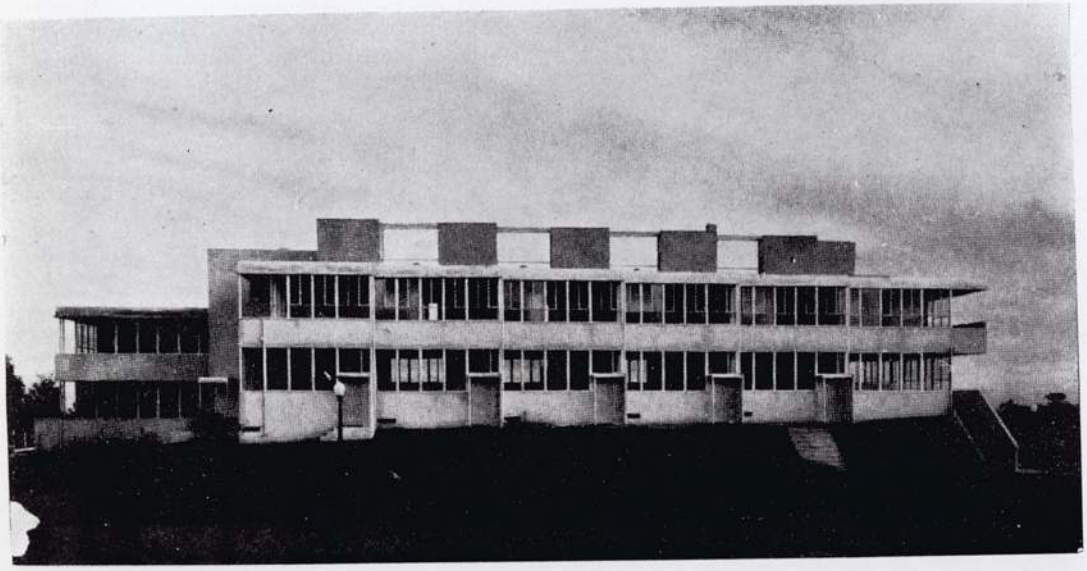
(Architectural Forum, May, 1937より)



配室を示すパースペクチブ



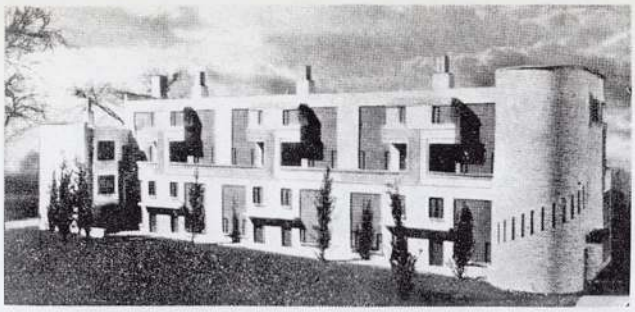
ブロックプラン



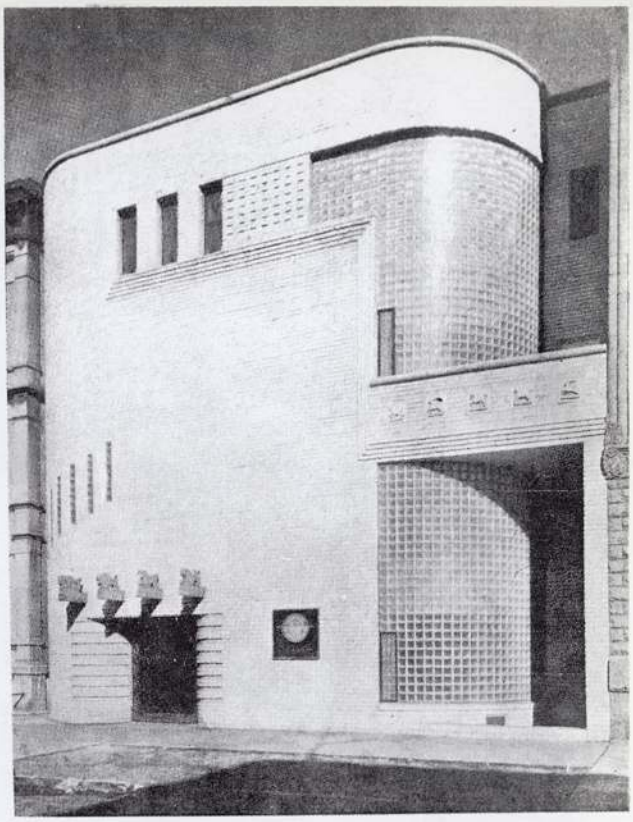
北側外観

VII 26 （アメリカ） Westwood の郊外アパート

建築家 Richard J. Neutra 及
Peter Pfister 合作



北側外觀



道路側外觀



居間內部

上手に取扱はれた折衷式のアパートメント。一定の樣式に從ふでもなく、中世紀風の煉瓦にガラス・ブリックとステインド・グラスとそれに瑞典風の木の彫刻とを配して一種の趣を表はしてゐる。

外觀の1は道路に面した端であり、4つの木彫の突出した下が各アパートメントへの入口である。

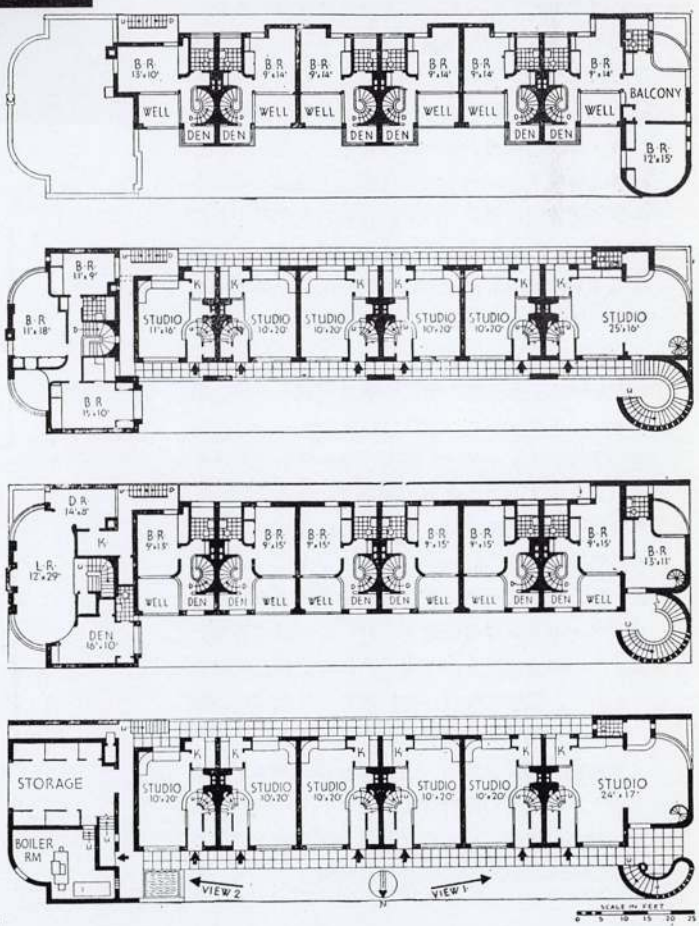
建物の後端は裏の小路側面は中庭に面してゐる。

各戶2階式のものを2重に重ねたもので、居間の一部は2階次拔きとし、吹拔きの部分は天井まで一杯にガラス壁となつてゐる。寢室は2階後の方に設けられ、小窓が開かれてゐる。

上の2階分のアパートメントには2つの吹放しの階段に依つて通じ、それより戶外の廊下を經て各戶に入る樣になつてゐる。

兩端の各戶のほか各戶何れも狹いものであるが、空氣調整裝置なしに耐え得るアパートメントの最小限度のものとして、興味のある設計である。

(Architectural Forum, May, 1937より)

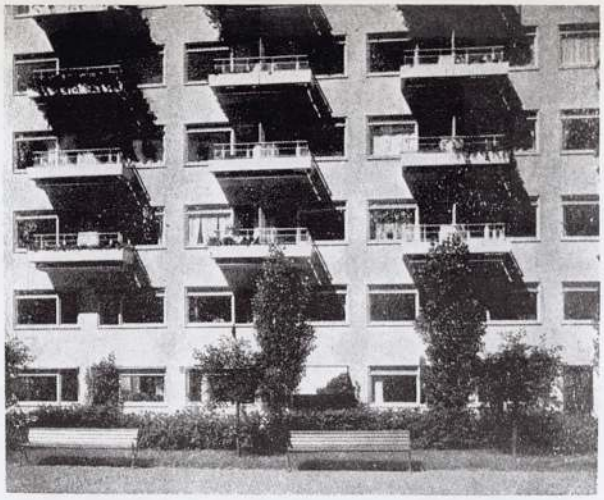


各階平面圖

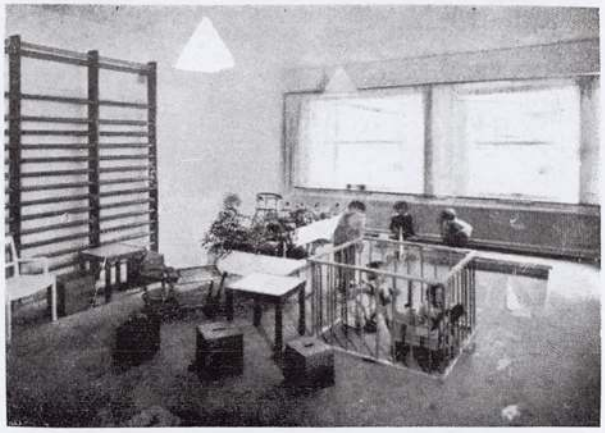
(アメリカ) Chicago のアパートメント　建築家 A. N. Rebori 美術家 Edgar Miller



道路側外觀



裏側外觀



保育室內部

「集合住宅」とは婦人の職業戰線への進出に伴ふ家庭の生活樣式の變化から必然的に要求せられて生れ出たのであるとその有名な設計者は言つてゐる。（1930年の統計に依れば、ストツクホルムの既婚婦人の25,1%が職業婦人である）このアパートメントは特にそうした點を考慮した婦人の留守の家庭の爲に、種々特殊な施設が施されてゐる。

食事は全部ダムウエイターに依つて運搬せられる子供等は託兒所に預けられて、行届いた監督の下に遊び、學び、それから必要に應じて眠ることも出來る。洗濯その他の家事は全て專門家が居て處理する

就中子供に對する施設は非常に親切を極めたもので託兒、洗濯、食事の費用を込めて1日約40セントであるといふ。その他1階には學齡兒童用の室と勉强室とのほかに病室さへ設けられてゐる。

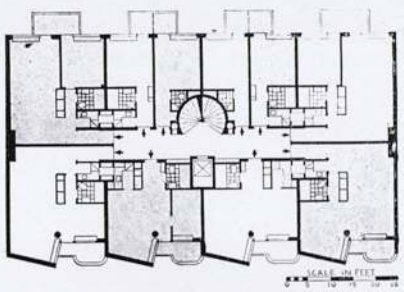
建物は鐵筋コンクリート造で、梁の突出を避ける爲にフラツトスラブ式構造が採用されてゐる。

街路側の外觀は相隣れる各戸互に秘密が保たれながら、居間からは Malaren 湖の眺望を失はない樣に計畫された所から必然に生れ出た結果である。

ストツクホルムに最近建てられたこの種の建物と同樣、この集合住宅も、借家人共同建築組合の建設したもので、工費は現在の弗に換算して約 215,000弗、その中用地費が大體32,000弗である。

工費總額の10%を借家人が負擔し25,000弗を政府より借入れ、殘餘の部分は工事請負人との契約に依つて、10箇年償却といふことになつてゐる。

（Architectural Forum, May, 1937より）



代表階平面圖



1階平面圖

放　送　室



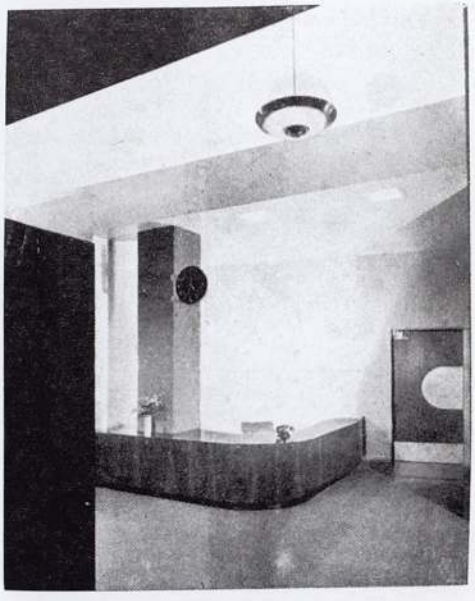


廊　　下



放送室平面圖

受　　付



古い建物を改装して作られたコロンビヤ系放送局の1つ。設計は以前からこの仕事に携つてゐる William Lescaze 氏で外觀も一目でコロムビヤ系放送局と見分けられる特徴のあるものである。

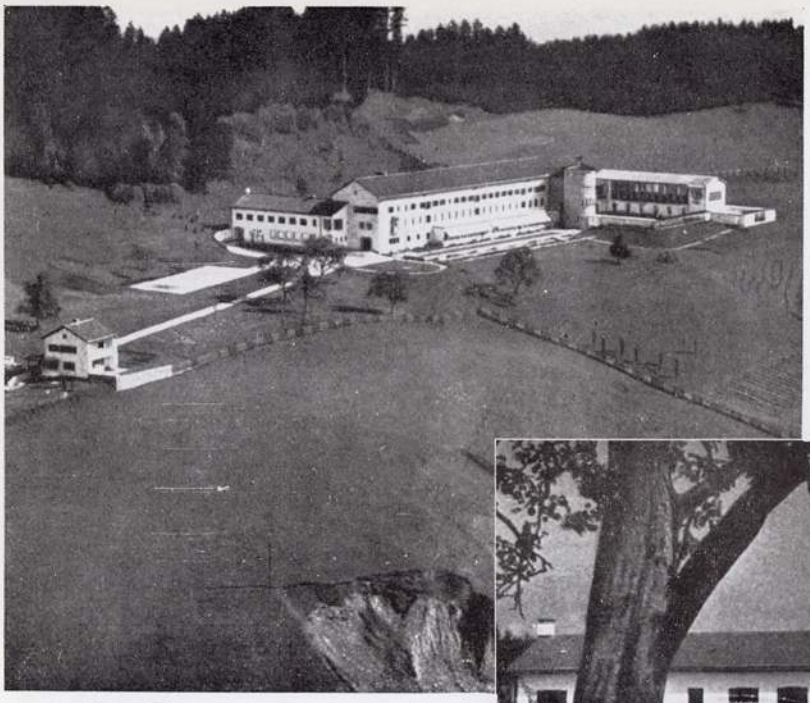
古い建物を放送室に改造する爲に各種の機械的及音響的問題は今日までの經驗で既に解決濟である。

時計、受付の机、調節室其他何れも同社のニューヨークに於ける放送局と同じものをその儘利用してゐる。

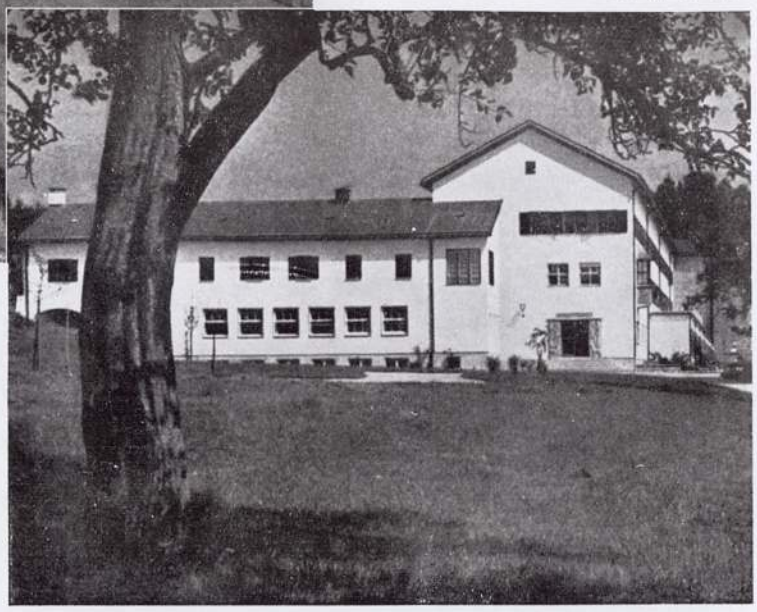
用途と動線とに充分の考慮が拂はれてゐることは勿論であるが、古い建物の改造であるから事務室の廊下の部分に多少の無理があるらしい。

夜間使用されない事務室の部分は、他の部分と簡單に遮斷せられる樣に計畫されてゐる。家具も同じ建築家の設計である。

（Architectural Forum, May, 1937より）

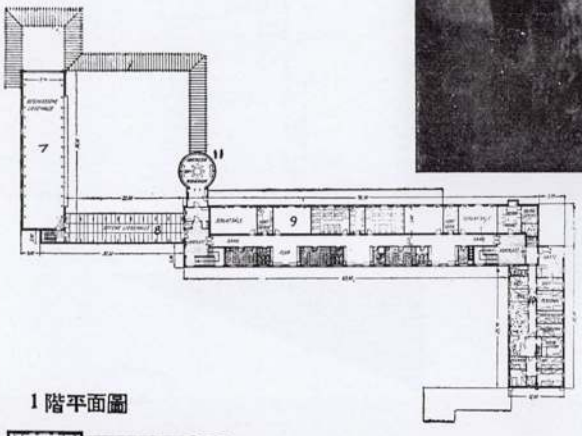


全　景

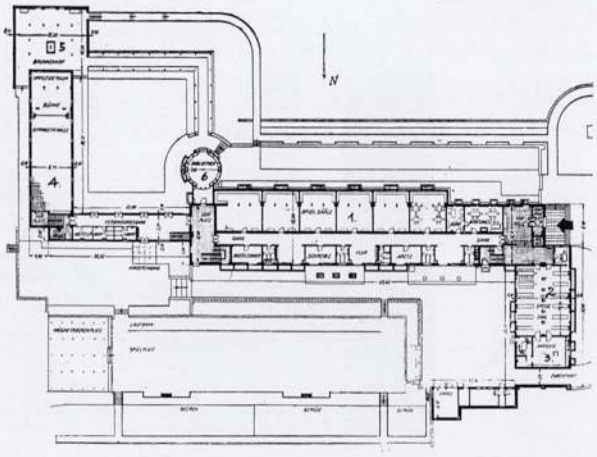


東側外觀

2階平面圖

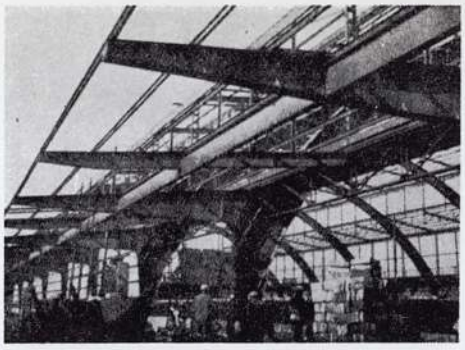


1階平面圖

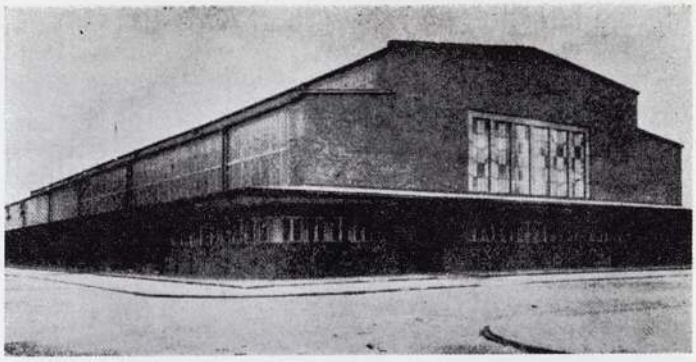


1、遊　技　室（六室）
2、食　　堂
3、配　膳　室
4、體　育　室（舞臺設備あり）
5、遊　歩　塲（噴水庭園）
6、圖　書　室
7、安　息　室（室内）
8、安　息　室（屋外）
9、寢　　室
10、客用並所員寢室
11、娯　姆　室

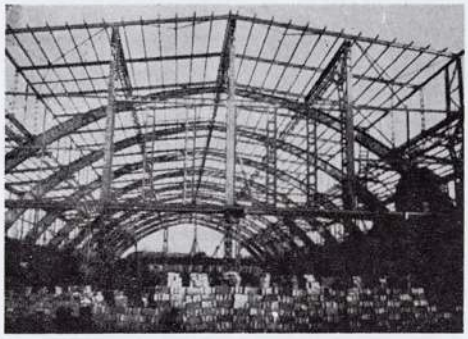
（Zentralblatt der Bauverwaltung, April, 1937より）



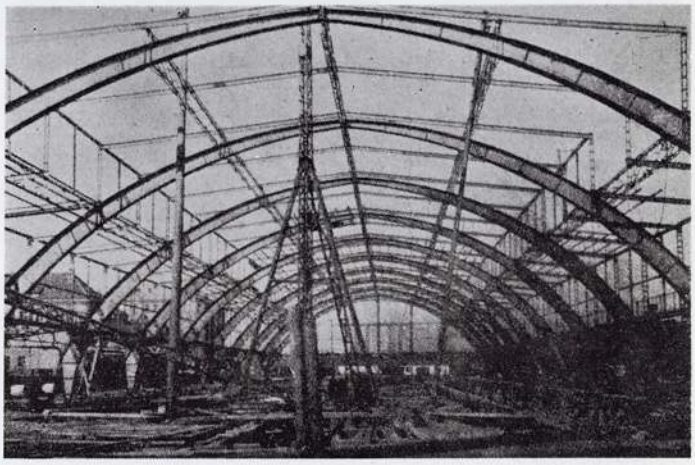
庇の突出部



市場外観



組立完了後の鐵骨



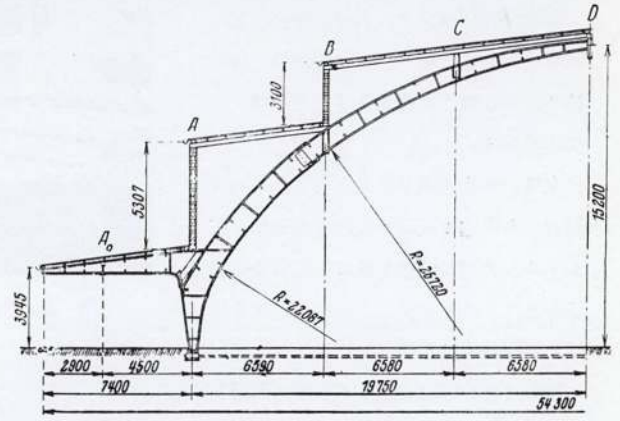
鐵骨組立中

建物は巾39,5米、長さ121,0米、高さ16,0米にて張間39,5米、高さ15,2米の三鉸アーチの大ホールよりなつてゐる。アーチ間隔は11米

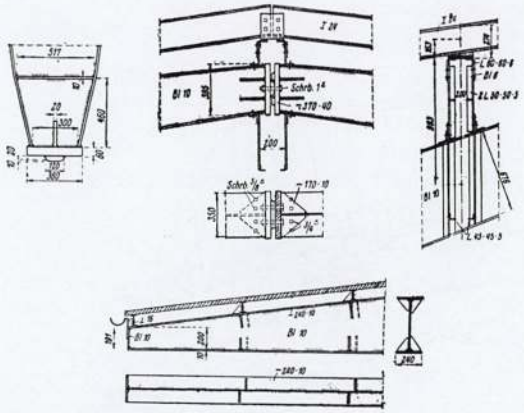
柱脚は床下を通る鐵筋コンクリート梁にて、緊結されてゐる。

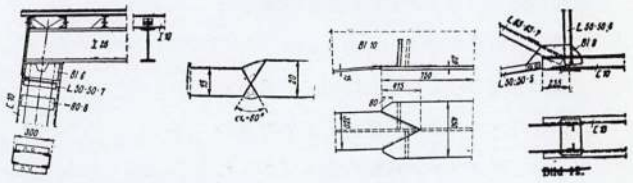
この建物の鐵骨骨組は一部の現場リベット打を除き全部鎔接されてゐる。

(Der Stahlban,April, 1937より)

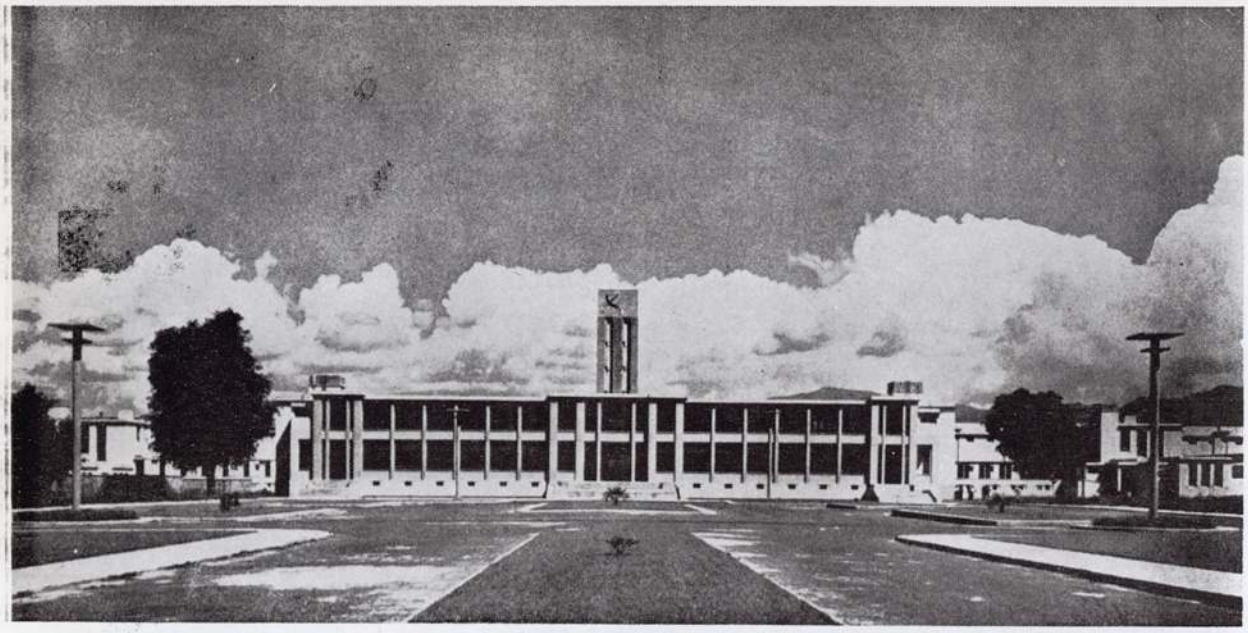


断面圖

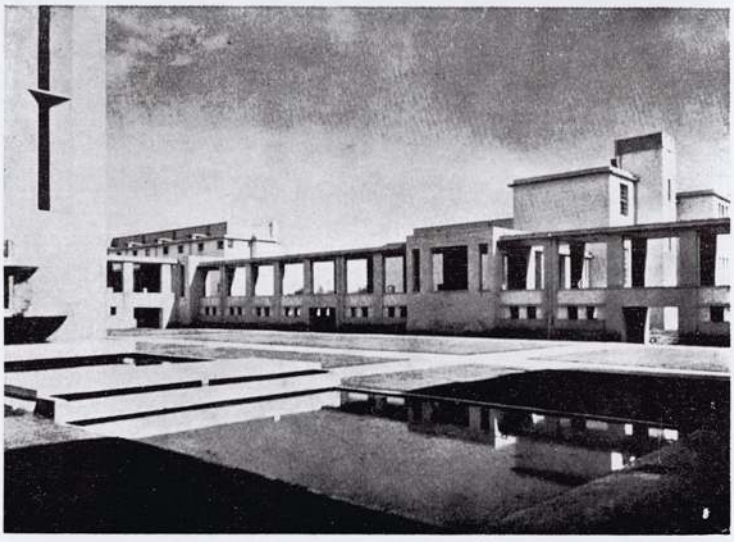




鐵骨各部詳細圖



正　面　外　觀



內　庭　外　觀

1936年に完成されたメキシコ市郊外のサナトリウムである。當國保健省の事業の一として設立されたものである。

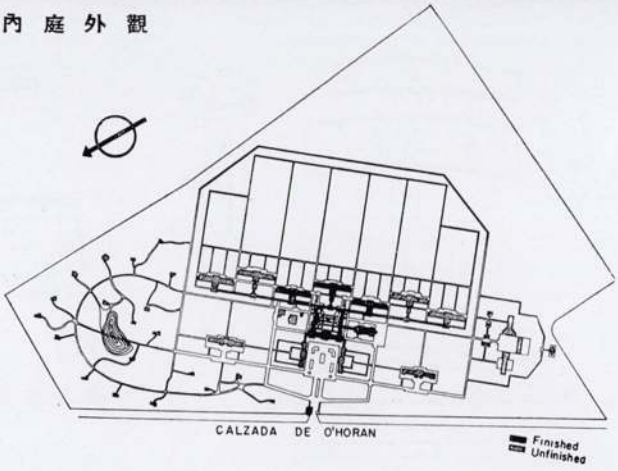
收容力1000病床で、再び社會に復歸出來そうな輕症患者へは特に療治法、豫防法のほか、他人に感染さすことを避く方法迄教へる。

勿論、無產階級を目標としてゐるので患者の入院迄の程度の低い衞生思想を匡正するため常に監視を嚴にしてゐる。猶子供連れもあるので、これには患者を適宜に隔離の方法も採つてゐる。

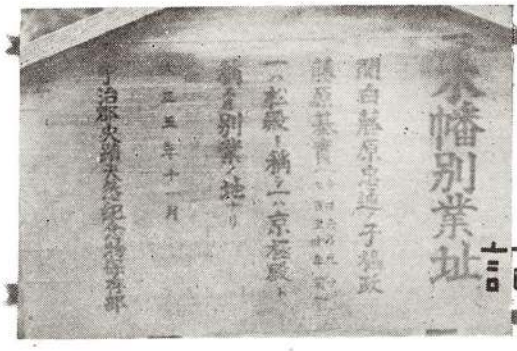
建築に就いてはパビリオン間の內庭を外訪者の面會所にし、そのパビリオンは南面で他のパビリオンに建物が投影しない樣に日照法を考慮してゐる。

地耐力僅少なるため二階建にしてゐるが、これはこの建物の動線を不便なものにし、このプランの缺點の最大はこゝにあるのではないか。

（Architectural Record, April, 1937 より）



配　置　圖



松殿山荘見學の記

6月13日京阪線木幡の松殿山荘を見學した。同行85人、武田博士、中澤常務や、京都から珍らしく三橋氏、土居原氏等の顔が見えた。この見學は昨秋より2度も計畫されたものであるが共都度雨の爲に中止し、やつと3回目の今日は梅雨晴の爽やかな一日であつた。

正午京阪天滿橋驛を發して約1時間、中書島で宇治行に乘りかえて黄檗の手前の木幡驛で下車、山の手へ5、6丁登れば、山荘に達する。總敷地10萬坪の地域に5000坪の庭園、延坪1000坪の建物が建ち、茶席大小16席を有して、第1圖の如く、大玄關、中玄關、大書院、中書院、東書院、西書院眺望閣、五天樓、樂只庵、蓮齋、撫松庵、春秋亭、杉松庵、聖賢堂、菅廟、仙靈學舍、松殿寶庫、修禮講堂が並んでゐる。

松殿山荘の地は約750年前 關白藤原忠通の子藤原基實（近衞家の初祖）が松殿又は京極殿といふ別業を營んだ跡であつて、又宇治茶發祥の地である。

故高谷宗範氏がこの地を卜して松殿山荘を建て茶道の革新とそれによる國民思想の善導を企られた。翁は大正7年68歳の時工を起し、昭和7年迄15年間に亘り總工費100萬圓を投じて、前記1000坪の工事を完成され昭和8年83歳の高齡で逝せられた。これより先山荘は工事中途昭和3年11月財團法人となり土地、建築、什器及私財50萬圓をこれに提供された由である。

建築及庭園の總ては高谷翁自らの設計になり、園の中央の筆塚を基點として一木一草悉く準據する處がある由。建築用材は大阪の舊宅（元天王寺屋五兵衞宅）を取毀つて悉く運び夥しい松の古材を活用してある。高谷翁が建築の技術的詳細に素人なりし爲その建つた建物の形は稚拙な處が多いが相當、思ひ切つて種々の手法を試みてある點もある。意匠の根本は圓と四角であるとして、多くこれを用ひ又、遠州の好んだ七賓に瓢を配した細部が各所にある。

第2圖はその玄關で左上に四注造りの眺望閣が見える。この屋根の上には四角と球の飾がついてゐる。

第3圖は大書院と眺望閣で、大書院は錣葺となり上部は本瓦葺、下家は機瓦となつてゐる。又椽のガラス戸の上に欄間のない處など變つてゐる。

第4圖は聖賢堂に渡る桟の欄と垣で、方圓と瓢の意匠が微笑される。

第5圖の大玄關の組物の瓢も、この手法である

室内の意匠は如何にも素人らしく形の釣合など眼中になく造られてゐる棚廻り、天井廻りなどどうかと思はれる個處が多い。

同行の武田博士の言葉を借りて云へば高谷翁の精神は非常によい。その説く處は敬服に値する處があるが建築の方は專門家の意見を少しも用ひなかつた爲に見るべきものが少ない。

そこで建築の方は說かず、翁の得意とする理想を少し引用する事とする。

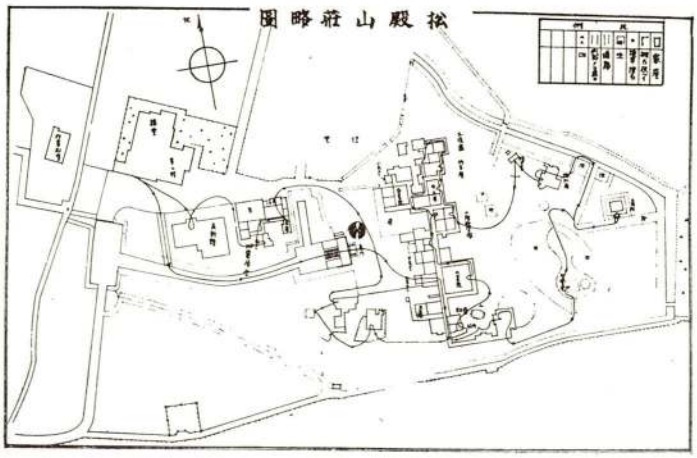
高谷翁は、遠州流に範を求めて、山荘流の茶道を創め、書院式の大がゝりな茶をその荒廢から再興せんとした人で、その茶道に對する意見は曰く

「現在行はれてゐる茶會は小間ばかりである。小間とは四帖半以下の四帖三帖二帖といふ小間でこれを草庵といふ。四帖半以上の六帖八帖十帖十五帖は廣間でこれを書院といふ。

今流行してゐるのはこの小間で、四帖半以下の草庵の茶である。東山の義政時代は廣間の書院で茶を點じたもので、この廣間を後に屏風で圍ひ、小間としたので茶室の事を圍ひともいふ其後紹鷗と利休が小間を別に造つた處から小間即ち草庵式が出來たのである。

そこでこれを原則的にいふと草庵の茶は侘の茶略式の茶であり、書院の茶は莊嚴な茶、正式な茶である。

今この草庵の茶のみが流行して、書院の茶が中



第 1 圖

絶してゐるのは遺憾でならない。

元來茶は身分に從つて樂しむもので金持は金持らしく本式に貧乏人は貧乏人らしく略式にといふのが原則である。然るに書院式がすたれて、草庵式のみが流行し、今の茶人は草庵の外は知らない書院の茶は外道だとしてゐる。その結果書院で使ふべき道具を草庵に持ちこんで平然としてゐる。今日金持の茶會を見ると、草庵略式の茶に素晴しい高價な茶碗が出たり、數10萬圓もする茶器がある。甚だしきは蒔繪の膳が出たりする。これは利休の侘の茶に反する事で、譬へて云へば、田舍の葭簀張りの小屋へ團十郎、菊五郎を連れて行つて芝居させる樣なもので、舞臺と役者と背景が一致せぬ。」

又現在の茶道が手前ばかりに重點をおいて他の重要な事項である花、庭、飲食、道具の方の事を教へない跛行的な事を慨し

「今の茶道は手前と云ふものを充分に教へる。平手前を本業すれば、小習となり、小習から大習やれ天目だ唐物盆立だ、と云ひ臺子から奥十段に到るまで、あるので、これを長くかゝつて習つて免狀をとつても、他の事が教へられないから茶會一つ開く事が出來ぬ。何故かといふと手前ばかり詳しく習つても菓子の喰べ方も飯の喰ひ方も知らない。庭の歩き方も座敷の坐り方も知らない人が多い。これではいけない。私の始めた山莊流では先づ手前の教を少なくして平手前の炭、薄茶、濃茶を普通科とし、これが出來れば、庭の歩き方、手水の使ひ方、懐石の出し方、喰べ方、花の入れ方を教へる。これが眞の茶の教へ方である」

と云つて所謂世の宗匠の教へ方をやつつけ眞の茶の道を説いて居られる。

又高谷翁の飲食禮に關する意見に興味ある。西洋料理でも支那料理でも酒と飯を同時に供するのに日本の現在の宴會はたゞ好酒家が2時間も3時間も飲んで充分醉ふに到るまで下戸は飯を喫する事が出來ず、たゞ飲酒するのを見物して居り怠屈するのは甚だ差別待遇だからこの日本料理も、酒飯同時に出す式にせねばならぬと説いて居られる。

「今日我日本の飲食禮は頗る亂れて、殆んど一定の法なきは慨嘆にたえぬ。試みに飲食の實際を見れば各人勝手の取扱をなし、茶人が懐石の喰べ方さえも或は汁を先にするあり或は飯を先にするあり皆一定せず。ましてや一般の人々は兩親から箸は右に茶碗は左に持てと教へられたのみで、その野生のまゝ生成した人々が多く、日本式飲食禮



第 2 圖



第 3 圖

を知る者はきはめて少ない。

然らば日本には古來飮食禮がないかと云ふと然らず、大膳寮には古來完全なる法式あり、又公卿諸侯等皆各所定の法式あり、足利義滿の時、伊勢小笠原細川の3家に命じて禮儀作法を整頓せしめ就中飮食禮は公家式と武家式に區別して精しくこれを規定した。

德川時代に於ては將軍家並に諸侯は皆其專門の本職をおき、飮食禮を實行した。尙民間に於ても結婚式披露宴追善佛事等、皆必ず本膳式を以てしたのである。然るに明治維新後、これが荒廢して今の野生の飮食式になつて了つた。これは實に我帝國の禮儀の一大缺陷で一日も早く現代に適する飮食禮を定むべきである。

今日政府が觀光局を設けて外人を誘致するはよし、我風光は外人皆これを賞讚するであらうが一度、日本の飮食禮を學び、研究せんと希望した場合、當局は何を以て敎へんとするか、大いに怠慢といふべきである。

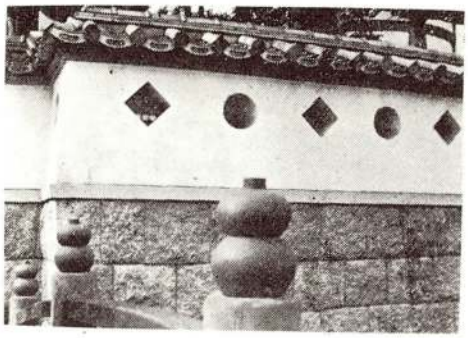
私は先づ紫道書院式の飮食禮を改善統一して更に進んで普通日本式宴會を改善せんとする者である。今日の普通宴會は、決して禮儀のあるものでない。只好酒家が5時間も6時間も豪飮して充分酔飽するまで下戶は飯を喫するを得ず、只飮酒するのを見物して居り大いに迷惑意屈するのであつて今日の普通宴會は上戶を優待して下戶を虐待する禮を失したものである。これを改善するに恰も西洋料理支那料理の如く酒飯同時式としたい。草庵式懷石が酒飯同時式であり又小笠原流本膳式も先づ喫飯を終つて後酒を出し酒の肴を出す順序であるからこれ等を再興して、酒飯同時式の宴會順序にすべきである。

又日本の宴會では藝妓、仲居等が盃盤の間を往來し主人たるものは客と同坐して、共に其酌婦に對する狀態は殆んど靑樓に於ける酒宴に異ならず此の如き猥雜な宴會を以て正式のものとなすは言語同斷である。私が曾て外國の地で實見したのにフロックコートを着た立派な男が禮儀正しく給仕したが、これと日本料理屋に於ける宴會を比較すると實に雲泥の相違である。早くこの醜態を改善して、立派な君子國の飮食禮を作りたいものである」

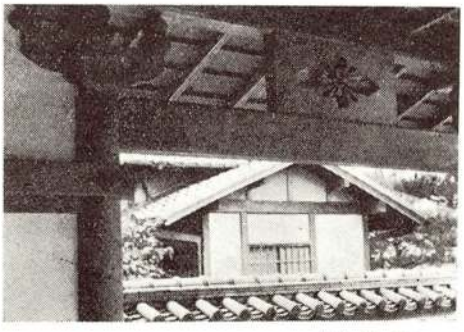
まことに聽くべき事が多い。

今日の松殿山莊の見學は建築的には多くの見るべきものがなかつたが精神的に高谷翁の理想には全く感動すべきものが多く啓發される處が多かつた。

（12年6月13日　**岡田孝男記**）



第 4 圖



第 5 圖

會報

五月例會（見學）

時　5月24日午後1時—4時
所　宇治川電氣株式會社ビルヂング
出席者　小川陽吉氏外212名

都市計畫委員會（第9回）

時　6月3日午後7時—8時30分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　鳥井
　　委員　邊井、吉田
協議事項
1、建築會社法案並住宅法案研究の件
2、復興建築助成株式會社定款研究の件

材料委員會（第9回）

時　6月3日午後7時—9時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　幹事　松久保
　　委員　秋田、小川、楠瀬、道田
協議事項
1、床板規格案二案比較研究の件

災害强度標準示方書研究會（第2回）

時　6月3日午後7時—10時
所　協會倶樂部室
出席者　主査　山田
　　委員　淺野、黒田
1、コンクリート工事標準仕方書に付研究す

法制委員會（第5回）

時　6月5日午後3時20分—5時
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　津田
　　幹事　松井、山口
　　委員　板井、本田
協議事項
1、各願届書便覽作成の件
2、質疑應答に關する件
3、委員增員の件

常務會（第12回）

時　6月7日午後6時—7時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　理事　片岡會長　松本副會長
　　常務　井上主記　小川主記
　　中澤主記　中西主記
　　加田主計　清水主計
　　新名編輯　堀口編輯
　　吉田編輯
議事
1、敎化委員會より建議の建築講座開設に關する立案の件
2、大阪木材市場關係道府縣木材正量取引促進協議會開催に付臨席方の件
3、吉野工業學校長より建築學科敎授研究會に案内の件
4、法制委員會より委員三名增員方の件建議
5、建築學會第11回建築展覽會開催に付會誌にて宣傳方依頼の件
6、建築土木資料集覽刊行會理事長より本會事務所を大阪引換所に依頼の件
7、「建築學研究」誌寄贈に關する件
8、古雜誌處分に關する件
9、會費滯納者に關する件
10、建築材料陳列場助手採用の件
11、職員上半期賞與其他に關する件
12、會員詮衡
報告
1、六月例會準備報告

災害强度委員會（第6回）

時　6月8日午後7時—9時30分
所　建築材料陳列場別室
出席者　委員長　渡部
　　幹事　黒田
　　委員　淺野、中井、堀口、矢田、山田
　　横田、大隅、竹花、田川、西島
　　日野、
　　旭水道工業所　酒井隆郎氏
1、ボーリングに關し酒井氏より蒐集方法其他

に付詳細說明あり

協議事項

1、熔接工技倆試驗に關する件

2、連續鋸屋根に對する風壓の分布狀況調査の件

3、地質調査に關する件

敎化委員會（第5回）

時　6月9日午後6時—8時30分

所　協會俱樂部室

出席者　幹事　篠原

委員　黒澤、坂本

同伴者　鵜田、小林、中村、笠井

協議事項

1、工業學校の敎授內容を檢討して其改善案を考究に關する件

2、建築學科敎授研究會出席者推薦の件

3、建築講座開設に關する件

材料委員會（第10回）

時　6月10日午後7時—9時30分

所　協會俱樂部室

出席者　委員長　高橋

幹事　松久保

委員　秋田、小川、楠瀨、道田

協議事項

1、常務會より附託ありし木材市場正量取引促進協議會出席者選定の件

1、床板規格案の件

住宅委員會（第7回）

時　6月11日午後6時30分—9時

所　建築材料陳列場別室

出席者　委員長　石川

幹事　岡田、矢田

委員　荒木、新名、玉置、岡本

1、住宅讀本原稿に付協議す

六月例會（見學）

時　6月13日正午—午後5時

所　松殿山莊茶道會

出席者　石田太郎氏外84名

（本誌記事參照）

設備委員會（第5回）

時　6月14日午後6時20分—7時

所　協會俱樂部室

出席者　委員長　小笠原

幹事　伊東

委員　增井

1、目下緊急を要すべき問題なく當分休會することに決定

災害强度標準示方書研究會（第3回）

時　6月15日午後7時15分—9時40分

所　建築材料陳列場別室

出席者　主査　山田

委員　淺野、竹花、堀口、渡部

1、檢討終了に付目次を作製の上再檢討することに決定

材料委員會（第11回）

時　6月17日午後6時30分—8時

所　協會俱樂部室

出席者　委員長　高橋

幹事　松久保

委員　秋田、小川、道田

協議事項

1、木材市場正量取引促進協議會出席者の件決定

2、製鐵所見學の件

3、建築材料暴騰に關する對策研究の件

都市計畫委員會（第10回）

時　6月17日午後6時30分—8時30分

所　建築材料陳列場別室

出席者　委員長　鳥井

幹事　福知、村井

委員　匂坂、吉田

1、前回よりの研究事項引續き研究

常務會（第13回）

時　6月21日午後5時40分—8時

所　建築材料陳列場別室

出席者　理事　竹腰副會長

常務　井上主記　小川主記　中澤主記　中西主記　樋口主記　加田主計　清水主計　中村主計　新名編輯　吉田編輯

議　事

1、災害强度委員會より型枠研究調査費請求の件
2、材料委員會より鐵材研究經費支出方の件請求
3、諸雜誌（寄贈交換等）製本費支出に關する件
4、材料委員會より床板規格案の件報告
5、建築學會より木造二階建小學校の構造規準に關する講演會共同主催（又は後援）申越の件
6、建築年鑑に關する件
7、會員詮衡
8、職員賞與昇給の件

報　告

1、熔接工技倆試驗に關する研究の爲經費に付寄附交涉結果報告
2、建築學科教授研究會出席者の件敎化委員會報告
3、大阪木材市場關係道府縣木材正量取引促進協議會出席者の件材料委員會報告
4、5月分會計報告

會員動靜

入會者

會員

西浦　文次君　旭區野江町3ノ234（西浦工務所）
巖岡　二郎君　普通贊助員より轉格
竹內佐平治君　京都市左京區北白川追分町61關口方（京都府建築工場課）

地方會員

小川定治郎君　東京市小石川區丸山町6（日本銀行臨時建築部）
城戸　久君　普通贊助員より轉格
南雲　義治君　東京市淀橋區柏木1ノ188（都市計畫東京地方委員會）
加藤　貞雄君　靜岡縣吉原町東京人絹吉原工場（東京人造絹糸株式會社）

特別贊助員

加藤　彰君　北區常安町5中之島寮（日刊工業新聞社）
久保田武雄君　府下千里山住宅地65（獨逸製鋼株式會社大阪支店）
田口　清君　住吉區橋本町5（獨逸製鋼株式會社大阪支店）
福島　貢君　大正區大正通3ノ79（コンヂットチューブ製作販賣）
嶋田　生一君　旭區野江町3ノ91（西浦工務所）
中井信一郎君　京都市上京區上加茂神殿町15（竹中工務店）

普通贊助員

稻垣　富夫君　廣島市白島中町44（廣島鐵道局工務部）
柏原　生矢君　神戸市林田區御船通1ノ6（合名會社尾形工務所）
小谷　諺吉君　奉天藤波町高岡組奉天支店（高岡組）
鷲岡賢太郎君　奈良市椿井町15
白井　利夫君　西淀川區傳法町南2ノ39（合名會社尾形工務所）
福永　昇君　東淀川區山口町97（中西六郎建築事務所）
吉田　正勝君　府下中河內郡久寶寺村久寶寺140（合名會社尾形工務所）
岡　肇君　神戸市北長狹通4丁目29ノ2（竹中工務店）
神村　茂君　廣島市南段原町710（廣島鐵道局）
福島　豪郎君　住吉區阪南町中1ノ9鍵仲尊雄方（鍵仲工務店）
山本　森義君　兵庫縣武庫郡精道村打出劍谷國際ホテル建築場竹中工務店出張所（竹中工務店神戸支店）

退會者

普通贊助員

大谷愼次郎君　平山　紋彌君　前川登四雄君
丸花　才治君　三島　雅彦君

轉居轉勤

會員

大石　忠夫君　西宮市今津町浦風19
海妻　郁夫君　名古屋市西區堀越町乘越238 大林組庄內川出張所
神林富三郎君　尼崎市梶ヶ島斗田1ノ67
阪口芳三郎君　（自宅）府下池田町下澁谷296（電

池田2739）
瀨川　久維君　尼崎市玄番北ノ町37
埴田　達枝君　住吉區山阪西之町2ノ28 伊部方
大瀧　丈夫君　市外千里山71ノB18
佐溝　武雄君　（勤務先）關西工學校
中村　武雄君　旭區今市町995 小林一二三方
野田　　進君　住吉區田邊東之町4ノ19
森島　輝夫君　横濱市神奈川區上反町31
和田　友吉君　旭區森小路6ノ79
喜多村義雄君　府下北河內郡三郷町高瀨苗大枝177
曳野　與藏君　松山市二番町55ノ8
天沼　俊一君　京都市右京區上塔殿町49
勝田　幸男君　住吉區桑津町283
竹谷德治郎君　住吉區田邊東ノ町4ノ24
福田愼一郎君　市外守口町土居517
三島　　剛君　神戸市須磨區若宮町1ノ14 關野伸介方
渡邊　久雄君　神戸市灘區深田町3丁目55ノ7
神谷　新一君　京都市四條河原町角高島屋建築場
進木孝太郎君　神戸市灘區中原通5ノ3　進木組內
進木　義雄君　靜岡縣富士郡今泉村依田橋28
根來　　弘君　尼崎市神田中通3ノ143
北垣熊之介君　新京ダイヤ街老松ビル3階31號

地方會員

中山　通成君　北區宗是町大阪ビル日本電力株式會社發電課
松下　克己君　新京大同大街202 康德興業株式會社
池田　訓章君　尾道市土堂町888
藤島哲三郎君　新京市永昌路第1代用官舍309

特別贊助員

瀨尾　永治君　神戸市灘區篠原北町3丁目
山本　最純君　此花區吉野町2

普通贊助員

久保　欽吾君　（自宅）住吉區阿倍野筋7ノ60
田村　忠雄君　京都市田中野神町11
西村　　勳君　神戸市須磨區板宿町3ノ162
本田松太郎君　北區松ヶ枝町76
井奥　　進君　大垣市藤江町竹中工務店出張所
高木　正三君　西淀川區野里町791ノ5三和銀行歌島橋建築場藤木工務店出張所
垂水　　馨君　府下泉北郡鳳町鳳陽園內
中　　茂君　神戸市灘區藥師通3ノ19
前川　敬藏君　長野縣大町大町紡績工事場東畑建築事務所出張所
蜷川光太郎君　長野縣大町大町紡績工事場東畑建築事務所出張所
森田常一郎君　福井市花月新町285
宮本　利雄君　東京市杉並區阿佐ヶ谷1ノ763
中　基三郎君　姬路市第10師團經理部工務科
七海　　實君　岐阜縣揖棄郡蘇原村三柿野大林組各務原出張所
野中　駒市君　堺市春日通3ノ13
馬上　　進君　旭區生江町615
原田彦太郎君　京都市下京區七條御所ノ內東町25
吉田光太郎君　福島縣石城郡錦村昭和人絹工事場大林組出張所

改　　名

會　　員

後川卯三郎君　（舊名隆一）

死　　亡

普通贊助員

押鴨　六郎君　昭和12年5月13日逝去
（謹みて哀悼の意を表す）

編輯後記

★ 澎湃たる日本探求の風潮は、建築界の内部にも流れ込んできた。吾々はこの問題に對して、判然した態度を決定しておく必要がある。

★ 昨秋來、この方面の議論は、相當活潑に行はれたが、結論的なものには未だ到達せずと見る。議論も出つくしてないのではないか。敢て本誌特輯號の主題として掲げる所以。

★ 題して〝建築に於ける日本的性格〟と謂ふ。幸に多數の寄稿を得た事は、編輯子の見解の獨斷に非ざる事を證するものとして、心ひそかなるよろこびとしたい。

★ 執筆者を建築家だけに限らず、廣く一般文化批判家の方々にと御依頼した。建築家の獨善的見解を恐れ、議論を一般的、社會的なものにしたかつたからである。

★ 本號に收むる處、何れも好個の珠玉編、百花燎爛と云つては過言か。特に卷頭、長谷川氏の論文を得た事は、本號の價値を倍加するものとして編輯子のよろこびは大きい。

★ 讀者或はいさゝか意外に思はれるのは本號に棚橋氏の名を見る事かも知れない。然しこの意外の感じは、畢竟するに氏を單に構造者としてのみ理解せんとする、早急な獨斷に由來する事は明かである。本誌に於て、氏の多方面のすぐれた研究を窺知する事が出來るであらう。

★ 尚岸田日出刀氏にも執筆を御依頼した處御快諾を得たのであるが、氏の御都合で御寄稿が本號の締切日をこえるので殘念ながら收錄し得なかつた。近々氏の稿が本誌上をかざるであらう事を會員諸彦と共に期待しやう。

★ 本號は中井新一郎氏との共同編輯である

（田中彌一）

建築と社會

第20輯 第7號

毎月1回1日發行 定價 1冊 50錢（郵稅3錢） 12冊 6圓（〃 36錢）

昭和12年6月25日印刷 昭和12年7月1日發行

發行・編輯 印刷人 小板常男
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所 プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目32番地

發行所 財團法人 日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店 柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	½頁	1回	8,00
普通（前附第1頁）	i頁	1回	45,00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中挿）	½頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5,00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築と社會第20輯第7號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……26
　朝日建材株式會社……表紙 2
　淺野スレート株式會社……39
　阿部濺工所……38
　淺海商會……32
イ　岩元工業株式會社……32
　岩城硝子製造所大阪支店……13
エ　榮進社……21
　英進商會……41
　花原製作所……33
オ　大阪窯業セメント株式會社……中揷
　大阪伊丹商店……28
　大阪組立コンクリート製作所……45
　大野製作所……前附 1
　奥村重兵衞商店……27
　岡田建材店……54
カ　影久商店……8
キ　桐田商會……29
　協和製作所……48
ク　黒川化學工業所……12
　桑田硝子合資會社……20
　久保商店……48
　久德商會……18
ケ　建盛商會……30
コ　後藤商店……23
サ　佐渡島西店……43
　佐久間パブコ工業株式會社……15
　三濃工業株式會社大阪支店……表紙 4
　坂本商會大阪支店……41
　坂田ベンチレーター製作所……46
ス　須賀商會……7
セ　政正合資會社……22
　清光社……46
ソ　園部製作所……19
タ　田島應用化學工業所大阪支店……前附 4
　田中工業株式會社……17
　大和工業株式會社……34
　大洋組建材部……28
　高島屋家具裝飾部……中揷
　田村商會……37
　淡陶株式會社……52
　ダンロップ護謨株式會社……中揷
　田中昌司商店……30
ト　東洋リノリユーム株式會社……表紙 3
　東京電氣株式會社……55
　巴　商　會……24
　東洋陶器株式會社大阪出張所……14
　東洋キヤリア工業株式會社大阪支店……表紙 4
　東洋鋼材株式會社大阪出張所……表紙 4
ナ　内外土木建築材料合資會社……47
　南滿鑛業株式會社……49
　中野石材店……44
ニ　日本建築紙工株式會社……54
　日本放熱器商會大阪支店……31
　日本機械工業株式會社大阪支店……51
　日本コンクリートパイル工業所……11
　日東物產株式會社……53
　日本金具株式會社……中揷
　西原衞生工業所……56
　西孫商店建築金物部……40
ノ　野澤幸三郎商店……36
ハ　汎建製作所……40
ヒ　平松釣戸車製作所……23
マ　松井商店……45
　マルコプラスター關西工場……11
ミ　三井物產株式會社……35
　三菱商事株式會社機械部大阪支部……9
ヤ　矢橋大理石商店……12
　大和護謨製作所……42
ヨ　横河橋梁製作所……50
　吉田鹿之助商店……16
　米本榮商店……44
　米原商店……22
ラ　ライトラバー工業合資會社……25
リ　理化學興業株式會社……前附 3
　菱美電機商會大阪支店……10
レ　玲光社(木内眞太郎)……49